

- なあ(おなあ・牧村) → 祖心(そしん; 法諱、祖心尼、大奥御局役/臨濟僧) D 2 5 8 8
 南阿彌(なあみ・海老名) → 南阿(なんあ、海老名南阿彌えびなのなあみ、連歌/曲舞) I 3 2 4 8
 内遠(ないえん・本居) → 内遠(うちとお・本居もとおり、国学者) 1 2 7 4
 内記(ないき・細川) → 忠利(ただとし・細川ほそかわ、藩主/連歌) Q 2 6 0 4
 内記(ないき・阿蘇) → 玄与(げんよ・阿蘇あそ/宇治、武将/歌人) D 1 8 2 3
 内記(ないき・今枝) → 重直(しげなお・今枝いまえだ、武将/藩士) N 2 1 4 4
 内記(ないき・今枝) → 直方(なおかた・今枝、家老/国学/詩) 3 2 8 8
 内記(ないき・生駒) → 柳亭(りゅうてい・生駒いこま、藩士/儒者) F 4 9 2 5
 内記(ないき・井上) → 正長(まさなが・井上いのうえ、藩主/記録) F 4 0 2 4
 内記(ないき・中西) → 弘乗(ひろのり・中西/度会、神職) G 3 7 8 7
 内記(ないき・檜垣) → 貞兄(さだえ・檜垣ひがき/度会、神職) H 2 0 7 6
 内記(ないき・中山) → 信正(のぶまさ・中山/丹治、藩家老/歌) D 3 5 2 7
 内記(ないき・大和田) → 時胤(ときたね・大和田、藩士/紀行) J 3 1 2 3
 内記(ないき・山角) → 勝繁(かつげ・山角やまかど、幕臣) N 1 5 4 0
 内記(ないき・多賀) → 雨岡(あまがき・多賀たが、俳人) C 1 2 1 9
 内記(ないき・牧村) → 雨露住(うろずみ・榎、狂歌/戯作) B 1 2 5 4
 内記(ないき・増野/曾) → 雲門(うんもん・増野ますの、儒者) E 1 2 0 8
 内記(ないき・林) → 竜潭(りゅうたん・林はやし、幕臣/儒者) F 4 9 1 7
 内記(ないき・小出) → 永安(えいあん・小出こいで/修姓; 出、儒者) C 1 3 3 4
 内記(ないき・小出) → 英輝(ふさてる・小出こいで、旗本/国学) I 3 8 2 1
 内記(ないき・杉浦) → 朋理(ともあきら・杉浦すぎうら、国学者) P 3 1 1 4
 内記(ないき・芝の屋) → 山陽(さんよう・芝の屋、狂歌) G 2 0 0 9
 内記(ないき・菊池/関口) → 衡岳(こうがく・菊池、藩儒/詩人) 1 9 8 5
 内記(ないき・原田) → 霞裳(かしよう・原田はらだ、藩士/儒者/詩) L 1 5 9 3
 内記(ないき・田中) → 華城(かじょう・田中たなか、医者/詩人) F 1 5 6 3
 内記(ないき・古森) → 亀淵(きえん・古森こもり、書家) J 1 6 7 4
 内記(ないき・土佐/住吉) → 如慶(じょけい・住吉すみよし/土佐、絵師) C 2 2 3 5
 内記(ないき・住吉) → 具慶(ぐけい・住吉、如慶男/僧/幕府絵師) 1 7 4 5
 内記(ないき・住吉) → 広行(ひろゆき・住吉/板谷、幕府絵師) H 3 7 6 3
 内記(ないき・住吉) → 弘貫(ひろつら・住吉、広行男/幕府絵師) G 3 7 4 5
 内記(ないき・亀田) → 佳彦(よしひこ・亀田/度会/松木、神職) G 4 7 1 9
 内記(ないき・栗田) → 知周(ともかね・栗田あわた、神職/歌人) P 3 1 3 6
 内記(ないき・橋本) → 安居(やすい・橋本はしもと、神職/国学者) 4 5 9 4
 内記(ないき・藤井) → 高久(たかひさ・藤井ふじい/藤原、神職/歌) H 2 6 9 8
 内記(ないき・岩垣) → 謙亭(けんてい・岩垣いわがき、儒者/詩) L 1 8 5 1
 内記(ないき・岩井田) → 尚友(ひさとも・岩井田/荒木田、神職) B 3 7 5 8
 内記(ないき・朽木) → 綱貞(つなさだ・朽木くつき/源、藩主/歌人) B 2 9 0 6
 内記(ないき・大橋) → 広能(ひろよし・大橋/高井、神道家) H 3 7 7 0
 内記(ないき・前田) → 純孝(すみたか・前田まへだ、藩家老/記録) D 2 3 9 0
 内記(ないき・野田/橋) → 惟嶽(これたけ・橋たちばな/野田、儒者) O 1 9 4 5
 内記(ないき・堀) → 秀成(ひでなり・堀ほり、藩士/国学; 音韻) D 3 7 5 2
 内記(ないき・中村) → 不能斎(ふのうさい・中村、藩士/儒者) D 3 8 6 2
 内記(ないき・下田) → 重則(しげのり・下田しもだ/大江、歌人) R 2 1 0 3
 内記(ないき・最上) → 義連(よしつら・最上もがみ/源/井上、幕臣) K 4 7 8 3
 内記(ないき・浅野) → 懋績(としつぐ・浅野あさの、歌人/絵師) T 3 1 9 8
 内記(ないき・井上) → 正敦(まさあつ・井上いのうえ、藩主/歌) N 4 0 3 0

- 内記(ないき・有馬) → 陳次(のぶつぐ・有馬ありま、藩国老/国学) H 3 5 1 4
 内記(ないき・荷田/羽倉) → 信舎(のぶや・荷田かだ/羽倉、神職/国学) H 3 5 8 7
 内記(ないき・蒲) → 清兼(きよかね・蒲がま、神職/歌人) T 1 6 9 3
 内記(ないき・脇) → 豊善(とよよし・脇わき/源、家老/歌人) W 3 1 9 7
 内記(ないき・稲川) → 好徳(よしのり・稲川いながわ/水野、家老/歌) L 4 7 5 9
 内記(ないき・木村) → 信章(のぶあき・木村きむら、歌人) I 3 5 1 1
 内記(ないき・日下部) → 令文(よしづみ・日下部くさかべ、藩士/国学) M 4 7 5 3
 内記(ないき・藤枝) → 恒道(つねみち・藤枝ふじえだ、家老/国学者) G 2 9 2 9
 内記(ないき・加藤) → 安彦(やすひこ・加藤かとう、藩士、国学/歌) F 4 5 6 3
 内記(ないき・古森) → 厚茂(あつしげ・古森こもり/秦/河崎、神職/歌) H 1 0 5 1
 内記(ないき・宮沢) → 正治(まさはる・宮沢みやざわ/橘、神職/国学) T 4 0 0 0
 内記(ないき・高島) → 宣陽(のぶはる・高島たかしま/沢、代官/歌) I 3 5 9 4
 内記(ないき・渡辺) → 尚(ひさし・渡辺わたなべ、藩校総裁/国学) M 3 7 3 8
 内記上人(ないきしょうにん) → 保胤(やすたね・慶滋/慶/賀茂、廷臣/漢学/詩歌) 4 5 0 6
 内記入道(ないきにゅうどう) → 保胤(やすたね・慶滋/慶/賀茂、廷臣/漢学/詩歌) 4 5 0 6
 内記兵衛(ないきひょうえ・佐田) → 友忠(ともただ・佐田さだ/藤原、国学/勤王) V 3 1 3 0
 内郷(ないきょう・河村) → 内郷(うちさと・河村かわむら、郷士/国学) D 1 2 0 7
 内魚堂(ないぎょどう) → 内新好(ないしんこう/うち、俳人/戯作者) 3 2 5 3
 内経(ないけい・一条) → 内経(うちつね・一条、廷臣/歌人) 1 2 7 3
 内兄(ないけい・関戸) → 内兄(うちえ・関戸せきと、国学者) E 1 2 7 3
 内孝(ないこう・北島) → 内孝(うちのり・北島きたじま、歌人/書家) E 1 2 6 5
 乃侯(ないこう/だいきょう・松浦) → 篤所(とくしよ・松浦まつうら、儒者) K 3 1 9 4
 ないぎの笹屋(ないぎのささのや) → 幸文(たかふみ・木下、歌人) 2 6 1 5
- 3200 内侍(ないし・前斎宮さきのいつきのみや、藤原永相女) ?-? 平安後期姁子内親王(白河天皇皇女)家の女房、永縁・前斎宮河内の姉妹、歌:金葉5首;5/297/396/520/549、
 [春のくる夜の間まの風のいかなれば今朝吹くにしも氷とくらん](金葉;春5、百首歌;春の心;人に代りて詠む;河内の代詠/堀川百首立春では河内の歌)
- 3250 内侍(ないし・達智門院、皇后宮内侍) ?-? 鎌倉末南北期;宇多天皇皇女奨子内親王家の女房、歌:続千載1432
 [かはらずはたづねも見ばや三輪の山ありし梢の杉のしるしを](続千;恋1432)
- 内侍(ないし・斎宮、醍醐皇女雅子女房) → 斎宮内侍(さいぐうのないし) 2 0 7 2
 内侍(ないし・少輔) → 少輔内侍(しょうのないし、女官/歌人) D 2 2 6 5
 内侍(ないし・中宮) → 中宮内侍(ちゅうぐうのないし、山井中務、歌) F 2 8 9 3
 内侍(ないし・京極院) → 京極院内侍(きょうごくいんのないし、歌) N 1 6 7 6
 内侍(ないし・永福門院/裏葉内侍) → 永福門院内侍(えいふくもんいんのないし、歌) 1 3 4 5
 内嗣(ないし・一条) → 内嗣(うちつぐ・一条、南朝関白/歌人) D 1 2 0 8
 内侍馬(ないしうま) → 馬内侍(うまのないし/むまのないし、歌人) 1 2 8 8
 内実(ないじつ・一条) → 内実(うちざね・一条、廷臣/歌人) 1 2 7 2
 内侍のかみ(ないしのかみ) → 貴子(きし・藤原、忠平女、歌人) K 1 6 7 7
 掌侍敦子(ないしのじょうあつこ) → 敦子(あつこ、掌侍、歌人) C 1 0 9 8
- 3251 典侍(ないしのすけ・侍従) ? - ? 平中期東三条院(1001没)女房、連歌:実方と唱和/菟入
 典侍(ないしのすけ) → 灌子(かんし・藤原、藤典侍) D 1 5 8 1
 典侍明子(ないしのすけあきらけいこ) → あきらけい子(明子・典侍すけ、歌) C 1 0 8 8
 典侍親子(ないしのすけしんし) → 親子(しんし、ちかこ・源/北島、歌人) E 2 2 3 6
 典侍平子(ないしのすけたいらけいこ) → 平子(たいらけいこ、橘公頼女?、歌人) C 2 6 2 7
 典侍局(ないしのすけのつばね) → 續子(いさこ・中山なかやま、女房/日記) F 1 1 4 9
 典侍因香(ないしのすけよるか) → 因香(よるか・藤原、尼敬信女、歌人) K 4 7 0 0
- 3252 内習(ないしゅう) ? - ? 俳人;1689「あら野」入
 内所(ないしょ) → 相応内所(そうおうのないしょ、狂歌) 2 5 7 9

- 内匠(ないしょう) → 内匠(たくみ/木工蔵人もくのくらひと、女蔵人、歌) O 2 6 1 7
 内匠(ないしょう)すべて → 内匠(たくみ)
 内人(ないじん・鎗木) → 幸雄(ゆきお・鎗木かぶらき、神職/国学) G 4 6 2 3
- 3253 内新好(ないしんこう/うちしんこう、姓;内田うちだ、一時;小林) ?-? 江後期江戸表茅場町の帆網商、のち零落、幕府御用達小林筑後の養子;離縁、俳人;小知門/本所石原で俳諧宗匠となる、戯作者;十返舎一九と交流、洒落本・黄表紙・滑稽本を執筆/晩年は商家鹿島屋に引取られ病没、1788(天明8)「一目土堤ひとめつみ」「鳴通力おつき」/89「芋世中」「中洲の華美」90「学通三客」、1791「名代振袖」98「快談文草」1802「金降豊歳貢」03「鼠嫁入」05「景清漂泊日記」外著多数、[内新好(;号)の通称/別号]通称;新太郎、別号;内魚堂/魚堂/魚道/魯道/魚堂主人、新江/余霞楼主人/北冥/北冥舎/玉掃庵/秋収冬蔵/桐嶋筒治、屋号;内田屋、狂名;白銀台一麿[丸]
- 3254 内膳(ないぜん・須藤重雄/通称内丸) 1826-65 40 相模大山阿夫利社神職/1847平田門/56白川家門、1849「阿夫利神社古伝考」著
- 内膳(ないぜん・渋江) → 政光(まさみつ・渋江/荒川、藩士/農政) H 4 0 6 3
 内膳(ないぜん・奥村) → 惇叙(あつのぶ・奥村おくむら、藩士/記録) E 1 0 7 4
 内膳(ないぜん・千村) → 重治(しげかる・千村ちむら、藩士/記録) S 2 1 2 6
 内膳(ないぜん・前田) → 利郷(としさと・前田まえだ、藩主男/歌人) W 3 1 4 1
 内膳(ないぜん・有馬) → 純珍(すみよし・有馬、幕臣/巡検記録) H 2 3 2 7
 内膳(ないぜん・伊達/田村) → 村資(むらすけ・田村/坂上/伊達、藩主/茶道) 4 2 1 7
 内膳(ないぜん・生駒) → 柳亭(りゅうてい・生駒いこま、藩士/儒者) F 4 9 2 5
 内膳(ないぜん・檜垣) → 貞成(さだなり・檜垣ひがき/度会、神職) J 2 0 0 8
 内膳(ないぜん・狩野) → 良信(よしのぶ・狩野かのう、絵師) F 4 7 5 7
 内膳(ないぜん・荒木) → 素白(そはく・荒木あらき、書家) K 2 5 3 2
 内膳(ないぜん・伊藤) → 重澄(しげすみ・伊藤いとう、藩士/奉行) R 2 1 1 5
 内膳(ないぜん・北原) → 光裕(みつひろ・北原、藩士/史家/画) E 4 1 7 1
 内膳(ないぜん・狩野) → 一溪(いっけい・狩野かのう、絵師) G 1 1 9 5
 内膳(ないぜん・中根) → 正英(まさてる・中根なかね、幕臣/記録) E 4 0 2 6
 内膳(ないぜん・新庄) → 直政(なおまさ・新庄しんじょう、幕臣/国学) N 3 2 4 1
 内膳(ないぜん・田村) → 建顕(たけあき・田村、藩主/故実/歌) E 2 6 3 3
 内膳(ないぜん・石川) → 総茂(ふさしげ・石川いしかわ、藩主) C 3 8 0 9
 内膳(ないぜん・三浦) → 元苗(もとたね・三浦みうら、藩士/国学/歌) C 4 4 9 6
 内膳(ないぜん・山内) → 豊矩(とよね・山内やまのうち、藩士) R 3 1 3 1
 内膳(ないぜん・広田) → 助侑(すけなみ・広田ひろた/度会/橋村、神職) J 2 3 0 8
 内膳(ないぜん・福村) → 履正(ふみまさ・福村ふくむら、絵師) E 3 8 0 3
 内膳(ないぜん・鎗木) → 幸雄(ゆきお・鎗木かぶらき、神職/国学) G 4 6 2 3
 内膳(ないぜん・中山) → 俊彦(としひこ・中山なかやま、神職/国学) V 3 1 9 4
 内膳(ないぜん・室) → 直夫(すげお・室むろ、藩士/国学者) J 2 3 3 0
 内膳(ないぜん・三浦) → 元宜(もとよし・三浦みうら/源、藩家老/歌) L 4 4 4 8
 内膳(ないぜん・三浦) → 元彦(もとひこ・三浦みうら、藩家老/歌人) L 4 4 4 7
 内膳(ないぜん・三浦) → 元福(もととみ・三浦、元彦男/藩家老/歌) L 4 4 4 5
 内膳(ないぜん・三浦) → 元苗(もとなえ・三浦、元福男/藩家老/歌) L 4 4 4 6
 内膳(ないぜん・堀) → 利邦(としくに・堀ほり、旗本/幕臣/歌) T 3 1 3 9
 内膳(ないぜん・市川) → 行直(ゆきなお・市川いちかわ、国学者) G 4 6 5 5
 内前(ないぜん・近衛) → 内前(うちさき・近衛このえ、摂政/記録) D 1 2 0 6
 内膳正(ないぜんのしょう・小守/小野) → 広胖(こうはん・小野、和算/幕臣) K 1 9 9 9
 内膳正(ないぜんのしょう・千々和) → 直信(なおのぶ・千々和ちぢわ、神職/国学) N 3 2 8 5
 内膳正(ないぜんのしょう・松平) → 忠質(ただかた・松平まつだいら、幕臣/記録) P 2 6 3 5
 内蔵(ないぞう) すべて → 内蔵(くら)
 内蔵太(ないぞうたい) → 内蔵太(くらた)
 内蔵太(ないぞうたい) → くらた・渡辺 → 内蔵太(くらた・渡辺/長嶺、藩士) B 1 7 0 9

- 内大臣(ないだいじん・後拾)→ 師通(もろみち・藤原、後二条関白、歌) H 4 4 9 5
 内大臣(ないだいじん・金葉)→ 有仁(ありひと・源、詩歌/故実) B 1 0 9 0
 内大臣(ないだいじん・詞花)→ 実能(さねよし・藤原・徳大寺左大臣) D 2 0 7 6
 内大臣(ないだいじん・千載)→ 良通(よしみち・九条、詩歌) H 4 7 3 4
 内大臣(ないだいじん・新勅撰)→ 実氏(さねうじ・西園寺、太政大臣) 2 0 3 2
 内大臣(ないだいじん・続後撰)→ 公親(きんちか・三条) E 1 6 3 1
 内大臣(ないだいじん;続古今)→ 冬忠(ふゆただ・大炊御門おおいみかど、歌人) E 3 8 3 0
 内大臣(ないだいじん・続拾遺)→ 家基(いえもと・近衛、関白) 1 1 6 7
 内大臣(ないだいじん・新後撰)→ 内実(うちざね・一条) 1 2 7 2
 内大臣(ないだいじん・玉葉)→ 経平(つねひら・近衛、左大臣) D 2 9 4 9
 内大臣(ないだいじん・続千載)→ 師信(もろのぶ・花山院) H 4 4 6 5
 内大臣(ないだいじん・続後拾)→ 実衡(さねひら・西園寺) D 2 0 5 2
 内大臣(ないだいじん・風雅集)→ 公清(きんきよ・徳大寺とくだいじ) D 1 6 8 9
 内大臣(ないだいじん・新千載)→ 通相(みちまさ・久我こが、太政大臣/歌) B 4 1 6 5
 内大臣(ないだいじん・新拾遺)→ 実俊(さねとし・西園寺・後常磐井) D 2 0 3 1
 内大臣(ないだいじん・新後拾)→ 実時(さねとき・徳大寺、太政大臣) D 2 0 2 8
 内大臣家越後(ないだいじんけのえちご)→ 越後(えちご・花園左大臣家、歌) 1 3 6 9
 内大臣家小大進(ないだいじんけのこだいしん)→ 小大進(こだいしん・花園左大臣家) D 1 9 2 2
 内大臣僧正(ないだいじんのそうじょう)→ 親玄(しんげん;法諱、真言醍醐寺座主) O 2 2 1 6
 内大臣僧正(ないだいじんのそうじょう)→ 頼印(らいいん;法諱、真言僧正/歌人) 4 8 1 5
 内大臣法印(ないだいじんのほういん)→ 親覚(しんかく;法諱、真言僧) N 2 2 6 7
 内直(ないちよく・松田) → 内直(うちなお・松田まつだ/賀茂、神職・歌) D 1 2 0 9
 内藤入道(ないとうにゅうどう)→ 元康(もとやす・藤原/内藤、歌人) E 4 4 4 5
 内府(ないふ) → 家康(いえやす・徳川、将軍/武家法度) 1 1 0 4
 内平(ないへい・松岡) → 内平(うちひら・松岡、国学者/歌) D 1 2 1 0
 内木綿庵(ないゆうあん) → 茂彦(しげひこ・松本まつもと、商家/国学者) O 2 1 4 6
 3255 乃竜(ないりゅう) ? - ? 俳人;1698「続猿蓑」4句入
 苗清(なえきよ・小口) → 静雄(しずお・小口おぐち/源、国学) N 2 1 6 4
 苗秀(なえひで・久我) → 苗秀(たねひで・久我くが、里正/国学) W 2 6 8 4
 苗雅(なえまさ・水島) → 苗雅(たねまさ・水島、神職) S 2 6 0 5
 苗丸(なえまる・伊藤) → 友吉(ともよし・伊藤いとう/伴、藩士/歌人) U 3 1 1 0
 N3278 直(なお・但木ただき、直女なおじよ) 1746-1834 89 陸奥仙台の歌人
 3256 直(なお・日尾ひお、別名;直子、日尾荊山女) 1829-97 69 江戸の歌人;父門、日尾省斎の妻/夫早世、
 1859父荊山(直麻呂)没後に継母邦子と竹陰女塾開、子女教育、「学校紀律」著、
 歌集「竹の下つゆ」「竹の下陰」著
 直(なお・渡辺) → 直(なおし・渡辺、儒者) B 3 2 2 6
 直(なお・小沢) → 一貞尼(いつていに・村野/小沢、歌人) B 1 1 6 1
 3201 直詮(なおあき・桃井もものい、幸若丸こうわまる) 1393-1470 78 室町後期の音曲家/幸若舞の祖;
 声明・平曲等から創始
 03287 直明(なおあき・松平まつだいら、大野藩初代藩主松平直良3男) 1656-1721 66 母;布利子(橋本平作女)、
 江戸生、兄2人没/1658(万治元)越前大野住、67(寛文7)正式に世子;69従五下若狭守、
 1671酒井忠朝女の仙姫(松平定頼養女/鏡智院)と結婚、和学修学/歌人、
 1678(延宝6)父没;越前大野藩2代藩主;従四下市正いちのかみ、
 1682(天和2)転封;播磨明石藩初代藩主;6万石、1701(元禄14)隠居;晁名直常が家督嗣、
 1716仙姫が病没/21(享保6)明石城に病没、
 [影もらす梢まばらに成りにけり月のためにや木の葉ちるらん](茂睡[鳥の迹]433)、
 [直明(;名)の初名/通称]初名;富明、通称;左門/若狭守/市正いちのかみ
 3257 直詮(なおあき・堀ほり、通称半三郎) ?-? 江中期伊勢儒者;佐善雪溪門、
 1747雪溪問答書簡「下谷集」編;新井白石著と誤記された
 3259 直諒(なおあき・溝口みぞぐち、直侯なおよし長男) 1799-1858 60 母;堀源之進行正女の里代窃樹院)、

1802(享和2/4歳)父没;家督継嗣/越後新発田藩10代藩主;親族の松平信明が後見、
 1813(15歳)より自らの政治;従五位下伯耆守(一時信濃守)、藩校充実、日本海警備;海防、
 藩財政は城下の大火・三条地震・天保の飢饉などで悪化、
 正室;広島藩主浅野斉賢女の歌姫(見明院)/継室も浅野斉賢女、12男15女の父、
 1838長男の直溥に家督譲渡;隠居;健齋・退翁と号す、学問論・海防論・勤王論等の著、
 茶;宗匠となり翠濤と号す/石州流怡溪派から一派を起こして越後怡溪派と称す、
 「海虞要論」「婦女訓」「辯疑録」「健齋筆録」「井蛙問答»;著多数
 [直諒(;名)の幼名/字/号]幼名;駒之助、字;益卿/楽卿、

号;健齋/景山/翠濤/東籬/東竜/格齋/蕉齋/退翁、好古堂/聴松堂、法号;見竜院
 狂歌:「朱楽館菅人」説あり→朱楽館菅人(あけらかんじん、狂歌)E 1 0 2 7

- 3260 尚明(なおあき・穂積) 1764?- 180037? 尾張名古屋伝馬町の書肆(京口屋)、「詩学必要」著
- 3261 直章(なおあき・磯野いその/大島おおしま、)?-? 信濃木曾福島関所関守代官山村家の家老;留守居役、
 天保の疑獄事件で追放後;大島に改姓、国学・歌;富樫宏蔭・菅沼斐雄あやお[1786-1834]門、
 さらに香川景樹[1768-1843]門、中津川歌壇に指導的役割を果たす、
 「随所師説」編(;香川景樹の歌論)
 [直章(;名)の通称]貞右衛門/定右衛門大助/壮馬/弥守
- 03210 直眩(なおあき・中村なかむら、山梨稲川[1771-1816]2男)1807-8074 母;豊(高木喜左衛門女)、
 駿河庵原郡の医者;駿河藩医中村家を継嗣、国学/歌人;松木直秀門、
 阿佐・清臣・望・登自・美賀の弟/維竝・須賀の兄、
 子孫に成蹊学園創立中村春二・微生物学者中村浩・俳優中村彰など、
 [直眩(;名)の別号/号]別号;玄昱げんく/はるあき、号;碌翁/文行
- J3299 直諒(なおあき・なおよし・松平、直寛なおひろの長男)1817-6145 母;内藤政韶女、
 出雲広瀬藩9代藩主;1850継嗣/従五位下/佐渡守、儒;萩原緑野門、
 製紙・製油製紙の殖産に尽力、正室;松平義和女の宣姫
- 3262 直亮(なおあき・落合おちあい、俊雄男)1827-9468 母;たき、武蔵多摩郡駒木野関所関守、
 漢学;菅野得齋・遠山如雲門/国学;山内嘉六(叔父)・堀秀成・富樫広蔭門、勤王思想、
 1862頃上京;清河八郎・藤本鉄石と交流、1864天狗党の乱に呼応を試み失敗、薩摩藩邸入、
 西郷隆盛らの計画に参加;副総裁となり水原二郎と変名/下野出流山の挙兵に呼応;頓挫、
 江戸薩摩藩邸の焼討事件;脱出する浪士を指揮し翔鳳丸で江戸出港;幕府海軍から逃走、
 紀州九鬼に到着:1868(慶応4)入京/伏見戦後西郷と面会/新政府軍に参加;本名に戻す、
 新政府の刑法官監察司;判事として伊那県に赴任/1871再度国事犯の嫌疑で罷免;77辞任、
 1873志波彦神社宮司/78伊勢神宮禰宜/93浅間神社宮司/76明治天皇に拝謁、
 「明道論」「寺院封事」「正名断」「本末論」「国体原論」「東下日記」著、
 直澄・直言なおぶの兄、妻;雀子(鶴子)、直文の養父、
 [直亮(;名)の通称/変名]通称;源一郎、変名;水原二郎
- 3264 直明(なおあき・坂) ? - ? 江末期歌人、1863重道「橋蜘蛛はしくもで」1861序
- 3263 直諒(なおあき・前田/通称;源左衛門、直孝男)1830-? 金沢藩士、1867「前田源左衛門系図帳」著
- N3280 直磋(なおあき・玉置たまおき、)1830-8758 伊勢津藩士、国学者、
 [直磋(;名)の初名/通称]初名;琢雄、通称;野右衛門
- 03209 直秋(なおあき・中堀なかぼり、)1836-191580 備前岡山藩士、国学・歌人;岡直廬なおり門
 [直秋(;名)の通称/号]通称;惣右衛門、号;淡叟/梅廬舎うめや
- 直章(なおあき・賀茂) → 水穂(みずほ・賀茂かも、勤皇/軍人/神職) I 4 1 6 7
 直明(なおあき・堀) → 直登(なおなる・堀ぼり、藩主/文筆) B 3 2 9 5
 直明(なおあき・藤井) → 右門(うもん・藤井ふじい、尊王論) E 1 2 7 5
 直陽(なおあき・一柳) → 直陽(なおはる・一柳ひとつやなぎ、藩士/故実) C 3 2 1 4
 直諒(なおあき・九里) → 令正(よしまさ・九里くのり、藩士/文筆家) H 4 7 1 1
 尚明(なおあき・小津) → 信厚(のぶあつ・小津おぶ/長井/大泉、国学) H 3 5 5 9
- 3265 直明王(なおあきおう、直明、直仁なおひと[眞仁]親王、常盤井宮、満仁親王男)?-? 龜山天皇4世孫、
 室町前期廷臣;弾正尹/1434永享百首入、新統古今1023/1634、

[吹く風のたよりありとも目に見えぬ心の色をいかがたぐへん](新統古;恋1023、百首歌奉りし時 寄風恋)

- K3294 **直明**(ななおきら・井伊い/本姓;藤原、近江彦根藩主直幸なおいで男)1776-1803**早世**28 彦根の歌人、母;直幸側室の大魏院(池崎家の生)/直容なおり・直致なむねの同母兄弟、
[直明(;名)の通称]武之介/徳之介/綏之介、法号;文秀院
- 3266 **直温**(ななおつ・一色/通称邦之輔)?-? 江後期幕臣1843御小姓/61勘定奉行/大目付/書院番頭、
「御目付一色御用留」著
- 3267 **直温**(ななおつ・丸山/字;子和、卜庵/蘇叟)1810-87**78** 和歌山藩医、「魯西亜船聞見実記」著
直温(ななおつ・今枝) → 直温(なおほる・今枝、藩士/儒) C 3 2 1 1
直温(ななおつ・竹垣) → 直温(なおひろ・竹垣、幕臣) C 3 2 2 9
直温(ななおつ・佐田) → 竹水(ちくすい・佐田、儒者/史学/詩) D 2 8 2 6
直温(ななおつ・野村) → 篁園(こうえん・野村のむら、儒者/詩人) 1 9 7 8
直温(ななおつ・大道寺) → 玄蕃(げんぱ・大道寺だいでうじ、藩士/俳人)M 1 8 1 3
- 3268 **尚綱**(なおあや・松本、字;子錦、通称大学/主税、北溟、尚信男)1679-1745**67** 岡崎藩江戸詰家老、
儒;徂徠門/大内熊耳を藩儒に推挙、「北溟随筆」「古事談」、1743「庶士伝」著
直存(なおあり・井伊) → 乗徳(じょうとく・明達院、真宗僧/歌人) U 2 2 9 8
- 3269 **直家**(なおいえ・稲富いなとみ、丹後忌木城主大江直秀男)1571-1611**41歳** 丹後の砲術の名手、
砲術;祖父直時門/稲富流/1586正親町天皇より稲富姓を賜う、「稲富一夢砲術伝授書」著、
[直家(;名)の通称/号]通称;伊賀/理斎、号;一夢斎、
- 3270 **直子**(なおいこ・藤原ふじわら) ? - ? **902存** 文徳女御明子の従姉妹、典侍、902正4位下、
歌;古今集807、
[あまの刈る藻にすむ虫の我からと音ねをこそなかめ世をばうら見じ](古今;恋807、
浦を見ると恨みを掛る/あま・藻は浦の縁語、古今伝授秘伝歌の1)
直一郎(なおいちろう・熊谷) → 直一(なおかず・熊谷くまがい、国学/歌人) L 3 2 9 2
直一郎(なおいちろう・贅川) → 寛雄(ひろお・贅川にえかわ、国学者) K 3 7 5 5
- D3205 **直入**(なおいり・須賀すが/初姓;武部/小林、)1752-1812**61** 伊勢松阪の町医、武部游ゆうの兄、
国学者・歌人;本居宣長門、本居春庭門/のち伊勢名張横川・鈴鹿坂下住、
国学;本居大平門/大平の養嗣;大平に随い和歌山に移住;紀藩侍医、近江滋賀郡に住、
「黄泉考」著(没後1815刊)、歌;大平「八十浦の玉」中巻;長歌2首(名張横川・鈴鹿坂下)入
[直入(なおり;通称)の名/通称/号]名;恒堅つねかた、通称;要介、号;十葵園主人
- L3276 **直入**(なおいり・河津がかわ、)1824-1903**80** 越前福井藩士、学問;曹洞僧の覚巖心梁門、
国学・歌;渥美友嵩ともたか・橘曙覧門、藩校明道館の藩史職/大訓導、維新後;私塾を開く、
家集「琴酒舎集、
[直入(;名)の別名/通称/号]別名;済/祐淳/祐信、通称;鉄之助/孫十郎/善太郎/善太夫、
号;沙鷗/睡処/琴酒舎
- 3271 **直氏**(なおうじ・土岐とき、頼清[頼宗]男/本姓;源)1331-80**50** 武将;足利家の臣、頼康の弟、
1359足利義詮に従い南朝の行宮河内観心寺攻めに参加/尾張守護代に就任、
1363室町幕府侍所頭人、宮内少輔・伊予守、歌人;1363「將軍義詮法楽和歌」参加、
直氏の所望で二条為忠が「新拾遺集」を书写、新後拾遺集962の信慶は直氏、
勅撰6首;新千載(1071)新拾遺(1438/1849)新後拾遺(586/943/962)、
[つつみきて年月つもる涙のみたへぬ思ひを人や知るらむ](新千;恋1071)、
[直氏(;名)の法名/通称]法名;信慶、通称;伊予入道
- 3272 **直氏**(なおうじ・奥村おくむら、造酒丞みきのじょう、十郎左衛門男)1664-1735**72** 加賀金沢藩士;作事奉行、
1713二条家物頭並、1694/5「飛州高山在番御普請方御入用帳」著
尚氏(なおうじ→ひさうじ・大館) → 常興(つねおき・大館、武将/故実家) B 2 9 7 9
- 3273 **直兄**(直江なおえ・松田まつだ/本姓;賀茂県主、遠直男)1783-1854**72** 京の上賀茂社祠官/伊予守、
歌;賀茂季鷹門、真淵に私淑、短歌自然説;技巧を排し[ただ言歌ただことうた]の歌論を主唱、
「長歌考」「夢のしをり」「藤園雑歌」著、1820「言葉の直路ただじ」著、
1836弟比田ひだ尚監なおみと賀茂季鷹歌集「みあれの百くさ」編、
大直もとなお・内直うちなお・直子の父、

- [直兄(；名)の幼名/初名/通称/号]幼名；竹松/和右衛門/松之介、初名；直慶/直江、
通称；越中介/伊予守、号；藤園、
- 3274 **直枝**(なおいえ・千葉ちば、別名；直寛/通称；三吉、号；師古堂)1790-1865 76 仙台藩儒者/藩校指南役、
東山代官、「金石三例管考」「九数集解説」「親属説」著
- 3275 **直衛**(なおいえ・久保) ? - ? 江後期文化-嘉永1804-54頃久留米藩の居合術指南、
「久保記録」「久保文書」著
- L3248 **直枝**(なおいえ・岡村おかむら、旧姓；中西) ?-1877 70余歳没 近江の医者；岡村家の養子/近江大溝藩典医、
国学・歌；中江千別・香川景樹門、門弟多数、歌；「鳩のうみ」入、
[直枝(；名)の字/号]字；宗平、号；宗雄/宗平
- L3229 **直枝**(なおいえ・植木うえき、)1827- 1893 77 土佐高知藩士；右筆、国学；鹿持雅澄門、
枝盛えり(明治の思想・政治家)の父、
[直枝(；名)の別名/通称]別名；直清、通称；鹿六/弁七
- L3208 **直江**(なおいえ・伊藤いとう、通称；阿波守)1829-76 48(1815生説あり) 筑前鞍手郡鞍手町古門の神職、
国学；祖父常足つねる(1774-1858/古門神社祠官)門、漢学；月形健(春耕)の迎旭堂で修学、
宗像大社禰宜/維新後；福岡藩文武官教官、藩の教育に尽力、
「桜井神庫学館創設由来所」「伊勢参の日記」「家事雑記」著
直枝(なおいえ・大友) → 吉言(よしとき・大友、神職/国学/医者) E 4 7 8 8
- 3276 **直条**(なおいえだ・柏村かしむら、本姓；紀・高志) ?-? 山城綴喜郡の神職；
元禄-享保1688-1736頃；石清水八幡宮の相撲神人、連歌/歌、里村昌純・昌億と交流、
1717「法楽部類」、「柏村直条日記」著、
1739「巖島八景」入の直条と同一？、
[直条(；名)の通称/号]通称；左兵衛、号；愧哉きさい/柏亭
- 3277 **直条**(直條なおいえだ・鍋島なべしま、直朝なおもと3男)1655-1705 51 肥前鹿島藩4代藩主(佐賀鍋島家支藩)、
母；花山院定好女、儒学；林家門/歌；日野弘資門、連歌；里村家門、1672(寛文12)父没；家督、
文芸に深い造詣；参勤交代毎に林信篤と交流；林家詩会に参加、人見竹洞と親交、江戸没、
「休々集」「鹿島志」「花頂山記」「蒙山和歌集」著、1694?叢書「桑弧そご」編(；孫直郷校訂)、
メモ帳「塵袋」著(；西鶴書簡あり)、文庫収集；中川文庫の基礎、格峰実外の弟、
[直条(；名)の初名/字/通称/号]初名；直隆、字；伯棟/孟幹、通称；伊賀/右京/備前守、
号；蒙山/楓園/尚綱/白雲主人/泰窩散人
- 3278 **直条**(なおいえだ・木村/字；子幹、千章)1771?-? 1792存 尾張藩士/詩、「予章山人詩稿」著
直右衛門(なおいえもん・青木)→ 雲岫(うんしゅう・青木あおき、儒者/兵学) D 1 2 8 3
直右衛門(なおいえもん・杉村)→ 健(けん・杉村すぎむら、文筆家/年譜) H 1 8 4 7
直右衛門(なおいえもん・石川)→ 大椿(たいちん・石川いしかわ、儒者/詩) K 2 6 6 6
直右衛門(なおいえもん・石川)→ 鳳台(ほうだい・石川、大椿男/藩士/詩) C 3 9 2 3
直右衛門(なおいえもん・牧野)→ 黙庵(もくあん・牧野/白杵、儒者) 4 4 6 5
直右衛門(なおいえもん・峯) → 越方(こしかた・峯みね、国学者) Q 1 9 9 9
直右衛門(なおいえもん・小幡)→ 氏常(うじつね・小幡おぼた、藩士/国学) E 1 2 5 7
直右衛門(なおいえもん・片岡)→ 高茂(たかしげ・片岡かたおか、国学者) W 2 6 4 7
直右衛門(なおいえもん・二宮)→ 清以(きよゆき・二宮にのみや/平、歌人) U 1 6 9 4
直右衛門(なおいえもん・藤浪屋)→ 久品(ひさかず・木部さへ、旅籠屋/歌人) J 3 7 1 9
直雄(なおいえ・玉置) → 讓斎(じょうさい・玉置たまき、藩士/兵学) S 2 2 3 8
- 03251 **直興**(なおいえき・一柳ひとつやなぎ、直重長男)1624-1702 79 伊勢神戸の生/1645(正保2)父没；家督嗣；
伊予西条藩3代藩主2万5千石、1646従五下/監物と称す、国学/歌、
1663(寛文3)真鍋次郎兵衛ら4名の藩士が直興を諫めるため切腹(忠烈四子之碑あり)、
1664領内新居郡5村から租税をめぐる血判嘆願状が提出；騒動首謀者工藤治兵衛ら斬罪、
1665(寛文5)職務怠慢・失政などを理由に改易；加賀藩前田綱紀家預；金沢住、
1686(貞享3)赦免；眼疾で失明/1702(元禄15)金沢に没、
[直興(；名)の通称]通称；左近/監物
- P3221 **直興**(なおいえき・山中やまなか、)1798-1850 53 大坂の商家；鴻池家一族/和学者、

- [直興(；名)の字/通称/号]字;伯竜、通称;松之助/新十郎、号;香園
- 3279 **直興**(なおおき・熊谷くまかい、字;子孝、丹[丹治]専弥男)1828-68**戦死**41 秋田絵師;沢出椿庵門/俳諧、詩;那珂梧楼門、母方姓熊谷を名乗る、武術、南部藩出仕/勤王派;戊辰戦出陣;戦死、「時勢論」著、
[直興(；名)の号] 月郷[月卿]/毅庵、
- N3288 **直興**(なおおき・塚本つかもと/本姓;藤原、北条時隣2男)1837-82**46** 常陸鹿島の神職/鹿島神宮祠官、維新後;大講義、
[直興(；名)の通称] 幾二郎
直興(なおおき・井伊) → 直該(なおもり・井伊い、藩主/大老/歌) L 3 2 0 1
直興(なおおき・松平) → 四山(しざん・松平まつだいら、藩主/俳人) D 2 1 7 9
- M3203 **直臣**(なおおみ・黒神くろかみ、通称;茂樹、直民男)1835-82**48** 周防都濃郡の神職;遠石八幡宮司;父継嗣、漢学/国学者、維新後;靖国神社祠官/賀茂神社少宮司兼大講義、「神代記新解」「箋註統蒙求校本」著
直臣(なおおみ・鈴木) → 静雄(しずお・鈴木すずき、国学者) Z 2 1 2 2
- 3280 **直香**(なおか・服部/字;温卿、修姓服、通称権右衛門/号;天台善)?-? 江中期名古屋長者町書画/碁、「囲碁定石」編
- 03268 **直馨**(なおか・堀尾ほりお、旧姓;竹村)?-1817 信濃伊那郡の堀尾直賢なおかた[1753-1825]の養嗣、国学者/歌人;桃沢夢宅門、堀尾直治なおはるの父、
[直馨(；名)の通称/号]通称;直之進/五郎左衛門(養父の称)、号;徳本
- 03220 **直香**(なおか・二瓶にへい、直中なおなか2男)1824-99**74** 陸奥会津の国学者・歌人;父門、
[直香(；名)の通称] 五郎三郎/忠五郎(；父の称)
直香(なおか・橋本) → 直香(ただか/なおか・橋本、国学/歌人) E 2 6 8 7
直香(なおか・黒田) → 千筋(ちや・黒田くろだ、藩士/国学/歌) M 2 8 4 7
直香(なおか・近藤) → 弘記(ひろぶみ・近藤こんどう、神職/国学) J 3 7 6 2
- 3281 **直養**(なおかい・西田にしだ、小倉藩士高橋元義男)1793-1865**73** 1808豊前小倉藩士西田直享の養子、儒学:石川彦岳門、国学:秋山光彪門/歌人、書画・雅楽・茶など多芸多趣味、1828小倉藩勘定奉行/元締役/町奉行/寺社奉行取計/近習番頭を歴任、支藩の豊前小倉新田藩篠崎侯の傅/藩家老、藩用人、藩の佐幕体制を嘆く;1864(元治元)連合艦隊に攻撃される長州藩を傍観に憤激;1865(元治2)絶食し没、歌:「万葉長歌格」/「ペラホ物語」「笈舎漫筆」「神璽考」「金石年表」著、家集「笈舎集」著、
[直養(；名)の字/通称/号]字;浩然、通称;亀之助/茂右衛門/直之介/庄三郎、号;笈舎ささのや/柳村、直足なおたりの父、荒巻方昌かたまさ・久仁子夫妻の師
- 3282 **直養**(なおかい・山口やまぐち、勘兵衛男)?-1858 幕臣新番頭/久能山東照宮修復、「山口直養日記」著
直養(なおかい・落合) → 東堤(とうてい・落合、儒者/国学/教育) G 3 1 5 8
直養(なおかい・山内) → 豊信(とよしげ・山内やまのうち、藩主/詩歌) R 3 1 1 8
- 3283 **直景**(なおかげ・梶原/通称弥市右衛門/源左衛門、口演隨身、景通嗣)?-1685 大垣武芸者:大阪の水早信正門/制剛流柔術の奥義/1645頃尾張藩柔術師範、「直景先生教戒」著
- 3284 **尚景**(なおかげ・藤沼/字;行甫)?-? 江中期江戸本草家、1781「詩経小識」補
- L3257 **直蔭**(なおかげ・加藤かとう、与一郎2男)1771-1814**44** 加藤千蔭の養子、江戸の国学者、
[直蔭(；名)の通称] 退次郎/泰次郎
- K3236 **直景**(なおかげ・溝口みぞぐち/本姓;源、直正男)?-? 江後期;旗本;交代寄合/越後池端溝口家13代、1847(弘化4)父没;家督嗣;知行池之端5千石、1861(文久元)日光門跡上京差添として随う、正室;銀(1834-73/山名義問女)、直茲の父、歌;1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、
[漕ぎ下す小舟の篝かり数見えて夕山かげに鶺鴒川たつなり]、
(大江戸倭歌;夏567/鶺鴒川;鶺鴒)
[直景(；名)の通称] 又十郎/隼人助はやとのすけ、☆父直正は溝口信濃守男/直徳の養嗣子、
- N3239 **直蔭**(なおかげ・新貝しんかい、)1827-1908**82** 遠江周智郡園田村の庄屋、国学・歌;石川依平門、神官/傍ら門弟指導、「遠江古人三十六歌選」著、
[直蔭(；名)の別名/通称]初名;中、通称;信一郎
仍景(なおかげ・里村) → 昌叱(しょうしつ・里村、南家の祖/連歌師) 2 2 2 6

- 直景(なおかげ・服部) → 直貞(なおさだ・服部はつとり、兵法家) B 3 2 1 7
直陰(なおかげ・坂本) → 竜馬(りょうま・坂本さかもと、藩士/国事) J 4 9 4 7
- P3224 直員(直負なおかず・世継よつぎ、) 1766-1843 78 京三条高倉西の糸商、絵師;月仙(or岸駒)門、元明の古名蹟を研究、歌人;香川景樹門、連歌・茶道を嗜む、上田秋成・與謝蕪村らと交流、画・茶碗に作品が残る、1843(天保14)没、
[かさなれる山もとゝろに五月雨の雲や水上那智の大瀧](短冊;直負名)、
[直員(;名)の字/通称/号]字:伯周、通称;台六/岐阜屋八郎兵衛、号;寂窓/希僊/居然亭
- L3292 直一(なおかず・熊谷くまがい、) 1835-1915 81 信濃伊那郡の国学者/歌人、
[直一(;名)の通称]千代太郎/想之丞/直一郎
- N3251 直員(なおかず・鈴木すずき、) 1846-1887 42 出羽(羽前)田川郡の田川八幡神社祠官、国学者、維新後;大講義、鈴木重行の末裔?
- 3285 直方(なおかた・中西なかにし、常好男) 1634-1709 76 伊勢山田神道:出口延芳門、丹波大掾、1671宮祓銘論で追放され流浪、和歌山藩田丸佐田村に住、
「性学集」「神道物語」著、「和歌三神抄」編
[直方(;名)の通称/号]通称;丹波、号;高倉散人/羅茂子/復圭斎/敬義斎
- 3286 直方(なおかた・佐藤さとう、福山藩士休意男) 1650-1719 70 備後福山儒:永田善庵門、1671山崎闇齋門、崎門きもん3傑に1/神道に傾倒した闇齋と対立;破門、1683美濃に出講/上京し朱子学を研究、1691福山藩主の招聘で江戸へ/92帰京/95酒井侯の招聘/以後江戸で諸侯に講学、1684「講学鞭策録」86「排釈録」89「神儒論」1713「道学標的」、「仁説」「鬼神集説」著、「韞蔵録うんぞうろく」(;稲葉黙斎編/五編は尾関当補とうほ編)、
[直方(;名)の幼名/通称]幼名;彦七、通称;五郎左衛門、
☆熊本藩士の佐藤直方とは別人→竹塙(ちくお・佐藤、1647-1708/儒者) C 2 8 6 2
- 3287 直方(なおかた・多賀たが、直定男) 1651-1733 83 加賀金沢藩士/1686家督;若年寄、1697蟄居/1729許される/前田家製薬方、「平尾邸拝領一件」著
[直方(;名)の字/通称/号]字;敬甫、通称;逸角/信濃、号;春宵、
- 3288 直方(なおかた・今枝いまえだ、日置忠治男) 1653-1728 76 今枝近義の養嗣子;1667養家家督;加賀藩士、1720家老;世子の傳を兼任、国学/詩/故実/兵学に通ず、1672「夜話」84「談海略志」編、1685「後撰芸葉集」1705「江府沙汰集書」12「難波詞林」編/17「享保革命略志」著、1726「御国古談」著、「土鑑用法講談聞書」「今枝直方筆記」「老ての京のほり」外著多数
[直方(;名)の別名/字/通称/号]別名;喬、字;懋遷ぼうせん、通称;八右衛門/内記/民部、号;樂木、法号;忠山石心居士
- N3240 直賢(なおかた・新庄しんじょう、) 1657-1733 77 江戸の幕臣;旗本3千石;御書院番頭、従五下、土佐守、国学者/歌人;茂睡[鳥の跡]入/了然尼撰[若むらさき]3首入、
[琴の音に心ひかれて鶯の声さへ春のしらべとぞ聞く](茂睡[鳥の迹]春47)、
[咲き残る梢もよしやよしの山花の盛りは日にそへてみる](若むらさき;13/花漸盛)
[直賢(;名)の通称/号]通称;勝之助/宮内/大学/土佐守、号;幽円
- 3289 直方(なおかた・中島なかじま、字;文行/通称正治、諡;文行先生) 1693-1738 46 伏見儒者;浮山門/婿養子、講説業、1730「浮山先生墓表行状」著
- 3290 直方(なおかた・西村にしむら、通称章次/号;有斐) 1697-1746 50 京の薬種業/本草;幕命で倭薬監、1733「人參辨」、44「本草啓牖けいゆう」編、景義の父
- 3291 直方(なおかた・浦上うらかみ/修姓:浦、別名;景久、下村三大夫男) 1698-1757 60 浦上重直の養嗣子、紀伊藩士、妻;浦上重直女;婿養子、1716徳川吉宗に従い江戸城本丸入;幕臣となる、1729染殿設置;染色の研究/47寄合、「曲水宴詩歌」著
- N3284 直賢(なおかた・千々和ちぢわ、直国の長男) 1747-1816 70 筑前遠賀郡香月村の神職、国学者;父門、
[直賢(;名)の通称]通称;左太夫/備後守、直信の孫
- M3216 直賢(なおかた・堀尾ほりお、旧姓;倉科) 1753-1825 73 信濃松本の国学者/歌人;桃沢夢宅・澄月門、伊那郡の座光寺家に出仕、雪子(近藤茂左衛門弘方の妻/歌人)の父、養子;竹村直馨なおか、
[直賢(;名)の通称]五郎左衛門
- 3292 直方(なおかた・草間くさま、京の栴屋唯右衛門男) 1753-1831 79 河内の鴻池家に奉公、1774(安永3)鴻池の別家尼崎草間家の女婿/1809(文化6)独立;大阪で両替商を経営、

肥後熊本・豊後府中・南部等諸藩や田安家と取引、実証的学問/貨幣と米価の研究、
懐徳堂に修学;著述多数/隠居後は茶を嗜む、1815「三貨図彙」、「草間伊助筆記」著、
「籠耳かごみみ集」「麓の塵」「むたこと草」「日本宝貨志」「茶器名物図彙」外著多数、
[直方(;名)の幼名/字/通称/号]幼名;仲我/文次郎/文治郎、字;士徳/子徳、
通称;鴻池屋伊助/伊佐之助/伊三之助、号;和楽、法号;寛誉昌禎居士

- 3293 直方(なおかた・山崎やまざき、文林/春杏/瓠瓜こか)1765-180036 肥後鹿本郡の医者;富田春山門、
詩文に通ず、「瓠瓜ひさご文集」「泉源集」著
- L3294 直賢(なおかた・熊谷くまがい、通称;新之丞)1767-183771 出羽能代の国学者
- P3213 直方(なおかた・矢畑やはた、)1774-183259 伊勢度会郡の御師職、国学者、
[直方(;名)の通称/号]通称;理太夫/尉之進、号;万祥/恵斎/文定
- K3244 直容(なおかた・新庄しんじょう、初名;直利?)?-? 1844存 幕臣;3000石/1793出仕/1802使番/布衣、
1808(文化5)駿府御目付代/1821(文政4)御先手/23日光山御詣之節御供役/31御持筒頭、
1835(天保6)西丸御留守居/従五下・長門守、1844老衰のため御役御免/年寄、
歌;蜂屋光世「大江戸倭歌集」(1858成立)入、
[露じもにかはらぬ色のあらはれて冬もはえある峰の松が枝](大江戸倭歌;冬1151)、
[直容(;名)の通称/号]通称;勝三郎/長門守、号;岱雲(;致仕号)
- 3294 直方(なおかた・伴はん、直宣男)1790-184253 江戸の幕臣/裏門切手番頭/大阪奉行、
国学;賀茂真淵門、語学・各種考証に精通、1842(天保13)没、
「国字考」「伊呂波考」「あひおひ」「物語書目備考」「画図品類」「枕草子考」「童謡考集説」著、
[直方(;名)の通称/号]通称;万五郎/藤五郎、号;四溪
- P3206 直方(なおかた・望月もちづき、幸智男)1792-186170 近江甲賀郡の医者、国学者/歌人;父門/茶人、
伊勢の佐々木弘綱と交流
- 3295 尚質(なおかた・小島/小嶋、別名;和威、根一もとかげ男)1797-184852 母:前野良沢女、幕臣;
1817医学館薬調合役取締/侍医/36法眼、椋斎中心の古書鑑賞会参:1856「経籍訪古志」編参、
「古刻旧鈔目録」「経方権量考」、1842仁和寺蔵「新修本草」復元;息尚眞なおざね校正、
多紀元堅・喜多村香城と三名医(幕府医官)と称さる、
[尚質(;名)の字/通称/号]字;学古、通称;喜之助/喜庵/春庵、号;宝素/宝素堂、法号顕光院
- 3296 尚方(なおかた・脇田、澹如亭?)- ? 江後期金沢藩士/兵学;牧忠輔門、
1820「枢密要論纂註」33「大星秘伝抄」、「高田善蔵植松内蔵太切腹一卷」著
- 3297 尚賢(なおかた・内藤ないとう、字;剛甫、通称主馬?)?-? 江後期京堺町本草;小野蘭山門、
1840「古方薬品考」著、
[尚賢の号] 魯斎/菊溪/蕉園[焦園]
- K3250 直方(なおかた・半井なからい) ? - ? 江後期;医者;幕府奥医?/法印、歌人、
1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、
[夕立のきほひし空の涼しさを月にうつして雲ぞ晴れゆく](大江戸倭歌;夏534)
- K3264 直方(なおかた・内原うちばら) ? - ? 江後期;歌人、
1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、
[杣川にくだす筏は岩間行く早瀬の波や追手なるらん](大江戸倭歌;雑1675/川筏)
- K3267 直方(なおかた・林はやし/本姓;源?)?-? 江後期;歌人、幕臣?、
1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、
[流れての末ひろき世にしのおかなそのみなもとの深き心を](大江戸倭歌;1818、
六孫王九百五十年神忌に王孫源氏の人の歌集めたるに、
六孫王;源経基/清和天皇第六皇子禎純親王の王子)
- N3279 直方(初代なおかた・谷井たい)1806- 189186 近江甲賀郡信楽の信楽焼窯元、
国学・歌;佐々木弘綱門、自詠歌を添えた茶器制作、海鼠釉の研究完成;ナマコ釉火鉢の礎、
信楽焼の発展に貢献、蓮月尼と交流;窯出しの茶陶を届け蓮月尼が歌・書を記す、
[直方の雅友は歌人の蓮月尼茶陶に和歌をしるし給ひき]、
(2代目直方妻の谷井かつこ「穴窯の炎」、
[直方(;名)の通称/号]通称;利十郎、号;夷園/蛭子園えびすえん
- 3299 尚賢(なおかた・猪瀬いのせ、) ? - ? 1830-44頃野州書家/歌/俳:江戸伊勢町住、

- 「玉のはやし」「女婚礼国尽」「御家両点千字文」著、「御家百人一首千歳文庫」書
 [尚賢(；名)の字/通称/号]字；方平まさひら、通称；讓之助、号；一蓑/晴雪楼
- 3298 **直方**(なおかた・横山よこやま) 1817- 1873 57 土佐高知藩士；御馬廻の家/和漢学修学、
 儒学；安積良斎・大槻磐溪門/国学；鹿持雅澄門、藩校教授館頭取、郡奉行・大目付歴任、
 藩主山内豊信(容堂)の側用人、佐幕派、吉田東洋らと幕末藩政の中枢で活動、
 「日本紀歌註」「採玉集」「神璽考」著、
 [直方(；名)の通称/号]通称；覺馬/嘉久馬、号；咲而亭しょうじてい
- L3293 **直方**(なおかた・熊谷くまがい) 1817- 1895 79 陸奥二本松藩士、国学者
 [直方(；名)の通称/号]通称；十郎右衛門、号；鶴城
- N3295 **尚方**(なおかた・利根川とねがわ) 1817-1885 69 武蔵川越の医者、詩人、
 「原玉鉾論・意馬肅羈」著、印刷；日章堂、
 [尚方(；名)の別号/号]別号；濟、号；蘇水/日章堂
- B3200 **直方**(なおかた・今井いまい) 1825-? 1898 存 羽前米沢藩士/和算家；吉川近徳門、
 「算術書籍」編/1864「算法反正鈔」編、「算法妙理」「算法」「続再訂算法」著
 [直方(；名)の別号/字/通称/号]初名；利義、字；九肆、号；靖山
- L3263 **尚方**(なおかた・神尾かみお) 1825-1904 80 信濃埴科郡の国学者；石黒守稻もりとし門、
 歌；唐木善武よしたけ門、
 [尚方(；名)の通称/号]通称；七郎兵衛、号；榊園
- N3226 **直方**(なおかた・寒川さむかわ) 1828-1893 66 紀伊日高郡下阿田木しもあたぎ神社の祠官、
 国学/歌；紀尚長門、
 [直方(；名)の通称/号]通称；菊松/近江、号；大海
- 03211 **直方**(なおかた・中村なかむら) 1830-1911 82 肥後熊本の国学者；林有通門、
 [直方(；名)の通称/号]通称；敬太郎、号；篁斎
- P3200 **直方**(なおかた・宮北みやきた、正房男) 1832-89 58 加賀金沢藩士、漢学者/詩文を能くす、
 藩立の済々館で子弟教育、歌・俳諧・書を嗜む、
 [直方(；名)の号] 死矣い/北山/霞松/花隄/履善
- N3227 **直方**(なおかた・四熊しぐま) 1833-1908 76 周防都濃郡の医者；四熊家12代/大坂で儒学・医学を修学、
 地元で医開業/周防徳山藩侍医；戊辰戦争で藩医として奥州・函館に従軍、
 四熊家は徳山藩内富田土井に16世紀中頃から続く旧家；医業は6代久左衛門為方から、
 [直方(；名)の字/通称]字；惟城、通称；宗庵/紫溪
- B3201 **尚賢**(なおかた・岩本いわもと、通称；順吉郎) 1835-1907 73 信州諏訪神社の宮司；
 「諏訪上下両社年内神事大略」編
- B3202 **直方**(なおかた・瀬部せべ) ? - ? 江戸期阿波の地誌家；「日東小志」編
- 直賢(なおかた・脇田/金) → 如鉄(じよてつ・よちよる・脇田、藩士/歌人) M 2 2 7 2
 直賢(なおかた・今枝) → 近義(ちかよし・今枝いまえだ、藩家老/国学) C 2 8 1 8
 直方(なおかた・前田) → 直方(なおただ・前田、随筆家) B 3 2 5 6
 直方(なおかた・佐藤) → 竹塙(ちくお・佐藤、儒者) C 2 8 6 2
 直方(なおかた・今村) → 一鷗(いちおう・今村いまむら、医者) G 1 1 0 8
 直方(なおかた・金井) → 鳳台(ほうだい・金井かない、商家/医/儒者) E 4 5 5 5
 直方(なおかた・小野) → 高尚(たかひさ・小野おの、幕臣/国学者) D 2 6 5 6
 直方(なおかた・嵯峨) → 朝来(ちようらい・嵯峨さが、儒者/詩) K 2 8 0 8
 直方(なおかた・山田) → 紫笛(しき・如雲舎、黄檗僧/狂歌) F 2 1 2 1
 直方(なおかた・多賀) → 直秀(なおひで・多賀たが、藩士/詩歌) N 3 2 6 7
 直方(なおかた・矢口) → 来応(らえんらいう・矢口やぐち/増原、藩士/心学) D 4 8 5 8
 直方(なおかた・松本) → 董斎(とうさい・松本まつもと、書家) E 3 1 3 1
 直方(なおかた・八木) → 静修(しずさね・八木/鏑木/橘、国学者) U 2 1 0 1
 直方(なおかた・久郷) → 恭慶(たかよし・久郷ひささと、被官/歌人) Z 2 6 2 2
 尚賢(なおかた・柳、千野乾弘かたひろ) → 尚賢(ひさかた・柳、医/和算家) 3 7 9 4
- B3203 **直勝**(なおかつ・永井ながい/通称；伝八郎、長田重元男) 1563-1625 63 三河大浜武武将/信康・家康臣、
 大江姓；永井を称す/1616上野小幡・17常陸笠間・22下総古河藩主、21日光造営奉行、

緒札規式;幽齋門、能楽、「直勝教訓歌」「室町殿家式」著、尚政/直清の父

- B3204 **直勝**(なおかつ・野口のぐち、) ? - 1680 遠江の国学者/のち三河宝飯郡牛久保に住、
詩歌人、「松山記」著、
[直勝(;)名]の通称/号]通称;甚九郎、号;慎独軒/閑敬
- B3205 **直勝**(なおかつ・浦野/通称流右衛門/喜右衛門) 1676-1758⁸³ 会津藩士、「染物語」著
- 03267 **直雄**(なおかつ・堀ほり、通称;保次郎/号;華成) 1830-93⁶⁴ 信濃飯田藩士、歌人;橋道守門
- 03288 **直克**(なおかつ・松平まつだいら、久留米藩主有馬頼徳13男) 1839-97⁵⁹ 江戸生、
1862(文久元)川越藩6代藩主松平直侯なほよしの婿養子となり家督継嗣;武蔵川越藩7代藩主、
従四下侍従/大和守、1863(文久3)幕府政事総裁職;幕政に参画;64將軍家茂に随従;上京、
朝廷・参預会議との折衝、一橋慶喜と共に横浜港鎖港を推進、天狗党問題で幕閣と対立;
1864(元治元)役職罷免;以後幕政から退く、所領の前橋城修復;前橋藩を復活、
国学・歌;尾高高雅(川越前橋藩出仕)・鈴木重胤・伊東祐命すけのぶ門/本草学;笹村良昌門、
1868新政府に帰順;上野全土を鎮撫;会津戦に参加、維新後;前橋藩知事;隠居、正三位、
[直克(;)名]の初名/字/通称]初名;頼敦、字;季竜、通称;富之丞/大和守
直勝(なおかつ・園崎) → 幸勝(ゆきかつ・吉見/園崎/菅原/源、藩士/神道家) E 4 6 4 0
- B3206 **直記**(なおき・杉村すぎむら蕃祐ありすけ、誠一男) 1741-1808⁶⁸ 対馬藩家老/1746家督継嗣、
藩政主導;田沼意次に接近、派閥抗争;田沼失脚で解任/幽閉;新庄藩江戸屋敷で没;
毒殺説あり、「訳官人料御記録」著、
[直記の通称] 虎太郎/伊織/采女/大和/長門
- K3214 **直樹**(なおき・森もり) 1741 - 1803⁶³ 駿河府中の酒造業;屋号深江屋、国学;栗田土満門、
歌;本居大平「八十浦の玉」上巻末入、直里・三穂麿の父、
[紅の赤裳すそひき真袖ふり春野の若菜摘むはたが子ぞ](八十浦;306/春の歌)、
[直樹(;)名]の別名/通称]別名;居英、通称;六兵衛/深江屋佐治兵衛
- L3219 **直樹**(なおき・一見/市見いちみ) ?-1808 伊勢白子の国学者;本居宣長門、
[直樹(;)名]の別名/通称/号]別名;俊徳、通称;元常、号;琴屋
- L3278 **尚樹**(なおき・河辺かわべ) 1808 - 1871⁶⁴ 伊勢津の商家/国学・歌人;香川景樹門、
[尚樹(;)名]の通称/号]通称;忠五郎、号;鼠雷、屋号;鍵屋
- M3206 **直城**(なおき・小出こいで/本姓;大江、清音きよね4男) 1813-76⁶⁴ 阿波徳島の国学者、
本草・国学・歌;太田豊年門、佐藤友信の師、
[直城(;)名]の別名/通称/号]別名;直甫/直彦、通称;祐太、号;榛園しんえん
- P3235 **直樹**(なおき・渡辺わたなべ、) 1822-1881⁶⁰ 陸奥田村郡の国学者;大野眞年・平田篤胤門、
陸奥三春の皇学教師
- N3248 **尚樹**(なおき・数原かずはら) ? - 1892 江戸幕府の医官、国学/歌人、書家、
のち維新後;宮内省御歌所出仕
- B3207 **直毅**(なおき・山口やまぐち直亮なおき/-すけ、林はやし帰山男) 1830-95⁶⁶ 1857山口直養なおかひの養嗣子、
幕臣各種奉行;騎兵・講武所・神奈川・外国・陸軍・外国惣奉行等歴任、
幕末の外交・兵制改革に尽力、「山口直毅日簿」著、
[直毅の号] 尖堂/泉処
- N3234 **直樹**(なおき・下田しもだ、) 1830-1909⁷⁰ 信濃伊那郡の国学者;平田鍊胤門、
維新後;伊那郡時又村戸長、
[直樹(;)名]の通称/号]通称;多喜/源左衛門、号;淡村/竜崖
- B3208 **直樹**(なおき・杉山すぎやま、中村長四郎男/徳太夫養嗣) 1831-90⁶⁰ 伊勢国学者;御巫みかんなぎ清直門、
考古学、「棠齋雑抄」「宇治山田名勝志」「棠齋雑抄造宮録」著
- P3209 **直樹**(なおき・森もり、通称;繁太郎/賢良、藩絵師森良敬男) 1847-1908⁶² 讃岐高松藩絵師;父門、
のち住吉広賢門/一家の画風を確立、1875(明治8)地租改正時各村の地図作成に参加
魚沖(なおき・伊藤) → 常足(つねたる・伊藤、儒/国学/歌人) C 2 9 4 7
直記(なおき・衣川) → 長秋(ながあき・衣川きぬがわ、国学者) D 3 2 1 1
直記(なおき・武藤) → 豊洲(ほうしゅう・武藤むとう、医者) B 3 9 5 0
直記(なおき・林) → 良斎(りょうさい・林はやし、藩家老/陽明学) H 4 9 6 6
直記(なおき・伊藤) → 祐祥(すけよし・伊藤いとう、藩士/教育) D 2 3 7 3

- 直記(なおき・鎌田) → 広海(ひろみ・鎌田かまた/藤原、神職/国学) I 3 7 4 0
- 直記(なおき・為貞) → 弟久(おとひさ・為貞ためさだ、神職/歌人) D 1 4 8 1
- 直記(なおき・岡部) → 直約(なおなり・岡部おかべ、藩士/歌人) L 3 2 4 7
- 直記(なおき・佐藤) → 直翁(ちよくおう・佐藤さとう、藩校教授/儒・歌) M 2 8 5 9
- 直記(なおき・宍道) → 貞(ただし・宍道しんじ/楊井やない、藩士/歌) X 2 6 6 2
- 直記(なおき・保々) → 光等(みつとも・保々ほぼ、藩士/国学) K 4 1 3 9
- 直紀(なおき・安藤) → 直紀(なおり/なおき・安藤あんどう/内藤、藩士/歌人) K 3 2 9 2
- 直樹(直枝なおき・高橋/伴) → 資規(すけのり・伴ばん/高橋、国学者/歌) C 2 3 8 0
- 直樹(なおき・太田) → 之信(ゆきのぶ・太田おた、藩医/歌人) G 4 6 6 9
- 直樹(なおき・鎌田) → 政和(まさかず・鎌田かまた、陪臣/国学者) O 4 0 9 6
- 直吉(なおき・柳屋/生田) → 守直(もりなお・生田いくた、国学者/歌) G 4 4 0 5
- 直吉(なおき・中屋/碓井) → 梅嶺(ばいれい・碓井うすい、酒造業/儒/俳) C 3 6 3 2
- 直吉(なおき・伊藤) → 一葉(いちよう・千菊園、狂歌作者) G 1 1 5 5
- 直吉(なおき・関) → 讃蔵(さんぞう・関せき、藩士/砲術家) M 2 0 5 6
- 直吉(なおき・蓮沼) → 景正(かげまさ・蓮沼はすぬま、藩士/国学) V 1 5 4 0
- 直吉(なおき・絵屋/鷹見) → 保利(やすとし・鷹見たかみ/南条、商家/歌) G 4 5 2 2
- B3209 尚清(なおきよ・小笠原、通称民部少輔、法号; 常德院宗仁、政清男) ?-1502 室町将軍家弓馬指範、
武将/故実家、「延徳随兵記」「犬追物聞書」「文字日記」「尚清聞書」「流鏑馬日記」著
- B3210 直清(なおきよ・永井、通称伝十郎、直勝男/尚政弟) 1591-1671⁸¹ 武将/徳川秀忠臣/大坂陣参戦、
1633山城長岡藩主/49撰津高槻藩主/能を嗜む、「永日記」著
- P3216 直清(なおきよ・山口やまぐち、宇和島藩主伊達村侯2男) 1759-98⁴⁰ 幕臣旗本の山口直承の婿養子;
妻; 直承女の嘉智子、1789家督4代嗣; 3千石/従五下丹波守、使番/1793日光奉行、
1795大坂町奉行; 1798(寛政10)在任中没、儒学・歌; 加藤景範門、
[直清(;名)の初名/通称]初名; 徳興、通称; 内匠/兵庫/丹波守
- B3211 直清(なおきよ・多賀たが、通称左近/予一右衛門、直房男) 1760-1821⁶² 加賀金沢藩士/1790家督継嗣、
1791(寛政3)常火消、1803当文御宮火消/1804(文化元)常火消に復す、直昌が家督嗣、
歌人:「多賀直清歌集」、「直清随筆」「多賀左近書翰」著
- B3212 直清(なおきよ・竹垣たけがき、通称庄蔵/善佐、号; 柳塘、直温なおひろ男) 1775-1832⁵⁸ 幕臣/1796勘定方/
1814家督、関東/遠州三河/越後代官、書画骨董、南畝・京伝と親交、「竹垣直清日記」著
- B3213 直清(なおきよ・多田ただ、) 1800- 1876⁷⁷ 阿波の人/諏訪神社社司、
神典復古学: 永井精古あきひさ門、万葉研究、神典・史学に通ず、
「阿波国名西郡村邑見聞言上記」「和歌詠草」著、「続阿波国風土記」編参加、
[直清(;名)の初名/通称/号]初名; 義高、通称; 近江、号; 櫃之園
- K3263 直潔(なおきよ・西郷さいごう) ? - ? 江後期; 歌人、
1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、
[山高み麓の里は夕げたくけぶりよりこそ暮そめにけれ](大江戸倭歌; 雑1660/里煙)
- L3295 直清(なおきよ・熊谷くまがい、本姓; 平) 1823-1905⁸³ 出羽仙北郡六郷村の神職; 六郷熊野神社祠官、
熊谷直房の甥、国学; 直房の紹介で平田篤胤門/詩歌を詠む、子弟に国学で勤王思想啓蒙、
維新後; 熊野神社境内に私塾文交舎を開設; 国・漢学を教授; 幾多の俊秀を育成、少教生、
中年に失明したが子弟教育; [出羽の塙保己一]と称される、「心之形見」著、
[直清(;名)の通称/号]通称; 政司/政治、号; 松蔭しょういん/瑞葉の屋/松蔭舎
弟; 熊谷武五郎(敦賀県初代知事/大蔵大丞/十五銀行支配人)
息子; 幸之輔(愛知医学専門学校校長)
従兄; 根本通明(東京帝国大学教授)
- K3284 直清(なおきよ・綾川あやかわ、山地清記男) 1853-1890³⁸ 讃岐阿野郡瀧宮村の神職; 高松藩士、
高松藩講道館入学; 皇漢学修学
- 直清(なおきよ・室) → 鳩巢(きゅうそう・室、儒学) 1 6 2 8
- 直清(なおきよ・植木) → 直枝(なおえ・植木うえき、藩士/国学) L 3 2 2 9
- 直廉(なおきよ・松平) → 茂昭(もちあき・松平、藩主/歌人) B 4 4 2 8
- 直静(なおきよ・溝口) → 直静(ちよくせい・溝口みぞぐち、幕臣/歌人) L 2 8 6 8

- B3214 **直邦**(なほくに・黒田直重、中山直張男/母黒田用綱女)1666-1735⁷⁰ 徳川綱吉の臣:上州沼田藩主、西丸老中/群書を博覧、「鳴鶴鈔」「治教秘録」「老話」「家僕教訓」「黒田直重文集」著
[直邦(;)の号] 琴鶴/瓊山
- N3286 **直国**(なほくに・千々和ちぢわ、通称;出羽守、直信男)1724-1812⁸⁹ 筑前遠賀郡香月村の神官、神道・国学者;父門、直賢^{なほかた}の父
直国(なほくに・真柄) → 小文吾(こぶんご・真柄まがら、旅籠屋/一揆) N 1 9 5 6
直九郎(なほくろう・三輪) → 月底(げつてい・三輪みわ、大工/俳人) H 1 8 2 6
- K3212 **尚子**(なほこ/ひさこ:女房名?)?- ? 江中期歌人、紀伊藩に出仕(女房)、歌人;1798刊石野広通「霞関集」入、
[引きむすぶ夢もみじかし草枕ならはぬ野辺の露の仮寝は](霞関;旅1106/旅宿)
- N3232 **直子**(なほこ・芝崎しばさき、荷田[羽倉]春満あづままる女)1714?¹-1764⁵⁰余歳 国学者/歌人、1738(元文3)義兄荷田在満ありまろを頼って江戸に;水戸藩主徳川吉孚後室の養仙院に出仕;中臈ちゅうろうとなる、神田明神祠官芝崎好全よしなりと結婚妻、父春満の筆写抄録を助ける、
[直子(;)の別号]中秀・名秀・辻
- 03264 **直子**(なほこ・穂阪ほさか、旧姓;長谷川)1746-1824⁷⁹ 筑前鞍手郡の国学・歌人;伊藤常足門
- K3282 **直子**(なほこ・麻田あさだ、別号;竹子、麻田英直女)1781-1848⁶⁸ 土佐高岡郡佐川の歌人、源氏物語を好み読書、子女教育
- K3237 **直子**(なほこ・長田おさだ、蓑田爲重女)1796-1860⁶⁵ 京の生/歌人;本居大平門、大阪の豪商長田鶴夫たづお(1784-1844)の妻、比等之ひししの母
- 03226 **なを子**(なほこ・野出ので、初名;なよ子)1818-1915^{長寿98} 陸奥会津の歌人、歌;会津藩士の野矢常方(戊辰戦で戦死)門
- 03284 **直子**(なほこ・松田まつだ、初名;菅野、松田直兄^{なほえ}女)1819-53³⁵ 山城愛宕郡上賀茂神社祠官の家、大直もとなお・内直の妹、歌人;父門、近衛家に出仕
- B3215 **直子**(なほこ・小川おがわ、初名;昌子、金沢藩士河島良左衛門3女)1840-1919⁸⁰歳 加賀金沢の歌人、歌人;井上文雄^{ふみお}・近藤芳介門、儒医小川幸三の妻;幸三が国事に坐し自裁を命ぜられる、志操堅く教育者;金沢・青森で教鞭/東京で国学;重野安繹^{やすつぐ}・本居豊穎^{とよかみ}門、1893(明治26)宮内省御用掛;常宮昌子内親王・周宮房子内親王に進講、1856文雄「摘英集」入
直子(なほこ・藤原) → 直子(なほこ・藤原、古今歌人) 3 2 7 0
直子(なほこ→つねこ・一橋) → 直子(迺子つねこ・一橋、江戸末期歌人) C 2 9 0 8
直子(なほこ・日尾) → 直(なほ・日尾直子、歌人/教育) 3 2 5 6
直子(なほこ・大久保) → 直子(ただこ・大久保/萩原、歌人) W 2 6 1 1
直子(なほこ・徳川) → 直子(迺子つねこ・一橋ひとつばし、歌人) C 2 9 0 8
尚事(なほこと・正玄/橋) → 曙覧(あけみ・橋、国学/歌人) 1 0 1 4
直五郎(なほごろう・中島) → 魚坊(ぎよぼう・中島、歌人/俳人) Q 1 6 3 0
直五郎(なほごろう・香山) → 寧(やすし・和田わだ、和算家) B 4 5 6 1
直五郎(なほごろう・片山) → 恬斎(てんさい・片山かたやま、藩儒/詩歌) D 3 0 4 7
直五郎(なほごろう・菅沼) → 直榎(なほつち・菅沼すがぬま、庄屋/歌人) N 3 2 5 0
猶五郎(なほごろう・橋本) → 敬筋(ゆきやす・橋本はしもと、幕臣/随筆) F 4 6 8 9
直左衛門(なほざえもん・五代) → 秀堯(ひでたか・五代ごだい、藩士/儒者) D 3 7 1 3
- B3216 **直作**(なほさく・宇野うの富有、富潤男)1819-75⁵⁷ 加賀藩士/砲術・弾薬製造修得/大筒方徒士小頭、「三州国政に関する対策書」著
直作(なほさく・板垣) → 政純(まさずみ・板垣いたがき/佐々木、国学) N 4 0 6 8
- K3270 **直貞**(なほさだ・安倍あべ、吉貞男)1600-52⁵³ 長門阿武郡の生、和学者、
[直貞(;)の別号/通称/号]別号;兼貞、通称;惣兵衛尉、号;涼斎
- B3217 **直貞**(なほさだ・服部はつとり直景、湛海/一瓢翁)1628-88⁶¹ 金沢藩兵法家/甲州流兵法;松平定申門、浪人;江戸兵法講義/尾張藩主光友に出仕;尾州系甲州流の祖、「甲陽軍鑑營陣抄」「手鑑」著、直好の父
- B3218 **直貞**(なほさだ・立入たてり、直頼男)1628-99⁷² 廷臣;代々禁裏上御蔵職/1673従五下河内守/96播磨守、「立入家所持記」「上御蔵立入家旧例等之記」編、宗益^{むねまさ}父

- L3283 **直定**(なおさだ・金須きす、)1700- 176883 陸奥仙台の神道学者/国学者、
儒・垂加神道;遊佐木斎(好生よしなり)・玉木正英門、
[直定(;名)の通称/号]通称;正右衛門、号;長隱
- K3295 **直定**(なおさだ・井伊い、直該なおり[直興]6男)1702-6059 近江彦根藩主家/1713従五下因幡守;
彦根新田藩1万石を受領/1734異母兄井伊直惟なおのぶの養子;35(享保20)彦根藩9代藩主襲封、
質素儉約、幕府奏者番、病弱;1754兄直惟男の直禊を養子;直禊急逝/再勤となる、国学/歌、
1755直禊の弟の直幸なおひでを養子;隠居、直賢・直峯の父/直禊・直幸の養父、
[直定(;名)の通称/号]通称;又五郎/因幡守/掃部頭/主殿頭/大監物、法号;天祥院
- B3219 **直定**(なおさだ・前田/通称仙太郎)?-? 金沢藩士、1862近習/65御側小将、「前田仙太郎系図帳」著
- 13281 **尚貞**(なおさだ・木沢きざわ、旧姓;並河)1791-183545 江戸の生/並河天民の孫、
信濃飯田の木沢家の養子/医者、国学者/歌人、
[尚貞(;名)の号]松溪/圭川/奎洲/松経/正圭/圭陽
- B3220 **直貞**(なおさだ・野呂のろ/本姓;藤原)1829-8355 備前岡山藩の中老土肥典膳の家臣、弾正台大巡察、
国学;平田鋏胤門、歌/茶、尊氏木造梟首事件に連座;越後に幽閉/67赦免、
横井小楠暗殺に連座;謹慎、「直貞筆記」著
[直貞(;名)の通称/号]通称;菊三郎/助三/久左衛門、号;含章斎
- 03240 **直定**(なおさだ・早川はやかわ/旧姓;和泉)1845-192076 阿波那賀郡木頭村の神官、国学者、のち戸長
[直定(;名)の初名/通称]初名;直提、通称;豊前頭
直定(なおさだ・赤井) → 直喜(なおよし・赤井あかい、藩士/文筆) C 3 2 9 8
尚貞(なおさだ・吉雄) → 権之助(ごんのすけ・吉雄よしお、通事/翻訳) E 1 9 7 9
- B3221 **直郷**(なおさと・永楽屋東四郎、政清男)?-1502 室町将軍足利家の弓馬指範、故実家
書肆永楽屋東四郎片野直郷とは別人→ 東四郎(初世とうしろう・永楽屋、18ct) F 3 1 5 6
- B3222 **直識**(なおさと/なおつね) ? - ? 連歌;1561三好長慶「飯盛千句」参
- B3223 **直郷**(なおさと・鍋島なべしま、直堅男)1718-7053 肥前鹿島藩主/1728家督、
祖父直条なおえだの学風に師事、歌;小栗風塵斎・小川長賢門/詩;菅秀実門、
「孤山詩集」「孤山誠齋詩集」「香雲歌集」「孤山塵袋」「史海漁網」「古今紺珠」著
[直郷(;名)の初名/通称/号]初名;直告、通称;織部/備前守、号;孤山/誠齋
- P3210 **直里**(なおさと・森もり、直樹[1741-1803]男)1770-183162 駿河府中の酒造業;深江屋、
国学;父門/本居春庭・栗田土満門、三穂麿の兄、歌;有年編[蔵山集]などに入
[直里(;名)の通称/屋号]通称;六兵衛、屋号;深江屋
- 03296 **直郷**(なおさと・三宅みやげ、別名;直嗣なおつぐ、武右衛門平郷男)1780-184768 備中浅口郡連島村大庄屋、
国学・歌;内藤中心なかご門(弟の煌あきらと同門)、
[直郷(;名)の通称]武右衛門(父の称)
直郷(なおさと・片野)→ 東四郎(初世とうしろう・永楽屋、18ct書肆) F 3 1 5 6
- 3202 **直実**(なおさね・熊谷、蓮生、直貞男)1141-120868 源氏武将;熊谷地頭、敦盛との逸話(平家物語)、
浄土僧;源空門/光明寺を開く、「夢記」「蓮生法師誓願状」著
- B3224 **尚実**(なおさね・九条、法名堯巖/遍照金剛院、輔実男/植基嗣)1717-8771 随心院門跡/大僧正;法印、
内大臣植基早世し嗣;1743還俗/1759左大臣/78関白/79摂政/80太政大臣/87准三宮、
1768「英仁親王立太子次第」/70「有馬六景」71「大嘗会次第」、78-80「九条尚実記」著
- L3223 **直真**(なおさね・岩沢いわさわ、幸年男)1802-6867 母;さち子(幸子/歌人)、信濃飯田藩士;上下郷御手代、
蔵番を勤める、歌人;父門、服部菅雄門;飯田来訪時に国学・歌を修学、富樫広蔭門、
松井美澄・野村有信・村沢徳成・中山水枝・村瀬楽波・小川春経・三浦元季らと交流、
[直真(;名)の別名/通称]別名;直稠/忠真、通称;武助/忠吉/兵右衛門、
法名;壽翁宗仙居士
- B3225 **尚真**(なおさね・小島/小嶋、尚質なおかた男)1829-1857早世29 幕臣;寄合医師、
儒者、1850渋江抽斎らと父復元の「新修本草」を校正、1855「皇国医籍目録」著、
「経籍訪古志」浄書、
[尚真(;名)の通書/号]通称;春沂しゅんせ/号;抱沖ほうちゅう
- 03200 **直咸**(なおさね・富奥とみおく、)1832-191281 飛騨吉城郡の神職/国学・歌;富田礼彦(節斎)門、
郷社栗原神社祠官(;維新前後)、

- [直成(；名)の通称/号]通称;深太郎/七右衛門、号;榊園/五六
- 直三郎(なおよさぶろう・宮永)→ 菽園(しゆくえん・宮永みやなが、儒者) Y 2 1 6 3
- 直三郎(なおよさぶろう・正木)→ 輝雄(てるお・正木まさき、兵学者) C 3 0 7 1
- 直三郎(なおよさぶろう・小山)→ 春山(しゅんざん・小山おやま/塚田、漢学者) J 2 1 7 8
- 直三郎(なおよさぶろう・松波)→ 資之(すけゆき・松波/岡田、廷臣/歌人) D 2 3 2 3
- 直三郎(なおよさぶろう・岩崎)→ 利記(としり・岩崎いわさき、里正/歌人) U 3 1 3 0
- B3226 直(なおい・渡辺、淳男)1789 - 186577 備中阿賀郡の新見藩国老、儒;丸川松隠門、民力養成、制度整備;「新見典刑」著、歌/国学に通ず、「蘭桂集」著
- [直(；名)の字/通称/号]字;孟直、通称;衛守/太郎左衛門、号;松窩/蘭桂
- B3227 尚志(なおい・大築おつぎ/通称;保太郎)1835-190066 幕臣;歩兵指図頭取/歩兵頭並、1864「歩兵心得」訳
- P3207 直(なおい・元田もとだ、藩校学習館教授の竹溪長子)1834-191682 豊後杵築藩士、儒者;父門、国学;物集もずめ高世(竹溪門人)門、維新時;藩主嫡子松平親貴に随従し上京;内閣事務局書記/度会府判事/太政官記録取調掛;フランス民法研究、1874東京神田に法学塾[法律学舎]開設;フランス法を講授、法政大学創立に関与、1880東京代言人組合初代会長/長崎裁判所判事/東京府学務課長;義務教育普及に尽力、「南豊詩鈔」「南豊文集」著、元田伝・太田善男の父、
- [直(；名)の字/通称/号]字;温卿、通称;直太郎、号;南豊
- 直二(なおい・鈴木) → 養斎(ようさい・鈴木すずき、儒者) 4 7 9 3
- B3228 直茂(なおいげ・鍋島なべしま信生/信昌/信安、孫四郎、清房男)1538-161881 肥前本庄武将;龍造寺家臣、1570大友軍撃退/90佐賀藩政総攬/鍋島軍名で朝鮮出陣/1595佐賀藩支配、「直茂公御壁書」著
- B3229 直滋(なおいげ・井伊い/藤原、直孝の長男)1611-6150 近江彦根藩の世嗣;鞆負佐、彦根藩政に参画、直縄・直澄の兄/江戸城下で育ち將軍秀忠・家光父子に寵愛される/従四位下侍従/鞆負佐、父とは不仲、1858(万治元)病弱を理由に廃嫡;出家/湖東三山の百濟寺に通世、正室;井伊直勝女、歌人/「井伊直滋詠草」著
- B3230 尚重(なおいげ・竹口たけぐち/津久井、号;栄斎)?-1798 大和磯城郡の芝村藩士/国学者、1785「南朝皇胤紹運録」「南朝編年記略」/95「大柱記」「五郎社記」「河島皇子墓記」著、「深草古跡考」「陵墓志」著
- L3296 直茂(なおいげ・熊谷くまがい、)1830-190273 出羽仙北郡の国学者;平田鉄胤/歌;海上胤平、熊谷直清(仙北郡熊野神社祠官)の弟、
- [直茂(；名)の通称/号]通称;恒治/清右衛門、号;菊園
- L3284 直重(なおいげ・喜多島きたじま、)1832-187847 伊勢三重郡(四日市)富田村の鳥出神社祠官、神道;出口章尚門
- 修茂(なおいげ・大胡) → 修茂(のりしげ・大胡、川越連歌) E 3 5 6 6
- 直重(なおいげ・黒田) → 直邦(なおくに・黒田、藩主/読書家) B 3 2 1 4
- 直重(なおいげ・高野) → 幽山(ゆうざん・高野たかの、俳人) B 4 6 8 9
- 直成(なおいげ・高岡) → 直成(ちよくせい・高岡たかおか、俳人) K 2 8 3 0
- 直茂(なおいげ・立花) → 鑑虎(あきとら・立花、藩主/連歌) D 1 0 6 5
- 直茂(なおいげ・中臣) → 由伎麻呂(ゆきまろ・中臣なかとみ、国学者) 4 6 2 4
- 猶茂(なおいげ・中島) → 宣光(のぶみつ・中島なかじま、大庄屋/歌人) J 3 5 3 6
- 直七郎(なおいちろう・菅沼) → 定敬(さだゆき・菅沼すがぬま、幕臣/歌人) K 2 0 1 7
- 直七郎(なおいちろう・福田) → 金塘(きんとう・福田、曆算家) R 1 6 4 9
- 直十郎(なおいじゅうろう・小野) → 高尚(たかひさ・小野おの、幕臣/国学者) D 2 6 5 6
- 03254 直女(なおいよ・平山ひらやま、旧姓;熊谷、号;菊舎)1822-190584 出羽庄内の彫金師、歌人
- 直女(なおいよ・但木) → 直(なお・但木ただき、歌人) N 3 2 7 8
- B3231 直次郎(なおいじろう・寺西、元永男)1812-8574 幕臣/1860納戸頭/68大目付附属、「明石流玉揚火式目」「町村請取心得法」著
- 直二郎(なおいじろう・大田) → 南畝(なんぼ・大田おた、幕臣/狂歌詩) 3 2 3 3
- 直二郎(なおいじろう・朝長) → 晋亭(しんてい・朝長ともなが、儒者/侍読) P 2 2 4 0
- 直次郎(なおいじろう・児山) → 紀成(のりしげ・児山、幕臣/歌/紀行) E 3 5 6 8

直次郎(なおいろう・朝日) → 一貫斎(いっかんさい・朝日あさひ、藩士/儒) G 1 1 8 5
 直次郎(なおいろう・加藤) → 虞山(愚山ぐざん・加藤、藩士/地誌/歌) B 1 7 3 6
 直次郎(なおいろう・葉室) → 黄華(こうか・葉室はむろ、藩儒) H 1 9 7 9
 直次郎(なおいろう・滝沢) → 羅文(らぶん・滝沢/源/松沢、俳人) B 4 8 5 1
 直次郎(なおいろう・中沢) → 鴻洲(こうしゅう・中沢なかざわ、詩人/心学) J 1 9 5 1
 直次郎(なおいろう・曾根) → 守愚(しゅぐ・曾根そね、心学者) Y 2 1 6 2
 直次郎(なおいろう・西山) → 退溟(たいめい・西山、藩士/儒/詩人) L 2 6 0 9
 直次郎(なおいろう・萩原) → 正平(まさひら・萩原、国学/神道家) G 4 0 8 8
 直次郎(なおいろう・岡) → 紫陰(しいん・岡おか、儒者) P 2 1 6 0
 直次郎(なおいろう・太田) → 広城(ひろき・太田おた/喜満多、藩士/詩歌) I 3 7 9 0
 直次郎(なおいろう・幸田) → 文信(あやのぶ・幸田こうた、国学/歌人) H 1 0 5 4
 直次郎(なおいろう・赤川/佐久間) → 義濟(よしなり・佐久間さくま/赤川/中村、藩士/尊皇) M 4 7 9 7
 直次郎(なおいろう・館川) → 衡平(やすひら・館川たちかわ/小島、国学/尊攘) G 4 5 2 3
 直次郎(なおいろう・中小路) → 貞章(さだあき・中小路なかこうじ/平、国学) O 2 0 9 3
 直治郎(なおいろう・雲井) → 正篤(まさあつ・雲井くもい、国学者) P 4 0 4 3

- B3232 **直資**(なおいけ・神じん/みわ、資脩すけなが男) **?-?天逝** 南北期信州諏訪大社神官/円忠一族、
 連歌;菟玖波集2句入、
 [下暗き檜原ひばらの上に月見えて](菟玖波集;五秋401/前句;露のもらぬや岩やなるらん)
- B3233 **尚祐**(なおいけ・曾我そが、助乗男/本姓;平) **1558-1626** 69 室町幕臣;足利義昭に出仕、織田信雄に出仕、
 細川幽斎の推挙で豊臣秀吉臣/1600徳川家康臣;千石、兵庫頭/主計頭、故実家として出仕、
 足利家右筆の末裔として曾我流書札礼を大成:「書札礼」編、「曾我流書札」「座右書札」著、
 「曾我流書札法式」「本朝文法書」「書札略法」「書札三百八十箇条」「曾我座右考書札事」著、
 [尚祐(;名)の通称/法号]通称;又六郎/又左衛門、法号;疎雪、古祐ひさすけの父
- B3234 **尚祐**(なおいけ・岡本/通称小兵衛、号;道種) **1615-1698** 84 常陸水戸藩士/1656進士、
 「岡本尚祐筆記」著
- B3235 **尚翼**(なおいけ・中島なかじま/字:士鳳/通称敬輔、奉橋堂) **1752-1813** 62 京和算家、1781「断連新術」著
- B3236 **直亮**(なおいけ・大橋おおはし/通称丹次、号;長松子) **?-1800** 尾張名古屋の医者、
 国学:田中道麿門/1789本居宣長門、歌人、1759「長松子大橋直亮の紀行」著、
 本居大平「八十浦の玉」中巻入、
 [多度山のあらしを寒みさをしかの妻どふ声のかなしくもあるか](八十浦;457/鹿)
- L3297 **直輔**(なおいけ・熊谷くまがい、直治男) **1798-1876** 79 周防岩国の国学者/歌;熊谷直好・香川景樹門
 岩国藩校養老館学監、
 [直輔(;名)の通称]要蔵/大吉/大士
- B3237 **直助**(なおいけ・権田ごんだ/字:玄常、村医嘉七郎直教男) **1809-87** 79 武州入間郡毛呂本郷の神道家、
 1827(19歳)江戸で幕府侍医野間広春院門;儒医を修学、儒;安積良斎門、1830;帰郷;医者、
 国学:1832平田篤胤門/皇朝医学を主唱/62尊攘運動;京で平田派棟梁として国事奔走、
 維新後;1869神祇伯白川家の学館教授/大学校中博士/古医道御用掛、
 国漢洋の対立;国事犯嫌疑で金沢に幽閉、赦免;相模大山阿夫利あぶり神社の祠官/権大教正、
 伊豆三島神社の宮司/皇典講究所教授/大教生;神道界・国学界に活躍、年助の父、
 「万葉通読」「皇道歌」「医按語類」「古医道沿革考」「神道大意」「みたまのふゆ」「心の柱」著、
 「教典十二章」「祭典習礼小言」「老後集」外著多数、
 [直助(;名)の号]名越廼舎なごしや、神号;可美眞千知大人、変名;苺田穂積
- B3238 **直助**(なおいけ・田原たから明章、通称直助/陶吉/陶猗、号;古愚) **1813-96** 84 薩摩鹿児島藩士、
 蘭学:軍船建造、1846鑄砲築城設計、47砲台築造/54日本初の洋式軍船「昇平丸」を建造、
 「造船製式」「宇藩出産考」著
- B3239 **直弼**(なおいけ・井伊い、直中14男) **1815-60** 暗殺 46 近江彦根藩主/1858大老、日米修好通商条約調印、
 攘夷派徳川斉昭と対立/安政の大獄/桜田門事件で暗殺;没、玄蕃頭/掃部頭/中将、
 国学;長野養言門/詩歌、「閑夜茶話」「茶湯一会集」「露わけ衣」「柳の落葉」「保古呂比草」著、
 「暮秋山ぶみ」著、歌;1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、
 [かぎりなき春をもつまん朝日影さし出の磯の若菜のみかは](大江戸倭歌;春107)

[直弼(；名)の通称/号]通称；鉄之助/鉄三郎/玄蕃頭/掃部頭かもんのかみ、

号；柳王舎/柳和舎/埋木舎/緑舎/宗観/无根水むこんすい/宗岱/澍露軒/柳薫閣主人

B3240 **直輔**(なおすけ・阿部、弁右衛門男)1837-190872 幕末期尾張藩士/北地総管理調役、美濃郡長、
「阿部直輔備忘録」「尾藩世記」著、「寛永記」編

03278 **忠恕**(なおすけ・益井ますい、通称；糸一郎/号；洞松堂)1839-191678 石見美濃郡の国学者；福羽美静門、
津和野藩校養老館国学教師

直亮(なおすけ・牧野) → 半陶(はんとう・牧野まさの、儒者) I 3 6 4 2

直助(なおすけ・妻木) → 貞彦(さだひこ・妻木つまき、国学・神道家) J 2 0 3 9

直助(なおすけ・近藤) → 有正(ありまさ・近藤こんどう、国学者/歌) H 1 0 6 1

直助(なおすけ・若林) → 正旭(まさあきら・若林わかばやし、商家/歌人) T 4 0 7 8

直甫(なおすけ・小出) → 直城(なおき・小出こいで/大江、国学者/歌) M 3 2 0 6

直補(なおすけ・天満) → 直補(ちよくほ・天満、俳人) L 2 8 3 2

直輔(なおすけ・寺沢) → 明(阿支羅あきら・寺沢、国学) E 1 0 2 0

直輔(なおすけ・奥田) → 勾堆(こうたい・奥田おくだ、藩士、詩文) K 1 9 4 7

直輔(直助なおすけ・小栗) → 広伴(ひろとも・小栗おぐり、国学/歌人) G 3 7 5 4

直輔(なおすけ・岡) → 紫陰(しん・岡おか、儒者) P 2 1 6 0

直弼(なおすけ・栗山) → 文行(ふみゆき・栗山くりやま、国学/歌人) I 3 8 1 8

直丞(なおすけ・都賀) → 大陸(たいりく・都賀つが、医者/戯作) C 2 6 3 0

尚輔(なおすけ・中村) → 尚輔(ひさすけ・なおすけ・中村、藩士/国学者) B 3 7 1 7

那百助(なおすけ・横浜) → 善左衛門(ぜんざえもん・横浜よこはま、藩士) M 2 4 3 4

K3296 **直澄**(なおずみ・井伊い、直孝5男)1625-7652 兄直滋が出家/1658(万治元)近江彦根藩3代藩主、
従四位下左少将、掃部頭/1668-76幕府大老(大政参与)、兄直繩を後嗣とす、歌人、
機知に富んだ性格で逸話も多い、焼失した青岸寺を再興、家臣に俳人森川許六がいる、
[直澄(；名)の通称]通称；亀之介/玄蕃頭/掃部頭

B3241 **尚住**(なおずみ・平山ひらやま) ? - 1768 広島藩士/尾道築港事業に尽力

B3242 **直澄**(なおずみ・越智おち/河野こうの、霜傑亭) ?-? 享和-弘化1801-48頃儒者；寒泉門、
1826「赤穂雑記」/29「牛町火事記」、32-40「古戦記」著、
「霜傑亭叢書」「石浜秘記」「奥平報讐記」「東都火災記」編

03252 **直純**(なおずみ・平井ひらい、定恒男)1780-184970 備前岡山の酒造業；平井清左衛門家6代、
歌人；木下幸文・香川景樹門、直肥・萩野(女)・葉恵(女)の父
[直純(；名)の通称/号] 七郎右衛門/清左衛門/省左、号；醉碧/醉碧亭

B3243 **尚澄**(なおずみ・藤井ふじい、通称；権大夫/号；吉葛園) ?-1850 備中吉備津神社の神楽人：
後松屋のちのまつのや社中/歌人、1847「類題吉備国歌集」編纂中没；高雅上梓、「類題真金まがね集」著

B3244 **直澄**(なおずみ・落合おちあい、通称一平、小楨舎/楨舎、俊雄男)1840-9152 武蔵駒木野の関守家の生、
国学；堀秀成・鬼島広蔭門、大平篤胤三大考論争参加、国事奔走、直亮なおき弟/直言なおのぶ弟、
神祇官宣教使/伊勢神宮祠官、
「新三大考」「三大考後弁」著

尚純(なおずみ・新田) → 尚純(ひさずみ・新田、城主/連歌) B 3 7 1 8

K3246 **直祝**(なおせつ・伊丹いたみ/本姓；藤原、通称；枕之丞このすけ) ?-? 江後期；歌人、
1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、
[庭桜一重に八重の咲きつぎて花のさかりぞひさしかりける]、
(大江戸倭歌；春266/庭花久芳)

L3232 **直蔵**(なおぞう・梅園うめぞの/本姓；藤原/旧姓；富依、)1777-185882 播磨加東郡の国学者、
撰津住吉の神官津守国礼家の家宰、
[直蔵(；名)の通称]寅蔵

B3245 **直三**(なおぞう・中村なかむら、善五郎男)1819-8264 大和永原の勸農家/心学者、稻の品種改良に尽力、
1862「勸農微志」著

直三(なおぞう・宮永) → 菽園(しゆくえん・宮永みやなが、儒者) Y 2 1 6 3

直造(なおぞう・片山) → 冲堂(ちゅうどう・片山、儒者/詩文) G 2 8 6 7

- 直蔵(なおぞう・平井) → 澹所(たんしょ・平井ひらい、儒/藩校総督) I 2 6 3 5
直蔵(なおぞう・藤江) → 熊陽((ゆうよう・藤江ふじえ、藩儒/地誌) D 4 6 9 9
直蔵(なおぞう・石川) → 鳳台(ほうだい・石川いしかわ、藩士/詩人) C 3 9 2 3
直蔵(なおぞう・福井) → 応周(まさちか・福井ふくい、書家) D 4 0 7 9
直蔵(なおぞう・林) → 民雄(たみお・林はやし、藩士/歌人) Z 2 6 0 7
- B3246 **直孝**(なおたか・井伊い、直政男/本姓;藤原) 1590-1659 70 駿河藤枝武将/家康臣;1615彦根藩主、
徳川家光を補佐、掃部頭/老中、「直孝物語」、「井伊掃部頭直孝息長澄江遺訓条々」著
- B3247 **直隆**(なおたか・塙はなわ) 1648 - 1693 46 仙台藩士/祭祀奉行/小姓与頭、軍学;小幡・草薙流、
方啓院流医術、「武学管見」著
- B3248 **直高**(なおたか・恩田おんだ、別名;為直、直綱男)?-1696 尾張藩士/戸山御屋敷奉行、
「日用武義」著、周直ちかなお父、
[直高(;)名)の通称]惣助/彦右衛門
- 03243 **直孝**(なおたか・林はやし、旧姓;伊丹) 1700-42 43 江戸の生/幕臣林直秀の養嗣子;幕臣;御小姓組、
国学・歌;養父門、
[直孝(;)名)の通称]本之丞/式部/兵庫/修理
- N3268 **直敬**(なおたか・多胡たこ、旧姓;田中、通称;老之助)?-1797 山城男山の生/石見津和野藩中老、教育家
- B3249 **直隆**(なおたか・栗田口あわたぐち、螻齋/尺螻齋/慶受、直芳男) 1753-1807 55 江戸幕府絵師:広守門、
「養蚕図」画
- K3291 **直孝**(なおたか・定村さだむら/本姓;渡辺) 1791-1863 73 豊前築城郡の生、
同国京都みやこ郡津積つみ村の八幡神社祠官、
国学;豊前中津川の渡辺重名門・歌;京の賀茂季鷹・城戸千楯門、
物集高世・有吉文英・上田重範の師、
[直孝(;)名)の別名/通称/号]初名;塩道、通称;豊後守、号;巖之舎いつきのや
- B3250 **直孝**(なおたか・鍋島なべしま、守直男)?-1860 江戸幕臣:町奉行/大番頭、
「近世実話」「近世実話百物語」著
- K3257 **直孝**(なおたか・新庄しんじょう)? - ? 江後期;旗本(常陸麻生藩分家;3千石)、
長門守/下野守、妻;本多氏、直敬なおたか(1818-72/麻生藩15代藩主)の父、歌人、
1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、
[冬ながら日影のどかにさす池の汀みぎはになれてねぶる鴛をしかな](大江戸倭歌;冬1224)
- B3251 **直孝**(なおたか・熊谷くまがい/字;公友/通称久右衛門、醉香/伴月、直恭なおやす男) 1817-75 59 京墨香具商、
屋号鳩居堂、種痘普及/救貧活動/勤王派支援、書;海屋門/画;梅逸門、1860「春薦余事」編
- 直孝(なおたか・鍋島) → 実外(じつがい;法諱・格峰、1652-1715/黄檗僧) U 2 1 5 3
直孝(なおたか・北島) → 直孝(なおのり・北島きたじま、出雲国造) L 3 2 8 8
直隆(なおたか・浅野) → 高蔵(こうぞう・浅野、文筆家/歌謡・料理) F 1 9 2 7
直隆(なおたか・鍋島) → 直条(なおえだ・鍋島、藩主/詩歌) 3 2 7 7
直懿(なおたか・鍋島) → 斉直(なりなお・鍋島なべしま、藩主) K 3 2 3 8
- P3242 **直武**(なおたけ・川喜多かわきた、)?- ? 江前期;歌人/1682河瀬菅雄[麓の塵]27首入、
[久方のあまぎる雪のふる郷も春をへだてぬうぐひすの声](麓の塵;春28)
- B3252 **直武**(なおたけ・小田野おのだ/字;子有/通称武助、直賢男) 1749-80 32 羽後角館の絵師;武田円硯門、
秋田藩士/1773江戸詰;洋風画:源内門、解体新書の挿絵を模写/77帰郷;藩士に蘭画指導
[直武の号] 羽陽/玉川/玉泉/鳥海/麓蛙亭/蘭慶堂
- B3253 **直雄**(なおたけ・吉永よしなが、松崎直辰男)?-1839 肥後山鹿郡津留の歌人;帆足長秋門、
熊本吉永秀雅の養嗣子;藤崎八幡祠官を継嗣/中島広足と交友、国学・故実;長瀬真幸門、
千秋あき(秀和1818-1904/神職/画人)の父、
「栄樹園家集」「帆足家月次会歌集」「古事記略註」著、
歌;[大詢院五十回忌追悼五十首](熊本7代藩主細川治年追悼)入(息子秀和[千秋]と)、
[露しぐれふりにし秋を忍てや夢野の鹿の音にしも鳴らん]、
(大詢院五十回忌追悼/秀俊名)、
[直雄の別名] 嵩/直温/秀俊ひでとし、通称;伊予守、号;栄樹園
- B3254 **直孟**(なおたけ・杉田清九郎)?- ? 江後期志摩鳥羽藩和算:知郷門、1834「豁機算法」校

- 直武(なほけ・松平) → 直常(なつね・松平、藩主/儒学) B 3 2 7 1
- B3255 尚忠(なほただ・ひさただ・藤原、吉信男)?-? 1004存 平安中期廷臣;六位/春宮少進/越後介、歌人;990-95頃花山院歌合参加、続詞花集入、勅撰;後拾遺集181;道命法師と贈答(道命阿闍梨集入)、[こゝにわが聞かまほしきをあしひきの山ほとゝぎすいかに鳴くらん](後拾;夏181、道命法師のいる山寺に贈る歌、返し182;道命法師、あしひきの山ほとゝぎすのみならずおほかた鳥の声も聞えず)
- B3256 直方(なほただ・なほかた・前田、近江守、直躬男)1748-182376 加賀金沢藩士/1774家督/人持組頭、1812致仕、随筆180余編著、1785「前田家譜」著
- B3257 直格(なほただ・堀ほり/奥田、須坂9代藩主直皓3男)1806-188075歳 母;黒田直亨女、1821(文政4)長兄直興没;家督継嗣;信濃須坂藩11代藩主、正五位/中務少輔/内蔵頭くらのかみ、呉服橋門番/駿河加番/二条・大坂在番、正室;西尾忠善女の静古(天心院)、直武・直虎の父、1845(弘化2)長男直武に家督譲渡;隠居、維新後;奥田に改姓、文芸/書画に通ず、「ゆめのたゝち」「ももちとり」「扶桑名画伝」著、「地底叢書」「画家必要暦数便覧」編、[直格の号] 誠齋/浅齋/艸化園/玉弓楼江声/九如堂/花洒家[家]守枝/葛の屋同母姉は歌人 → 千世子(ちせこ・堀千勢ちせ/本庄道貫室、歌人) L 2 8 4 1
- B3258 尚忠(なほただ・ひさただ・谷川/谷河たにがわ、号;松樹)?-? 江戸期南部盛岡の儒者/詩文に長ず、「南部氏中古三代事実考」著
- 尚忠(なほただ・九条) → 尚忠(ひさただ・九条、関白) B 3 7 3 0
- 尚忠(なほただ・山田) → 尚忠(ひさただ・山田、国学) B 3 7 3 1
- 尚忠(なほただ・目黒めぐろ) → 道琢(どうたく・目黒めぐろ、医者) G 3 1 3 3
- 直忠(なほただ・一ノ瀬/荒木) → 如元(じよげん・荒木/一ノ瀬、洋風絵師) C 2 2 4 2
- 直只(なほただ・滝) → 直誠(なおのぶ・勅使河原てしがわら/滝、藩士歌) N 3 2 9 3
- B3259 直竜(なほたつ・寺尾、不木)? - ? 犬山藩重臣、俳人、家臣に中村史邦・内藤丈草
- B3260 直達(なほたつ・武藤むとう/字;大挙、白梅居)?-? 江中期名古屋和算/天文暦算、1783「維乗演段統術」著
- 03206 直楯(なほたて・中城なかじょう、通称;亀太郎、直守男)1841-190969 土佐長岡郡の土佐藩御抱水主、御船頭・のち陸軍歩兵大尉、国学・歌人;父門、坂本龍馬を湾岸から邸内に潜伏させる、
- B3261 直種(なほたね・竹迫たかば/通称権右衛門)?-? 江前期肥後人、1706「竹迫原口山王録」、「竹迫家譜」著
- B3262 直胤(なほたね・正宗まさむね、雅明男/本姓;橘)1800-6263 備前和気郡穂浪の国学者、国学:藤井高尚・本居大平・加納諸平もろひら門、俳人;八千房一肖門/狂歌;石川雅望門、「柳の舎文集」「和歌咏草」「長うたの解」著、歌;[類題吉備国歌集]9首入]/類題鴨川集入、雅敦の弟、養子;直保なおやす、[直胤(;名)の通称/号]通称;隅田屋柳平、号;柳洒舎/梅園/竹泉亭/鶯来屋/木公園/六石園飯持、亀ト/猿翁/浦丸
- B3263 直胤(なほたね・千葉/通称重兵衛、文齋/存古堂)?-? 江後期江戸国学:塙保己一(1746-1821)門、師の著述を援助、1838「海獣考」1841「宇久比須考」、「陸奥国郡私考」著
- L3269 直種(なほたね・川江かわえ、定村直孝2男)1825-190985 豊前企救郡の神職;篠崎八幡神社祠官/大宮司、1862藩主命で境内に賀茂宮を祭祀/高雄神社再建などに活躍、「豊前地誌のあらまし」著、歌人、[豊前の門司の関やの岩清水くみて昔を知るひとものがな](甲宗八幡宮歌碑)[直種(;名)の初名/通称]初名;直平、通称;山太郎/兵部/常陸介
- 03245 直胤(なほたね・原田はらだ、年実としぎね男)1836-9257 長門萩の国学者;鈴木重胤門、[直胤(;名)の初名/通称]初名;光実、通称;直太郎
- 直胤(なほたね・萩原) → 正平(まさひら・萩原、国学/神道家) G 4 0 8 8
- 直種(なほたね・横田) → 定堅(さだかた・横田よこた/原、国学/歌人) P 2 0 7 7
- B3264 直民(なほたみ・黒神くろかみ/字;仲亮、直実男)1794-187481 周防徳山遠石八幡の大宮司、国学:本居大平門、儒学修学、1863毛利藩の命で山口・萩で講義、直臣の父、「大道通論」「鬼神論」著、

- [直民の号] 松庵/桜舎/雪崖/個堂/雪山居士、通称;要人/民之丞/織江/相模介
- 03271 **朴民**(なおり・本多ほんだ、旧姓;水沢)1827-9973 越後三島郡の国学者/古志郡の本多家の養子
[朴民(;)名の通称]丈之進/弥兵衛/八重門
直民(なおり・林) → 鳳岡(ほうこう・林、幕府儒官/大学頭) 3 9 5 3
直民(なおり・藤沢) → 南川(なんせん・藤沢ふじさわ、儒/医者) J 3 2 2 2
直民(なおり・浅田) → 宗伯(そうはく・浅田あさだ、儒医/幕医) I 2 5 7 1
直為(なおり・なおりき?・関本) → 巨石(きよせき・関本せきもと、学者/俳人) P 1 6 7 3
直為(なおり・柴田) → 元泰(げんたい・柴田しばた、幕府医官) K 1 8 8 9
直太夫(なおり・町田) → 光忠(みつただ・町田まちだ、藩士) D 4 1 8 0
- 03223 **直足**(なおり・西田にしだ、直養なおい男)1833-188255 豊前小倉藩士/和漢学;父門、
[直足(;)名の通称]庄三郎
- 03228 **直足**(なおり・波多野はたの、号;鷲山)?-? 江後期;筑前遠賀郡の神職;黒崎村岡田神社祠官、
儒学・国書;上野厩谷きゅうこく(浪江/1797-1866)門/歌;賀来正臣門、神道・国学;松木俊章門、
直太郎(なおり・松井/松居) → 長世(ながよ・岩崎、歌/国学/神職) G 3 2 3 1
直太郎(なおり・高橋) → 白山(はくさん・高橋たかはし、儒者) D 3 6 1 2
直太郎(なおり・尾池) → 春水(はるみ・尾池おいけ、藩士/歌人) G 3 6 9 0
直太郎(なおり・逸見) → 在綱(ありつな・逸見へんみ、医者/勤王派) F 1 0 4 4
直太郎(なおり・岡田) → 確堂(かくどう・岡田おかだ、藩士/儒者) K 1 5 3 2
直太郎(なおり・秋山) → 寒緑(かんろく・秋山あきやま、藩士/儒者) R 1 5 9 1
直太郎(なおり・竹村) → 茂枝(しげえ・竹村たけむら、国学者/歌人) B 2 1 9 2
直太郎(なおり・井上) → 信友(のぶとも・井上いのうえ、藩士/国学) H 3 5 2 1
直太郎(なおり・原田) → 直胤(なおり・原田はらだ、国学者) O 3 2 4 5
直太郎(なおり・白崎) → 正(ただし・白崎しろさき、一実/商家/歌人) X 2 6 5 7
直太郎(なおり・元田) → 直(なおり・元田もとだ、儒・国学・教育者) P 3 2 0 7
- B3265 **直親**(なおり・藤原ふじわら) ? - ? 室町期廷臣;三河守、
歌:1414頓証寺法楽百首入、新続古1237、
[いたづらに我やあかささん待つ人の待つ夜更けぬとおどろかさずは](新続古;恋1237、
互待恋といふことを)
- N3242 **直親**(なおり・新庄しんじょう、直政男)1689-175264 江戸の幕臣;御書院番、国学/歌人;父門、
[直親(;)名の通称]岩千代/六郎左衛門
- B3266 **直親**(なおり・宮杉みやすぎ、篠崎義徳男)1818-9275 宮杉久蔵の養嗣子、上野館林の町年寄、
1853大砲数門を藩に献上、1858/9「日新録」著
[直親(;)名の通称/号]通称;千賀蔵/伝八郎、号;槐庵、
- 03258 **直周**(なおり・福沢ふくざわ、)1818-190184 信濃伊那郡の商家?、国学者;平田鏡胤門、
[直周(;)名の通称/号]通称;順四郎、号;潤芝、屋号;亀沢
- K3259 **直親**(なおり・内原うちはら) ? - ? 江後期;歌人、
1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、
[あだ波のこゆともしらで頼みてし人の言葉の末のまつやま](大江戸倭歌;恋1432偽恋)
[立ち昇るけぶりにしるし焼く塩のからき世渡る須磨の浦人](同;雑1664/浦煙)
- K3289 **直務**(なおり・新井あらい、)1831-190272 下総葛飾郡堀江村の里正、
国学・歌;師岡正胤・橋冬照・橋本直香門、
[直務(;)名の字/通称/号]字;伯言、通称;甚左衛門、号;蘆村/従吾所好館
- K3286 **直哉**(なおり・荒賀あらが、旧姓;重田、号;蔦園)1838-190972 出羽庄内の国学者;
志田義貫よしつら(庄内藩士/足代弘訓門)門、のち東京住
直親(なおり・古屋) → 眞章(まねあき・古屋ふるや、神職/国学) H 2 0 1 8
直津(なおり・筒井) → 清厚(きよあつ・筒井つひ、国学者) U 1 6 7 8
- B3267 **直継**(なおり・だだつぐ) ? - ? 戦国期連歌作者;
1537.5.22今城能親張行「伊予千句」連衆;周桂・宗牧らと
- P3240 **直次**(なおり・大橋おおはし/本姓;源、貞次?)?-? 江前期武士/歌人、浅井忠能[難波捨草]約10首入、
[難波津の梅吹く風にかをとめて翅のばさみにほふ鶯のこゑ](難波捨草;春30)

- B3268 **直紹**(なほつぐ・世古せこ) ? - ? 1718存 伊勢の神職、「世古直紹弁説」「直紹随筆」著
 直静(なほつぐ・溝口) → **直静**(ちよくせい・溝口みぞぐち、幕臣/歌人) L 2 8 6 8
 直嗣(なほつぐ・三宅) → **直郷**(なほさと・三宅みやけ、大庄屋/国学) O 3 2 9 6
- N3250 **直槌**(なほつち・菅沼すがぬま、) 1847-1883 37 信濃伊那郡伴野村の庄屋、国学者・歌人、
 国学;角田忠行・平田鏡胤門、尊王思想、
 1868(慶応4)大沢章忠と共に上京;領主高須侯老臣中根帯刀に勤皇を説くが不受;帰郷、
 [直槌(;名)の別名/通称/号]初名;長衡、通称;桂之助/直五郎、
 号;菅づげの舎/真菅の舎/千草
- K3211 **尚綱**(なほつな・朽木くつき/本姓;源、朽木良綱2男) 1667-1755 89 朽木市左衛門元綱の養嗣子、
 幕臣;桐間番/御近習番/小納戸/御書院番を歴任/1740(元文5)大目付/従五下山城守、
 小普請支配、歌;広通「霞関集」入、
 [昔今伝へて絶えぬことのはの道の光の玉つ島姫](霞関;神祇1195/和歌三女神の賛歌)、
 [尚綱(;名)の通称/号]通称;弥八郎/半左衛門/十兵衛/五郎左衛門/山城守、号;尚山
- B3269 **直繩**(なほつな・海妻かいづま/井上、初名;周邦、井上周磐男) 1824-1909 86 福岡藩士/儒:父門、
 剣術;吉留杏村門、海妻家を継承、1848上京;国学/故実家、帰藩;一時退隠、
 再招集;福岡藩大銃局都監/1868文武館和学総裁兼任、1869私塾己百斎を開設;和漢学教育、
 皇朝礼典に通ず;1873高倉神社祠官、「文化兼貫録」著、外著多数
 [直繩(;名)の通称/号]通称;静馬/甘蔵/久左衛門、号;己百斎[家塾名]/敵愾堂てきがいどう
 直繩(なほつな・佐和) → **直繩**(なほつな・佐和、藩士/文筆) B 3 2 9 6
- L3220 **直恒**(なほつね・今枝いまえだ、池田輝政家老日置忠勝5男) 1587-1651 65 母;今枝忠光女、美濃の生、
 1598加賀藩家老今枝重直(母の兄)の養子;前田利長・利常に出仕、1603(13歳)冬の陣出陣、
 1617(元和3)家督嗣;加賀藩家老、知行7千石/23世子前田光高の守役、
 1639光高が藩主;加増され1万1千石、45世子前田綱紀の守役;48加増され1万25百石、
 正室;前田長種女、子;日置忠隆・今枝直好・今枝近義・日置忠治・前田直玄・横山康玄室、
 3男近義が家督嗣、
 [直恒(;名)の初名/通称]初名;阿万、通称;民部、号;紹鉄
- B3270 **尚庸**(なほつね・永井、尚政男/本姓大江) 1631-77 47 幕臣(河内領主)近侍/1664「本朝通鑑」編纂奉行、
 1665若年寄/70京所司代、伊賀守、1664「越前国郡村目録」著、直敬なほひろの父
- N3243 **直恒**(なほつね・新庄しんじょう、) 1654-1722 69 江戸の幕臣:御小姓組、国学者、
 [直恒(;名)の通称]市三郎/源左衛門/源次郎/与惣右衛門
- B3271 **直常**(なほつね・松平まつだいら、直明の長男) 1679-1744 66 母;酒井忠朝女、1701(元禄14)播磨明石藩主、
 従四下左兵衛督/但馬守/侍従、1743致仕、学問を好む/儒学:藩儒に梁田蛻巖を採用、
 新井白石・荻生徂徠と交流、1702(元禄15)「播磨国郷帳」編、
 [直常(;名)の幼名/初名/法号/神号]幼名;松千代/処時郎、初名;直武、
 法号;要体院/神号;高秀命
- B3272 **直彝**(なほつね・伊丹いたみ直温/直路、直賢男) 1737-1774 38 1753幕臣;家重臣/69寄合、「竹馬の鞭」著
- 03289 **直恒**(なほつね・松平まつだいら、朝矩[直賢]2男) 1762-1810 49 母;土(藤井兼矩女)、兄は土井家に養子、
 嫡男となる;1768(明和5)父没;家督嗣;武蔵国川越藩2代藩主;77従四下大和守/90侍従、
 国学者、1769旧居城前橋城を廢城とす(;のちに藩主直克が前橋城を再建)、
 正室;悦(桜井供敦女)/継室;富(伊達村侯女)、1810(文化7)没、息子直温が家督嗣、
 [直恒(;名)の通称/諡]通称;大和守、諡;俊徳院
- B3273 **直恒**(なほつね・熊谷くまがい/字;子升、三楽亭/南山、直包男) 1762-1802 41 秋田藩士/1779家督、
 大番組/藩校勤番支払見習役兼副役、「三楽亭遺稿」「直恒記録」著
- K3252 **直恒**(なほつね・金谷かなや) ? - ? 江戸後期;絵師/歌人、下総関宿藩士?、
 1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、
 1860鋤柄助之「現存百人一首」入、
 [かへらじと思ふ心をさきとしていくさの道はゆくべかりけり]、
 (大江戸倭歌;雑1924/従軍行)、
 [ながむれば霞の中にひときはの白きや梅の盛りなるらむ](現存百人一首;45)
- 03274 **尚常**(なほつね・牧田また、通称;主殿助とのものすけ) ?-? 江戸後期;越前福井の神明社祠官、

歌学;藩士小笠原満堯みつたか門

- B3274 **直恒**(なほつね・松永/通称常吉、直英なほひで男/祖父貞辰さだとき) ?-1869 1850羽前新庄藩士、和算家、1826-28「算法解術」、33「拾瓊算法綴術」著
- B3275 **直庸**(なほつね・永瀬ながせ/通称七郎右衛門) ?-? 江後期大阪三郷北組惣年寄/糸割符年寄//屋号木屋、国学、「永瀬直庸雑記」編、歌;1857「安政四年三百首」入
- 直常(なほつね・黒田) → 月洞軒(げつどうけん・黒田、狂歌) B 1 8 1 4
- 直常(なほつね・岡本) → 鈍々亭和樽(どんどんていわたる、戯作/狂歌) S 3 1 4 6
- 直常(なほつね・小川) → 眞澄(ますみ・小川おがわ、里正/歌人/茶) O 4 0 0 6
- 直彝(なほつね・箕浦) → 立斎(りつさい・箕浦みのうら、藩士/儒者) B 4 9 8 6
- N3289 **直連**(なほつら・土屋つちや、) 1745-1821 77 陸奥会津藩士;勘定奉行/江戸詰、歌人;芝山持豊門、
[直連(;名)の通称/号]通称;長三郎/長蔵、号;而斎じさい
- 尚行(なほつら・建部) → 尚行(なほゆき・建部たけべ、庄屋/国学/詩) N 3 2 7 7
- 直徹(なほつてつ・片井) → 京助(きょうすけ・片井かたい、砲術家) O 1 6 1 8
- K3243 **直人**(なおと・八谷やたがい) ? - ? 江中期;長門萩藩士;大組士、俳人;号;聴雨、萩郊外松木村の東光寺辺の別荘を菊舎尼に貸与;菊舎が[樹々亭]と命名、のち樹々亭を杉百合之助が購入;ここで1850吉田松陰が誕生
- B3276 **直登**(直人なおと・相馬そうま) 1817-1911 長寿 95歳 岩城会津藩御蔵入奉行、戊辰戦争後謹慎;脱走:旧藩主松平容保の助命運動を企画/謹慎;江戸増上寺謹慎所に收容、1873喜多方に隠棲;思案橋事件に協力/晩年;禊教に入門/郷土の青少年育成、「松の滴」著
[直登(;通称)の名/別通称/号]名;幸胤、別通称;新兵衛、号;素哉
- B3277 **直人**(なおと・真木まき、久留米天満宮祠官真木左門旋臣4男) 1821-1901 81 母;中村茂平次女、筑後久留米瀬下町の生/幕末の志士、兄保臣やすおみと国事奔走、維新後隠岐県知事、「真木直人日記」著、1864「天王山義挙日記」著、
[直人(;名)の幼名/通称/号/変名]幼名;摩須男、通称;益雄/外記、号;迂村、変名;鏡之介
- 直人(なおと・西山) → 隆従(たかより・西山、藩士/歌人) N 2 6 8 2
- 直人(なおと・清原) → 重年(しげとし・小国/鈴木/清原、神職/国学) 2 1 1 4
- 直人(なおと・油井) → 景雄(かげお・油井ゆい、藩士/国学) W 1 5 1 3
- 直人(なおと・小原) → 氏益(うじます・小原おはら、藩士/絵師) C 1 2 7 2
- 直登(なおと→なおなる・堀) → 直登(なおなる・堀ほり、藩主/文筆) B 3 2 9 5
- 直任(なおとう・一柳) → 直陽(なおはる・一柳ひとつやなぎ、藩士/故実) C 3 2 1 4
- B3278 **直時**(なおとき・前田まえだ、直養男) 1794-1828 35 加賀金沢藩士;人持組頭、「前田家譜」「騎士用本問答書」著
- 淳時(なおとき・内山) → 椿軒(ちんけん・内山、歌/狂歌) K 2 8 6 8
- P3252 **直俊**(なおとし・平たいら、) ? - ? 鎌倉期;幕臣/歌人;1310柳風抄入、
[うつれどもなほかげきよき池水やちらぬさくらのかがみなるらん](柳風抄;春30)
- B3279 **直利**(なおとし・根岸/通称長兵衛、法名暫軒、直勝男) 1633-1714 82 武州豊島生/幕臣・1654大番、1668小普請奉行/97致仕、俳諧、1705「四戦紀聞」編
- 03239 **直利**(なおとし・埜はなわ、旧姓;原田) 1643-1704 62 江戸の医者/幕府医師:埜直貞(1693没)を継嗣、
[直利(;名)の通称]宗柳/宗悦(直貞の称)/玄与
- B3280 **直俊**(なおとし・河間かわま、道恕、愈道直[河間八郎兵衛]男) 1681-1731 51 長崎の唐通事:1723大通事、1718「太上感応篇」訳
- B3281 **直利**(なおとし・久徳きゅうとく、守保男) 1732-97 66 土佐高知藩士;記録役//藩主山内豊雍に拔擢;勘定奉行・財政改革参画、藩主没後容れられず罷免除禄、国学・歌;谷真潮門、「浅茅の露」、「久徳氏上書控」著、
[直利(;名)の通称/号]通称;台八、号;十洲、
- B3282 **直年**(なおとし・小田切おだぎり/通称鉄之丞てつじょう/喜兵衛、直某男) 1743-1811 69 幕臣/1759相続、1781駿府奉行/83大坂町奉行/92江戸町奉行、「涙花日記」、92「林子平板木焼捨始末」著
- L3291 **直敏**(なおとし・工藤くどう、通称;亀作) 1823-91 69 出羽大館の国学・神道家;平田鉄胤門、

神職に古典講義、1868大館戸長となる/戊辰戦乱の放火やのちの大火で大館の町が疲弊、大館神明社祀宮となり1872社殿再建に尽力;完工/76神明社掌となり郡内遊説;
1879永世伊勢参宮大大神楽講を結成

- L3215 **直淑**(なおとし・石寺いであ、?) - 1895 出羽田川郡庄内大山の旧家の生、画;泰岳・池田駒城門、国学・歌;1844(弘化元)来庄した鈴木重胤門、師重胤に随従し諸国遊歴/京で経師の修業、傍ら土佐派絵師浮田一蕙門、のち帰郷;大山に住み表具業/画を能くす、
[直淑(;)名)の通称/号]通称;与兵衛、号;敬石
直年(なおとし・青葉) → 南洲(なんしゅう・青葉あおば、儒者) J 3 2 1 7
- B3283 **直朝**(なおとも・小峯こみね/結城/白川、小峯朝親男/本姓藤原)?-1510 1421小峯氏朝養子/白河城主、連歌;1481「白河万句」連衆、「宗砌直朝等何路百韻」
- B3284 **直朝**(なおとも・一色いっしき、月庵、直頼男/本姓源)?-1597 宮内大輔/武蔵幸手さつて庄一色城主、画/歌・実枝門、1575家集「桂林集」;実枝撰、「月庵酔醒記」著
- B3285 **直朝**(なおとも・鍋島なべしま茂継、紹竜、勝茂男) 1622-1709 88 肥前鹿島初代藩主/兵法;柳生流、息子格峰かくほう実外じつがい発願の普明寺の伽藍を息子直条なおえだと建立、「新陰流外物」著
息子; → 実外(じつがい・格峰、黄檗僧) U 2 1 5 3
→ 直条(なおえだ・鍋島、藩主/詩歌) 3 2 7 7
- B3286 **直友**(なおとも・岡、牧野/字;孝郷/通称縫右衛門) 1741-85 45 播州姫路生/越後高田藩普請奉行、岡氏を継ぐ/儒;独学(一時蘆溪門)、「大古論」著
- B3287 **直與**(直与なおとも・鍋島なべしま/本姓;藤原/神代、鍋島治茂7男) 1798-1864 67 母;甲斐善太夫女、肥前佐賀城に生、親族神代直興の養子;名を直珍なおよし、蓮池藩主鍋島直温なおつの養子、1816養家の家督嗣;蓮池藩8代藩主;名を直與、撰津守、洋学を修学;蘭癖大名と称される、高島浅五郎を招聘;鋳造所設置し巨砲鋳造・蘭書翻訳を指示、俵約令・家臣団の知行削減、蘭医島本良順を侍医とす、1845長男直紀なおただに家督譲り隠居、歌;今泉蟹守門、室;日野資矩女鶴子も歌人、継室;二条治孝女千万、直紀・春城の父、歌;「直與歌集」、「帰藩紀行」「志廻婦草」「仏蘭察法」「欧羅巴諸図」著、1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、
[横雲とともに別れて行く雁の声さへ霞む春の明けぼの](大江戸倭歌;205曙帰雁)
[直与(;)名)の通称/号]通称;愛吉郎/弾正/主税/撰津守、
号;藍山/雲庵/雲叟/鶯翁/天賜園主人、法号;天賜院
室 → 直與室(なおとも・のしつ・鍋島なべしま鶴子、歌) B 3 2 8 8
- 直知(直友なおとも・吉井/貫名) → 海屋(かいおく・貫名ぬきな、書家/画人) 1 5 9 1
直知(なおとも・佐々城) → 朴安(朴庵ぼくあん・佐々城ささき、医者/本草) C 3 9 8 5
直倫(なおとも・片桐) → 且元(かつもと・片桐、部将) C 1 5 5 5
直友(なおとも・今枝) → 近義(ちかよし・今枝いまえだ、藩家老/国学) C 2 8 1 8
直靱(なおとも・鈴木) → 静雄(しずお・鈴木すずき、国学者) Z 2 1 2 2
- B3288 **直與室**(なおとも・のしつ・鍋島なべしま鶴子、日野資矩女)?-? 江後期蓮池藩主妻/歌・香道、「残露草」著
- B3289 **直虎**(なおとら・青山あおやま、直政男) 1804-72 69 尾張愛知郡牛家神社祠官の家/神道;玉田永教門、牛家神社祠官、吉田家神学館学士、熱田神宮主典兼少講義、1857「神道平談」、「魂の行方」著、
[直虎(;)名)の別名/通称]別名;転、通称;図書之助/筑前守
- B3290 **直虎**(なおとら・堀ほり/、直格なおただ5男) 1836-68 自刃 33 母;西尾忠善女の静子、1855兄直武の養子、1861家督継嗣/襲封;信濃須坂藩主、従五下/長門守/内蔵頭、藩政改革を断行、人事刷新、1863幕府の大番頭/府中見廻役/呉服橋御門番を歴任/1867(慶応3)若年寄/外国奉行兼任、1878徳川慶喜を中心に主戦論・恭順論の対立とする議論の渦中江戸城内で自刃、儒;亀田鶯谷門/書;市河米庵門/蘭学;杉田玄端門/兵学;赤松小三郎・南郷茂光門、軍備の洋式化を図り新式鉄砲を購入、写真機購入;洋装を勧める、桜を研究;1861「桜譜」「灸譜じやくふ」著、
[直虎(;)名)の幼名/通称/号]幼名;寧若/寧之進、通称;大学、号;良山/九如斎/知足山人、
法号;広顕院
直寅(なおとら・大道寺) → 玄蕃(げんぱ・大道寺だいでうじ、藩士/俳人) M 1 8 1 3
- E3268 **直仲**(なおなか) ? - ? 室町期;熱田神宮の惣檢校、
連歌;1423「熱田法楽連歌」連衆(3句)

- B3291 **直中** (なほなか・井伊い、直幸なほひで6男/本姓藤原) 1766-1831 66 母;側室;おかよ(大武氏女/量寿院)、1789家督嗣;近江彦根藩13代藩主、掃部頭、藩政改革を実施;財政再建に儉約令・町会所設置;防火制度整備、開墾殖産奨励、1796中将、1799藩校稽古館(のち弘道館)創設;人材育成、藩祖直政の井伊神社を創建、武芸に長ず;弓術・馬術/砲術;銃法一貫流を創始、歌人:「月下亭和歌集」編、正室;南部利正女の親子(親光院/直亮母)、側室;富子(お富の方/直弼母、歌人) 1812隠居;息子3男直亮が家督嗣、直弼(大老)・中顯・充眞院の父、
[直中(;名)の幼名/通称/号]幼名;庭五郎、通称;玄蕃頭/掃部頭/修理大夫/左兵衛督、号;月下亭、法号;観徳院
- 03219 **直中** (なほなか・二瓶にい、) 1788-1873 86 陸奥会津鶴ヶ城下大町の国学/歌;沢田名垂門、歌人;1838(天保9)京の芝山持豊・千種有功・慈光寺実仲門、帰郷;私塾開設;歌・国学を教授、1873教部省から少講義;没、二瓶直香なほかの父、「都のつと」著、
[直中(;名)の通称/号]通称;忠五郎/五郎右衛門、号;あさの舎々
- B3292 **尚長** (なほなが・ひさなが・丹波、経長男) ?-? 鎌後期医者;典薬頭/施薬院使/権侍医/大膳大夫/正四位下、歌;続拾遺(994/1233)下5首、行長・守長の父
- B3293 **尚長** (なほなが・祝部はふりべ/ほうりべ、忠長男) ?-? 1394 存 日吉社禰宜/従四位上、歌;1364一万首作者入、勅撰2首;1364成立新拾遺(1612)/1384成立新後拾遺(895)、連歌;1356成立菟玖波2句入、
[深き夜のとばたの面おももの鹿の音ねを遙かにおくる秋の山風](新拾遺;雑1612)
- B3294 **尚長** (なほなが・永井ながい/通称;伝三郎、号;静斎、尚征男) 1654-80 早世 27 丹後宮津藩主;1674家督嗣、従五下土佐守/信濃守、1679奏者番、將軍徳川家綱死去時の増上寺法会奉行;勤役中に同役鳥羽藩主内藤忠勝に刃傷を受け没、学問好きの文人藩主、
「江静軒詩文集」「斷雲しよくん文集」著、法号;霄空院
- 03276 **直永** (なほなが・牧原まきはら、通称;只七) ?-1800 陸奥会津藩士/儒者;藩校日新館教授、山神流兵学師範、神道;木本成善門、半陶ほんとう(直亮なほすけ/1786-1842/藩主侍講)の父
尚長(なほなが・甘露寺) → 尚長(ひさなが・甘露寺、廷臣/日記) B 3 7 6 5
尚長(なほなが・東坊城) → 尚長(ひさなが・東坊城ひがしほうじょう、文章博士) B 3 7 6 8
尚長(なほなが・山崎) → 尚長(ひさなが・山崎、実録作者) B 3 7 6 9
直永(なほなが・松永) → 直英(なほひで・松永まつなが、和算家) C 3 2 2 3
直長(なほなが・堀) → 直為(なほゆき・堀ほり、藩主/武芸) C 3 2 8 6
直中室(なほなかのしつ・井伊) → 親子(しんし・井伊/南部、藩主正室/親光院/歌) U 2 2 6 4
直中側室(なほなかのそくしつ・井伊) → 富子(・井伊、お富の方/直弼母/要妙院/歌) U 3 1 0 5
- K3297 **直容** (なほなり・井伊い/藤原、彦根藩主直幸なほひで7男) 1783-1839 57 母;側室大魏院(池崎家の生)、直明・直致の同母兄弟、彦根住;国学/雅楽を嗜む、
[直容(;名)の通称/号]通称;勇吉/豊前/怒鷹、号;蘭谷
- L3247 **直約** (なほなり・岡部おかべ、初名;直記) 1804-61 58 伊予今治藩士/歌人;半井忠見(梧庵)門、忠見「ひなのてぶり」に36首入集、
[山人の世わたる道か白雲のよそめ危ふき峰のかけはし](鄙のてぶり)
- N3225 **直成** (なほなり・桜井さくらい、通称;亀太) 1846-76 31 肥後熊本藩士、国学;田代正足まさたり門、神風連に参加;鎮台司令官種田少将を殺害、1876秋月の乱に没
直成(なほなり・高岡) → 直成(ちよくせい;号・高岡たかおか、俳人) K 2 8 3 0
直柔(なほなり・坂本) → 竜馬(りょうま・坂本さかもと、藩士/国事) J 4 9 4 7
- B3295 **直登** (なほなる・堀ほり・奥田おくだ、堀直格なほただ6男/本姓;藤原) 1839-85 47 兄直虎(1868没)の養嗣、1868家督継嗣;信濃須坂藩主/従五下/長門守、維新後;須坂藩知事、1877(明治10)同族堀家の合議で復姓;奥田を名乗る、
1858「海幸抄」「鈔録」、「斎宮略伝」「三大考余言」「廿二社徴考」著、
[直登(;初名)の幼名/後名]幼名;恭若/恭之進、直登後の名;直弘/直明
- B3296 **直縄** (なほなわ・佐和さわ/通称;市郎兵衛、号;拙窓、直福男) ?-1855 徳島藩士、1827学問処奉行/御蔵奉行、「粟拾穂集」著
直縄(なほなわ・海妻) → 直縄(なほつな・海妻かいづま、国学/故実) B 3 2 6 9
直之丞(なほのじょう・都賀) → 大陸(たいりく・都賀つが、医者/戯作) C 2 6 3 0

直之丞(なおのじょう・糠沢屋)→清篤(きよあつ・糠沢ぬかさわ、商家/歌人) U 1 6 9 8
直之進(なおのしん・福田)→金塘(きんとう・福田、暦算家) R 1 6 4 9
直之進(なおのしん・玉木)→彦介(彦助ひこすけ・玉木、藩士/日記) 3 7 6 3
直之進(なおのしん・小栗)→常山(じょうざん・小栗おぐり/平、儒者) J 2 2 3 5
直之進(なおのしん・伊藤)→藤景(ふじかげ・伊藤、藩士/兵法家) C 3 8 4 1
直之助(なおのすけ・酒井)→忠恭(ただすみ・酒井さかい、藩主/和漢学) P 2 6 6 8
直之助(なおのすけ・酒井)→忠以(たださね・酒井、忠恭孫/藩主/歌) F 2 6 0 8
直之助(なおのすけ・福田)→金塘(きんとう・福田、暦算家) R 1 6 4 9
直之助(なおのすけ・春枝)→広高(ひろたか・春枝はるえだ、国学者) G 3 7 2 0
直之助(なおのすけ・設楽)→貞丈(さだとも・設楽しだら/菅原、幕臣/本草) I 2 0 9 3
直之助(なおのすけ・春日)→潜庵(せんあん・春日かすが/源、儒者/勤王) E 2 4 8 0
直之助(なおのすけ・中村)→良顕(よしあき・中村なかむら、国学/歌人) C 4 7 0 2
直之助(なおのすけ・中尾)→豊岳(とよおか・中尾なかお/三木/原田、国学) V 3 1 8 9
直之介(なおのすけ・中矢)→行簡(ゆきひろ・中矢なかや/藤原、藩士/歌) F 4 6 5 0
直之介(なおのすけ・西田)→直養(なおかい・西田にしだ、国学/歌人) 3 2 8 1
直之輔(なおのすけ・志茂)→実明(さねあきら・志茂しも、藩士/歌/経史) K 2 0 7 0
直之祐(なおのすけ・家里)→松嶸(しょうとう・家里いえさと/近藤、儒者/尊攘) R 2 2 5 7

- B3298 尚信(なおのぶ・狩野かのう一信/家信、通称主馬、自適斎、孝信男、探幽弟)1607-5044 京絵師;父・兄門、1630幕府絵師:水墨画/江戸木挽町狩野家祖、「百馬図」「花鳥山水人物図」「源氏物語図」画
- B3299 直宣(なおのぶ・黒神くろかみ/通称修理大夫)?-? 1727存;90余歳 徳山遠石八幡神主/1865大宮司、1727「自語論」著
- N3285 直信(なおのぶ・千々和ちぢわ、通称;内膳正)1682-176382 筑前遠賀郡香月村の杉守神社祠官、国学;貝原益軒・香月牛山門/歌人、「出雲大社参詣紀行」著、直国の父、
- K3298 直惟(なおのぶ・井伊い/本姓;藤原、直興[直該なおもり]男)1700-3637 母;直興側室(田山家の生)、1714(正徳4)父隠居;近江彦根藩主;侍従/質素儉約を推進/武芸奨励/大規模な鷹狩実施、絵画や詩文・歌を嗜む、近江永源寺の能舞台を寄進/彦根城石垣の改修、連歌を嗜む、正室;蜂須賀綱矩女/側室;梅原家の女、直禊なおさだ・直幸なおひでの父、1735病氣理由に隠居/家督;弟直定嗣、[朝日影くはつと目に立つは門の松](直惟)、藩執権の木保守盈もりみつが付けて[長閑に聞ゆ鶴の聲](守盈)、[直惟(;名)の幼名/通称]幼名;金蔵、通称;備中守/掃部頭/左兵衛督さひょうえのかみ
- C3200 直宣(なおのぶ・足立あだち) ? - ? 江中期和算;葛谷くずや実順さねより門、1741「開宗算法」校
- C3201 直円(なおのぶ・安島あじま/字:伯規/通称万蔵、南山、庄左衛門男)1739-9860 羽前新庄藩士;1754家督、吟味役/郡奉行、和算家;山路主住門;関流を皆伝、「腕背術」「球題術」「安島先生草稿」「南山草稿」著
- C3202 尚寛(なおのぶ/なおひろ/ながのぶ・奥村おくむら、奥村隆振2男)1757-180347 宗家奥村栄軽早世;その養嗣子;1764家督嗣;加賀金沢藩年寄;加賀八家奥村家宗家10代当主;知行1万7000石、1777(宝永6)従五下河内守/78藩主前田重教世子斉敬誕生時の墓目役、1791(寛政3)学校方御用主附(藩校惣奉行);法制設定/92藩校明倫堂を設立;学頭に儒者新井白蛾を招聘;自ら白蛾門、歌人、「一楽集」「易学類篇講録」「石台文集」著、正室:大音厚曹女、奥村栄実・横山隆盛室・前田内匠助室・中川顕忠室の父、栄実が家督嗣、[尚寛(;名)の字/通称/号]字;静甫/白羽、通称;橘次郎/助右衛門/河内守、号;慎斎/石台/一楽
- C3203 直暢(なおのぶ・田丸たまる/通称六蔵、寒水/霊槐/寒泉)?-? 江後期幕臣/本草;前田利保の楮鞭会員、1835「珍卉図説」38「升麻図説」、47「柿品」著
- N3293 直誠(なおのぶ・勅使河原てしがわら、旧姓;滝)1819-8062 信濃飯田藩士、歌人;村沢徳風のりかぜ門、[直誠(;名)の初名/通称]初名;直只、通称;養之助/左中/右中
- C3204 直陳(なおのぶ・能勢のせ、明陳あきのぶ男)1821-9474 日向佐土原藩士/儒者;江戸の山口菅山門、闇齋学修学/帰郷後;1845藩校学習館学頭/教主;藩政参画/1864兵制改革、

薩英戦争で宗藩鹿児島藩を支援;戦後処理に当る、「薩英和睦談顛末」「横浜外交談判」著
[直陳(;)名)の通称/号] 通称;二郎/二郎左衛門。号;卓軒

L3256 **直言**(なのおぶ・落合おちあい、俊雄男)1846-77**戦死**32 武蔵多摩郡駒木野の関守家の生、国学;堀秀成門、直亮なほあき・直澄なほずみの弟、兄直澄に修学、1871古賀十郎らと政変を企て捕縛;鹿児島に投獄、1877西南戦争で西郷軍に参加;神道中教院の子弟を率い参戦し保田窪大激戦で戦死、
[直言(;)名)の通称/号]通称;五十馬いそま、号;武城

直宣(なのおぶ・大中臣) → 尊宣(たかのぶ・饗庭あえば/源、武将/歌人)M 2 6 6 6

直信(なのおぶ・三善/祝部) → 直信(ただのぶ・三善・祝部、廷臣/歌人)F 2 6 5 5

直信(なのおぶ・市橋) → 宗源(そうげん・市橋・藤原、武家/領主/連歌)H 2 5 1 3

直信(なのおぶ・佐々木) → 志頭磨(志津磨しずま・佐々木、書家) U 2 1 0 7

直信妻(なのおぶのつま・溝口) → 観如夫人(かんによふじん・溝口みぞぐち/松平、歌)V 1 5 8 5

C3205 **直矩**(なのおり・松平まつだいら、直基男)1642-95**54歳** 母;側室、1648姫路藩主(7歳)/48村上に転封、
従四下/侍従/大和守、1667姫路に再封/82息宣富の高田藩家臣争論に連座;日田に転封、
1686山形に転封、1692白河藩主に転封、
1656-95「松平大和守日記」、歌;通茂・雅章と交友、「天祐公和歌」「直矩公御詠歌」著、
[五月雨に山田の水やますら男が心にかなふ早苗取るらん](茂睡[鳥の迹]夏237)、
[直矩(;)名)の号]号;竜枝軒/蔭山、法号;天祐院、

K3276 **直矩**(なのおり・赤井あかい、通称;弥十郎/号;栄春)1648-1728**81** 幕臣;大番、江戸の歌人

C3206 **尚徳**(なのおり・高田たかた/宮川、通称;徳兵衛)1688-1757**70歳** 福岡藩士/兵法;宮川忍斎門、
「教旗贅談」著

L3288 **直孝**(なのおり・北島きたじま、道孝男)1717-1784**68** 出雲出雲郡の出雲国造(北島家69代/1730-84)、
神道/国学、惟孝(70代国造)の父

C3207 **直矩**(なのおり・新居にい、香流軒/寿硯斎、光直男)1721-?**1796存** 讃岐新居の藤尾八幡社神職、
「香西記」「香西雑記」著

C3208 **尚規**(なのおり・竹村たけむら/本姓;源、方壺男)1781-1811**31** 遠江敷智郡入野の酒造業、
国学/歌;内山真竜・本居宣長・本居大平・栗田士満門、病弱療治祈禱のため歴遊、
「さかりの花の日記」著、遺稿家集「竹の五百枝」(;大平序/龍麿跋)
[尚規(;)名)の通称/号] 通称;又右衛門、号;竹屋たけのや、

N3252 **直徳**(なのおり・鈴木すずき、名;重徳?)1797-1853**57** 備後三原藩士、国学者;千種有功門、
歌;[類題和歌鴨川集][類題吉備国歌集]入、
[直徳(;)名)の通称/号]通称;清太夫、号;萩舎はぎのや

03247 **尚則**(なのおり・腹巻はらまき、旧姓;坂)1797-1860**64** 伊勢度会郡の内宮権禰宜、国学;本居春庭門、
[尚則(;)名)の通称]音松/越後

03292 **直記**(なのおり・松本まつもと、通称;長門守)1799-1879**81** 下総海上郡の神職;海上八幡宮神主/国学者

C3209 **直徳**(なのおり・外山とやま、通称;文平/百平、聴松庵東井)1813-87**75** 大坂の歌人、
和泉大島郡深井村へ入婿、「安楽鄙言葉」著

N3296 **直記**(なのおり・東条とうじょう、舜清しゅんせい男)1824-99**76** 武蔵大里郡下奈良村の神職、国学、
1873(明治6)金鑽かなざな神社(県社)祠官
[直記(;)名)の通称/号]通称;太仲、号;芹水きんすい

P3214 **直記**(なのおり・矢部やべ、通称;録三郎/号;立枝)?-? 江後期;伊予松山藩士、国学者/歌人、
歌;星野久樹(1812-71/松山藩士)門/国学;西村清臣(1812-79/松山藩士)門

P3236 **直記**(なのおり・渡辺わたなべ、通称;角蔵/小左衛門)1830-? 信濃飯田藩士、歌人、
歌学;岩沢幸年ゆきとし(1772-1848)門

K3292 **直紀**(なのおり/なほき・安藤あんど、内藤中虚ちゆうきよ2男)1837-1912**76** 安藤家を継嗣;丹波篠山藩士、
歌人;京の桂園派池袋清風きよかぜ門、維新後1892(明治22)初代篠山町長、晩年;詠歌に興ず、
[影も濁らぬ玉水の底浅けれどよしやよしたちる袖も影うつす](黒岡玉水の詠)、
[直紀(;)名)の通称/号]通称;道太郎、号;松の屋/無尽子

K3299 **直憲**(なのおり・井伊い、直弼2男)1848-1902**57** 母;側室の里和(西村本慶女);
のち正室昌子(貞鏡院)の子となる、千代子・直憲・直威・直安・直達・待子の兄弟、

1860(安政7/13歳)父が桜田門外の変で暗殺;急遽家督を継嗣;近江彦根藩主、従四位下、左近衛権少将/掃部頭兼任、1862松平春嶽らの文久改革により直弼の専横糾弾;25万石に減封/1864左近衛権中将、池田屋事件・禁門の変に功績;旧領3万石回復、第二次長州征討で大村益次郎の散兵戦術に大敗/藩内で勤王派が台頭、1869戊辰戦功により賞禄2万石を付与/藩政改革と人材登用推進;彦根藩知事、1871米・英に遊学、廃藩で免職:伯爵/従三位、歌人、室;精宮宜子よしに女王(有栖川宮熈仁たるひと親王3女/歌人)・後室;常子(鍋島直紀女)、[直憲(;名)の幼名/字/通称/号]幼名:愛麿、字;令徳、通称;掃部頭、号;稻香軒、法号;忠正公

巨規(なおり・伊東) → 秋迺屋颯々(あきのやさつさつ、鍛冶職/狂歌) C 1 0 2 4
 尚憲(なおり・吉田) → 尚憲(尚徳ひさのり・吉田、藩士/歌) B 3 7 8 1
 直準(なおり・三国) → 幽眠(ゆうみん・三国みくに、尊攘/詩歌) D 4 6 8 2
 直告(なおり・鍋島) → 直郷(なおさと・鍋島なべしま、藩主/詩歌) B 3 2 2 3
 直矩(なおり・神谷) → 南澗(なんかん・神谷かみや、儒者) I 3 2 8 0
 直徳(なおり・円城寺) → 嵐窓(らんそう・円城寺えんじょうじ、藩軍学師範/俳人) C 4 8 8 7
 直徳(なおり・波多野) → 維徳(これのり・波多野はたの、神職/国学) R 1 9 1 2
 直範(なおり・溝口) → 直養(なおやす・溝口みぞぐち、藩主/闇齋学) C 3 2 7 9
 直憲室(なおりのしつ・井伊) → 宜子(よしこ・井伊い、有栖川宮熈仁たかひと親王女) L 4 7 3 4
 直八(なおはち・倉田) → 幽谷(ゆうこく・倉田/立見、儒者) B 4 6 6 4
 直八(なおはち・鈴木) → 蕃利(しげとし・鈴木すずき、藩参政) Z 2 1 2 1
 直羽(なおはね・一柳) → 直陽(なおはる・一柳ひとつやなぎ、藩士/故実) C 3 2 1 4

- C3210 **直玄**(なおはる・前田七郎兵衛、今枝民部男) 1618-69⁵² 1620利家女高源院の嗣、金沢藩士/人持組、1667大目付、「前田七郎兵衛書翰」著
- C3211 **直温**(なおはる・今枝いまだ、直方男) 1673-1712^{40歳} 加賀藩士、儒者;中泉祐信門、藩内の詩歌俳を編纂中没す;1710-12「難波詞林」編;雑記は父編、[直温(;名)の字/通称/号]字;子寛、通称;内記、号;貫珠軒/難波
- C3212 **直春**(なおはる・高橋たかはし) ? - ? 信州文筆、1721宥快同行有明山登山:1723「有明開山略記」著
- C3213 **直遐**(なおはる・熊谷くまがい、直昭男) 1729-81^{53歳} 信州伊那郷士/3歳で父死別;関昌寺寺子/江戸で館林藩儒臣多田孫八郎の御筆役/1754帰郷;郷頭、郷土史、「熊谷家伝記」「関伝記」著、[直遐(;名)の通称]平之助/繁次郎/丹吾/繁八/次郎太夫
- 03257 **直治**(なおはる・福沢ふくざわ、) 1738-1807⁷⁰ 信濃伊那郡の国学者、歌人;桃沢夢宅門(息孝治たかはる[1758-1807]と同門)、[直治(;名)の通称]六郎左衛門
- C3214 **直陽**(なおはる/-あき・一柳ひとつやなぎ直任/直羽、字;盛之允、修姓柳、直矩男) 1753-1834⁸² 会津藩士、1783家督、1787目付/95奏者番、古礼故実;大沢基季門、「新編会津風土記」など藩記録の編纂の中心となる、「満久那記」、「見ぬ世の栞」「貫考」「貫知考」「枕香日記」著
- J3292 **直温**(なおはる・不破ふむ、直義男) 1776-1833⁵⁸ 磐城白河藩士;1792家督/舞楽師範・藩校目付、1919江戸留守居/23藩主の伊勢桑名移封;桑名藩士、和算;渡辺一・日下誠・和田寧門、舞楽/文学を愛す、「尊号事件文書」編、江戸大火消失;「治世献策」「算法応答」「梅仙詩稿」等、[直温の幼名/字/通称/号]幼名;榮太郎、字;子温、通称;右門、号;梅仙、法号;撰心院
- L3298 **直治**(なおはる・熊谷くまがい、旧姓;益田) 1779-1827⁴⁹ 周防岩国藩士、国学;熊谷直好/歌;香川景樹門、[直治(;名)の別号/通称]別名;信之、通称;八左衛門/又兵衛/与一右衛門/幸四郎/雅五郎
- C3215 **直温**(なおはる・山下やました、字;舜民/号;任里) 1796-1879⁸⁴ 磐城白河藩士/儒;精里門/昌平齋出、藍涯・磐溪と3詩友、1827白川藩儒/藩校教授/致仕後陽明学に傾倒、「皇朝蒙求」著
- C3216 **直温**(なおはる・山田やまだ、別号;清樹/字;楽道) ?-? 江後期江戸新吉原江戸町の儒者、1798「七福神考」校、1840「詞直路」著
歌仙堂/好文堂/旭岳
- 03241 **直温**(なおはる・早川はやかわ、) ? - 1839 佐渡相川の州吏;地方掛頭取、国学;平田篤胤門、

歌・連歌を能くす、1838(天保9)農民愁訴(一国騒動)に連座;被告として評定所の裁判、江戸に幽囚中1839(天保10)病死;家禄没収/一家流浪、直昌なおまさ(1825-1898)の父、[直温(;)名)の字/通称]字;子簡、通称;為四郎/治右衛門

03285 **直温**(なおほる・松田まつだ、)1801-185555 伊勢津の国学者、豊幹とよかつ(1838-98)の父、[直温(;)名)の字/号]字;徳夫、号;翠涯/松蔭住/鈍秀哉

K3226 **直春**(なおほる・松平まつだいら、直益2男)1810-7869 母;松平直泰女、1826父が隠居;家督継嗣、越後糸魚川第6代藩主;従五位下日向守/出雲守、1833日光祭礼奉行、1857隠居;養子直静に藩主を譲るが藩政を執る、法号;至誠院、妻;佐竹義知女の熊姫(熊子)、息子;直廉(茂昭;福井藩主)、養子;直静、歌;1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入(妻熊子と共に入集)、[いとはやも春は来ぬらし遠近の朝けのけぶり打ちかすむなり](大江戸倭歌;22初春)

03256 **直温**(なおほる・深見ふかみ、通称;佐兵衛)1812-8170 三河碧海郡の商家/国学者、妻;専女せんじょ(歌人/1816-90)、昂蔵たかよし(喜一郎)・篤志あつゆき(藤吉)の父

C3217 **直温**(なおほる・沢田さわだ、通称市太郎/覚之助)1834-9663 加賀小松藩士/1847儒;木下晴崖門、1852上京/経史;岩垣月洲門/歌;草盛義直門、56再上京/医;桐山元中門/57父没;帰郷、子弟教育/1862(文久2)藩命で江戸の村田蔵六[大村益次郎]門;蘭学・航海術修学、1863加賀藩軍艦発機丸乗船/藩の軍艦操練所教授、68藩命で越後へ;50石/寄合馬廻、1871前田利嗣の英国留学に随従/帰国後;朝野新聞社入社/74記事が刑に触れ入獄/77赦免、太政官出仕/内閣属;1888罷免、「発機丸航海記」著

03269 **直治**(なおほる・堀尾ほりお、直馨なおか男)?-1888 信濃伊那郡の歌人;父・祖父直賢[1753-1825]門、[直治(;)名)の通称/号]通称;五郎左衛門(代々の称)/尉左衛門、号;毅楽斎

直春(<small>なおほる・市浦</small>)	→	南竹(<small>なんちく・市浦いちうら、藩士/儒者</small>)	J 3 2 3 0
直治(<small>なおほる・今枝</small>)	→	近義(<small>ちかよし・今枝いまえだ、藩家老/国学</small>)	C 2 8 1 8
直治(<small>なおほる・松村</small>)	→	景文(<small>けいぶん・松村まつむら/呉、絵師</small>)	1 8 8 9
直治(<small>なおほる・朝長</small>)	→	晋亭(<small>しんてい・朝長ともなが、儒者/侍読</small>)	P 2 2 4 0
直治(<small>なおほる・井伊</small>)	→	直該(<small>なおもり・井伊い、藩主/大老/歌</small>)	L 3 2 0 1
直治(<small>なおほる・伊牟田</small>)	→	泉(<small>いづみ・伊牟田いむた、神職/教育者</small>)	J 1 1 8 6
直温(<small>なおほる・佐田</small>)	→	竹水(<small>ちくすい・佐田さだ、藩士/儒者</small>)	D 2 8 2 6
直玄(<small>なおほる・長野</small>)	→	野虹(<small>やこう・長野ながの、庄屋/俳人</small>)	4 5 5 6

03283 **直彦**(なおひこ・松木まつき、通称;修理、満彦男)1695-175460 伊勢度会郡の外宮権禰宜、智彦の父、[松木外宮禰宜家]匡彦-盛彦-満彦-直彦-智彦-卓彦-言彦-算彦-品彦(養子)-偉彦(養子)

K3221 **直彦**(なおひこ・竹口たけぐち)?-? 伊勢飯野郡乳熊の国学者;本居大平門、歌;大平撰「八十浦の玉」下巻下905/906-7;長歌[大刀を賞むる歌]入、[物さはに大河の子がもたる大刀さ身のをはばりまぐはしき大刀]、(八十浦;907反歌/大河速雄の持つ大刀)

L3299 **直彦**(なおひこ・熊谷くまがい、神職山本季金男)1829-191385 京の絵師;1841岡本茂彦に入門;四条派、1844(弘化元)安藝広島藩士で京詰衣紋方の熊谷左門の養嗣子/改名;直彦;父の業務継嗣、幕末期;広島藩士として国事専念;尊攘派として活動、1862(文久2)広島入;藩の執政関忠親の側近、野村帯刀に随い上京;京都留守居役、維新後;広島藩大属、のち東京で絵画研究;諸国を遊歴し山水景勝を得意とす、1884内国絵画共進会で「大江山」「鯛」が銅賞/1893「雨中山水」;98巖島神社に奉納、「滄海日出」「山頭初月」「月下狸図」「十二ヶ月山水図」外画多数、有職故実に通ず、[直彦(;)名)の別名/通称/号]初名;秀彦、通称;藤太郎/兵衛/右門、号;篤雅

直彦(<small>なおひこ・腹巻</small>)	→	弘道(<small>ひろみち・腹巻はらまき/荒木田、神職</small>)	H 3 7 3 7
直彦(<small>なおひこ・竹内</small>)	→	豊洲(<small>ほうしゅう・竹内たけうち、儒者</small>)	B 3 9 4 9
直彦(<small>なおひこ・妻木</small>)	→	貞彦(<small>さだひこ・妻木つまき、国学・神道家</small>)	J 2 0 3 9
直彦(<small>なおひこ・小出</small>)	→	直城(<small>なおき・小出こいで/大江、国学者/歌</small>)	M 3 2 0 6
直彦(<small>なおひこ・若山</small>)	→	立意(<small>りゅうい・若山わかやま、藩儒医</small>)	C 4 9 7 2
直彦(<small>なおひこ・安田</small>)	→	敬直(<small>あつなお・安田やすだ、網屋惣兵衛/本陣</small>)	I 1 0 6 0

- N3262 **直久** (なおひさ・田付たつけ、岡部正綱[火付盗賊改方頭]9男) 1665-1742⁷⁷ 江戸の幕臣；
田付直平(1642-1706)の養子；田付流砲術5代目/幕府鉄砲方、寄合、和学者、
田付流砲術は田付景澄を祖とする；のち江戸田付(兵庫助/四郎兵衛)と左太夫家に分流、
[直久(；名)の通称]彦次郎/四郎兵衛(江戸田付家代々の称)
- C3218 **尚久** (なおひさ・河合かい/通称甚兵衛)?-? 江中期和泉医者；1736「無冤録述」訳
- C3219 **直久** (なおひさ・原田はらだ/通称次左衛門/大蔵)?-? 江中期羽前米沢郷土史家、
1783「妻敵討臯月涙」、「米沢孝子伝」「米府鹿子」著
- C3220 **直古** (なおひさ・柴崎しばさき/本姓；源、森もり直樹男)?-1834or35? 駿府豪商[鉄くろがね屋]柴崎家の養嗣子、
国学；平田篤胤・栗田土地満門/狂歌；鹿都部眞顔門、書舗経営、
1824「俳諧歌六帖」編、「和訓栞補」、出版；山梨稲川「稲川詩草」の版元
[直古(；名)の通称/号]通称；庄蔵/眞五郎/十[重]兵衛、号；幸の屋/採選亭/香久山鉾杉
- C3221 **直久** (なおひさ・歌川) ? - ? 幕末期絵師；初世国直門?、1844-54頃挿画、
1846「売色安本丹後編」、「春色初嘉須美」画
- 3258 **復古** (なおひさ・安達あだち、通称；武五郎) 1800-74⁷⁵ 豊後鶴崎の国学者/歌人、江戸住
1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入(足立復古名)、
[武蔵野も嵐にさえて富士筑波光てりあふ雪を見るかな](大江戸倭；冬1282)
直久(なおひさ・坂本) → 浩然(こうげん・坂本、医/本草/絵師) K 1 9 9 0
尚古(なおひさ・宮川) → 忍斎(にんさい・宮川、兵法/軍記作者) G 3 3 3 9
- N3267 **直秀** (なおひで・多賀たが、直定男) 1647-1725⁷⁹ 加賀金沢藩士；1663(寛文3)前田綱紀に出仕、
奥小姓、詩歌に長ず、1674(延宝2)同輩關屋雲八郎と城中に闘い創を負う；
能登鹿島郡鶉浦に配流、数年後赦免召還されるが固辞し配所に生活；没、
[直秀(；名)の初名/通称]初名；直方、通称；孫太郎/隼人
- C3222 **直秀** (なおひで・林はやし/本姓；源、重直男) 1655-1731⁷⁷ 幕臣；1680將軍綱吉小姓/92書院番、美作守、
重澄げずみの弟、養子；伊丹直孝、歌人；中院通躬門、江戸堂上派；京極高門と並称、
家集「竹窓集」、茂睡[鳥の迹]/1691了然尼撰(茂睡編)[若むらさき]、広通「霞関集」67首入、
1728宝山板「諏訪浄光寺八景詩歌」参加、
[をる人の手毎にかざす花にこそまだ見ぬ山のさかりをもしれ](茂睡[鳥の迹]春111)、
[のどけしな民の草葉も打ちなびく豊葦原の春の初風](霞関；5立春)、
[雲はれてそれかともみねの雪しろし黒髪山の名はたどれども)、
(諏訪浄光寺八景；黒髪晴雪/黒髪山；下野の男体山/見と峰を掛る)、
[直秀(；名)の別号/通称]初名；重昌、通称；左門/治大夫/美作守、法号；日妙
- K3293 **直幸** (なおひで・井伊い、直惟2男) 1729-1789⁶¹ 父没時幼少のため叔父直定が藩主/兄直禎が継嗣、
1754兄急逝；近江彦根藩12代藩主を継嗣/1760左少将；直英なおひでを直幸なおひでに改名、
野心家；1763従四位上/66左中將/78正四上、84大老に就任；藩政は実子直富が執行、
幕政は田沼意次と共に執政、1786將軍家治没後；井伊直朗や大奥と共謀し権力政争；失敗、
大老辞任、絵画/書を嗜む、6男直中が継嗣、
正室；井伊直存女の伊予姫(歌人)、側室；大武かよ(おかよ/直中の母/歌人)、
[直幸(；名)の初名/通称/法号]初名；直英、通称；掃部頭、法号；大魏院
- C3223 **直英** (なおひで・松永まつなが直永/通称伝蔵、貞辰さだとき男) 1777-1850⁷⁴ 羽前新庄藩士/1795家督、
和算；日下誠門、「神璧算法解」「陰陽秘録」編、「神璧算法解」「角法通術」著、直恒の父
- C3224 **直秀** (猶秀なおひで・松木まつき、釘屋善兵衛) 1791-1865⁷⁵ 駿河府中の鋼鉄問屋/国学；平田篤胤門、
歌人；石川依平・前田夏蔭・塙はなむ忠宝ただとみ門、
「瓢の塵」「万葉梯」「葦比木考」「伊那の高輶」「八代集便覧」、1852「ひくてあまた」著、
[直秀の号] 秋湖/琴園/瓢ノ屋(ひさごのや)
直秀(なおひで・山本) → 有秀斎蘭亭(ゆうしゅうさいらんてい、絵師) C 4 6 3 2
直幸室(なおひでのしつ・井伊) → 伊予姫(いよひめ・井伊い、梅暁院/歌人) J 1 1 8 3
直幸妾(なおひでのしやう・井伊) → 量寿院(りやうじゅいん、おかよ/直中の母/歌) L 4 9 9 9
おかよ(・井伊) → 量寿院(りやうじゅいん、井伊直中の母/歌) L 4 9 9 9
- C3225 **直仁親王** (なおひとしんのう、花園天皇皇子) 1335-98⁶⁴ 歌人；1370-76百番歌合参加
- C3226 **尚仁親王** (なおひとしんのう・桂宮5代、八条宮、後西天皇皇子) 1671-89^{夭逝} 19 歌人；「尚仁親王詠草」著

- C3227 **直仁親王** (なほひとしんのう・閑院宮初代、東山天皇皇子) 1704-53⁵⁰ 1717宮号/一品/准后、
 箏に長ず/歌人;近衛基熙門、1735「閑白家会始」など禁裏・仙洞歌会参加、36「萩之歌」著
 直仁親王 (なほひとしんのう) → 直明王 (なほあきおう、15ct歌人) 3 2 6 5
 直姫 (なほひめ・牧野) → 路子 (みちこ・牧野まさの、藩主室/歌人) B 4 1 4 4
- J3294 **直衡** (なほひら・三善みよし) ? - ? 南北期廷臣:大膳権亮、西園寺家の家司、歌人、
 歌;1398百首歌参加、1398-40「菊葉さくよう和歌集」44首入集、
 [いざやけふ若菜摘みてんあすはまた春日の野べに雪もこそふれ](菊葉集;春31)
- N3261 **直平** (なほひら・田付たつげ、景利[円方]男) 1642-1706⁶⁵ 幕臣/旗本;田付流砲術4代目/幕府鉄砲方、
 禄8百石、養嗣子;直久(岡部正綱男/1665-1742)、歌人;1691了然尼撰[若むらさき]2首入、
 田付流砲術は田付景澄を祖とする;のち江戸田付(兵庫助/四郎兵衛)と左太夫家に分流、
 [初瀬山嵐の鐘の声もうし尾の上の春の花の夕暮](若むらさき;17/山上の花が心配)、
 [直平(;名)の通称]三五郎/四郎兵衛(江戸田付家代々の称)、法号;全透
 直平 (なほひら・熊谷くまがい) → 竹堂 (ちくどう・熊谷、儒/詩人) D 2 8 5 7
 直平 (なほひら・定村) → 直種 (なおたね・川江かわえ/定村、神職/歌) L 3 2 6 9
 尚平 (なほひら・鏑木/八木/橋) → 静修 (しずさね・八木/有年/時中/直方、国学者字;立礼) U 2 1 0 4
- C3228 **直敬** (なほひろ・永井ながい、尚富、幕臣尚庸なかつね男) 1664-1711⁴⁸ 幕臣;伊賀守;1677家督/94寺社奉行、
 1702播州赤穂藩主・07若年寄/06信州飯山藩主/11武州岩槻転封、1688「和漢雑仙」編
- C3229 **直温** (なほひろ/なほあつ・竹垣たけがき登、丹羽長利男/直照養嗣) 1741-1814^{74(or77)} 幕臣/1786家督、
 越後・摂津・河内代官/1793関東郡代付代官、荒地開墾・心学教化等民政安定に尽力、
 「荒地政記」著、南畝と親交;1787南畝の秘本「松楼私記」を借りる、直清の父
 [直温(;名)の通称]通称;三右衛門
- 03225 **直啓** (なほひろ・野尻のじり、) ? - 1817 江中後期;加賀金沢藩士、
 国学者;田中朋如ともゆき(知頭/定頭/1707-70)門、
 [直啓(;名)の通称]四郎左衛門/次郎左衛門
- C3230 **直弘** (なほひろ・藤村ふじむら、字;毅/毅順、通称乙九郎、直道男) 1797-1855⁵⁹ 讃岐秋田浜の商人、
 丸亀藩に献金;名字帯刀を許可、書画・俳諧;蒼虬そうきゅう門、
 1837「朝日鶴集」、43「天保十四癸卯夏改資諸国人名録」著、
 [直弘の号] 澹斎たんさい/今是/暢襟楼/蟾如斎せんじょさい/墨雨/能遷亭、王民おうみんの弟
- K3249 **直寛** (なほひろ・星野ほしの) ? - ? 江後期;歌人、
 1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、
 [めづらしく日影みえても山の端にまたかきくもる五月雨の空](大江戸倭歌;夏508)
- K3255 **直敬** (なほひろ・一柳いちやなぎ、近江守) ?-? 江後期;幕臣;甲府舞鶴城山之手組勤番支配頭、
 1829(文政12)甲州八代郡田中村中村安兵衛妻阿栗の[節婦之碑]の書(;源光章撰)、
 碑は水上稻荷にあったが佚碑、歌人:1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、
 [秋もはやふけゆく夜半のかりがねは翼の露や霜となるらん](大江戸倭歌;秋1030)
- C3231 **直溥** (なほひろ・溝口みぞぐち、直諒なほあき男) 1819-74⁵⁶ 越後新発田藩主;1838襲封、
 藩財政窮迫;再三御用金取立、換金作物奨励/殖産興業;1867隠居、1853「麻布善福寺」著
- 03298 **尚広** (なほひろ・三好みよし、初名;長信/通称孫兵衛) ?-1875 伊予吉田の庄屋、
 歌人;石井義郷よしさと(1812-59)・西村清臣(1812-79)門
- 03238 **直弘** (なほひろ・花岡はなおか、) 1830-1884⁵⁵ 備前和気郡の国学者・歌俳;正宗直胤門、
 [直弘(;名)の通称/号]通称;来介/柳吾、号;梨園
- 03281 **直寛** (なほひろ・松井まつい、旧姓須田) 1832-1900⁶⁹ 信濃飯田藩医;松井美澄みはる(1794-1866)の養嗣子、
 医術;美澄門/歌人;橋道守門、
 松井家は代々医を以て藩主堀家に出仕;之翰-徳隣-美澄-直寛と続く、
 [直寛(;名)の初名/通称/号]初名;元恭、通称;鐔四郎たんしろう、号;杏仙/漁叟
- P3223 **直寛** (なほひろ・山本やまもと、) 1843-1909⁶⁷ 近江栗太郡の医者/文筆/歌人、歌;[鳩のうみ]入、
 「近江栗太郡志」著、
 [直寛(;名)の字/通称/号]字;子温、通称;清之進、号;栗斎
- L3261 **直大** (なほひろ・鏑木かぶらき、号;心城、直益なほます長男) 1844-92⁴⁹ 信濃飯田藩士、国学者、

維新後;東京鎮台附

- 03216 **直大**(なほひろ・鍋島なべしま、斉正なりまさ[直正]長男)1846-1921 76 母;側室の濱(太田鍋島茂郷女)、1861(文久元/16歳)父隠居;家督嗣;肥前佐賀藩主、藩政刷新/殖産;有田焼パリ万博出品、1868戊辰戦争で政府軍に参加;東北・関東を転戦/東京住;新政府出仕/1871佐賀藩知事、岩倉使節団参加;渡米;オックスフォード大学で文学研究、この間に佐賀の乱起る、1878帰国;外務省御用掛/79東京地学協会設立参加/80駐イタリア王国特命全権公使、1882帰国;元老院議員/宮中顧問官/井上馨らと近代化政策を牽引、86大日本音楽会会長、1890貴族院議員/1911皇典講究所長/国学院大学学長、1921(大正10)没、正室;駒姫(胤子;梅溪通善女);1864結婚/継室;栄子(広橋胤保女)、直映・直英・信孝の父、[直大(;名/1868改名)の別号/通称]別名;直繩なほただ(初名)/茂実もちざね(藩主名)、通称;淳一郎/信濃守/肥前守
- 直洪(なほひろ・多田) → 勘兵衛(かんべゑ・多田、書肆) E 1 5 1 6
直寛(なほひろ・千葉) → 直枝(なおえ・千葉らば、儒者) 3 2 7 4
直寛(なほひろ・前田) → 直躬(なおみ・前田、藩士/歌人) C 3 2 5 2
直寛(なほひろ・喜多村) → 香城(こうじょう・喜多村、幕府医官) F 1 9 1 2
直弘(なほひろ・堀) → 直登(なおなる・堀ほり、藩主/文筆) B 3 2 9 5
直弘(なほひろ・宮地) → 春樹(はるき・宮地みやぢ、藩士/儒/国学) G 3 6 2 4
直熙(なほひろ・鍋島) → 治茂(はるしげ・鍋島、藩主/藩校創設) G 3 6 4 1
尚寛(なほひろ・奥村) → 尚寛(なおのぶ/なほひろ・奥村おくむら、藩年寄/藩校設立) L 3 2 5 3
- 3203 **尚房**(なおふさ・野村のむら、八右衛門男)1640-1729長寿90 備前岡山の生/備中鴨方藩士;郡奉行、1725致仕、歌人;香川宣阿門、湯浅常山と縁戚(常山の母と従兄弟)、「歌書作者考」「柿本人麿伝証註」「栄花物語事蹟考勘」著、「近來玄々鈔」編、「一枝軒随筆」著、[尚房(;名)の通称/号]通称;権六郎、号;一枝軒(;師宣阿の号を継嗣)/荒唐斎/瓦屨がこ散人/蠡測子いそくし
- C3232 **尚房**(なおふさ・万里小路までのこうじ、名;熙輔ひろすけ、清閑寺熙房男)1682-1724 43 万里小路淳房あつふさ養嗣、江前中期廷臣;1711参議、17権大納言/賀茂伝奏、「春日祭秘抄」「改元執筆要細記」「尚房卿記」著、「諸記雑要録」編
- C3233 **直房**(なおふさ・服部はつとり/通称;八郎左衛門、直好男)?-1754 名古屋藩甲州流兵法師範、「惟一伝記」著
- L3221 **直房**(なおふさ・入江なおふさ、通称;九郎兵衛)?-1756 陸奥盛岡の国学者
- M3213 **尚房**(なおふさ・児玉こだま、旧姓;中川)1762-1836 75 伊勢度会郡の国学者、[尚房(;名)の通称]左太夫/図書ずしよ
- M3200 **直房**(なおふさ・熊谷くまがい、正司2男)1810-88 79 出羽仙北郡六郷村の国学者;平田篤胤門、六郷熊野神社祠官/甥の直清に篤胤を紹介したほか仙北郡の平田門人拡大に尽力、[直房(;名)の別号/通称]初名;直雄、通称;周蔵/周兵衛
- N3263 **尚房**(なおふさ・田中たなか、)1839-1891 53 尾張名古屋藩医;藩主徳川家の待医、国学;植松茂岳しげおか門、故実に通/画を嗜む、藩校明倫堂国学助教、維新後;京都北野神社宮司/少教正正七位、「歴世服飾考」著、[尚房(;名)の通称/号]幼名;哲作、通称;哲郎、号;哲庵
- 正房(なほふさ・万里小路) → 正房(まさふさ・万里小路までのこうじ、廷臣/伝奏) H 4 0 1 9
直房(なほふさ・今川/源) → 範英(のりひで・吉良きら/今川、幕臣) F 3 5 5 5
直房(なほふさ・関本) → 如髪(じよはつ・関本せきもと、俳人) M 2 2 7 7
- 03214 **直訓**(なほふみ・永田ながた、旧姓;森)?-1866 飛騨高山の国学者/歌人;山崎弘泰(1797-1862)門、[直訓(;名)の通称/号]通称;達蔵/吉右衛門、号;琴廼社ことひ
- L3279 **直文**(なほふみ・神田かんだ、)1831-1913 83 紀伊牟婁郡の国学者、[直文(;名)の字/通称/号]字;以学、通称;文左衛門、号;潮洲
- 直兵衛(なほべゑ・仁木) → 桐栖(とうせい・仁木にき、俳人/茶道) F 3 1 9 3
- P3267 **尚政**(なおまさ・荒木田あらかぎ、)?- ? 鎌倉南北期;伊勢内宮神職;権禰宜、歌人;1334(建武元)度会朝棟歌会参加(3首)、[雨繁き山田の原に月影の晴るる今宵を秋の瀬にせん](朝棟歌会;34/瀬;出会う時・所)

- C3234 **直政**(なほまさ・井伊い、直親男/本姓藤原) 1561-1602⁴² 母;奥山朝利女ひよ(再婚:松下松岳院)、遠州井伊谷いひの生、1582武将;徳川家家臣/1590小田原陣で軍功、上州箕輪城主、関ヶ原後;近江佐和山城主、家康の四天王;本多忠勝・榊原康政と三将、連歌;1574天正2紹巴と百韻、彦根藩主直孝の父、
[立ちそふる千代のみどりの色深き松のよはひを君も経ぬべし]、
(松平春嶽[古今百人一首]入;43)
- C3235 **尚政**(なほまさ・永井ながい、号;信齋、直勝男) 1587-1668⁸² 駿河の生/徳川秀忠の家臣、大坂夏陣に家康軍:1619譜代大名/26下総古河藩主/33淀城主転封;京所司代・大坂城代、1649宇治興聖寺中興、「智囊夜話」著、連歌;1656何人百韻、「狂歌旅枕」(1682刊)作の信武か?
→ 信武(のぶたけ、「狂歌旅枕」著) B 3 5 7 7
- C3236 **直政**(なほまさ・松平まつだいら、号;楽山、法号;高真院、結城秀康3男) 1601-66⁶⁶歳 大坂陣に軍功、1636出雲松江藩主(祖)、六箇条施政方針/軍役整備/文武奨励、出雲大社修復、歌;「高真院詠草」、忠直の弟/直基の兄
- C3237 **直政**(なほまさ・守能もりよし) ? - ? 江前期金沢藩士/大坪流馬術、1655「手綱目録」著
- C3238 **直正**(なほまさ・岡村おかむら) ? - ? 江前期伊予吉田藩浦奉行の下代、「郡鑑」編
- C3239 **直正**(なほまさ・山田やまだ/通称弥五左衛門) ?-? 江前期三河野田村の文筆家/
1668-75日留輪原の秣場入会相論の記録「日留輪山論記」編
- N3241 **直政**(なほまさ・新庄しんじょう、) 1656-1708⁵³ 江戸の幕臣;御小姓組、歌人;阿野実藤門、直親の父、
[直政(;名)の通称] 松之助/織部/内匠助たくみのすけ/内膳
- C3240 **尚政**(なほまさ・島田、通称算七/源右衛門) ?-?1715前没 大阪和算:島田左太夫門、のち江戸住、1690刊「算法發揮」校、穂積与信と親交、井関知辰ともときの師
- P3271 **直政**(なほまさ・南部なんぶ、通称;武大夫、直房の長男) 1661-99³⁹ 母;側室の靈松院(川口源之丞女)、1668(寛文8)父没/家督嗣;陸奥八戸藩南部家2代藩主/従五下/遠江守、1672盛岡藩との領境確定/95初めて領内人口調査、学問/詩人;詩文集「新編文林全集」編、延宝()年間やませによる不作;財政困窮/1688-89將軍側用人、妻;南部行信女、1699(元禄元)没;盛岡南部家による毒殺説あり/養子通信(南部重信男)が家督嗣、1690重信催[南部家桜田邸詩歌会]参加、
[漠漠たる暑雲初めて霽はるる時 雨余の新月最も清奇なり、
万林影を分つ満枝の露 一片の光は千片の姿を成す](桜田邸;雨後夏月)、
[直政(;名)の幼名]幼名;武太夫(;通称)/運八/彦八郎、
- C3241 **直昌**(なほまさ・渡辺/渡部、) 1667-1752⁸⁶ 陸奥会津砂越の生、医学;岩田適慶門、耶麻やま郡で医を開業、歌人:小泉康定・有賀長伯門、彫刻を嗜む、伊勢・下賀茂社等の奉納歌合参加、「新宮雜葉記」「洛陽紀行」著
[直昌(;名)の通称/号]通称;伝六郎/伝左衛門、号;玄説/風月堂/蘆帆
- C3242 **直政**(なほまさ・富永とみなが/通称;彦三郎、八郎右衛門男) 1721-1800⁸⁰歳 伊予中居谷の庄屋、1799領内旧記改め、村々の伝承記録編纂;「大洲旧記」著
- C3243 **直政**(なほまさ・森田もりた、矢倉利右衛門男) 1738-82⁴⁵ 河内の生/大阪の乾魚商森田六兵衛の養嗣、好学家;古書画鑑定/書、趙陶斎・頼春水と交流、古書画目録「寓目録」著、
[森田直政(;名)の別名/字/号]別名;茂政、字;士徳、号;懐玄堂/抱眞斎、
通称;吹田屋六兵衛
- K3285 **尚雅**(なほまさ・荒井あらい、通称;彦兵衛) 1755-? 江中期;信濃伊那郡の歌人;片桐源栄門
- O3227 **猶昌**(なほまさ・芳賀はが、) 1768-1828⁶¹ 陸奥仙台の生/陸奥(陸前)桃生郡住、国学者、
[猶昌(;名)の字/通称/号]字;子実、通称;紀之進、号;看山/楽斎
- C3244 **直昌**(なほまさ・多賀たが/通称;刑部、号;宗乗、直清男) 1792-1829³⁸ 金沢藩常火消・公事場/寺社奉行、茶道;宗和流家元、1817「拾玉抄」編
- C3245 **直正**(なほまさ・河東田かとうだ/字;子方/通称正治) ?-? 1818-30頃仙台天文家、母へ孝心;藩より表彰、1823「昊天図説」24「九数答術」著/24「九数百好」校
[直正の号] 竹泉/混沌斎

- C3246 **直政**(なほまさ・栗田くりた/通称筑後/良祐)1807-9185 尾張海東郡砂子村神官、
 国学:鈴木腹あきら・植松茂岳門、漢学・歌も修学、
 名古屋藩校明倫堂助授読:六国史校合従事/大講義、
 「源氏遠鏡」著、家集「栗田直政詠草」著
- C3247 **直正**(なほまさ・鍋島なべしま齊正なりまさ、諡忠宣公、齊直男)1814-7158 母;幸(池田治道女)、
 1827將軍家齊の賜名;改名齊正、從四位下/信濃守/侍從、1830(天保元)父隱居;家督嗣;
 肥前佐賀藩10代藩主:齊正に改名/肥前守、35左近權少將/左近權中將、
 長崎警備等の重い負担・父齊直の奢侈などで財政逼迫、
 商人たちの借財返済請求で江戸藩邸からの行列停止の屈辱的経験;財政改革を実行、
 歳出削減・有能家臣の登用・借金8割の放棄・磁器/茶/石炭産業育成と交易・教育改革など、
 西洋軍事技術・科学技術導入;アームストロング砲など大砲や鉄砲の自藩製造に成功、
 佐賀藩医伊東玄朴の進言で牛痘苗入手;天然痘を根絶に尽力;種痘事業の引痘方で接種、
 この痘苗は長崎・佐賀を起点に全国へ伝播、江戸藩邸に送致の痘苗から関東以北に伝播、
 蘭学英学奨励、老中阿部正弘に米国への攘夷論を主唱・英国の親善外交には開国論を主唱、
 詩歌に通ず、1861(文久元)隱居;閑叟、長男直大なおひろが家督嗣、
 正室;**盛姫**(孝盛院/徳川家齊18女、文筆家)/継室;筆姫(徳川家齊19女)、
 1868新政府議定に就任/軍防事務局輔兼任、制度事務局輔/從二位權中納言;改名直正、
 制度寮総裁/蝦夷開拓督務/開拓長官/大納言;1870辞任/麿香之間祇候/没後;贈從一位、
 「閑叟公詩藁」「忠宣公御詠」「鍋島直正書簡」著、
 [直正(;維新後の名)の別名/通称/号]別名;貞丸(幼名)/**齊正**なりまさ(藩主名)、
 通称;信濃守/肥前守、
 号;閑叟かんそう(隱居号)/昆谷/紫水/挙堂/藤世竜/連齋/茶雨亭/控庵こうあん/控齋こうさい、
 諡号;忠宣公
- 03242 **直昌**(なほまさ・早川はやかわ、直温なほほる男)1825-189874 佐渡相川の州吏の家の生/
 1838(天保9/14歳)父が農民愁訴(一国騒動)に連座;1839獄中で没、
 家禄没収され流浪の身、厳格な母のもと学問所・武術所修行/江戸の千葉周作門;劍客、
 帰郷;奉行中川忠潔の知遇を得て公務に携り1846(弘化3)旧禄に復す、
 自宅跡に演武館新築;劍術指導/維新に迅雷隊長/維新後;開墾・養蚕業に尽力、
 晩年は歌を詠み書画骨董を趣味とす、
 [直昌(;名)の別名/通称]別名;直麻呂/反長、通称;千次/源治郎
- C3248 **直政**(なほまさ・歌川うたがわ) ? - ? 江後期;安政1854-60頃の絵師:国直門、
 「東天狗」、「夕ぐれ」、「地口行灯」画
- | | | | |
|----------------|---|----------------------|-----------|
| 直正(なほまさ・川瀬) | → | 教徳(のりなり・川瀬かわせ、藩士/奉行) | F 3 5 3 8 |
| 直正(なほまさ・川島) | → | 栗齋(りつさい・川島かわしま、儒者) | B 4 9 9 0 |
| 直正(なほまさ・打越) | → | 樸齋(ぼくさい・打越うちごえ、儒者) | D 3 9 0 9 |
| 直正(なほまさ・前川) | → | 磐夫(いわお・前川/藤原、神職/国学) | K 1 1 6 6 |
| 直昌(なほまさ・倉沢) | → | 乙堂(おつどう・倉沢くらさわ、俳人) | D 1 4 2 3 |
| 直昌(なほまさ・若山) | → | 花琴(かがく・若山わかやま、兵学者) | J 1 5 2 9 |
| 直政(なほまさ・青山) | → | 守胤(もりたね・青山あおやま、神職) | F 4 4 6 7 |
| 直政(なほまさ・橋本) | → | 宗吉(そうきち・橋本、蘭学/蘭医) | 2 5 9 8 |
| 尚正(なほまさ・松尾/増田) | → | 敬業(けいぎょう・増田ますだ、儒者) | F 1 8 4 6 |
- C3249 **直正室**(なほまさのしつ・鍋島なべしま、名;国子、**盛姫**、徳川家齊18女)1811-4636 江戸城本丸の生、
 1819鍋島齊正(直正)と結婚、文筆家、1821「浜庭道の記」33「浜のみそのの記」著、
 歌;蜂屋光世「大江戸倭歌集」入(齊正朝臣室名)、
 [杉むらの木の間をもちて三輪の山月の光りも神さびにけり](大江戸倭歌)
- C3250 **直愈**(なほまさ・鍋島なべしま、別名;直喬、直員男)1756-180146歳 肥前小城藩主;1764襲封、
 藩校興讓館を創設、「和歌日々集」「寿草」著
- L3262 **直益**(なほまさ・鏑木かぶらき、雅直の長男)1805-8379 信濃飯田藩士;砲術指南役、
 歌;岩沢幸年ゆきとし門、

- [直益(；名)の通称/号]通称;賢蔵、号;心堂/乾叟けんそう、直大なおひろの父
- K3216 **直麿**(直麻呂なおまろ・渡辺わたなべ)?-1792 尾張名古屋の商家?/屋号;滝屋、
国学;田中道麿・本居宣長門、歌;本居大平「八十浦の玉」中巻;「養老滝」の長歌1首・反歌入、
[としのはに又かへりみむ見れどあかぬ老わかゆちふ多芸の野の上](八十浦;413反歌)、
[直麿(；名)の通称/号]通称;惣左衛門、号;大真庵、屋号;滝屋
- K3217 **直麿**(直麻呂なおまろ・笠因かさより/飯高)?-? 伊勢松坂の雨竜神社の神主、国学;本居宣長門、
歌;本居大平「八十浦の玉」中巻;長歌1首入(；享和2[1802]年9月29日山室の宣長の墓参)、
[直麿(；名)の通称]斎助/鈴之丞/隼人助/上総介/上野介/筑前守
- K3254 **直麿**(なおまろ・国富くにとみ、初名;直亮なおすけ)1847-191063 備前岡山の歌人;藤原忠朝・岡直廬門、
[直麿(；名)の通称/号]通称;大三郎、号;鉄谷、歌人国富重麿の一族?
なほまろ(なおまろ・清水)→ 卯三郎(うさぶろう・清水、洋学者) C 1 2 2 5
直麿(直麻呂なおまろ・日尾)→ 荊山(けいざん・日尾ひお、儒者/詩歌人) 1 8 0 5
直麿(なおまろ・前川) → 磐夫(いほ・前川/藤原、神職/国学) K 1 1 6 6
直満(なおまろ・平尾) → 元義(もとよし・平賀、平尾/興津/犬丸、地誌/歌人) 4 4 2 4
直麻呂(なおまろ・早川) → 直昌(なおまさ・早川はやかわ、剣客/州吏) O 3 2 4 2
- C3252 **直躬**(なおみ・前田まえだ、直堅男/本姓菅原)1714-7461歳 加賀金沢藩士/1729家督;40人持組頭、
1744(延享元)加賀騒動に關与;月番免/56(宝暦6)御儉約方付御用、1774(安永3)没、
歌;冷泉為村門、「言証集」編/「三公年譜」著、
[直躬(；名)の初名/通称/号]初名;直寛、通称;主税/土佐守、
号;九華/寛綽かんしゃく斎/劫庵かつあん/無明狂者/佩蘭はいらん主人/穆如ぼくによ堂/棲霞観主人
- C3253 **直見**(直躬なおみ・須賀すが、正継男)1742-76早世35 伊勢松坂の豆腐屋田丸屋;稻掛いながけ氏に譲渡、
のち薬・墨・書籍商を営む、国学;本居宣長門/歌;自邸で歌会を主催、
「蓬壺堂歌集」著、息女;木綿は本居大平の妻/佐加子(坂子)は歌人、
大平編「八十浦の玉」中巻;2首入、
[むれてゐる澳おきの小島の千鳥なす心ぞさわぐ君待つ夜らは](八十浦;597/寄千鳥恋)、
[直見(；名)の別名/通称/号]別名;章峯、通称;正蔵、
号;蓬壺堂、屋号;田丸屋(；稻掛棟隆[大平の父]に譲渡)
- C3254 **直躬**(なおみ・中村なかむら) ? - ? 江後期摂津兵庫の国学者/大坂で教授、
1795「浪速上古図説」著
- C3251 **尚監**(なおみ・井辻いづじ/旧姓;比田ひだ)1787-185569 大阪の富豪;薩摩屋主人、天満組惣年寄、
大坂天満宮を再建、歌人;伴蒿蹊・賀茂季鷹門、漢学;春田横塘門、
1836兄の松田直兄と賀茂季鷹歌集「みあれの百くさ」編
[尚監(；名)の通称/屋号]通称;仁兵衛、屋号;薩摩屋
直美(なおみ・川津) → 眞清(まさきよ・川津かわづ/萩原、神職/国学) P 4 0 0 3
直看(なおみ・井伊) → 乗徳(じょうとく・明達院、真宗僧/歌人) U 2 2 9 8
直躬(なおみ・山本) → 金木(かねき・山本やまもと、神職/雲見講) O 1 5 4 2
名臣(なおみ→あきおみ・神代)→ 名臣(あきおみ・神代かみしろ、医/国学者) D 1 0 3 0
- C3255 **直道**(なおみち・印牧かねまさ、中村正伯男)?-1760? 印牧かねまさ直方の養嗣子、儒者;大地東川とうせん門、
詩人、1756「奚疑遺稿」編(奚疑は東川の別号)
[直道(；名)の通称/号]通称;浅次郎、号;雪潭、
- C3256 **直猷**(なおみち・檜田かした/通称;安房守、活活庵主人)1731-8252 知恩院宮諸大夫の檜田直雄の養子、
織部佑、1761従六下/安房守、儒者/漢学、1768「春鸞析甲しゅんれんせきこう」著
- N3276 **直道**(なおみち・竹内たけうち、元之もとゆき[1739-1806]男)?-1847 江中後期;伊勢松坂本町の商家、
国学者;1784(天明4)本居宣長門;源氏物語講釈を聴講、
歌集;「月花百首」(1814刊)・「道しばの露」(1816刊)・「峯の松風」(1817刊)
[直道(；名)の通称]彦市/四郎平、屋号;津島屋
- C3257 **直道**(なおみち・吉井よい、直好の長男)1772-185786 阿波徳島藩士;藩の典札;小笠原流札法;父門、
藩諸式を司掌、地歴/歌に通ず、「勝間記」「阿陽忠孝伝」「清水府志」著、
[直道(；名)の通称/号]通称;永蔵、号;其楽、貫名ぬきな海屋かいおく(書画)の兄

- C3258 **直道**(なおみち・寺本てらもと、通称;十三郎)1774-1807³⁴ 肥後の儒者;大城壺梁門/子弟教育、文武に長ず、「周易秘鍾」「周易補註」「周易序卦伝解」「周易礼併覧」「毛詩補詮」、「家語正断」「和漢喪服弁」著
- L3265 **直通**(なおみち・亀井かめい、通称;伝助/号;誠翁)1778-1860⁸³ 伊予宇和郡の吉田藩士、国学者
- L3243 **直道**(なおみち・鈴木すずき/本姓;藤原、)1788-1851⁶⁴ 周防防府の神職;防府天満宮の社官、松崎天満宮祠官/国学者/歌人、尾古重伴・岡本豊嗣・渡辺斎門きよかどの師、[直道(;名)の通称/号]通称;主膳/和泉、号;賢木園、
- C3259 **直道**(なおみち・広田ひろた) ? - ? 江後期;淡路柳沢村の生;1803庄屋、増税に反対;重謹慎を蒙る/特赦、和算家;1830「算法円理解」、「利民村正録」著
- C3260 **直道**(なおみち・大沢おおさわ) ? - ? 江後期国学者;1830沼田順義ゆきよし「級長戸風しなどのかぜ」聞書き編集
- C3261 **直道**(なおみち・片山かたやま/斎藤/本姓;藤原、通称;健蔵)?-? 江後期天保1830-44頃石見浜田藩士、国学者;本居大平門、「石見国詞」「可愛川えのかわ考」著、大平撰「八十浦の玉」下巻1038;長歌入
- M3219 **直道**(なおみち・佐田さだ、通称;修平)1798-1865⁶⁸ 筑後久留米の国学者
- C3262 **直道**(なおみち・竹垣たけがき、幕臣岸本荘美男)1807-69^{63歳} 1817幕臣竹垣直清の養嗣子;家督継嗣、伊勢守/大和守、陸奥・常陸の代官/1838大和の代官、摂津・河内・播磨の代官歴任、1853布衣に列す/63(文久3)皇女和宮の用人、1863「竹垣直道京摂覺書」/「竹垣直道日記」著、[直道(;名)の通称/号]通称;長四郎/三平/三右衛門、号;翠翁、
- C3263 **直道**(なおみち・竹内たけうち、元之もとゆき男)?-? 江後期伊勢松坂の商人/歌人;1784本居宣長門、さらに本居春庭門、「歌はもとより」、1814「月花百首」16「道しばの露」著、1816-17「しみのむしろや月次古風歌文会」編、17「峯の松風」、「後鈴のやなごりの落葉」著、[直道(;名)の通称/屋号]通称;四郎平、屋号;津島屋、
- K3256 **直道**(なおみち・田中たなか) ? - ? 江後期;歌人、1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、[山姫は夜半よはの嵐にくりためて氷にむすぶ滝の白糸]、(大江戸倭歌;冬1158/山寒水欲氷)
- M3207 **直道**(なおみち・小塚こうか、通称;内蔵助くらのすけ)1822-93⁷² 尾張中島郡の国学者、田島仲道の師
- C3264 **直道**(なおみち・酒井さかい忠温/通称十之丞、号;帰耕、十之丞敬忠男)?-1895 越前福井藩側用人/中老、国事奔走/1864長州遠征、1864「酒井十之丞書簡集」著
- 03262 **直道**(なおみち・古川ふるかわ、)1840-1876³⁷ 筑前穂浪郡の製蠟業/屋号;帯屋、歌人
- N3258 **直道**(なおみち・青山あおやま、通称;佐次郎、景通の長男)1846-1906⁶¹ 美濃苗木藩士;1862刀番/68目付、国学;平田鏡胤門、藩政に参画/1869(明治2)大参事に抜擢(父景通が神祇官;政府に登用)藩校設立企画(;曾我祐申すけのぶが設立に尽力し日新館落成)/藩政改革;藩士の焼打騒動、廃仏毀釈を断行/廃藩置県後;官吏;1879岐阜県池田郡長/東京;神祇官判事/晩年は不遇、
- P3212 **直道**(なおみち・矢野やの、道正男)1847-1898⁵² 伊予喜多郡阿蔵村(大洲)の国学者、儒・国学;兄玄道げんどう(1823-87)門、維新後;皇学所御用掛/河内枚岡神社宮司、「矢野玄道翁略伝料」著/玄道著「皇典翼」の校訂、[直道(;名)の初名/通称]初名;幸男、通称;清六
- N3264 **直達**(なおみち・田中たなか、)1848- ? 越後新潟の国学者、日向宮崎神社宮司
- | | | | |
|-----------------|---|-----------------------|-----------|
| 尚道(なおみち・並河) | → | 尚道(ひさみち・並河なみかわ、歌人) | B 3 7 9 7 |
| 尚道(なおみち・高須) | → | 葦根(あしね・高須たかす、商家/歌人) | H 1 0 9 3 |
| 直道(なおみち・野口) | → | 年長(としなが・野口、国学者) | N 3 1 2 1 |
| 直道(なおみち・山口) | → | 西里(さいり・山口やまぐち、儒者/教育) | P 2 0 7 0 |
| 直道(なおみち・稲毛) | → | 屋山(おくざん・稲毛いなげ、篆刻家) | B 1 4 0 8 |
| 直道(なおみち・奥野) | → | 安行(やすゆき・奥野おくの、国学/神職) | F 4 5 6 0 |
| 直路(なおみち・伊丹) | → | 直彝(なおつね・伊丹いたみ、藩主/文筆) | B 3 2 7 2 |
| 脩道(なおみち・藤原) | → | 為光(ためみつ・藤原ふじわら、廷臣/歌人) | S 2 6 8 2 |
| 直通室(なおみちのしつ・井伊) | → | 本光院(ほんこういん、三条実治女/歌人) | G 3 9 1 4 |
- C3265 **直光**(なおみつ・結城ゆうき) ? - ? 南北期の武将/足利尊氏家臣、1387頃軍記「源威げんい集」著者説あり
- 03233 **直光**(なおみつ・間はさま、)1749 - 1819⁷¹ 土佐高知藩士;江戸詰、和学者、

[直光(；名)の通称] 亀之助/十左衛門

- C3266 **均光**(なほみつ/なりみつ・柳原やなぎわら/本姓;藤原、紀光男)1772-1812 41 母;勸修寺頭道女の道子、1799参議、1810(文化7)大納言/11正二位、歌:桃沢夢宅・香川景樹・木下幸文らと歌会、「柳原均光日次記」/1790「賀茂祭奉行記」95「万葉集類句」、「宣下略案」「宣下類聚」編、妻;正親町三条実同女の安子やすこ(歌人)、息;隆光、1812(文化9)没;法号三昧院
- M3214 **直満**(なほみつ・後藤ごとう、) ? - 1819 江後期;伯耆米子の商家;後藤家6代当主、国学・歌;千家俊言としざね(1764-1831)門・1801本居宣長(1730-1801)門、米子国学振興に貢献、歌・蹴鞠;飛鳥井雅威またけ(1758-1810)門、茶道;三斎流/光格天皇より茶碗を賜う、庭内に茶席松風庵を設く、寛政-文化1789-1818頃の米子の代表的文化人、[直満(；名)の初名/通称/号]初名直僖、通称;市郎右衛門、号;桃舎ものや
- N3255 **直光**(なほみつ・清家せいけ、)1798-1870 73 伊予宇和郡千丈村南茅の神職、国学者/歌人;二宮正禎まさただ・清家堅庭門、[直光(；名)の通称/号]通称;但馬、号;南草
- 直光(なほみつ・浅香) → 青洲(せいしゅう・浅香、幕臣/本草/歌人) I 2 4 6 7
直光(なほみつ・鈴木) → 眞光(まみつ・直光・鈴木すずき/源、幕臣/歌) L 4 0 6 6
直允(なほみつ・山国/田丸) → 稲之衛門(いなのおもん・田丸、尊攘/天狗党) I 1 1 0 6
直峯(なほみね・鈴木) → 重規(しげのり・鈴木/穂積、幕臣/歌人) S 2 1 0 4
- P3270 **直旨**(なほむね・国枝くにえだ、通称;宗右衛門、) ?-? 江前期;武士/幕臣?/歌人、伝不詳、歌人;了然尼撰(茂睡編)[若むらさき]3首入、[そのかたにありと告げても目に見えぬ人は雨夜あまのつきず恋しき]、(若むらさき;147/そのかた;しかじかの所/雨夜の月のように見えず尽きない恋)、[年積る涙も袖に落ちたぎつ我がしらかみもくろき筋なし](同;184/述懐)
- C3267 **直宗**(なほむね・沼田ぬまた、通称;栄記)1778-1842 65歳 熊本の刀工:刀剣鍛錬法の研究、木村宗清の師、「刀剣疑解」「刀剣復古弁」「刀剣図説」「劍工談図説」「水心子答書」著
- L3200 **直致**(なほむね・井伊い/本姓;藤原、直幸なほひで男)1788-1831 44 母;直幸側室の大魏院(池崎家の女)、直明なほあきら・直容なほなりの実弟、江戸の生/1789彦根に入る、歌人、[直致(；名)の通称]東之介
- 直宗(なほむね・鍋島) → 直能(なほよし・鍋島なべしま、藩主/歌人) C 3 2 9 0
- C3268 **直持**(なほもち・小塚こつか、通称;利蔵/峯雄)1796-1873 78歳 尾張中島郡祖父江村の国学者:鈴木胤あきら門/さらに本居大平・本居内遠門、漢学も修学;文人として地方文化に貢献、「宇津保物語系図」「職原図解」「万葉長歌類葉抄」著、大平撰「八十浦の玉」下巻;長歌(679)・短歌入、[いたづらになど咲くらむとあるじなき宿の桜を見てもなげかる]、(八十浦;1047/川村秋輔翁みまかられぬる頃の詠)
☆川村秋輔あきすけ → 正雄(まさお・川村/河村かわむら、尾張の国学者) B 4 0 3 9
- C3269 **直本**(なほもと・惟宗これむね、秦氏) ?-? 平安前期;讃岐の明法家/京住;883朝臣、907頃明法博士、私邸で律令講義、「令集解」「律集解」「檢非違使私記」著、公方きんかたの父
- C3270 **直幹**(なほもと/なほしも/ただもと・橘たちばな、字;橘鳳、長盛男) ?-? 982存 母;棟良王女、平安前期廷臣;学問;橘公統門/937対策及第/大内記・大学頭/948(天曆2)文章博士/正四下/式部大輔、冷泉天皇の侍読/954(天曆8)民部大夫兼任を願い申文奏上;本朝文粹・和漢朗詠集に採用、十訓抄・直幹申文絵詞に逸話・説話化される、941藤原忠平撰政辞職の表の勅答や957/960仁王会の呪願文を依嘱され作成、詩歌に長ず:「直幹草」著、943日本紀竟宴和歌・坤元六屏風詩参加/959天徳詩合参加、類聚句題抄・新撰朗詠集・和漢兼作集・文粹入、後撰1306、[思ひやる心ばかりはさはらじを何隔つらん峰の白雲](後撰;離別1306、遠くへゆく人に餞する所での詠/遠くのあなたを思いやる心は差障りはない、それなのに峰の白雪はどうして二人を隔てるのか)
- C3271 **直基**(なほもと・平たいら) ? - ? 南北期廷臣;民部丞、歌人:1387「至徳百首歌」入、新後拾1386、[厭ふべき世のあらましもなかりけり時にだに捨てられぬ身は](新後拾;雑1386)

- C3272 **直基**(なおもと・松平まつだいら、初名;忠朝、福井藩主結城秀康6男) 1604-48 45歳 母;三好長虎女品量院、1607父没後;祖父結城晴朝の養嗣子;14晴朝隠居料5千石相続、大和守、1624越前勝山藩主を継嗣、1626松平姓に復す、35越前大野藩主/44山形藩主、1648(慶安元)播磨姫路藩主に移封/従四下、文武奨励;越後流兵法の沢崎重綱を招聘、歌;烏丸光広門、歌・歌学書を書写/謡曲を記録、「愚覚書」「能装束附」著、大和守/侍従、忠直・忠昌・直政の弟、正室;越前藩家老本多富正女の布連ふれん(歌人)、直矩なおり(母;側室/堀家女)の父、
[八月十五夜月をながめて身の齡の五十年過ぎけるを思ひて、
百とせになかばの秋の月もはやともにかたぶく影をしぞ思ふ]、
(茂睡[鳥の迹]述懐640)、
[直基(;名)の幼名/法号]幼名;五郎八/七郎、法号;仏性院
- C3273 **直職**(なおもと・田丸たまる/通称新九郎) 1743-?1799存 幕臣;1790小普請方、1790「ぬきいと」著、「武徳編年集成備考」著
直幹(なおもと・巨勢) → 卓軒(たくけん・巨勢こせ、儒者) E 2 6 2 0
直幹(なおもと・小出) → 清音(きよね・小出こいで/大江、国学歌) U 1 6 3 1
直元(なおもと・鍋島) → 元茂(もとしげ・鍋島なべしま、藩主/兵法家) C 4 4 5 9
直元(なおもと・稲留) → 直之(なおゆき・稲留いなとめ/平、歌人) P 3 2 4 1
直元(なおもと・平尾/興津) → 元義(もとよし・平賀、平尾/興津/犬丸、地誌/歌人) 4 4 2 4
- C3274 **直基室**(なおもとのしつ・松平まつだいら、名;布連ふれん、本多富正女) ?-1687 松平直基(1604-48)の室、歌人、1673頃家集「霊台院和歌」(;1670直基23回忌追善歌などを含む)、
[直基室・布連の謚]謚;霊台院
- C3275 **直守**(なおもり・中城なかじょう、通称;助蔵、中山利蔵男) ?-? 江後期土佐長岡郡種崎の生/土佐藩士、大廻御船頭方/軍艦奉行に意見書提出;禄召上/1811旧姓中城に復す、国学/歌;清蔭・雅澄門、直楯(1841-1909/土佐藩御抱水主か)の父、歌;「あまつさへつり」著(門弟坂本春樹編)、1861-8「海人藻屑」、「佐川の道の記」著
- 03272 **直盛**(なおもり・本多ほんだ、旧姓;笹瀬) 1638-78 41 幕臣;大番、和学者、
[直盛(;名)の通称] 虎之助/勘右衛門/勘平
- L3201 **直該**(なおもり・井伊い/本姓;藤原、直縄の長男) 1656-1717 62 母;直縄室の桜居家の女、近江彦根藩4代藩主及び第7代藩主、正四位上/玄蕃頭/掃部頭/右衛門大夫/右衛門督、1672叔父直澄の養子/76(延宝4)家督嗣;彦根藩4代藩主;79家中法度制定;家臣を統制、下屋敷(槻御殿)に玄宮園建造/琵琶湖に松原港・長曾根港改築/85藩士救済;融資制度開始、家老木俣守長に下命し「侍中由緒書」編纂、1688日光東照宮改修総奉行;90修復完了、1695老中待遇/97(元禄10)大老、99藩内の飢饉に救米支援、1700大老辞任し帰国、1701次男直通に家督譲り隠居;直興を直治なおると改名、剃髪し覚翁と号す、1710直通が早世;3男直恒が継嗣;急逝、還俗し直該なおもりと改名;7代藩主に再任;1711(正徳元)再度大老に就任、正四位上中將/1713將軍家継の元服に烏帽子親を務める、1714(正徳4)5男直惟の元服後;大老を辞任;隠居;名を直興に戻す/出家;全翁と号す、末子の直定に1万石を分知し彦根新田藩を創設、能楽/歌を嗜む、正室;蜂須賀隆重女;婚儀までに死去/側室は平石氏、田山氏、玉米氏、大橋氏、直通・直恒・直矩・直惟・直定・女;井伊直朝室・阿部正喬室・三条公充室・松平康弘室らの父、家督継嗣を2度・大老を2度・改名すること4度;目まぐるしい生涯、井伊家の中興の祖、大老在任中;第7代將軍家継の継嗣問題・江島生島事件などに対処/不行跡酒井忠能を預る、
[直該(;名)の幼名/別名/通称/号]幼名;吉十郎、別名;直治/直興、
通称;玄蕃頭/掃部頭/右衛門大夫/右衛門督、号;覚翁軒/全翁
直盛(なおもり・片桐) → 且元(かつもと・片桐、部将) C 1 5 5 5
直盛(なおもり・水野) → 守隆(もりたか・水野みずの/源、武将/連歌) F 4 4 5 6
- N3257 **直也**(なおや・千田せんだ、) 1833- 1908 76 陸奥(陸中)和賀郡の国学者;
国学;同郷の菊池正古まさひさ門/国学;盛岡の江崎恒久門
- P3201 **直哉**(なおや・宮武みやたけ、) 1837-1904 68 讃岐高松藩医、兵法・国学;中村尚輔ひさすけ門、
[直哉(;名)の通称] 正立しょうりつ/尚斎、宮武正策しょうさく(青邱/1832-98)の一族

- 直矢(なおや・中台) → 元(はじめ・中台なかだい、藩士/儒者) E 3 6 4 3
直矢(なおや・漆戸) → 茂樹(しげき・漆戸うるしど/源、藩士/歌人) Q 2 1 9 0
直哉(なおや・荒賀) → 直哉(なおちか・荒賀/重田、国学) K 3 2 8 6
直哉(なおや・栗山) → 文行(ふみゆき・栗山くりやま、国学/歌人) I 3 8 1 8
直弥(なおや・鈴木) → 蕃利(しげとし・鈴木すずき、藩参政) Z 2 1 2 1
- C3276 直泰(なおやす・勅使河原てしがわら、通称;三左衛門)?-? 江中期上野前橋藩士、1749「直泰夜話」著
C3277 直安(なおやす・小野木おのぎ)?-? 尾張俳人、1664友次ゆうじ「阿波手集」入
C3278 直養(なおやす・人見ひとみ、字;友竹/友節、楽義齋)?-? 江中期京の医者/大阪開業、1716「文家必要」編
K3277 直綏(なおやす・赤井あかい、)1689-1739⁵¹ 幕臣;寄合、歌、
[直綏(;名)の通称/法号]通称;鉄之助/図書/将監/相模守、法号;日応
- C3279 直養(なおやす・溝口みぞぐち、初名;直範、直温男)1735/6-1797 越後新発田藩主/1761襲封、学問奨励、
1778社倉制度;救貧/80藩政基本の安永令発布/84新律公布、闇齋学;迂斎・剛斎門、
1777「昨非抄」「溝口直養侯疑問」、84「資治通鑑綱目抄略」編、「溝口浩軒公火中草稿」、
「夢のはなし」「憑几録」「勸学説」「勸学筆記」「春秋四伝抄略」外著多数、
[直養(;名)の幼名/号]幼名;亀次郎、号;浩軒こうけん、法号;靈光院
- 03277 尚寧(なおやす・正野まさの、通称;安五郎/玄三)1743-1808⁶⁶ 近江蒲生郡日野の薬種業;感応丸販売、
初代玄三(1659生)が行商後1701(元禄14)[万病感応丸]を販売;日野商人活躍の原点、
尚寧は歌人;冷泉為村門、代々医者;玄三を名乗る/法橋
- C3280 直養(なおやす・前田まえだ/本姓;菅原、直方男)1772-1805³⁴ 加賀金沢藩士/年寄、「菅原直養覚書」著
C3281 直恭(なおやす・熊谷くまがい、屋号;鳩居堂)1783-1859⁷⁷ 京寺町の墨香具商、救貧に尽力/種痘法普及、
直孝の父、1833「飢饉用心書」37「きょん年の食物」41「農家必要豊年歌」45「竹生島勧誘記」、
1849「痘瘡かるくする伝」59「麦飯さとし草」著、
[直恭(;名)の通称/法号]通称;久右衛門、法号;蓮心居士
- N3294 直安(なおやす・戸田とだ/本姓;藤原、直澄男)1789-1862⁷⁴ 美濃大垣藩家老戸田治部左衛門家;
1789父没;直安幼少のため戸田権太夫3男の直之が8代目家督嗣、
1806(文化3)9代目を相続;知行千石、1826(文政9)家老職;4百石加増、
都賀女つがじよの弟/妻;満壽女ますじよ、国学・歌;富樫広蔭門(姉・妻と同門)、
[直安(;名)の通称/号]通称;治部左衛門(代々の称)、号;休心
☆戸田治部左衛門家;①永重②直永③直茂・⑦直澄⑧直之⑨直安⑩直喬⑪直養
- M3202 直養(なおやす・熊谷くまがい、)1806-1872⁶⁷ 出羽能代の国学者/歌人;鈴木重胤・平田篤胤門、
篤胤没後の能代での平田学入門者拡大に尽力(;鉄胤との書翰)
- 03278 直保(なおやす・正宗まさむね、)1836-1913⁷⁸ 備前和気郡穂浪の正宗直胤の養子、
国学・歌・狂歌;養父直胤門、
[直保(;名)の通称]隅田屋二輔/逸郎
- M3201 直安(なおやす・熊谷くまがい、)1837-1913⁷⁷ 出羽能代の国学者/歌人;宇井可道・師岡正胤門、
能代の歌人たちの淳風会に参加;中山りさ・玉井大麟と交流
- L3254 直泰(なおやす・押上おしあげ、美喬2男)1844-1911⁶⁸ 飛騨高山地役人の家/国学者;山崎弘泰門、
美香よしかの弟、
[直泰(;名)の通称/号]通称;忠三郎、号;柳窓/香久良かぐら
- 直養(なおやす・西田) → 直養(なおかい・西田、家老/歌人) 3 2 8 1
直養(なおやす・山口) → 直養(なおかい・山口、幕臣) 3 2 8 2
直養(なおやす・小田野) → 清軒(せいけん・小田野おだの、儒者) I 2 4 0 0
直廉(なおやす・寺本) → 湖萍(こひょう・寺本てもと、郷土史家) N 1 9 5 3
- C3282 直之(なおゆき・平山ひらやま、通称;奈良屋孫兵衛)?-? 江前期;撰津大坂本町の俳人;重頼門、
平山雅珍の縁者?、剃髪号;方石/不琢、
1656梅盛「口真似草」58燕石「牛飼」入、狂歌:-66古今夷曲集入、
[夫婦めをとのみ入りぬる風呂はあかなくのせなにむかひてなほもいもふき](夷曲集;452、
飽かなくと垢無く・妹吹くと風呂吹き芋を掛る/吹くは肌に息をかけ垢をこすり落とす)
藤田不琢と同一? → 不琢(ふたく・藤田ふじた、幸庵/俳人) H 3 8 7 5

- C3283 直行(なおゆき・寺西てらにし、通称三右衛門、直次男) 1613-6654 金沢藩馬廻組、1662「乗物御赦面願」著
- P3241 直之(なおゆき・稲留いなとめ/本姓;平、直元?)?-? 江前期;武士/歌人;1688浅井忠能[難波捨草]入、
[淋しさをとひし時雨は染めやらで夕日うつろふ庭の紅葉葉](難波捨草;秋302)
- C3284 直之(なおゆき・石橋いしばし/通称;新右衛門、雲梯) 1656-171257 和泉日根鳥取歌人;平間長雅門、俳人、
1700和泉地誌「泉州志」著
- K3206 直行(なおゆき・足代あじろ) ?-? 江前期上方の俳人、
1673西鶴「生玉万句」第六露第三句入、
[初汐の満つればやがて御舟とめて](生玉万句;露第三句、
脇句不琢;かけ奉る十六夜の月)
- C3285 直行(なおゆき・安積あさか長次郎、澹泊男?)?-? 江前期儒者、「安積氏由緒」編
- C3286 直為(なおゆき・堀ほり直長、通称修理、法号鉄翁院、直利男) 1698-174346 越後村松藩主/1711襲封、
1717大坂加番/朝鮮使節馳走役、武芸奨励、27「鉄翁公訓言」著
- C3287 直仰(なおゆき・宮原/通称八郎左衛門、何有かゆう、直重男) 1702-7675 備後福山の医者;山上養純門、
福山藩士;1750普請奉行/60荒物奉行/68隠居、詩文、地誌「備陽六郡志」著
- N3273 直之(なおゆき・高島たかしま、通称;六左衛門、旧姓;金須) 1710-7869 陸奥仙台の和漢学者、
儒/国学;藩士佐藤定静さだざむら門
- C3288 尚之(なおゆき・見田みた、通称;此丸[此麿]、啓玄/啓元?)-1840 尾張熱田の国学者;本居大平門、
1813医師、1815「歌学集腋」著
- N3277 尚行(なおゆき・なおつら・建部たけべ、) 1790-185162 越後蒲原郡横越組の大庄屋、建部家7代当主、
国学;鈴木重胤門、詩人、妻;桂成章女れい、道之助の父、
娘婿の諸橋慶三郎(建部蔵軒/諸橋轍次の兄)が家督嗣、
[尚行(;名)の別名/字/通称/号]別名;道、字;于伯うはく、通称;庄助、号;横渠おうきよ
- 03263 直之(なおゆき・古久保ふるくほ、通称;弥九郎) 1799-188284 紀伊日高郡の国学者、
常德つねのり・資愛すけちかの父/実行さねゆきの祖父
- C3289 直行(なおゆき・永田ながた、通称;長左衛門) 1813-7563 肥後菊池郡隅府の庄屋、国学;中島広足門、
菊池神社初代宮司、1854「菊池俗言考」、「肥後方言考」「吾妻日記」「異人渡来記」著、
「浦賀紀行」著
- 03290 尚志(なおゆき・松野まつの、) 1814-189683 備後三原の広島藩郡奉行属吏;三原浅野家家臣、
国学者;平田鍊胤門、勇雄いさお(1852-93)の父、
[尚志(;名)の通称/号]通称;重太郎、号;梅廼舎
- 尚之(なおゆき・熊谷) → 箕山(きざん・熊谷、儒者/詩人) I 1 6 5 6
- 尚之(なおゆき・福野) → 尚之(ひさゆき・福野ふくの、歌人) M 3 7 4 8
- 尚之(なおゆき) → 尚之(ひさゆき)も多数あり
- 尚行(なおゆき・辻) → 喜安(きあん・辻つじ、藩士/医者) J 1 6 5 2
- 直之(なおゆき・鳥飼/大塚) → 毅斎(きさい・大塚おおつか、藩士/儒者) I 1 6 5 4
- 直之(なおゆき・金田) → 秋足(あきたる・金田かねだ、神職/国学) H 1 0 3 7
- 直行(なおゆき・須田/長谷川) → 素丸(そまる・長谷川、馬光、幕臣/俳人) 2 5 2 9
- 直行(なおゆき・木名瀬) → 小右衛門(こえもん・木名瀬きなせ、故実家;礼法) L 1 9 7 2
- 修之(なおゆき・志村/古屋) → 峰城(ほうじょう・古屋/伴、儒/書家) F 3 9 7 6
- J3290 直義(なおよし) ?-? 室町期;尾張熱田神宮の神職、
連歌;1423「熱田法楽連歌」連衆(2句)、
[海をとなりの須磨の山風](熱田法楽;賦山何;初裏14/前句四方から源氏物語連想、
前句;覚阿;花の比こる四方の木ずゑの雪晴れて)
- C3290 直能(なおよし・鍋島なべしま、初名;直宗/字:洪然、号;星巖/泊養、元茂男) 1612-7968 肥前小城藩主;
1654家督継嗣、歌;飛鳥井雅章門、
1677「武林歌仙」、「桜岡詩歌」「不忘集」「八重一重」、「夫木和歌類句集」編
- C3291 直好(なおよし・藤井/通称長兵衛、怒叟/要本、修姓藤) ?-?70余歳没 江前期安芸和算;孝和に私淑、
1696「算術志元録」著
- C3297 直好(なおよし・鈴木すずき、通称;新助、直賢男?)?-? 江中期播磨竜野和算家;父門/中西流、

- 1727「算法五秘明解」著、有松正信の師
- C3292 **直好**(なおよし・服部はつとり/通称善兵衛、沂風、直貞男)1664-1738⁷⁵ 尾張名古屋藩甲州流兵法師範、成瀬豊前守同心/1729致仕、「惟一伝記」著、直房の父
- C3293 **直好**(なおよし・朴沢ほおざわ/通称庄蔵、十四郎男)?-? 江中期仙台工匠;父門/平内政治佐々木勘助門、1744棟梁、90江戸藩邸造営の棟梁、71「無隠図彙」、「蘊崇木匠枢要」「諸籍考」著
- C3294 **直良**(なおよし・平田、通称;勘助)1719-? 1801存 岩代会津の和算家;中条昌秀門、1788「算幀記」1801「数学方図通記」著
- P3228 **直好**(なおよし・吉井よいい、)1728-1800⁷³ 阿波鳴門の生/徳島藩士;御弓丁住、小笠原流礼法家、国学者、妻;藩絵師矢野典博女、直道(礼法継承)・貫名ぬきな[家祖姓]海屋かいおく(書画)の父、[直好(;名)の通称/号]通称;永助、号;敬斎/敬堂
- L3218 **直好**(なおよし・磯谷いそがや)?-?文化1804-18頃没 京の聖護院宮官人/国学、歌人;小沢蘆庵(1723-1801)門、[直好(;名)の初名/通称/号]初名;直吉、通称;右衛門、号;瀬泉らいせん
- C3295 **直義**(なおよし・曲淵まがりぶち/通称久米太郎、直猶男)1773-? 幕臣;1790家督嗣、1793「曲淵家譜」著
- C3296 **直侯**(なおよし・溝口/通称恵三郎、直信男/伯父直養養嗣)1778-1802³⁵ 新発田藩主;1786襲封、天候不順の不作・洪水・佐渡警固等で財政悪化/「諸書籍涉獵抄」「諸聞割記」著、直諒なほあき父
- 3204 **直好**(なおよし・熊谷くまがい、初名;信賢、直昌男)1782-1862⁷⁵ 周防岩国藩士/歌:景樹門/桂園派筆頭、1819藩主の歌道師範/藩内の争議絶えず;1825脱藩、京で歌学専念、相国寺に参禅、笛琵琶等諸芸を嗜む/大阪で没、「万葉集新釈」、「直好日記」、1843「古今集正義総論補註」著、1845家集「浦の汐貝」(三井宗之むねゆき編序)、1846「同論弁」、60「梁塵後抄」著、[光なき夕ゆふの月の影ながら水にうつれる秋萩の花](浦の汐貝;608萩映水)、[直好(;名)の通称/号]通称;八十八/助左衛門/勘作、号;長春亭/長春舎/軽舟亭、香一居士/桃屋、法号;不識庵
- 03270 **直好**(なおよし・堀口ほりぐち、字;子南/通称;久太夫)1787-1850⁷⁶⁴ 若狭小浜の国学者;伴信友門
- K3219 **直良**(なおよし・加藤かとう) ? - ? 近江甲賀郡信楽代官多羅尾(氏純)家の家臣、国学;本居大平門、大平撰「八十浦の玉」下巻;氏純の供に吉野山の詠歌入、同家臣の吉住千茂・藤尾為徳・久松穂積と同行、[吉野山杉の梢もふりうづむ雪と見るまで花咲きにけり](八十浦;752)
- C3298 **直喜**(なおよし・赤井あかい、名;直定、字;喜内/伝右衛門、号;三恥、直次男)1810-? 1888存 加賀藩士、1864耕雲斎の西上時に武将として功績、1864「葉原記」、「赤井直喜筆記」/「見聞袋群斗記」著
- K3230 **直義**(なおよし・堀ほり/本姓;藤原、通称;三四郎/号;一水)?-? 江後期歌人、妻;雅子(通年子つねこ)、1824清水浜臣撰「泊酒舎ささなみのや扇合」妻雅子と共に入(直義;35番右/雅子;39番左)、1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、[桜散る堀江の波間見渡せば蘆の若葉も花さきにけり](大江戸倭歌;春282/江花)妻雅子(まさこ・堀) → 通年子(常子つねこ・堀ほり、歌人) K 3 2 3 0
- C3299 **直義**(なおよし・伊藤いとう、通称;利三郎)?-? 江末期和算家;馬場正統門、1839「拾璣算法解」/「拾璣解」著
- N3292 **直好**(なおよし・鶴田つるた/本姓;藤原、)1829-76⁴⁸ 肥後熊本藩士、国学;林有通門、[直好(;名)の通称/号]通称;伍一郎、号;黙翁/全真
- D3200 **直侯**(なおよし・松平まつだいら、初名;昭融、徳川斉昭8男)1839-61^{早世23歳} 松平典則の養嗣子;武蔵川越藩主、歌人;尾高高雅たかまさ門、家集「花の余波なごり」(山田太郎左衛門撰)、[直侯(;名)の字/通称]字;子令/通称大和守
- D3201 **尚芳**(なおよし・原はら、通称;半五郎)?-? 江末期下総の和算家;剣持章行門、「算法開蘊抄」校
- 尚良(なおよし・荒木田) → 尚良(ひさよし・荒木田、神職/歌人) C 3 7 1 4
- 尚芳(なおよし・小本) → 尚芳(ひさよし・小本おもと、藩士/歌人/書) C 3 7 1 9
- 尚義(なおよし・植田) → 有年(ありとし・植田うねだ、医者/勤王) H 1 0 0 8
- 尚嘉(なおよし・松園) → 尚嘉(ひさよし・松園まつぞの/九条、僧/神職) L 3 7 2 7
- 直義(なおよし・足利、慧源) → 直義(ただよし・足利、室町幕政/歌人) G 2 6 0 4

- 直義(なおよし・近藤) → 謙山(兼山けんざん・近藤こんどう、医者) J 1 8 2 5
直義(なおよし・平尾/興津) → 元義(もとよし・平賀、平尾/興津/犬丸、地誌/歌人) 4 4 2 4
直好(なおよし・稲葉) → 大壑(たいがく・稲葉、藩士/文筆) B 2 6 1 6
直好(なおよし・味池) → 修居(しゅうきよ・味池あじち、儒者) H 2 1 0 7
直珍(なおよし・神代) → 直与(なおとも・鍋島、藩主/洋学/歌) B 3 2 8 7
直良(なおよし・松山) → 定申(ていしん・松山、藩家老/兵法家) B 3 0 2 6
直良(なおよし・大脇) → 康晟(やすあき・大脇おおわき、藩士) 4 5 8 3
直良(なおよし・川村) → 榴窠(りゅうか・川村かわむら、藩儒者/教授) D 4 9 1 1
直諒(なおよし・松平) → 直諒(なおあき・なおよし・松平、藩主/儒) J 3 2 9 9
直慶(なおよし・松田) → 直兄(なおえ・松田、神職/国学) 3 2 7 3
直由(なおよし・鈴木) → 入楚(にっそ・鈴木、神風館8世、俳人) E 3 3 8 3
直吉(なおよし・中屋/碓井) → 梅嶺(ばいれい・碓井うすい、酒造業/儒/俳) C 3 6 3 2
直吉(なおよし・関) → 讚蔵(さんぞう・関せき、藩士/砲術家) M 2 0 5 6
直余之(なおよし・小川) → 清流(すがる・小川おがわ、藩士/国学) I 2 3 1 5
修喜(脩喜なおよし・小出) → 兼政(かねまさ・小出こいで、暦算家) O 1 5 9 3
- D3202 直頼(なおより/ただより・本郷ほんごう、赤松範資[1351没]男/本姓;源) ?-? 南北期武士/六位・掃部助、
宮内少輔、歌人:新千1946/新後拾785、叔父;赤松則佑、
[数ならぬ身はなかなかにうき事をならひになしてなげかずもがな](新千;雑1946)
- D3203 直頼(なおより・新庄しんじょう、直昌男) 1535-1612 武将/豊臣秀吉の臣、大津城主、歌人
- D3204 直寄(直寄なおより・堀ほり、賜姓;羽柴、越後三条城主堀直政2男) 1577-1639 63歳 母;宇佐美祐実女、
尾張の生;武将/1590(天正18)豊臣秀吉の小姓/98従五下・丹後守、越後坂戸城主、
1602越後蔵王堂城主堀蔓千代の後見役兼任/父直政没後堀家に内紛;1610信濃飯山4万石、
徳川方で大坂陣に功績;1616蔵王堂8万石に移封/18越後村上藩主10万石に移封;
築城・城下町建設・新田開発に尽力、兵学精通;家康・秀忠の信頼を得る、沢庵禅師と交流、
兵学;1617「軍記」37「鉄団記」、「鉄団公軍書」著、
[直寄(;名)の幼名/通称/号/法号]幼名;千之助、通称;三十郎、号;鉄団、法号;凌雲院
- 直頼(なおより・坂内) → 山雲子(さんうんし、坂内直頼、国学/歌) E 2 0 1 2
直入(なおより・須賀) → 直入(なおより・須賀すが/武部/小林、医/歌) D 3 2 0 5
- 03208 直廬(なおより・岡おか、) 1847-1933 87 備前賀陽郡の吉備津神社祠官、国学者・歌人、
儒/皇典/国学;上田及淵しきぶち門/歌;伊藤義足よしたり・小郷寧息門/古学;平賀元義門、
維新後;師範学校教員、中堀直秋の師、
[直廬(;名)の別名/通称/号]別名;柎直まさな/泰直/直蔓、通称;美之介/周防、
号;斎垣内いかわのかき
- なか(・田本/深川) → 秋色(2世しゅうしき・田本/深川、俳人) H 2 1 5 6
中(なか・新貝) → 直蔭(なおかげ・新貝しんかい、庄屋/神職) N 3 2 3 9
奈加(なか・山梨) → 志賀子(しがこ・山梨やまなし、歌人) B 2 1 3 4
- D3206 仲章(なかあき・高階たかしな、丹波守為章長男) 1087-1107 早世 21 母;藤原基貞女、平安後期廷臣;
但馬守/右兵衛佐/正五下、1103「右兵衛佐高階仲章記」著
- K3205 中明(なかあき・早川はやかわ) ? - ? 江前期上方の俳人;
1673西鶴「生玉万句」第三藤発句等入、
[松に藤七寶荘殿まき柱](生玉万句;藤発句)
- L3202 中顯(なかあき・井伊い/中野/本姓;藤原、藩主直中6男) 1799-1852 54 母;宮川春昭女;津田信備養女、
近江彦根藩主家の一門、藩主直亮の異母弟・直弼の異母兄、
1800(寛政12/2歳)中野助太夫中経(井伊家家老)の養子/1816(文化13)本姓井伊に復す、
直亮・直弼ら歴代藩主を補佐、歌人、正室;生駒吉雄女/息子;顯道(内藤政文)・亮寿、
亮寿が家督嗣(亮寿はのち庶流の貫名家を再興;貫名ぬきな徹とおる/1830-1902)、
[中顯(;名)の通称]恭之介/筑後
- 仲聴(なかあき・長利) → 仲聴(なかあき・長利おさり、神職/歌人) L 3 2 5 3
仲章(なかあき・本城) → 素堂(そどう・本城、藩士/勤王派/処刑) K 2 5 2 6
- D3207 長章(ながあき・土佐とき/姉小路/本姓;藤原、土佐長隆男/土佐光正の嗣子) ?-? 鎌倉後期絵師;

越前守従五下、花鳥画・人物画に長ず、「蒙古襲来絵詞」「法然上人行状画図」;父と共作、「明恵上人解脱上人縁起」画

- D3216 **長明**(ながあき・村井むらい、長頼2男)1582-1644**63歳** 加賀金沢藩士/300石、利家・利長・利常に勤仕、随筆、「亞相公(前田利家)夜話」「亞相公実記」「象賢紀略」「村井重頼覚書」著、長時の父[長明(;名)の初名/通称/号]初名;重頼/長之、通称;初め勘兵衛/のち又兵衛、
- D3208 **長顕**(ながあき・黒沢くろさわ、石斎[安部弘忠]男)?-? 江中期宝永1704-11頃出雲松江藩士、儒者、松原基と「国令」編纂、長尚ながひさの兄
- N3247 **栄章**(ながあき・須藤すどう、通称;孫四郎)1715-1800**86** 讃岐多度郡の国学者、歌人;鴨祐為門
- D3209 **長秋**(ながあき・伊藤いとう)1737?-1787**50余歳** 筑後柳河藩士、江戸日本橋の書家;松山天姥てんぼ門、1765「驄馬行そうまこう」、「心画余録」「執古齋書談」著、[長秋(;名)の字/通称/号]字;万年、通称;長蔵、号;匡山/執古齋/日南/葛覃かつたん
- D3210 **長秋**(ながあき・帆足ほあし、政行男/本姓;清原)1757-1822**66** 肥後山鹿郡久原村の天目一社神主、神道;守山広豊門/橘家神道、歌学:1786宣長門、1801妻子を伴い上京、「盈囊集」「帆足長秋詩集」「勸学譚」、1791「本名草」「万葉集諸説」編、「万葉集鈴廼響」著[長秋(;名)の別名/字/号]別名;政秀/惟馨、字;徳甫、号;抱月/徇精じゅんせい/錦溪主人/考槃洞/抱月館、通称;式部/豊後守/下総守
- D3211 **長秋**(ながあき・衣川きぬがわ/本姓;源、池田周令男)1765-1822**58歳** 伊勢一志須川の国学者:本居宣長・春庭門、宣長の同族、1803(享和3)因幡鳥取藩主池田斉邦に招聘;門弟国本道男(;因幡の神職)の要請/鳥取で国学教授、開塾し因幡伯耆に古学を広める、「雨滝紀行」「新古今渚の玉」「美德山紀行」著、「百人一首峯梯」「田蓑たみの日記」「やつれ蓑の記」著、歌;大平「八十浦の玉」中巻;6首入、[思ひきや世は常なしと知れれどもかかるはかなき文を見むとは]、(但馬滞在中師宣長の死の知らせの文をひと月後受け詠む)、[長秋(;名)の初名/通称/号]初名;周令(;父と同名)、通称;辰三郎/宰記/直記、号;瓊斎たまのや/けいさい、神号;高津彦瓊幣根大人/若桜岩根大人
- N3238 **長詮**(ながあき・進藤しんどう、)1775-1817**43** 京の近衛家諸大夫、歌人;香川景樹門、[長詮(;名)の通称]播磨介/播磨守
- D3212 **長昭**(ながあき・相場あいは、通称;監二)?-? 江後期文政1818-30頃大阪の国学者、旗本堀家家臣、「今様雑芸」編、「遊女考」著
- D3213 **長秋**(ながあき・久保くぼ、通称;玄訥、号;寿軒)?-? 江後期浜松藩主井上正甫の侍医、国学;本居大平門、1818藩主移封により磐城棚倉に住、「棚倉行の道の日記」「清濁考をよみて作れることば」著
- K3223 **長秋**(ながあき・鳥屋とや) ? - 1841 江後期;出羽秋田郡久保田の飛脚方御用、国学;本居大平門、のち久保田藩明德館教授に抜擢される、養嗣子;山本眞秋まあき、大平撰「八十浦の玉」下巻;長歌[秋田に鈴屋大人宣長の社を建て木像制作]入、[長秋(;名)の通称/号]通称;卯助/宇助、号;千穂廼屋ちほのや
- D3214 **長章**(ながあき・中根なかね、号;春廼屋)?-? 江戸期;越後高田の蔵書家、「春廼屋蔵書目録」編、「志賀女文章抄」注
- K3253 **長鑑**(ながあき・森もり) ? - ? 江後期;歌人、播磨三日月藩士?、歌;1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、[そことなく野沢の霧に立つ鳴の羽音もさびし秋の夕暮](大江戸倭歌;秋806)
- 03202 **長秋**(ながあき・中尾なかお、通称;松蔵/号;竹葉齋)1804-65**62** 肥後熊本の国学者;長瀬真幸まさき門、国学・歌人;一柳ひとつやなぎ千古・橘守部門
- L3286 **長秋**(ながあき・菊池きくち、通称;六朔/伝六)1813-1902**長寿90** 筑前鞍手郡山口村の農政家、国学・歌;伊藤常足つねたる・吉村千春門、儒・漢学;武谷元立門、博覧強記/蔵書万卷、山口・乙野・黒丸村の庄屋;稲の改良・果樹や茶の栽培・和紙の製造等を推進、維新後;大日本農会農芸委員、晩年;私塾を開設;稼穡かしよう園芸・和漢の学を教授、著書八十余巻
- D3215 **長秋**(ながあき・唐坊とうぼう、初名;直、佐寿男)1821-1864**自殺44歳** 対馬藩士/文学者、儒;川辺橘亭・広瀬淡窓門、開国論、藩の内紛で受難;自殺、「対馬史略」「陶山先生事状」著

- [長秋(；名)の通称/号]通称；莊之介、号；砥泓しおう/睡軒/馥軒ふくげん/覺州ふしゅう/清水屋
 N3290 **長秋**(ながあき・中島なかじま、)1822-1903**82** 美濃土岐郡の醤油醸造業、
 国学者；堀田稲足・野村秋足門、
 [長秋(；名)の通称/号]通称；要六/桂次郎、号；五百代舎
- N3249 **永明**(ながあき・末満すえみつ、)1825-1899**75** 周防大島郡久賀村の神官、国学者
- L3204 **長秋**(ながあき・井上いのうえ/本姓；藤原)1831-1868**行方不明38** 薩摩鹿児島島の冷水諏訪神社祠官、
 箱崎府判事、国学、兄藤井良節(本名；井上経徳/井上出雲)と岩倉具視等と藩との連絡役、
 1868参与/箱館府判事；欧米農業技術を採用のためプロイセン人のガルトネルを雇用、
 洋式農場開設を準備、択捉島を視察の帰途釧路出港後に遭難；行方不明、
 [長秋(；名)の別名/通称/号]別名；祐則、通称；弥八郎/大和/石見、号；玉翠
- 03235 **長秋**(ながあき・橋本はしもと、)1834-1915**82** 美濃高須の米穀商、和漢学；渡忠秋門、
 [長秋(；名)の通称]種三郎/大坂屋惣助
- L3239 **長秋**(ながあき/ながとき・小川おがわ、)1840-1884**45** 越後糸魚川新田町の呉服商、国学；平田鉄胤門、
 田村弥平・滋野七郎・銀林綱男と交流、敬神尊皇を信奉；帰郷し尊皇攘夷/倒幕の集団結成、
 維新後；東京府に出仕/司法省に入り司法の道に進む；仙台裁判所大河原区裁判所長/検事、
 [長秋(；名)の通称] 庄太郎/清七郎
- | | | | |
|----------------|---|-----------------------|-----------|
| 永章(ながあき・青木) | → | 永章(えいしょう・青木、国学/歌人) | 1 3 3 5 |
| 永晟(ながあき・財津) | → | 左右(さゆう・日田山、藩士/文筆家) | L 2 0 5 9 |
| 長章(ながあき・天野) | → | 恥堂(ちどう・天野、詩人) | F 2 8 0 1 |
| 長章(ながあき・稲垣) | → | 白崙(はくがん・稲垣いながき、藩士/儒者) | C 3 6 8 8 |
| 長秋(ながあき・横井) | → | 千秋(ちあき・横井、藩士/国学者/歌) | 2 8 0 1 |
| 長昭(ながあき・河村/山本) | → | 若麟(じゃくりん・山本、絵師) | G 2 1 4 1 |
| 長晷(ながあき・羽室) | → | 貞風(さだかぜ・羽室/藤原、藩士/歌人) | H 2 0 9 5 |
- L3253 **仲聴**(なかあきら・長利おさり、)1823-1903**81** 陸奥弘前の熊野奥照神社祠官、
 神学・歌；岩木山神社神主阿部仲昌・学問所和学士斎藤規沖門・のち1870平田鉄胤門、
 歌人；藩主命で江戸の海野遊翁門・1850千種有功門；歌学修学、薩摩守、
 1869津軽藩校稽古館皇学学士取扱/70助教皇学掛、国学・歌の門人数百人、能書家、
 [仲聴(；名)の通称/号]通称；薩摩守、号；桜園
- K3279 **長晟**(ながあきら・浅野あさの、長政2男)1586-1632**47** 母；浅野長勝女の彌々や(長生院)、近江坂本の生、
 1594(文禄3)豊臣秀吉に出仕；3千石/若狭小浜住/1600関ヶ原戦で徳川家康軍に参加、
 徳川秀忠の小姓/1610(慶長15)備中足守藩主；2万4千石/従五下/1613長兄幸長病死；
 家督を継嗣；紀伊和歌山藩主；但馬守/従四下、浅野氏宗家2代、1614大坂冬陣に参加、
 1615夏の陣の榎井の戦で功績/紀伊国内に一揆勃発；鎮圧に当る、
 1832(寛永9)福島正則失脚で安藝広島藩主；42万6千石；藩祖となる、侍従、次男光晟が継嗣、
 兄弟；幸長/長晟/長重/堀親良室/松平定綱室、正室；振姫(徳川家康3女)、長治/光晟の父、
 [長晟(；名)の幼名/通称]幼名；岩松、通称；富福丸/右兵衛佐/但馬守、法号；自得院
- D3217 **長昭**(ながあきら・市橋いちはし、長璉ながてる男)1773-1814**42歳** 母；肥前守松浦誠信女、
 1785遺領の近江仁正寺藩主を継嗣；1万7千石、1796大番頭、96藩校日新館設立、
 儒者；林述斎・佐藤一学の学を奉ず、紫野栗山と交流、池田冠山らと[風月社]結成、
 蔵書家；1804蔵書のうち宋元版30部を昌平黌に献上、「花譜」編、1804「続花譜」「又続花譜」、
 「家中への論」「占春園記」著、父長璉の「遊乎館前/後集」編、妻；酒井忠順女、
 [長昭(；名)の幼名/字/号]幼名；韶之助、字；世懋せいぼう、
 号；格斎/此君斎/擅春せんしゅん園/擅春斎/黄雪/黄雪園/星峯
- D3218 **長在**(ながあきら・村井むらい、恒/通称又兵衛、前田孝保男/長貞養嗣)1836-93**58歳** 加賀金沢藩士；
 1842家督継嗣、「軍粧方筆記」「村井家略譜」「年頭御作法」著
 長明(ながあきら・鴨) → 長明(ちやうめい・鴨、歌人/随筆) 2 8 2 7
- K3242 **長敦**(ながあつ・豊田とよだ/本姓；平)1803-76**74** 江戸の国学者、「上代衣服考」(神服考)著、
 1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、
 [うきねとはなどかいふらん夜もすがら月みつつ行く淀の川舟](大江戸倭歌；秋909、
 光世の亭の十番扇合の時淀川のさまをつくり扇に月を描き詠)、

[長敦(；名)の通称/号]通称；重三郎、号；櫛舎おくのや/神復翁

L3235 **長厚**(ながあつ・小笠原おがさわら、長計男)1814-4734 母；小笠原三千子(歌人/1857没)、
信濃伊豆木10代領主、歌人；母三千子門/植松茂岳門、妻；稻垣定淳女の舒子のぶ(歌人)、
[長厚(；名)の通称/法号]通称；吉十郎/靱負、法号；温良院

D32 19 **長有**(ながあり・丹波たんば、長忠男)?-? 1302存80余歳 朝廷の医者；典薬頭/施薬院使/正四下、
歌；新三井集入、勅撰5首；新後撰(1392)続千載(1872/1914/1958)新千載(1719)、
[伝へおくことの葉にこそ残りけれ親の諫めし道しばの露](新後撰；雑1392)

仲家(ながいえ・藤原) → 有家(ありいえ・藤原、寂印、歌人) 1 0 3 0

D3220 **長家**(ながいえ・藤原ふじわら、摂政太政大臣藤原道長男)1005-6460 母；源高明女の明子女王、
道長室倫子の養子、御子左家の祖、廷臣；1022従三位/23権中納言/24正二位/1028権大納言、
民部卿/中宮大夫、1064病により出家、妻；藤原斉信なりのぶ女(1025. 8. 29没)、道家・忠家の父、
兄弟姉妹；頼通・頼宗・能信・教通・彰子・妍子けんしなど、自邸御子左邸で詩会主催、
歌人；1035賀陽院水閣歌合参加/56皇后宮寛子春秋歌合；右撰者、玄々・統詞花・万代集入、
勅撰44首；後拾(4首93/224/393/855)千載(82/559/563)新古(4首103/315/452/815)、
新勅(4首312/478/516/1214)続後撰(5首)続古(1497)続拾(5首)玉(7首)以下、
[もろともにながめし人もわれもなき宿には月のひとりすむらん](後拾遺；十五雑855)、
(妻の死後法性寺に参籠中の詠)、

[北の方の服し給ひたりける 脱ぐとて、

着しよりも脱ぐぞかなしき君がためそめし衣の色ぞと思へば](玄々集；151)、

[長家(；名)の幼名/号]幼名；小若、号；大宮/三条(通称；三条民部卿)

D3221 **永家**(ながいえ・高倉たかくら、永康男/本姓；藤原)1496-157883歳 戦国期廷臣；1504侍従/右兵衛佐、
1513従四下左兵衛督/従四上/28従三位/33(天文2)参議/35正三位/39従二位権中納言、
1544正二位/53(天文22)権大納言/57出家；法名常昭、歌会を主催/言継家歌会参加

長家(ながいえ・中条) → 長宗(ながむね・中条ちゅうじょう/藤原、武家/歌) P 3 2 5 3

永井堂亀友(ながいどうきゆう) → 亀友(きゆう・永井堂/兵作堂、浮世草子作者) M 1 6 1 5

D3222 **仲稻**(なかいな・田島たじま、尾張守、仲宗男/本姓尾張宿禰)?-? 1428存 熱田神官/祝師職/1393権宮司、
1423「応永三十年十一月十三日熱田社法楽連歌」参加(4句)、
[はや冬木にも梅の八重垣](熱田法楽；賦山何/脇句/発句；雪はけふ歌は神代を初め哉
神代に八重垣を付る/八重は梅の縁語

D3223 **仲氏**(なかうじ・和気わけ、左近将監重房男)?-? 南北期廷臣；雅楽頭/宮内少輔/47兵庫助/宮内卿、
連歌；菟玖波1句入1476、
[仮の世のうちにも暫しゆめを見て](菟；雑1476/前句；むすびさだめぬ草の庵かな)

D3224 **永氏**(ながうじ・伊福部いおきべ/いふきべ)?-?842存 平安期漢詩人/842外従五位下、詩；経国入

P3250 **長氏**(ながうじ・丹波たんば、典薬頭丹波典長男)?-? 南北期廷臣；正四下/掃部頭/典薬頭、
歌人；藤葉集入、長世(従三位/典薬頭)の父、

[とはれぬをさのみはいかがうらむべき我もつれなき名をもこそとれ](藤葉；恋492)

長氏(ながうじ・伊勢新九郎) → 草雲(そううん・北条、戦国武将/城主) G 2 5 0 6

長氏(ながうじ・溝江) → 長澄(ながすみ・溝江みぞえ、武将/連歌) D 3 2 9 6

仲人(なかうど・田島) → 仲道(なかみち・田島たじま、神職/国学) N 3 2 5 9

D3225 **長畝**(ながうね/ながね・前田まえだ、長守男)1783-185878 近江大溝藩士/1812(文化9)元締郡奉行、
藩用人時の調査資料で藩史編纂、詩歌/俳諧、「鴻溝録」、「梅園詩集」「梅園文集」「創守録」著
[長畝(；名)の字/通称/号]字；公峻、通称；小右衛門、号；梅園

仲枝(なかえ・宮地) → 水溪(すいけい・宮地みやじ、藩士/博学者) 2 3 4 3

D3226 **長江**(ながえ・紀、広浜男) ? - ?848存 廷臣；827右近少将、備中守/大和守/太宰大貳、
詩；経国集入

03244 **長枝**(ながえ・林はやし、諸鳥もろとり[1720-90]男)?-1808 江戸壺岸島の菓子商/国学・歌；父門

長恵(ながえ → ながしげ・池田) → 長恵(ながしげ・池田、幕臣/文筆) D 3 2 8 4

長恵(ながえ・村井) → 長道(ながみち・村井むらい、藩士/能研究) F 3 2 8 8

長枝娘子(ながえのおとめ・日置) → 日置長枝娘子(へきのながえのおとめ、万葉歌人) 2 7 9 1

央右衛門(なかえもん・堀池) → 敬久(たかひさ・堀池ほりいけ、藩士/和算家) M 2 6 9 6

- 仲右衛門(なかえもん・木村)→ 正則(まさのり・木村きむら、藩士/歌人) P 4 0 1 8
- D3227 仲雄(なかお・千村ちむら/本姓;源、頼久男)1785-1846⁶² 尾張藩士;美濃可児郡久々利の領主、
国学者;1812本居春庭・のち大平門、宣長「答問録」注/刊、
1819「美濃国泳宮考」、「万葉集類聚抄」「千村随筆」著、大平撰「八十浦の玉」下巻:長歌入、
[谷川の水の音聞こゆあし引の山へおしなべ春たつらしも]、
(八十浦;689「美濃泳の里」長歌の反歌)、
[仲雄(;名)の通称/号]通称;平右衛門、号;伊予、
仲雄(なかお・奥田/永井)→ 玉鳳(ぎよくほう・永井/奥田、郷土史/俳) P 1 6 3 6
- D3228 長雄(ながお・小笠原おがさわら、幼名;弥太郎、長徳男)?-1570 石見川本武将:尼子側、1560元就に降伏、
「草鹿記」「古代草鹿記並図」著
- L3275 長夫(ながお・河津わかづ、名;祐章すけあき、祐篤男)1719-1747^{早世29} 江戸湯島生、
父・兄と同様に大垣新田しんでん藩主渥美侯戸田家に出仕、1742兄祐之の没;家督嗣、行人職、
儒学;太宰春台門/歌;賀茂真淵門、加藤宇万伎(兄祐之の娘婿)の叔父、
同僚伊藤郡翁の息子祐世すけよを養嗣子、「真淵歌集」/「長夫墓碑銘」(小宮山昌世筆)入、
辞世[大夫はむなしく成りて父母のなげきをのみや世に残さまし](真淵歌集)
[長夫(;字)の別字/号]別字;文卿、号;蓮菖廬
- D3229 永雄(ながお・錦鳳堂きんぼうどう、竹内喜一郎)?-? 江後期江戸狂歌:秋長堂社中、能書家、
1836「狂歌和漢名数抄」著、妻:月花永女げっかえいじよ[1858没]も狂歌作者
妻 → 月花永女(げっかえいじよ、竹内えい) G 1 8 9 2
- 03282 永雄(ながお・松井まつい、)1805-1842³⁸ 京の官人;妙法院宮諸大夫、法印、
国学・歌人;香川景樹門、永賢ながよしの父、
[永雄(;名)の初名/通称]初名;永純、通称;民部卿/若狭介/若狭守、
- 03203 長雄(ながお・中川なかがわ/本姓;藤原、長延長男)1830-? 京の廷臣;国学者/歌人;赤松祐以すけもち門、
大蔵少輔(;中川真水名)、
[長雄(;名)の通称]隼人正/三河守/常陸介/真水/大蔵少輔
永雄(ながお・近田) → 冬載(ふゆとし・近田ちかた、歌人) I 3 8 4 8
長緒(ながお・柿島/宍戸) → 大成(おおなり・宍戸ししど、藩士/国学) C 1 4 8 1
長雄(ながお・長曾) → 又左衛門(またざえもん・長曾ながそ、兵学者) J 4 0 4 0
- D3230 仲雄王(なかおおう;出自不詳)?- ?^{823存} 平安前期廷臣;808従五下/信濃守、
詩人;816史記竟宴参加、823正五上、良岑安世と親交、818「文華秀麗集」編纂参加/序、
凌雲2首/文華13首/経国3首入
中大路神主(なかおおじのかんぬし)→ 久世(ひさよ・賀茂かも、神職/歌人) C 3 7 1 3
長岡大臣(ながおかのおとど) → 永手(ながて/ながた・藤原、廷臣/歌人) E 3 2 6 0
中興(なかおき・平) → 中興(なかき・平、平安期歌人) D 3 2 5 0
- D3231 長興(ながおき・荒木田あらきだ)?- ? 鎌倉期伊勢内宮神職;権禰宜、
歌人;1295「伊勢新名所絵歌合」参加、1310為相撰[柳風抄]入、
[こぬまでもまつになぐさむ心とてなさけに人やたのめおきけん](柳風抄;恋136)
- 3205 長興(ながおき・小槻おづき、別名;時繁、通称;喜称軒、法名;壽官、為緒男)1412-99^{88歳} 室町期廷臣;
1432左大史/78治部卿、日記「長興宿禰記」著、
歌;1443前撰政家歌合/飛鳥井雅康月次歌会参加、75「親長公武歌合」参加、
連歌:1451兼良邸連歌連衆/「三代集作者百韻」参加、新撰菟玖波集入、時元の養父
- D3232 長興(ながおき・黒田くろだ、初名;孝政、長政2男)1610-65^{56歳} 母;栄姫、筑前福岡城内の生、
筑前秋月初代藩主;父の遺言で相続;5万石分与立藩、1624秋月入、長重ながしげの父、
1624(寛永2)將軍謁見のための江戸途上を兄忠之や本家家老に妨害;母の援助で途上、
領内も家老の対立で堀定則の出奔など混乱、1637(寛永14)島原乱に出陣;戦功、
藩政確立に尽力;筑後川支流の新田開発・藩内交通の整備、秋月山浄仙院大涼寺を建立、
歌学・連歌;烏丸光広門、歌;「長興公和歌百首」著、
連歌:「賦餅俳諧連歌」「立圃長興奉納両吟俳諧千句」著、
正室:天教院(岩城貞隆女)/継室;亀子(佐竹義隆女)、次男長重が家督嗣、

- [長興(；名)の通称]犬万/勘解由/甲斐守、法号；東陽院/神号；垂裕明神
M3217 **長興**(ながおき・佐々さき、)1659- 1740⁸² 江戸幕臣；御小姓組、国学、
[長興(；名)の通称/号] 平右衛門/伊兵衛、号；玄眞
- P3230 **永興**(ながおき・吉田よしだ、与一右衛門永香男)1777-1827⁵¹ 備中倉敷の油商；油屋、国学者、永知の父、
[永興(；名)の通称/屋号]通称；義右衛門/屋号；油屋
- D3233 **長興**(ながおき・寺田てらだ、通称；曾七郎)?-? 江後期伊勢津藩士/国学；1827本居春庭門、
1847「手束杖」著
- 03253 **長興**(ながおき・平野ひろの、通称；金左衛門)1832?-1912⁸⁰余歳 尾張名古屋藩士、高岳町住、
国学・歌人/茶を嗜む、遠江浜松住、1894「組立自在歌学作法新書」共著(伊東洋二郎と)、
「征清服韓日本大平記」「作法教科書」著
- D3234 **長発**(ながおき・池田いけだ、字；大禱、号；可軒、長休男)1837-79⁴³ 幕臣/儒者；昌平黌に修学、
1863外国奉行/渡欧；フランス政府と交渉/64開港を主張；蟄居/赦免；66軍艦奉行、
「可軒抄本」「可軒詩余」「万報雑書」著
- 長興(ながおき・金森) → 得水(とくすい・金森かなもり、歌/茶/水術) L 3 1 0 8
長興(ながおき・唐木) → 春雄(はるお・唐木からき、商家/国学/歌) J 3 6 9 7
- P3229 **長興母**(ながおきのはは・相良さから、下野烏山藩主坂倉重矩(げのり)女)?-? 江前中期；歌人、坂倉重種養女、
肥後人吉藩4代藩主相良頼福よりとみ(1651-1720/志摩守)の正室、
5代藩主長興ながおき(1693-1734/遠江守)の母、
[かへうきは老の衣ぞ花の香に又そめてみん春をしらねば](茂睡[鳥の迹]夏190)、
[長興母の名/法号]名；於豊おとよ、法号；養心院
中興女(ながおきのむすめ・平) → 中興女(なかきのむすめ・平、平安期歌人) D 3 2 5 2
長尾宮(ながおのみや) → 聖恵親王(しょうけいしんのう、白河天皇皇子/真言僧) I 2 2 2 9
- P3227 **永臣**(ながおみ・横山よこやま/本姓；源、旧姓；玉田)1820-74⁵⁵ 大坂の神道家；吉田御殿神学師、
神道俗談師として活動、
[永臣(；名)の通称]主殿とも
中御室(なかおむろ) → 覚行親王(かくぎょうしんのう、真言僧) J 1 5 6 9
- D3235 **長景**(ながかげ・安達あだち、法号；智海、義景男)?-1285 武将/鎌倉幕臣/検非違使/左衛門尉/引付衆、
1285霜月騒動で討死、母；飛鳥井雅経女/歌；二条為氏門/歌会催、「長景集」、続拾遺588/1164、
[身のうさを月に慰む秋の夜に誰がため曇る涙なるらん](続拾；雑秋588/月前述懐の心)、
[長景の通称] 城弥九郎/城美濃前司
- L3209 **長蔭**(ながかげ・伊藤いとう/旧姓；貴志さし、)?-1870 越前府中(武生)の伊藤多羅たちの養孫/薬商
[長蔭(；名)の初名/号]初名；貞喬、号；東陽/窠夏しょうか
- D3237 **仲和**(なかかず・岩神いわがみ、名；惟礼、安斎男)1743-1805⁶³歳 土佐佐川領主深尾家の家臣(老臣)、
古典研究/俳人；備前で修学；佐川郷俳門の祖、久兵衛坂に桜を植樹、「詣金峯山紀行」著、
[仲和(；字)の号]号；春南/曲青舎雨洗/楽只仙
- P3248 **仲量**(なかかず・ト部うらべ、仲在男)?-? 鎌倉南北期；正五下・刑部少輔/神職；
京の梅宮神社神主、仲秀の父、歌人；1345刊[藤葉集]入、
[おさふとも袖は色にや出でなまし心にせかぬ涙なりせば](藤葉；恋405)
- D3236 **永数**(永員ながかず・高倉たかくら、範員男/本姓；藤原)?-? 南北期北朝廷臣；三河守/正五下、
歌人；1370-76「百番歌合」参加/70-71崇光院「仙洞歌合」参加、1400[菊葉集]5首入、
[六十番歌合(伏見殿?)に江蚩、
難波江やいづれか小屋のしのびともよそには見えぬ蚩なりけり](菊葉；夏417)
- D3238 **長量**(ながかず・高辻たかつし、東坊城ひがしぼうじょう恒長つねなが男)1662-95³⁴歳 高辻豊長の養嗣子、廷臣；
1690式部権大輔/94蟄居、総長ふさながの父、
「済深親王御灌頂表白」「東大寺大仏開眼供養御願文」著
- D3239 **永主**(ながかず・中村なかむら/大野/本姓；秦、通称；友雄)?-? 江後期伊勢度会郡師職橋村太夫の代官；
筑前筑後・備中を廻る、歌学；本居大平[1756-1833]・春庭[1763-1828]門、足代弘訓門、
檜垣貞度と交流、「中村永主長歌集」著、大平撰「八十浦の玉」下巻；長歌[豊宮川]入、
- D3240 **長量**(ながかず・河辺かわべ、本姓；大中臣/三室戸)1837-67³¹ 伊勢度会郡の伊勢神宮の神職；

大宮司兼権神祇大副、歌;御巫みかんなぎ清直門、1860「松杉和歌集」清直と共編

[長量(;名)の別名/号]別名;景謙、号;雪簍せつさ

長和(ながかず・稲垣) → 東山(とうざん・稲垣/佐久間、儒者) E 3 1 6 5

B3297 仲方(ながかた・姓不詳) ? - ? 室町期廷臣/從三位/歌;1443「前撰政歌合」参加
仲賢(ながかた・小笠原/松平) → 定能(さだまさ・松平/小笠原、幕臣/地誌) J 2 0 7 0

3206 長方(ながかた・藤原ふじわら、頭長男) 1139-9153 母:藤原俊忠女の俊子、廷臣;1176参議/77從三位、
1181権中納言/83從二位、85出家/福原遷都後に清盛に還都を促す(続古事談)、当世の才子、
歌人;1184別雷社後番歌合参加/85?自邸歌合主催、日記「禪中記」、「按納言集」「梅納言集」、
「新撰秀句」「高倉院讓位記」著、続詞花・月詣・玄玉・万代・雲葉・和漢兼作・閑月集入集、
勅撰41首;千載(4首167/292/1003/1116)新古(4首542/660/1075/1144)新勅(10首)、
続後撰(4首)続古(4首)続拾(2首)新後撰(2首)玉(7首)続後拾・風・新拾・新続古各1首、
[心をぞつくしはてつる郭公ほととぎすほのめく宵のむら雨さめの空](千載;夏167)

[長方(;名)の初名/通称/法名]初名;憲頼、

通称;八条中納言/三条中納言/梅小路中納言、法名;中印、乘願(竹谷上人)の父

D3241 長賢(ながかた・花山院かざいん、家賢男/本姓藤原)?-1366/67? 南朝廷臣;権中納言/耕雲の兄、歌人、
妙光寺内大臣家中納言と恋、「内裏年中行事三百六十首」参/新葉集4首;173/385/388/814

D3242 長賢(ながかた・庭田にわた、重賢/政賢、重有男/本姓源) 1409-8779 廷臣;1431從五上左中將(重賢名)、
1449(宝徳元)正四下参議(政賢名)/50從三位/51正三位/52長賢名/53(享徳2)権中納言、
1452辞任;從二位(息雅行が参議昇進)/62(寛正3)権大納言;出家;法名祐昭、
歌;1450仙洞歌合参加(;参議政賢名)/連歌:後崇光院御所連歌会参加/新菟入、
[有明の影もこぼれる玉川の浪を残して立つ千鳥かな](仙洞歌合;二十五番左)

N3244 長賢(ながかた・神保じんぼう、重利男)?-1702 江前期;江戸の簞本/幕臣;御書院番、国学者、
養女に簞本萩原友村6男の長治ながはる(1641-1715)を婿に迎え養嗣子とす、
系譜は山城守一弾正忠一周防守八郎一対馬守八郎一政長一長利一重利一長賢一長治、
[長賢(;名)の別名/通称]初名;重時、通称;源五左衛門

P3272 長堅(ながかた・山田やまだ、通称;太右衛門)?-? 江前中期;陸奥盛岡南部藩士?、歌人、
1690南部家江戸桜田邸詩歌会参加(;歌3首)

[雨雲の立居るほどもかぎり有りて晴れ行く月の空に涼しき](桜田邸;雨後夏月)

[古里のその名にしおふ志賀の山夕ゆら越えくれば袖の露けき](同;故郷露)

D3243 長質(ながかた・山崎やまさき/字;好義、臨臯、長治養嗣) 1668-1727 60歳 加賀金沢藩士;1688定火消、
1695奏者番、1707「山崎家系」編

D3244 長堅(ながかた・村井むらい、初名;孝通、通称;主膳、前田孝行5男) 1701-5656歳 1710村井親長の養嗣子、
1711家督継嗣;加賀金沢藩士/1754從五下豊後守、弟;八十五郎は一時藩主前田重熙の養子、
「村井長堅覚書」「村井豊後守実名之覚」著

[長堅(;後名)の幼名/法号]幼名;右源太、法号;長寿院

K3232 長賢(ながかた・篠崎しのさき) ? - ? 江後期;法眼、歌;1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、
[郭公いまきの岡の夏木だちわかえさしそふ蔭ぞ涼しき](大江戸倭歌;夏401/岡新樹)

L3222 長容(ながかた・岩崎いわさき、長休2男) 1809-8072 武蔵忍藩士;松平忠堯の家臣、勘定奉行/勝手方、
画/俳諧に長ず、国学/歌;黒沢翁満おきなまろ門、
忠堯の命で「増補忍名所図会」著(洞李香齋「忍名所図会」を増補/1835献上/40再度増補)、
「砲術形状図式」著(砲術師範井狩家のため画く)/1845藩主忠国命で「大坂御合戦絵巻」著、
[長容(;名)の通称]権九郎/左甚五/左一/角兵衛

L3236 長裕(ながかた・小笠原おがさわら、長厚の長男) 1838-7740 母;舒子のぶこ、信濃伊豆木小笠原家11代当主、
歌人;桜井春樹門・香川景樹没後門・京の太田垣蓮月門、維新後;阿知神社祠官、
平賀元義・高島式部・渡忠秋・原信好と交流、「ほととぎす百首」著/ほか歌集数十冊?、
[長裕(;名)の別名/通称/号]別名;鉄雄/雄風、通称;豊松丸/兵庫介、号;楓廼舎・月廼舎
法号;詠章院

永賢(ながかた・松井) → 永賢(ながよし・松井、官人/歌人) G 3 2 5 1

長方(ながかた・藤井) → 道印(どういん・遠近おちこち、藤井、藩医/測量) B 3 1 1 0

長方(ながかた・稲田) → 鳳棲(ほうせい・稲田いなだ、藩士/俳人) C 3 9 0 0

長賢(ながかた・連むらじ/藤原) → 巴扇堂(2世はせんだう、筆匠/狂歌師) E 3 6 7 5

長堅(ながかた・小笠原) → 祇尹(ぎいん・小笠原おがさわら、幕臣/俳人) 1 6 7 8

D3245 長勝(ながかつ・小笠原おがさわら、幼名;辰之助、長次男/本姓;源) 1646-82 37歳 豊前中津藩主/1666襲封、歌・連歌、「内匠頭源長勝集」「小笠原長勝家法」著

[長勝(;名)の通称/号]通称;内匠/内匠頭たくみのかみ/信濃守、法号;寒松院

D3246 永門(ながかど・齋藤さいとう/通称;外記、永宅男)?-1635 仙台藩士/政宗臣;大坂陣で軍功、武頭、「外記物語」著

D3247 務廉(ながかど/ちかかど・福田ふくだ/坂倉/本姓;平、竹庵) 1774-1819 46歳 幕臣;賄頭、

国学者・歌人;村田春海門、1810春海「琴後集」編の村田たせ子に助力;

琴後集跋文4人の1(清水浜臣・片岡芳香・たせ子)(1813[文化10]神無月)

P3266 仲兼(ながかね・源みなもと、光遠男)?-? 鎌倉期廷臣;宣陽門院(後白河皇女)蔵人、

河内・加賀以下四か国吏/従四上;皇后宮少進、「日吉山利生記」に息子賢阿と共に入、

光兼・遠兼・仲業(勅撰歌人)・仲遠の父;その中賢阿(伊賀入道)は遠兼or仲遠(見阿)?

D3248 長兼(ながかね・藤原ふじわら/家名;葉室・三条、長方2男) 1162-? 1214存 母;藤原通憲(信西)女、

廷臣;1186甲斐守/1206参議/07従三位/09権中納言/10正三位、1214出家;法名覚阿、

九条兼実・良経の家司、詩人;1200「内裏御会」序代を執筆/1205元久詩歌合;詩で参加、

「資実長兼両卿百番詩合」入/和漢兼作集・万代集入、日記「三長記」著、「除目職事要」編、

[長兼(;名)の初名/法名/通称]初名;頼房、法名;覚阿、通称;三条中納言入道

K3210 長兼(ながかね・本間ほんま/本姓;源、別名;益泰/永時) 1706-80 75 幕臣;大番/大番組頭、

歌;武者小路家入門、石野広通「霞関集」入、

[散る花のうかべる水に舟とめて暮れゆく春の湊をぞしる](霞関;春200/船中暮春)、

[長兼(;名)の通称]通称;九八郎

K3266 長容(ながかね・浅野あさの/青山浅野家、長喬ながたか長男) 1770-1824 55 父(安藝新田2代藩主)没後誕生、

浅野宗家の宗恒男長員が3代を継嗣/1800(寛政12/10歳)長員が隠居し家督嗣;4代藩主、

安藝新田藩3万石;従五位下/近江守、正室;浅野重晟女、1818一門の長訓ながみちを養嗣子とす、

歌;蜂屋光世「大江戸倭歌集」(1858刊)入、

[秋ふけてあしが花散る夕風にこそをしのぶの露ぞ乱るる](大江戸倭歌;雑1889)、

[長容(;名)の幼名/通称]幼名;糸之助、通称;左京/兵部/近江守/美作守

永兼(ながかね)

→ 永兼(えいけん、連歌)

C 1 3 6 7

D3249 永河(ながかわ・南淵みなぶち朝臣、坂田奈弓麻呂男) 777-857 81歳 平安前期廷臣/806少外記/民部少丞、

813従五下但馬介/嵯峨天皇の信頼厚く823従四下内蔵頭、兄と共に南淵朝臣を賜姓、

詩人;嵯峨天皇「春堂五詠」に和す、845正四下/致仕、851下野守遙任・853因幡権守、

「雑言奉和」入/経国集入、槻本老の孫、南淵弘貞ひろさだの弟、南淵年名の父、

[南淵朝臣の初姓かばね] 槻本公/坂田朝臣

長河(ながかわ・榊原)

→ 桂蔵(けいぞう・榊原さかきぼら、歌人)

N 1 8 4 6

D3250 中興(なかき・平たいら、季長男/忠望王の養子)?-930 桓武平氏高棟流、平安前期廷臣;898蔵人、

900文章生/大内記/904従五下遠江守/910讃岐守/915近江守/従五上/919左衛門権佐、

922美濃権守、930(延長8)没、元規もとのり・中興女なかきのむすめの父、

大江朝綱の詩[賦置酒如淮]に感銘;娘を嫁がせる、

歌;勅撰4首;古今1048/1050・後拾遺722/1079、

[逢ふことの今ははつかになりぬれば夜深かからでは月なかりけり](古今;雑1048、

少しのはつかと月齢廿日・月無しと付きがなしを掛る)

D3251 長樹(ながき・向井/字;英馬/通称寛司、号;薇露/灌子、長昇ながり男)?-? 江後期盛岡藩士/1796家督、

1793「仏語解」著

K3222 長城(ながき・飯沼いぬま、通称;半助) 1787-1827 41歳 美濃赤坂の脇本陣主人、国学;本居大平門、

のち近江柏原駅薬師泉明院住寺、歌;大平撰「八十浦の玉」下巻;長歌入、

[いざ子どもたはわざせずておひ日たち汝が其おやをあがめつつあれ](八十浦;993反歌)

長材(ながき・八木)

→ 庭雅(ていが・八木やぎ、藩士/俳人)

3 0 4 4

永木の親方(ながきのおやかた) → 三津五郎(3世みつごろう・坂東、歌舞伎役者) D 4 1 3 9

永木の三津五郎(ながきのみつごろう) → 三津五郎(3世みつごろう・坂東、歌舞伎役者) D 4 1 3 9

- D3252 **中興女**(なかきのむすめ・平) ? - ? 平安前期歌人;形よく心高い女[元良もとなが親王集]、
浄蔵法師と恋・元良親王・源巨城おおき・源是茂これもちと交渉[大和物語105段・今昔物語入]、
後撰集;803[源巨城と贈答]/832[浄蔵法師への恋]/841[源是茂と贈答]・
新勅撰集:876[元良親王と贈答]、
[今はとてこずゑにかかかると空蟬のからを見むとは思はざりしを](後撰集;十二803/贈)
[墨染の鞍馬の山に入る人はたどるたどるも帰り来ななん](後撰集;十二恋832)
[待たざりし秋は来ぬれど見し人の心はよそになりもゆくかな](後撰集;十二841/贈)
- D3253 **中清**(なかきよ・源) ? - ? 平前期廷臣/歌;975為光催「一条大納言家歌合」左方参
[花散らす春の山風あらくともやなぎのいと乱れざらなん](柳;左勝)
- L3216 **中清**(なかきよ・雛田ひなだ、義方よしかた男) 1819-8668 越後蒲原郡の加茂青海神社社司、国学/歌人、
尊攘運動家/戊辰戦で北越鎮撫使に越後平定法を献策/奥羽越列藩同盟軍に追われる、
維新後;家塾を開く、泉久寛の師、
[中清(;名)の初名/字/通称/号]初名;銘、字;士新/新三、通称;一学、
号;松溪/我為我堂/独醒/ト一山房/一宮坊
- D3254 **長清**(ながきよ・勝間田かつまた/勝田、証阿弥陀仏蓮昭、本姓藤原) ?-? 鎌末期遠州勝間田生、
越前左近大夫、時宗僧、歌:為相門、1310他阿上人眞教と遠州で歌合、「夫木和歌抄」撰、
玉葉集1948、「他阿上人法語」3首入、
[した萩もかつ秀ほに出づる夕露にやどかりそむる秋の三日月](玉葉;雑1948)
- D3255 **長清**(ながきよ・織田おだ、字;輔徳、安正堂、長頼男/長明養嗣/本姓平) 1662-1722 大和芝村藩主、
1681大和戒重藩主長明の養嗣子/1704芝村転居/藩校遷喬館創設、1717「織田真記」著
- M3204 **長清**(ながきよ・黒田くろだ、光之4男) 1667-172054 母;市松姫(1627-?/寶光院/小笠原忠真女)、
江戸麻布藩邸の生/1688(元禄8)兄綱政が宗家福岡藩継嗣の際に筑前鞍手郡に5万石分与、
福岡新田藩(筑前直方藩)を立藩、筑前秋月城主、従五下/伊勢守、息子継高が宗家を継嗣、
その後見人となる、詩歌人、長清没後に嗣子なく直方藩は宗家福岡藩に還付される、
妻;小笠原長勝長女/後妻;同次女、
[長清(;名)の幼名/通称/法号]幼名;平八、通称;伊勢守、法号;龍湫院
息子 → 継高(つぐたか・黒田くろだ、藩主/芸能) F 2 9 6 6
息女 → 義峰室(よしみねのしつ・佐竹/黒田栄/利、藩主室/国学) I 4 7 1 1
- N3287 **永潔**(ながきよ・近田ちかだ、矢野永貞2男) 1763-183371 伊予宇和郡舌間村の生、
宇和郡(喜多郡)野田村の庄屋近田福寿の養嗣子;家運を興す、八束やつかの父/冬載の祖父、
国学/歌人;常磐井守貫もりつら門、1792(寛政4)八幡浜矢野神山に50首奉納/
歌;(天明5)「詠百首」/(文化4/5)「近世ふり」著、
[浅みどり春の野に出て里の子がこきむらさきのすみれをぞ摘む]、
[永潔(;名)の通称]紋治/安右衛門
永清(ながきよ・菊池) → 薫(かおる・菊池きくち、国学/歌人) U 1 5 4 9
- D3256 **長国**(ながくに・中原なかはら、大隅守重頼男) ?-1054 平安後期廷臣;但馬介/大外記/周防介/肥前守、
五位、歌人;太宰大貳資通歌合参加、「新撰朗詠集」「和漢兼作集」入、
勅撰3首;後拾遺(952)金葉(303/Ⅲ169・309)詞花(305)、玄々集入、
[おのづからわがわするるになりにけり人の心をこころみしまに]、
(おとせずと恨む人への言い訳;後拾遺十六952)
[月にみかひて友を思ふ、
月にこそ昔のこともおぼえけれ我をわするる人にみせばや](玄々集;161)
- P3255 **長国**(ながくに・飯倉いくら/本姓;源、長兼男) ?-? 鎌倉期廷臣;蔵人、
歌;1233[御裳濯集]4首入、伊勢神宮奉幣に随行したか?
[ふるすをばあかつきかけていでにけりあしたの原の鶯の声](御裳濯集;春27)
- D3257 **長国**(ながくに・相良さがら、沙彌洞然) 1467-154680 肥後八代所領の武将、人吉城主相良家家臣、
1536「沙彌洞然長状」著、上村直頼の弟
- J3283 **長国**(ながくに・成川なるかわ) ? - ? 江前期広島俳人;貞門系/1674安静「如意宝珠」入、
1679宗臣「詞林金玉集」入
- L3267 **長国**(ながくに・鳥谷からすや、通称;信濃/号;秋洲) 1665-174581 伊予道後の神官、

神道/国学;大山為起門

- D3258 **長邦**(ながくに・黒田くろだ、秋月藩主長貞の長男) 1722-62 41歳 江戸藩邸の生/筑前秋月藩主; 1754(宝暦4)襲封、河内守・甲斐守/従五下、1756初めて秋月に帰国、歌人:「藤川百首題」「長邦公月次詠草のひかへ」著、[長邦(;名)の幼名/法号]幼名;修理、法号;興徳院
- D3259 **長都**(ながくに・河辺かわべ/本姓;大中臣) 1766-1807 42歳 伊勢大宮司/神祇少副/1804正三位、「司家勘例」著、「司家古文書」編/「司庁之旧記」編/「両宮神事供奉記」編
- K3225 **長国**(ながくに・丹羽にわ、長富6男) 1834-1904 71歳 岩代二本松藩主家の生/1846従五下越前守、1847従四下/1858(安政5)家督継嗣;二本松藩主/侍従/64京都警護;従四上、1864奥羽越列藩同盟参加/1868戊辰戦争に敗戦;二本松城陥落、米沢に逃亡;謹慎、1869赦免、妻;戸田氏正女の久子(都や子;歌人/逃亡記「道の記」著)、1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入(妻久子と共に入集)、[たのめてもかはるうき世の明日香風あすをもしらぬ人の心か](大江戸倭歌;恋1521)、[長国(;名)の幼名/通称]幼名;保蔵、通称;五郎左衛門/越前守/左京大夫
長国室 → 久子(ひさこ・丹羽にわ、都や子、歌人) I 3 7 4 1
- D3260 **長邦**(ながくに・葉室はむろ、長順ながとし男) 1838-98 61 母;広橋光成女康子、廷臣;1865蔵人/左少弁、1865条約問題で九条尚忠に反対、談山神社宮司、妻;経子(勸修寺経雄叔母)、息女;春子(婿;万里小路通房2男の長通)、「春日祭交名」「吉田祭雑誌」「葉室長邦口宣備忘」著
- D3261 **長国室**(ながくにのしつ・中原、藤原頼方女) ?-? 中原長国[?-1054]の妻/平中期歌人;後拾遺868 [もろともにおなじうきよにすむ月のうらやましくもにしへゆくかな](後拾遺集868)
長国室(ながくにのしつ・丹羽) → 久子(ひさこ・丹羽にわ、都や子、歌人) I 3 7 4 1
- P3269 **仲子**(なかこ、通称;新内侍、左京大夫仲経女) ?-? 南朝の女官;内侍(掌侍ないしのじょう)、歌人;1365正平廿年点取三百首和歌(於住吉行宮)参加、嘉喜門院と同一?;村松茂樹説、[衣々きぬぎぬの別れもかくやよがるべき有明の月も帰る雁がね](正平廿年和歌;18暁帰雁)
- D3262 **仲子**(なかこ・杳掛くかけ、号;一素、信州今里庄屋の内村納悦女) 1749-1829 81 信州更級郡の生、祖母に歌を習う/1765信濃埴科郡坂城の酒造業の杳掛久蔵道秀と結婚、歌人;荒木田久老・橋守部門、和漢の書を読み禅学を学ぶ、「東路の日記」「朧夜物語」「孝女いは物語」「ものの種」、「なか子家集」「玉燭歌」著
- 03236 **仲子**(なかこ・頼りい、道工助右衛門景房女) 1685-1762 38 安藝竹原の紺屋業頼亨翁(こうおう)(惟清)の妻、詩歌、春水・春風・杏坪の母
- 03229 **仲子**(なかこ・波多野はたの、庸成つねなり長女) 1768-1847 80 筑前遠賀郡山鹿村の狩尾かりお神社祠官の家、歌人;父門
- K3278 **仲子**(なかこ・秋山あきやま、) 1785-1856 72 江戸の歌人、秋山光條みつえの祖母
歌・草仮名を能くす
- P3210 **仲子**(なかこ・矢口やぐち、旧姓;林) 1790-1846 57 安藝広島の心学者;矢口来応門/妻となる、広島藩士矢口来応(1782-58)は敬信舎を開設;広島心学の祖、夫を助け心学普及に尽力
- P3234 **仲子**(なかこ・和田わだ、旧姓;石崎) 1819-85 67 伊予温泉郡の歌人、国学・歌;海野遊翁門
- N3265 **仲子**(なかこ・田村たむら、旧姓;二階堂) 1838-1901 64 出羽大館の国学者/維新後;秋田伝習学校教員、歌人;遺稿歌集「伊奈加都良いなかつら」著、[宵のまのなやらふ声に引きかへてあした静けく春は来にけり](伊奈加都良;冒頭歌立春)(難遣なやらふ;大晦日の追難;大声で難[鬼]を追い払う)
[花になれ蛭みてしは昨日にて萩の葉さやき秋は来にけり](同;立秋)
仲子(なかこ・平) → 周防内侍(すおうのないし、歌人) B 2 3 5 9
仲子(なかこ・崇賢門院) → 崇賢門院(すけんもんいん、仲子、後円融天皇母/歌) 2 3 9 8
- D3263 **中心**(なかこ・まなか・内藤/通称三左衛門、祐重男) 1740-1817 78 高知藩士/山林奉行/讒言により辞職、備中に住、国学・歌;稲垣長諷/谷眞潮門、1807「さくらのや歌集」著、内田幸夫ゆきお・太田白・児仁井こい秀時・中島栄武よしたけの師、[中心(;名)の号] 桜舎さくらのや/朴眞斎
- L3207 **永言**(ながこと・生駒こま) 1683-1746 64歳 阿波徳島藩士;中老、歌人;有賀長伯ちようはく門

- [永言(；名)の字/通称/号]字；文山、通称；左源吾/丹後/主膳、号；月峰齋/古心齋/臨川閣
 K3228 **永言**(ながこと・小栗おぐり)1802-1878 77歳 幕臣、国学/歌；海野幸典ゆきのり(遊翁)門、
 一弦の須磨琴を嗜む；東小歌と名付け作曲；その元祖と称す、
 「東小歌」/1842「復古四大家譜」・54「詞の塵」著、
 歌；1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、
 [夜もすがら霞つくして入る月の名残や今朝の雨となりけん](大江戸倭歌；200朝春雨)
 [永言(；字)の名/号]名；**信篤**のぶあつ、狂歌号；**港崎**みおさき可酔かすい、
 号；可酔/小歌仙史寂庵/歌樵/寛栗翁/栗廼屋/遊戯坊/栗園隠士/栗園主人、
 栄子内親王(ながこないしんのう)→ 栄子内親王(えいしなないしんのう、歌人) 1 3 2 9
 中五郎(なかごろう・進藤)→ 尚盛(ひさもり・進藤しんどう、藩士/歌人) J 3 7 8 6
 中左衛門(なかざえもん・山中)→ 通道(ゆきみち・山中やまなか/佐々木、書道) H 4 6 4 4
 仲左衛門(なかざえもん・今田)→ 信好(のぶよし・今田いまだ、藩士/歌人) H 3 5 4 3
 仲左衛門(なかざえもん・牧)→ 胤昌(たねまさ・牧まき、藩士/儒・歌人) Z 2 6 4 8
 長崎居士(ながさきこじ) → 一鸚(いちがく、漢学/翻訳) D 1 1 5 5
 仲貞(なかさだ・柳井) → 龜山(きざん・柳井、儒者/詩) K 1 6 5 9
- P3268 **長定**(ながさだ・花山院がざんいん/本姓；藤原、家定3男)1318-? 母；花山院長雅女、廷臣；1326左中将、
 兄2人早世；花山院10代当主/1328(嘉暦3/11歳)従三位/非参議、30(元徳2)権中納言、
 正三位/35従二位/36左兵衛督/37左衛門督/38正二位/39(暦応2)権大納言/48右大将、
 1349大納言/51(観応2)内大臣；就任後出家；法名；静円；禅門/法号；護法院、
 経定・良定・尊兼・定伊・関白経忠室の兄弟、兼定(右大将/権大納言)・定尊(権僧正)の父、
 歌；1350為世十三回忌和歌出詠、
 [おもひやる程はくもみの夜半の月今も心の中にこそすめ](為世13回忌歌；11)、
 [なにとなく昔も今も夢の世を過ぎにしかたと猶しのぶらん](同；12)、
 [長定(；名)の通称/法名/法号]通称；入道内大臣、法名；静円、法号；護法院、
- J3298 **長貞**(ながさだ・小槻おづき) ? - ? 室町期廷臣；左大史、大宮官務、
 歌；1475甘露寺親長催「公武歌合」参加、
 [平(比良)の海や明けゆく空はをち方のたかねも浪にうかぶ月かな](公武歌合；三番右)
- D3264 **長定**(ながさだ・鈴江すずえ/通称嘉右衛門)?-? 江戸初期阿波徳島藩主蜂須賀氏家臣、文筆記録、
 1642「鈴江氏由緒並忠節之記」編/「鈴江嘉右衛門長定書留；朝鮮征伐/大坂冬陣」著
- D3265 **永貞**(ながさだ・有沢ありさわ俊貞、俊澄男)1639-1715 77 母；関屋政春の姉、加賀藩士/武田軍法；政春門、
 軍学；山鹿素行/佐々木秀乗門、測量；藤井半知門、細工奉行、庄田正守の鈴韜の師、
 「有沢紀行集」「梧井庵雑記」、1690「城取私考」1705「軍学七徳」06「関原合戦略記」著、
 1712「甲陽軍鑑註解」、「湯桶随筆」著
 [永貞の通称/号] 梧井庵ごせいあん/高臥亭、通称；采女右衛門/九八郎
- D3266 **永貞**(ながさだ・富小路とみのこうじ尚直、一時名；栄、頼直男/本姓藤原)1640-1712 73 廷臣；1678従三位/
 1701正三位、1661-1711「永貞卿記」著
- D3267 **長貞**(ながさだ・小笠原がさむら/本姓；源、通称；三左衛門、法号；源春、信盛男)1649-1716 68歳 幕臣；
 将軍家綱(在任1651-79)に出仕、1667(寛文7)書院番、
 故実家；「犬追物全書」、1698(元禄11)「男女諸礼宝鑑」著、1716(享保元)没、
 歌人；1682河瀬菅雄[麓の塵]10余首入、
 [日影さす軒端のつらら今朝とけてかたへ長閑き庭の春風](麓の塵；10)
- D3268 **長定**(ながさだ・中川、通称金十郎/式部、長輝男)1675-1739 65歳 加賀金沢藩士/1700家督/03常火消、
 1724家老、1716-35「中川長定日記」、「与力方之留帳」「御鷹方御用控帳」
- D3269 **永貞**(ながさだ・生田いくた、字；無咎/无咎むきゆう、永税男/本姓中原)1771-1843 73 出雲松江藩儒；
 漢学/詩歌/仏学/兵学に通ず、
 「三教一致説」「聖学問答弁」「武芸十二伝」「日本百勝論」「易翼略解」「道教駁」著、
 [永貞の通称/号] 幼名；美穂吉、通称；十兵衛、号；好好
- D3270 **永貞**(ながさだ・広江ひろえ、号；雪暁)1784-1842 59歳 美濃加納の和算家；実之門、加納藩主家臣、
 磐城平藩に移住、「七曜晴雨考」、1833「続神璧算法起源」編
- K3269 **永貞**(ながさだ・) ? - ? 江後期；歌人、金子厚載あつりとは別人、

1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、

[日にそへて老のかしらに積む雪もふかくなり行く年の暮かな](大江戸倭;冬1360)

- D3271 **長貞**(ながさだ・村井むらい、初名;之行、奥村質直男)1812-4231歳 村井長道の養子;加賀金沢藩士、1836家督継嗣/39金沢城代、日記/記録;1836-41「日記」38「毎日記」著、
「日並記」「毎日帳」「毎日雑書書留」「類聚御用番記」著、

[長貞の通称] 通称;鈴之助/鞆負

- D3272 **長貞**(ながさだ・三好みよし/本姓;源、通称;内蔵助、捨三郎男)1823-? 幕臣;1840家督継嗣、1860中奥番/61御使番、1866辞職、「和礼軍儀要決集」著、
歌;1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、

[玉がしはひろ葉の露を吹き乱し風の見せける夕月の影](大江戸倭歌;夏395/新樹妨月)

栄貞(ながさだ・本居) → 宣長(のりなが・本居、国学) 3 5 2 4
永貞(ながさだ・高野) → 栄軒(えいけん・高野たかの、儒者/藩政) C 1 3 6 9
永貞(ながさだ・栗原) → 桶川(とうせん・栗原[栗本]、儒者) G 3 1 1 3
永貞(ながさだ・田中/彦坂) → 範善(のりよし・彦坂ひこさか、藩士/和算) G 3 5 3 3
永貞(ながさだ・徳田/金子) → 厚載(あつなり・金子かねこ、藩士/測量/歌) E 1 0 7 9
永貞(ながさだ・若松) → 永寿(えいじゅ・若松わかまつ、家侍/記録) C 1 3 8 8
永貞(ながさだ・檜原) → 秀近(ひでちか・檜原ならはら、書家/歌人) K 3 7 5 0
永貞(ながさだ・中山) → 玄亨(げんこう・中山、医者/日記) I 1 8 8 1

- D3273 **仲郷**(なかさと・藤とう、初名;斉賢まさかた、字;子光、斉長なりなが男)1733-180068 対馬藩士、
対馬総宮司職(;世襲)、家学[国/史/神学]を大成、古今典籍を修学、島内古跡を巡歴、
「対馬神社大帳」著(父祖以来の神祇研究の大成)、
「対州古蹟集」「対馬旧蹟俚談」「本州古実談」著、

[仲郷(;名)の通称/号]通称;主計/兵内、号;士功

中里(なかさと・奥井) → 中里(ちゅうり・奥井おくい、藩儒/詩人) G 2 8 9 3

- D3274 **永郷**(ながさと・藤原ふじわら)?-? 連歌;菟玖波集;2句入、
[むら雲の空行く月のさだまらで](菟玖波;雑1129/前句;またはれくもり秋ぞしぐるゝ)

- K3248 **長郷**(ながさと・中条ちゅうじょう)?-? 江後期;歌人、幕臣?、

1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、

[月にぬぬ我が為とてかほととぎす柴の戸近く鳴きて過ぐらし](大江戸倭歌;夏441)

長郷(ながさと・堀内) → 三稜(みくり・堀内、国学者) 4 1 8 1

- 3207 **仲実**(なかざね、藤原ふじわら、能成男)1057-111862 母;源則成女、伊勢・三河・備中守/越前守/紀伊守、
越前守/正四下中宮亮、関白藤原忠実の家司、歌人;堀河歌壇を指導、
1078(承暦2)内裏歌合/82(永保2)前出雲守経仲歌合/1080・83篤子内親王侍所歌合参加、
1100(康和2)「仲実朝臣女子根合むすめのねあわせ」催、03堀河天皇中宮篤子の乳母子として近侍;
家司兼任、中宮御所堀川殿を造進、1104(長治元)左近衛権中将俊忠歌合/10帥時家歌合参、
1116(永久4)鳥羽殿北面歌合/藤原実行六条宰相歌合/雲居寺結縁経後宴歌合など参加、
1116[永久四年百首]の事実上勸進者、歌学;「類林抄」「綺語抄」「類聚鈔」「古今集目録」著、
「堀河百首」「永久百首」入、後葉・続詞花集4首・万代集等入、
勅撰23首;金葉(4首243/273/426/569)詞花(263)千載(5首85/303以下)新古(19)新勅以下、
[もずのみる櫛はじの立枝たちえの薄紅葉たれわが宿のものと見るらん](金葉;秋243)
[堀河院御時(在位1086-1107)百首歌奉りけるに、

ひくまののかやが下なる思ひ草またふた心なしとしらざや](続詞花;恋591)

- D3275 **仲実**(なかざね、藤原ふじわら、実季3男)1064-112158 平安期廷臣;1076侍従/78丹後守、81従四下備中守、
右中將/1084正四下/91蔵人頭/92(寛治6)参議/93左中將播磨守/96従三位/97正三位、
1102権中納言/03正二位/15(永久3)権大納言、白河法皇の院近臣、1121(保安2)出家;没、
1078承暦二年内裏歌合参加、公実・保実・堀河天皇妃(鳥羽院母)の兄弟、
[水底もむらさき深く見ゆるかな岸のいはねにかかる藤波](内裏歌合;五番藤右10)

- D3276 **永実**(ながざね、藤原ふじわら、清家男)?-? 1118後没 母;橘季通女、廷臣;蔵人/1100信濃守見任、
1114従五上信濃守、藤原忠実の家司、上総守在任中没、範永の孫、為真・信濃の父、
歌;1115内大臣家歌合・内大臣家後度歌合参加、古事談に逸話/袋草紙;周防内侍と連歌、

勅撰5首;金葉集(4首64/301/443/484)・詞花集(214)、続詞花・万代集入、菟玖波集1句入、
[散りかゝるけしきは雪のこゝちして花には袖の濡れぬなりけり](金葉;一春64)
[信濃守にて侍りける よとせはてて上りける 美濃の国の野がみといふ所に宿れるに、
かの国のかみ(藤原)知房朝臣せうそこして酒などおくれりける返事に、
ことの葉の露のなさけの見えぬれば嬉しき旅の草枕かな](続詞花集;旅731)、
[藤原知房の返し、
いかでかは露のなさけもおかざらんのがみの里の草の枕に](続詞花;732)

3208 **長実**(ながざね・藤原ふじわら、顕季男)1075-1133**59歳** 母;藤原経平女、顕輔の兄、廷臣;大宰大貳、
1122従三位/29参議/正三位/30権中納言/33大宰権帥、鳥羽天皇皇后美福門院得子の父、
近衛天皇の外祖父として贈左大臣正一位、白河院の近臣、歌人;六条家歌合・歌会に参加、
1121「内蔵頭長実家歌合」2度催、十訓抄に逸話、後葉・続詞花・万代集入、蹴鞠・庖丁に造詣
勅撰19首:金葉(15首6/11/32/45/78以下)詞花(284)新古(468)続後拾(109)新拾(164)、
[いつしかと春のしるしに立つものは朝あしたの原の霞なりけり](金葉集;春6/早春の心)
[長実(;名)の通称]二条帥にじょうのそち/八条贈左大臣はちじょうのぞうさだじん/贈左大臣ぞうさだじん

永孚(ながざね・元田) → 東野(とうや・元田、儒/藩政改革) H 3 1 5 3

長真(ながざね・小笠原) → 忠雄(ただお/ただかつ/ただたか・小笠原、藩主/故実) P 2 6 2 1

D3277 **長実母**(ながざねのは・藤原ふじわら、経平女)?-? 修理大夫藤原顕季の室、長実ながざね・顕輔あきすけの母、
平安後期歌人:通称;贈左大臣の母/大夫の上、1116六条宰相家歌合参加、後葉集2首入、
勅撰4首;金葉(60/374/682;続千載579では夫顕季の歌)詞花(33)、
[春ごとにおなじ桜の花なれば惜しむ心もかはらざりけり](金葉集;一春60/落花の心)
[色深きみ山がくれの紅葉葉を嵐の山のたよりにぞ見る](後葉集;秋188/落葉随風)

D3278 **仲二**(仲治ながじ・吉田よしだ)?-? 江中期江戸浄瑠璃作者/人形遣;江戸大阪名古屋、
1770「けいせい扇富士」71「関取一鳥居」/74「独鈷駄六一代嘶」立作、

N3237 **永**(ながし・白崎しろさき、旧姓;鑑谷)1827-73**47** 出羽酒田の質商越前屋の白崎正ただしの養嗣子、
歌;僧魯道門/国学;鈴木重胤門、
[永(;名)の通称] 五右衛門/一誠

仲成(なかしげ・和気) → 仲成(なかなり・和気、廷臣;医者/歌人) F 3 2 0 4

D3280 **長滋**(ながしげ・遊佐ゆき、通称新右衛門尉)1428?-93**戦死** 越中蓮沼武将/畠山政長家臣/加賀守、
1487義尚近江出陣参/93河内正覚寺城で政長と共に討死、弓馬術;89細川政元邸犬追物参、
連歌;宗祇を迎え千句連歌催/飛鳥井榮雅邸歌会に宗祇と同座、新菟玖波入、長衛ながりの父

D3281 **長重**(ながしげ・天野あまの、長信男)1621-1705**85歳** 幕臣/1645家督/日光山修補奉行/御鐘・御旗奉行、
1701致仕、「楽々集」「思忠管見」「思忠志集」著
[長重の通称] 長三郎/弥五右衛門、法号;天長

D3282 **永重**(ながしげ・野村のむら、通称:五郎兵衛、永実男)1644-1702**59歳** 加賀金沢藩士/1664家督/馬廻頭、
1694飛騨高山城在番、「飛州高山城在番之覚書」「野村五郎兵衛等書翰」、

D3283 **長重**(ながしげ・黒田くろだ、長興2男)1659-1710**52** 母;亀子、筑前秋月2代藩主;1665父没;家督嗣、
甲斐守/従五下、藩財政再建に努力;上方での借銀返済一時停止・藩札の発行等の対策、
1692奏者番、1708辞職、江戸城表座敷雁の間に伺候、室;富貴子(勝真院/黒田光之女)、
長軌ながりの父、連歌:1706紹尹らと「山河百韻」、
[長重(;名)の幼名/通称/法号]幼名;千之助/通称;甲斐守、

N3254 **修重**(ながしげ・鈴木すずき、)1685-1732**48** 筑後久留米藩士;中小姓頭、歌学;葛岡宣慶のぶよし門、
[修重(;名)の通称] 次郎八

D3284 **長恵**(ながしげ・池田晴穹、政晴男)1745-1800**56** 幕臣/1787京町奉行/95大目付、96「長恵私記」著

P3226 **長重**(ながしげ・横地よこち、)1849-1902**54** 伊勢度会郡の伊勢神宮権禰宜、国学者、
「伊勢参宮名所の図」著、
[長重(;名)の通称/号]通称;壽丸/若狭、号;錦水/洞亀園/亀洞

永重(ながしげ・谷) → 永重(えいじゅう・谷たに、俳人/連歌宗匠) B 1 3 4 7

修茂(ながしげ・大胡) → 修茂(のりしげ・大胡おおこ、連歌) E 3 5 6 6

長重(ながしげ) → 幸阿弥(十世こうあみ、江戸前期蒔絵師) 1 9 6 8

長成(ながしげ・菅原) → 長成(ながなり・菅原/高辻、文章博士) F 3 2 0 5

- 長成女(ながしげのむすめ・菅原)→ 長成女(ながりのむすめ・菅原、歌人) F 3 2 0 8
 仲十郎(なかじゅうろう・太田)→ 満穂(みつほ・太田おた、藩士/神職/国学) I 4 1 5 0
 中上人(なかしょうにん) → 智得(ちとく; 法諱、時宗3代遊行上人) F 2 8 0 2
 仲四郎(なかしろう・葛巻) → 昌興(まさおき・葛巻かづまき、藩士/歌) B 4 0 4 9
- D3285 長季(ながすえ・平たいら) ? - ? 廷臣; 五位/歌人、1278成立「続拾遺」517
 [散りかかる花の鏡とおもふにも見で過ぎがたき山の井の水](続拾遺:七雜春517)
- K3227 長標(ながすえ・神保じんぼう/本姓; 橋/石丸) 1778-? 江後期幕臣、
 歌; 蜂屋光世「大江戸倭歌集」(1858刊)入、
 [朝日影あさひかげさすや垣根のささ竹に千代の春知る鶯の声](大江戸倭歌; 春85/鶯告春)、
 [長標(;名)の通称] 八郎/長次郎/四郎右衛門
- D3286 仲資(なかすけ・白川、仲資王、顕広王男/本姓源) ?-1222 母; 藤原能忠女、1176神祇伯/正二位、
 1207出家、「仲資王記」「白川家記」「伯家雜記」著、業資なりすけ・資宗の父
- D3287 仲輔(なかすけ・椿つばき、初名; 千稔、通称源吾/四郎左衛門) 1803-4644 下総香取猿山の国学者:
 神山かみやま魚貫なつら・小山田与清門、一時下総佐倉藩士、京に住: 歌人、
 「万葉發揮」「歌文集」「古今集解」/1841「野遊記」45「小岐蘇組日記」著、「椿仲輔家集」類則撰
 [仲輔の号] 常盤舎/南塘/藕塘/寂庵、俳人月杵げつしよの父
 中助(なかすけ・林) → 都の錦(みやこのにしき、浮世草子) 4 1 3 9
 中助(仲介なかすけ・隈元) → 棟貫(むねぬき・隈元くまもと/清水、藩士/歌) D 4 2 7 7
 中介(なかすけ・吉井) → 友実(ともざね・吉井よし、藩士/国事) P 3 1 5 3
 仲弼(なかすけ・平元) → 梅隣(ばいりん・平元、儒医/歌人) C 3 6 2 6
 仲介(なかすけ・後藤) → 椿庵(ちんあん・後藤ごとう、医者) K 2 8 5 6
 仲介(なかすけ・大井) → 漁隠(ぎょいん・大井おおい/平、藩士/文筆) N 1 6 1 0
 仲助(なかすけ・南部) → 巖男(いわお・南部なんぶ、藩士/国学者) D 1 1 4 7
- D3288 永相(ながすけ・藤原ふじわら、為資[978-1065]男/資国養嗣) ?-? 大蔵大輔/従五上、妻; 大江公資きんより女、
 息子: 永源[尊卑文脈; 東大寺僧/敦舒男の歌人永源とは別人?]/永縁/資信、
 息女; 百合花河内・前斎宮内侍
 参考 → 永縁母(えいえんのはは、大江公資女) 1 3 1 5
 → 河内(こうち・百合花、歌人) B 1 9 6 8
 → 永縁(永円えいえん・ようえん、母公資女、歌人) 1 3 1 4
 → 内侍(ないし・前斎宮、歌人) 3 2 0 0
 → 永源(えいげん/ようげん、東大寺僧/母公資女/歌人) 1 3 2 3
- P3264 永輔(ながすけ・大中臣おおなかとみ、宣輔男) 1000-1071 72 平安期廷臣; 六位神祇少副/神祇大副、
 清輔[続詞花集]入、鷹司殿倫子百和香歌合参加(最終総括歌)と同一?
 [永承四年(1049)内裏歌合に、
 秋のみといかなる人かいひそめし月は冬こそ見るべかりけれ](続詞花; 冬292)、
 [さきさきにをりあつめたる花の色にふちなみのみそたちまさりける](百和香13番)
- D3289 長相(ながすけ・藤原ふじわら/持明院じみょういん、法名; 相真、相保男) 1257-? 鎌倉期廷臣; 1290右兵衛督、
 伏見天皇近臣、1299参議/正二位/1311出家、歌人; 1280春宮歌会参/80弘安源氏論議参加、
 雅有「春のみやまち」入
- D3290 長資(ながすけ・姓不詳) ? - ? 南北期南朝参議/歌; 新葉2首; 672/1271
 [しるべとはわが心をやたのまましひとにとふべき恋路ならねば](新葉 恋672)
- D3291 永相(ながすけ・高倉たかくら永綱、法名; 常清、永家男/本姓藤原) 1531-8555 母; 伊勢貞陸女、永孝の父、
 1585権大納言/義昭軍に参加/信長・秀吉に伺候、歌; 1580天正内裏歌合参、47/82和漢聯句
 [露をさへいとどうらむる名にしおはば霜にもたえねまつむしの声](虫; 内裏歌合)
- D3292 長祐(ながすけ・東坊城ひがしぼうじょう、法号; 宗閑、恒長2男/本姓菅原) 1644-62夭逝 19歳 1660文章得業生
 廷臣; 1661(寛文元)侍従/従五下、「拙詠」著
- D3293 永資(ながすけ・日野ひの、初名; 資敏すけとし[資政]、輝光男) 1694-1712夭逝 19歳 廷臣; 侍従/1704正五下、
 1706(宝永3)改名; 永資/11(正徳元)右少弁、歌人; 「日野永資等和尚歌」著
 長救(ながすけ・大久保) → 忠恒(ただつね・大久保おおくぼ、幕臣) P 2 6 8 6
 長助(ながすけ・高辻) → 長純(ながすみ・高辻たかつじ、廷臣/詩) D 3 2 9 5

- 長祐(ながすけ・岡) → 長洲(ちようしゅう・岡おか、藩儒/詩文) I 2 8 7 1
 仲資王(なかすけおう) → 仲資(なかすけ・白川廷臣/記録) D 3 2 8 6
 仲墨(なかすみ・梁) → 梁仲墨(うづばりのなかすみ、狂歌) B 1 2 8 0
- D3294 長澄(ながすみ・若槻わかつき) ? - ? 細川氏綱臣/連歌, 1563「淀城千句」奉行、
 1592紹巴らと百韻
- D3295 長純(ながすみ・高辻たかつじ、別名;長昭/長助、遂長男/本姓菅原) 1619-4830 江前期廷臣/少納言、
 下野日光山没、「分韻詩海拔萃」編
- D3296 長澄(ながすみ・溝江みぞえ、長氏、長逸男) ?-1600 武将;朝倉・信長・秀吉臣、1597小早川秀秋補佐、
 連歌;1589紹巴と百韻
- L3225 長澄(ながすみ・犬童いぬどう、別姓;印藤・院道) ?-1673 肥後球磨郡人吉相良藩士、
 幕府の預け人の相良藩家老相良清兵衛の従者として陸奥弘前に移住、書・歌・俳諧を嗜む、
 1663(寛文3)家光13回忌大赦で帰国を許可、長澄については相良清兵衛の実子変名説あり、
 [長澄(;)名]の通称/号]通称;九郎右衛門、号;三甫
- L3240 長澄(ながすみ・小津おつ、旧姓;筒井) 1785-185773 伊勢松坂の国学者;本居大平・春庭門、
 [長澄(;)名]の字/通称/号]字;陳之、通称;孫三郎/新五郎/清左衛門/与兵衛/与次兵衛、
 号;石斎/碧天/青厓/釣隱
- 03212 長住(ながすみ・中村なかむら、) 1792-184150 近江彦根の国学・歌人;村田泰足門、
 歌:[彦根歌人伝・鶴]入、
 [長住(;)名]の通称/号]通称;他四郎、号;萩舎/梅人
 [清純(;)名]の別名]大吉(幼名)/永純(初名)、戒名;華岳院
- 永純(ながすみ・有馬) → 清純(きよすみ・有馬ありま、藩主/歌人) V 1 6 6 8
 長純(ながすみ・和田) → 宗淳(そうじゆん・和田わだ、国学者/歌人) L 2 5 1 7
- D3297 仲蔵(初世なかぞう・中村なかむら、斎藤某[武士/浪人]男) 1736-9065歳 江戸深川の歌舞伎役者:
 2世中村伝九郎門、下位役より座頭の地位を得る、立役/室悪を兼ね色悪を大成、
 時代物・舞踊に長ず、上京し関白家より[三ヶ津白拍子]称号を得る、
 「秀鶴随筆」「秀鶴寝物語」「月雪花寝物語」「秀鶴日記」「所作修業旅日記」著
 [中村仲蔵(;)通称]の幼名/別通称/号/屋号/法号]幼名;万蔵、
 別通称;中村市十郎/中山小十郎6世/志賀山万作8世、号;秀鶴、屋号;栄屋/堺屋、
 法号;浄華院
- D3298 仲蔵(3世なかぞう・中村なかむら、勘三郎14世、村田市兵衛男) 1809-8678 江戸歌舞伎役者:
 父は富山藩足軽/母;舞踊志賀山流11世志賀山せい、五世中村伝九郎門、
 切られ与三の蝙蝠安を創演;出世芸となる、1865(慶応元)3世中村仲蔵を襲名、
 敵役・老役を専らとす/晩年は劇団古老として重んじられた、
 1841-44「秀鶴日記」著/「絶句帳」「手前味噌」「中村歌右衛門伝」「松本幸四郎伝」著、
 [中村仲蔵3世(;)通称]の幼名/別通称/号/屋号/法号]幼名;富太郎/亀吉、
 別通称;中村鶴蔵(初世)/中村勘三郎(14世)、号;雀枝/秀雀/舞鶴/秀鶴、
 屋号;成雀屋/舞鶴屋/栄屋、法号;仙覚院空舞居士
- 中園入道前太政大臣(なかぞのにゅうどうさきのだいじょうだいじん:新拾遺下) → 公賢(きんかた・洞院) 1 6 5 9
 中園入道相国(なかぞのにゅうどうしょうこく) → 公賢(きんかた・洞院とういん、歌) 1 6 5 9
 永手(ながた・藤原) → 永手(ながて/ながた・藤原、廷臣/歌人) E 3 2 6 0
 長田王(ながたおう) → 長田王(ながたのおおきみ、万葉歌人) 3 2 0 9
- D3299 仲孝(なかたか・下間しもつま、法諱:性乗しょうじゅう、下間筑後守述頼男) 1551-161666 母;定専坊女、
 代々真宗本願寺坊官/少進/真宗法印、頭如[光佐]に出仕、能役者;金春大夫岌蓮門、
 1582頃岌蓮より能の相伝を受;素人能役者として活動、「叢伝抄」「舞台抄」「童舞抄」著、
 「下間少進聞書」「下間少進自筆能伝書」1582「下間少進筆岌蓮江間日記」外著多数、
 [仲孝(;)名]の別名/通称]別名;仲泰/仲之、通称;下間少進、
- P3218 仲敬(なかたか・山田やまだ、旧姓;西巻) 1760-181556 越後刈羽郡平井の西巻家の生、
 柏崎の商家[山甚]の5代目を継嗣、幼少時;加納の寺沢石城門、歌人;京の冷泉家入門、
 漢学者原松洲を亀田鵬斎の仲介で柏崎に招聘;田町に松洲学舎[翠光軒]を建設し贈る、

柏崎に儒学漢学が盛行、柏崎の大肝煎、静里(重弘/山甚6代目)・半仙(重世/山甚7代)の父、
[仲敬(；名)の通称/号]通称；為四郎、号；鏡古亭

- E3200 **長隆**(ながたか・土佐とき/姉小路あねこうじ、法名快閑、光隆男?/本姓藤原)?-? 鎌後期絵師/左近将監、
法眼/従五下、「法然上人行状画図」「遊行双紙」「住吉物語絵巻」「蒙古襲来絵詞」画、
長章ながあきの父
- E3201 **長高**(ながたか・小笠原/通称彦五郎、法号浄願、貞朝男?) 1488-1544 57 信濃武将/信濃守、今川家臣、
遠州馬伏塚城住、「当流手綱秘伝」「鞍懸廿七箇条講釈」伝
- E3202 **永孝**(ながたか・高倉たかくら、永相ながすけ男/本姓；藤原) 1560-1607 48 廷臣；1606権中大納言、
信長や秀吉に接近、江戸幕府に装束指導、歌；1580天正内裏歌合；父と参加、
連歌：1602昌叱と百韻ほか、永慶ながよしの父、
[露も袖にしたひやきぬるのべの虫をみぎりにうつすやどの夕ぐれ](天正内裏歌合；虫、
みぎりは階の下の石畳)
[永孝の通称/法名] 通称；藤宰相、一文字名；子、法名；常専
- E3203 **長高**(ながたか・坂野さかの、長政男) 1650-1704 55歳 加賀金沢藩士/1678家督継嗣、1699台所奉行、
「御親翰御定書」著、
[長高(；名)の通称]通称；忠兵衛/帯刀左衛門
- E3204 **長穹**(ながたか・村井むらい、通称；鞆負/又兵衛、前田孝資男/) 1739-90 52歳 村井長堅の養嗣子、
加賀金沢藩士；1757家督継嗣、1778加越越能三州産物方、
「加越能産物記」編、「加越能産物方自記」著、「村井家譜」編
- E3205 **長堯**(ながたか・河辺かわべ、長矩男/本姓；大中臣) 1740-1806 67歳 伊勢大宮司/神祇少副、歌人、
「四姓使座次例調査」著
- E3206 **長孝**(ながたか・乾いぬい、池田俊清男) 1741-98 58歳 乾豊長も養子；鳥取藩士、1758家督継嗣、
家老職、漢学/博識/武芸、「長孝志」「乾注荘子」「乾注中庸」「老子眞語」「知難録」著、
[長孝(；名)の字/通称]字；子肥、通称；甲斐/平右衛門
- M3208 **長喬**(ながたか・小西こし、旧姓；井沢)?-1842 江中後期；信濃伊那郡の歌人、
桃沢夢宅(1738-1810)門、信濃飯田に住、
[長喬(；名)の別名/通称/号]別名；純宴、通称；勝三郎/利右衛門、
号；楽只亭/里恭/不匱堂ふきどう
- 03259 **長孟**(ながたか・藤田ふじた、) 1762-1838 77 伊勢度会郡の国学者；本居大平門、
[長孟(；名)の通称/号]通称；長平/右兵衛/門弥/内匠たくみ、号；六々/藤陰
- N3235 **栄隆**(ながたか・下田しもだ、) 1764-1837 74 陸奥盛岡の宝蔵院流槍術師範、国学/歌人、
[栄隆(；名)の通称/号]通称；物集女もずめ、号；常山
- E3207 **永鷹**(ながたか・玉田ただ、通称；司馬之助、永教2男) 1782-1861 80歳 山城愛宕郡の神道講談者、
京住、1842刊「やまちのつゑ」著
- M3211 **長喬**(ながたか・小林こばやし、) 1793-1854 62 信濃飯田の国学者/歌；植松茂岳しげおか門、
[長喬(；名)の通称/号]通称；源兵衛、号；巴陵
- F3207 **修就**(ながたか・ながなり・川村かわむら、修富男) 1795-1878 84 幕臣、御庭番；200俵、老中水野忠邦に拔擢；
1843(天保14)幕府直轄領となった新潟町の初代新潟奉行；新潟にお台場築造；大砲製造・
消防制度確立・砂防林造成、のち堺奉行/大坂西町奉行/1855長崎奉行110代；禄4400俵、
日英和親条約の批准書交換・日蘭和親条約調印に参加、のち小普請奉行/西丸留守居、
1865(元治元)致仕、1868葉屋「知春園」を開業；69救急薬[五神錠]を販売、
歌に長ず、歌：「軒の玉水」著、川村帰元の父/川村清雄(洋画家)の祖父、
1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、
[七十の老のあゆみにくらゐ山たどらでのぼる道はやすしな](大江戸倭歌；雑2056、
1841[天保12]岡本花亭成[75歳]が諸大夫に任官時の歌；同2055；
[道知らぬ老の歩みに位山のぼるべしとは思ひかけきや]への返歌、修就47歳)、
[修就(；名)の幼名/通称/号]幼名；釜五郎、通称；庄五郎/清兵衛/対馬守/壱岐守、
号；精斎/閑斎
- L3285 **永隆**(ながたか・喜多山きたやま、本姓；吉江) 1810-1873 64 越前鯖江藩士、国学者、

国学;平田鉄胤門/蘭学;畑中善良門/兵学;下曾根金三郎門/歌;香川景樹門、
藩校進徳館教授、1868(慶応4)軍事取調頭取;兵制改革に尽力、

[永隆(;名)の通称/号]通称;小左衛門/儀兵衛、号;木人/皎斎/三香園/稽縄舎/扱善斎

永孝(ながたか・三好) → 想山(しょうざん・三好みよし、藩士/書家) J 2 2 3 0

長孝(ながたか・望月) → 長孝(長好ながよし・望月、歌人) 3 2 2 2

長孝(ながたか・太田) → 白雪(はくせつ・太田、庄屋/商業/俳人) D 3 6 4 8

長孝(ながたか・浅野/水野) → 忠鼎((ただかね・水野みずの/源/浅野、藩主/歌) U 2 6 0 8

長孝(ながたか・竹内) → 無因斎(むいんさい・竹内たけうち、儒者) 4 2 2 1

長孝(ながたか・魚住) → 長胤(ながたね・魚住うおずみ/源、藩士/国学/歌) L 3 2 3 0

長隆(ながたか・村井) → 親長(ちかなが・村井、藩士/儒者) B 2 8 4 1

仲武(なかたけ・中村) → 七友斎(しちゆうさい、中村、儒者/藩士) E 2 1 6 3

E3208 **長健**(ながたけ・佐藤さとう、通称:東市/権左衛門、金右衛門長通男)?-1769 鳥取藩士/故実家;父門、
使番、古記録蒐集、「因府録」「因府録後編」著

E3209 **永武**(ながたけ・上部うわべ/度会わたらい、榎倉武成男or孫) 1757-93 37歳 伊勢外宮神主、
「伊勢太神宮御神徳略記」著

K3231 **長武**(ながたけ・小笠原おがさわら、長禎ながよし長男) 1809-39 31歳 播磨安志藩5代藩主;1823(安政6)継嗣、
従五下/信濃守、妻;戸田光行女、早世;次男貞幹(忠幹)が継嗣、
歌;蜂屋光世「大江戸倭歌集」(1854刊)入、

[桜花盛りになりぬ思ふどちいざ見にゆかん馬に鞍置け](大江戸倭歌;289花時鞍馬多)、

[長武(;名)の幼名/法号]幼名;豊光丸、法号;通源院

永武(ながたけ・高倉/持明院) → 宗時(むねとき・持明院/藤原、廷臣/書家) B 4 2 7 9

E3210 **中正**(なかただ・藤原ふじわら、中納言山蔭男)?-? 左京大夫/摂津守、安親・時姫(兼家妻)の父

E3211 **中正**(中忠なかただ・源みなもと、当年男)?-? 平安中期廷臣;918左衛門尉?/従五上筑前守、

右大臣能有の孫、歌;後撰3首:227/604(源信明と贈答)/785(下野と恋の贈答)、

[あふみちをしるべなくても見てしがな関のこなたはわびしかりけり](後撰;恋785)、

(女への贈歌;近江路と逢ふ身になる道を掛る/道標みちしるべは手引きの女房/関は逢坂関)、

女[下野]の返歌 → 下野(しもつけ、女房歌人/後撰786) F 2 1 9 2

仲正(なかただ・源) → 仲正(なかまさ・源、歌人) F 3 2 6 7

E3212 **永忠**(ながたけ・津田つだ、字;叔子、貞永[佐源太]男) 1640-1707 68歳 備前岡山藩士、側小姓、

1664大目付;藩校や閑谷学校創設/社倉米制度制定/郡制改革を实践、

「続美人伝」「続善人記」著

[永忠(;名)の通称]通称;重二郎/佐源太、

E3213 **長忠**(ながただ・広幡ひろはた、法名承恵、豊忠男/本姓源) 1711-71 61歳 廷臣;1735権大納言/56出家、

「新撰古実抄」「仗議類聚鈔」「伊勢公卿勅使記」「長忠卿記」著

E3214 **永忠**(ながただ・三村みむら) ? - ? 江中期備前岡山藩士、

1759「有斐録」著;藩主光政の事蹟

M3220 **永忠**(ながただ・佐藤さとう、) 1761-1845 85 長門萩藩士;1818(文政元)当島代官、

1831(天保2)藩主世子の字を避け永忠と改名、晩年毛利敬親の養育頭役、

歌人;[萩の歌人]入、

[ことのはのみち明らけし石見がた高角山の神の光に](萩の歌人・宝暦頃)、

[永忠(;名)の幼名/初名/通称]幼名;喬五郎、初名;教忠、通称;権兵衛

E3215 **長忠**(ながただ・白石しらいし、仁木一斎男) 1795-1862 68 白石郡次の養子、和算家;日下誠・和田寧門、

江戸住;徳川清水の家臣、「対数起源」「数家人名志」「白石草書」「粂々りんりん算術」著、

1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、1860鋤柄助之「現存百人一首」入、

[おとづる松の響きに秋来くやとうれしの杜の夏の夕風](大江戸倭歌;643松下納涼)、

[うなぬ子がさす手豊かにさかづきの蒔絵まきゑの山もまづ霞みつつ](現存百人一首;36)

[長忠(;名)の字/号]字;世彦、号;粂々りんりん/兵峯

長忠(ながただ・祝部) → 忠長(ただなが・祝部ほうりべ/はふりべ、神職/歌) F 2 6 4 3

長恵(ながただ・村井) → 長道(ながみち・村井むらい、藩士/能研究) F 3 2 8 8

中正女(なかただのむすめ・藤原) → 時姫(ときひめ・藤原、兼家妻) J 3 1 9 1

仲正女(なかただのむすめ・源) → 三河(みかわ、歌人) 4 1 6 3

- L3246 **中立**(なかたつ・岡野おかの、) 1748-1827 80 伊予の歌人; 医者二宮正禎まさただ(1777-1856)門、菊池和久・伊達芳直・井上保造らと交流、
[中立(;名)の通称/号]通称; 助左衛門、号; 梅屋/聊樂園りょうらくえん
- E3217 **永胤**(ながたね・大中臣おおなかとみ、初名; 永盛、永定男) ?-? 1307 存 鎌倉後期神職; 神祇権大副/従四下、1307出家、歌: 続千載1774
[身のうさを思へばいとど世を秋の袖のしぐれのはるるまぞなき](続千載; 十六1774)
- E3218 **長種**(ながたね・中川ながかわ、瀬川半兵衛男) ?-1701 中川重勝の養子、金沢藩士、1654大横目、
「中川八郎右衛門長種書翰」著、長輝の父、
[長種(;名)の通称]通称; 八郎右衛門
- E3219 **長胤**(ながたね・蓑田みのだ、通称; 伝兵衛) 1812-70 59歳 薩摩鹿児島藩士/奥掛勤務、
1854-60琉球赴任/長崎滞在、1861頃薬園/船奉行、藩主側役; 維新貢献、
「蓑田伝兵衛書簡集」「蓑田長胤書簡」著
- N3298 **長胤**(ながたね・常世とこよ、初名; 敬吉、旧姓; 常住) 1832-86 55 上総木更津の生/下野都賀郡壬生に住、
初め常住敬吉と称す/のち常世長胤に改名、国学者; 1866(慶応2)平田鍬胤門、
下野都賀郡斯波大神宮祠官/神道; 神祇官内宣教少講義生/1872武蔵芝大神宮祠官、
教部省十等出仕; 教部省中録、山形県使/神宮教山形県本部長、神宮教管長田中頼庸と対立、
職を追われ辞職、「神教組織物語」「大教院興立次第記」著
- E3220 **永胤**(ながたね・東条とうしょう、方庵男) ?-? 江戸幕末期儒者/淡斎の弟、「補註十八史略」著
- L3230 **長胤**(ながたね・魚住うおずみ/本姓; 源、初名; 長孝) 1847-93 47 播磨飾東郡の生/姫路藩士、
姫路の広峰神社祠官、国学; 平田鉄胤門; 伊吹舎に入門/本居豊穎門、歌人、東京住、
「しのふくさ」「四季の花」「千町田集」「松のみかけ」「題辞類言桜歌集」編、
[長胤(;名)の通称] 幹三郎
- 永胤(ながたね→えいいん、公基歌合参) → 永胤(えいいん/よういん、僧/歌人) 1 3 0 0
永胤(ながたね・菊田) → 和平(かざひら・菊田さくた/小笠原、農家/国学/神職) U 1 5 4 8
永種(ながたね・高内) → 眞足(またり・高内たかうち/額田、神職) J 4 0 5 7
長胤(ながたね・伊藤) → 東涯(とうがい・伊藤、儒者) 3 1 0 6
- 3209 **長田王**(ながたのおおきみ・おさだ一、桜井王男) ?-737 奈良期; 712正五下、728頃聖武; 風流侍従の1、
732撰津大夫/正四下、734朱雀門歌垣の頭かみ、
万葉二期歌6首81-83/245-6/248、続後撰入、「長田王恋婦歌」(「歌経標式」所収)、
[隼人はやひとの薩摩の瀬戸を雲居なす遠くもわれは今日見つるかも](万葉三248)
- E3221 **長田王**(ながたのおおきみ、長皇子男or孫) ?-? 奈良期; 735従四下、741刑部卿従四上、
上記歌人長田王と混同されやすい
- E3222 **長民**(ながたみ・浦田うらた、長一男) 1840-93 54歳 伊勢度会浦田の生/神職; 1857伊勢内宮禰宜、
儒詩; 雲滂・拙堂門、勤王志士; 幽囚/67赦免、維新後; 宮内省御用掛/度会郡長を歴任、
「林崎義塾試学記」「明治祭式」著
[長民の字/通称/号]字; 穀夫、通称; 織部/鉄二(次)郎/穀太郎/土佐、号; 改亭/楽郊子
- 長民(ながたみ・福島) → 輔民(すけたみ・福島ふくしま、歌人) H 2 3 8 5
長足(ながたり・田中) → 年足(としたり・田中たなか、大庄屋/歌人) V 3 1 5 0
- E3223 **長親**(ながちか・土御門つちみかど、有弘男) ?-? 鎌倉期陰陽家/廷臣; 陰陽頭/権天文博士/主税頭、
1320「建天全書」、「神祇官八神殿仮殿造営長親書状」著
- E3224 **永親**(ながちか・冷泉れいせい; 長良流/高倉、冷泉永基男/本姓藤原) 1419-73 55 廷臣; 左兵衛佐、
1460参議/正三位、永宣ながのぶの父、
歌; 1450仙洞歌合参加(5首)、「当時禁裏年中行事」「禁裏院中女房年中行事」著、
[永親(;名)の法名]法名; 常勳、
[けふ幾日いか遠山鳥の尾のがねも絶えてへだつる峰の白雪](仙洞歌合; 四十四番左、
峰の雪に隔てられ今日で幾日 遠山の山鳥が尾根を隔ておのれの鳴き声もとだえたか、
山鳥; キジ科の野鳥・雌雄が夜は峰を隔てて寝るといふ/尾とおのれ・嶺と寝を掛る、
声絶えてと[全く]を掛る)

- E3225 **長親**(ながちか・松平まつだいら、親忠男)1473-1544**72歳** 三河安城城主/1496家督/出雲守/出家、今川氏の西三河侵攻を防衛、連歌:1518宗長を迎え「永正十五年四月廿三日山何百韻」興行
[長親(;)名]の別名/法名]別名;忠次、法名;一閑道闍
- E3226 **長知**(ながちか・横山よこやま、通称;大膳、号;道哲/夕庵、長隆男)1568-1646**79** 美濃武将、1582前田利長の家臣/山城守、各地に従軍/1599家康に謁見;加賀前田家を弁護、金沢藩の重臣、「求旧紀談」「横山山城守覚書」著
- K3288 **永親**(ながちか・荒木田あらかだ、)1568-1646**78** 伊勢度会郡の神職;伊勢内宮禰宜、正三位、国学/歌人
- E3227 **長親**(ながちか・小津おつ、道生[長正]2男)1690-1760**71** 伊勢松阪の茶店油屋の5世主人、本町の小津清兵衛家当主/歌;1737「小津長親奉納歌百首」入、1752「宝暦二申四月初詠艸会集」外詠草会集3編
[長親(;)名]の通称/号]通称:清四郎/清兵衛、号;**道円**、屋号;油屋
- L3205 **長隣**(ながちか・井上いのうえ、通称;藤兵衛)1708-76**69** 但馬出石郡の国学者
- E3228 **長親**(ながちか・清岡きよおか/本姓;菅原、右大弁五条為俊2男)1772-1821**50歳** 京の廷臣;清岡[菅原]輝忠の養嗣子、1789宮内大輔/92大内記/1800文章博士/06少納言/侍従、1807勘解由長官/10正三位、16式部大輔、妻;北小路祥光女、長材・長貴の父、「渭川文集」「三革考」「芸玖波洪量館記」著、「集古之図」画、
[長親(;)名]の通称/号]通称;紀伊権守/式部大輔、号;楽只菅公/翰林菅公
- K3233 **長慎**(ながちか・岡部おかべ、長備ながとも2男)1787-1859**73** 母;側室、1803(享和3/17歳)兄・父没;家督継嗣;和泉岸和田藩9代藩主/岸和田岡部家10代、従五位下/美濃守、藩財政危機状態、財政再建に尽力;儉約・家臣禄高抑制・新税導入/大坂商人登用、文武を奨励、1811(文化8)水間寺本堂再建、1833(天応4)息子長和に家督譲渡;隠居;/藩執政は続行、藩史「岡部氏家訓」編纂、1847小野蘭山口述「本草綱目啓蒙」版木焼失を惜しみ復刻;「重訂本草綱目啓蒙」として復刊、1849服部雪斎らの「本草綱目図譜」刊行、1851(嘉永4)藩校講習館設立;儒講師として相馬九方を招聘、正室;松平忠濟女/継室;青山幸孝女、長寛・長発・池田定保室・松浦曜室らの父、歌;1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、
[五月雨の雲より雲に入りぬらし鳴く音をたどる山ほととぎす](大江戸倭歌;夏460)、
[長慎(;)名]の幼名/通称/号]幼名;千弥、通称;第次郎、号;南山
- N3283 **永隣**(ながちか・民上たみのえ、)1808-1872**65** 伊勢員弁郡の医者/神官、
[永隣(;)名]の初名/字/通称]初名;正彦、字;子元、通称;準篤
長隣(ながちか・有賀) → 長隣(ちようりん・有賀あるが、歌学者) L 2 8 9 9
長親(ながちか・日野) → 禪寂(ぜんじやく;法諱、如蓮坊、天台僧) F 2 4 8 2
長親(ながちか・花山院、南朝廷臣) → 耕雲(こううん、臨濟僧/歌人) 1 9 0 4
長親(ながちか・葉室) → 定顕(さだあき・葉室/藤原、廷臣/連歌) H 2 0 6 0
永恭(ながちか・狩野) → 為恭(ためちか/ためたか・冷泉/岡田、絵師/歌) H 2 6 0 0
- E3229 **長親母**(ながちかのほは・花山院かざんいん、内大臣家賢の室)1326?-? 1375**存** 長賢/長親[耕雲明魏]の母、歌人:住吉社三百六十番歌合(散佚)参/新葉集26首
夫 → 家賢(いえかた・花山院、歌人) 1 1 3 2
息子 → 長賢(ながかた・花山院、歌人) D 3 2 4 2
→ 耕雲(こううん・花山院長親ながちか、歌人) 1 9 0 4
- E3230 **中務**(なかつかさ、中務卿敦慶親王女)912?-?989**後没;81歳以上** 母伊勢、平安中期女房/歌人、源信明さねあきと深い交流、実頼/師氏/元良親王/元長親王/常明親王等交渉男性多数、歌:956麗景殿歌合・960天徳内裏歌合など参加、屏風歌多数、「中務集」「中務君歌合」著、後撰集69首(83/594/707/846/952/1086/1104)以下、36歌仙の1、
[はかなくておなじ心になりにしを思ふはごとは思ふらんやぞ]、
(信明への贈歌;後撰594)
- 3210 **中務**(なかつかさ・選子内親王家、源為理女)??-? 973**存** 母;大江雅致女?、女房/歌:1017大斎院御集入、勅撰4首;後拾遺339/850・玉葉263(姉中将への返歌)・風雅640、
[待ちつけて散りはてぬとも山桜しばしは庭をはらはざらん] (玉葉;二春263;返歌)

- 中務の姉 → 中狩(ちゅうじゅう・選子内親王家、歌人) G 2 8 3 6
- E3231 中務(なかつかさ・山田やまだ、大和守藤原致貞女)?-? 平安中期三条皇后成子せい女房/歌:後拾遺548、
[そなはれし玉の小櫛おくしをさしながらあはれかなしき秋にあひぬる]
(後拾遺集十:哀傷548/皇太后宮葬送に出仕の女蔵人への贈歌)
- E3232 中務(なかつかさ、六条斎院祿子内親王家の女房)?-? 平安後期歌人/物語作者、
1038源大納言師房家歌合;左方参加、
1050-78六条斎院祿子内親王歌合18回参;うち1055物語合「なみいづかたにと嘆く大将」、
[恋わたる涙は海になりぬれどみるめなきさによをすぐすかな](1050六条斎院歌合;24)
- E3233 中務(なかつかさ・松井まつい、名;寧、群忠男)1809-63暗殺55歳 京西本願寺の用人、
蝦夷に屯田兵派遣建言、1862開港派の松平慶永と親交;63反対派による暗殺、
「北越行役誌」著、「松井寧遺稿集」
- 中務(なかつかさ・小瀬/坂井) → 甫庵(ほあん・小瀬おぜ、軍学/歴史) 3 9 5 0
- 中務(なかつかさ・村田) → 春野(はるの・村田、国学者) G 3 6 6 8
- 中務(なかつかさ・大館) → 氏晴(うじはる・大館おだち、故実家) C 1 2 6 0
- 中務(なかつかさ) → 海量(かいりょう;法諱、真宗僧/歌人) 1 5 0 2
- 中務(なかつかさ・上野) → 広聡(ひろとし・栄名井さかない/上野/真壁、神職/和漢学) G 3 7 5 1
- 中務(なかつかさ・徳川/松平) → 頼元(よリモト・松平/徳川、藩主/歌人) J 4 7 8 4
- 中務(なかつかさ・香取) → 和雄(かずお・香取かとり、神職/文筆家) M 1 5 1 4
- 中務(なかつかさ・吉見) → 幸混(ゆきむら・吉見、幸和男/神職) F 4 6 7 9
- 中務(なかつかさ・桑折) → 宗頼(むねより・桑折こおり/くわおり、家老/歌) D 4 2 8 0
- 中務(なかつかさ・八幡) → 光瓊(みつてる・八幡やわた、神職/国学) D 4 1 9 4
- 中務(なかつかさ・八幡) → 光保(みつやす・八幡、光瓊男/神職/国学) K 4 1 8 4
- 中務(なかつかさ・織田/大岡) → 清謙(きよかた・大岡/織田、幕臣) O 1 6 7 1
- 中務(なかつかさ・古田) → 広計(ひろかず・古田ふるた、藩士/歌人) F 3 7 6 8
- 中務(なかつかさ・前田) → 貞直(さだなお・前田、藩家老/記録) J 2 0 0 0
- 中務(なかつかさ・前田) → 貞幹(さだもと・前田、藩家老/記録) J 2 0 8 9
- 中務(なかつかさ・前田) → 貞道(さだみち・前田、藩家老/記録) J 2 0 7 6
- 中務(なかつかさ・東) → 政隆(まさたか・東あづま、藩士/歌) N 4 0 1 8
- 中務(なかつかさ・杉山) → 宜袁(よしなが・杉山すぎやま、家老/郷土史) F 4 7 3 0
- 中務(なかつかさ・柘植) → 竜洲(りゅうしゅう・柘植つげ/柘、医者) E 4 9 5 7
- 中務(なかつかさ・小畑) → 詩山(しざん・小畑おばた、医者/詩人) D 2 1 7 7
- 中務(なかつかさ・足代) → 弘敷(ひろのぶ・足代/度会、神職/儒者) G 3 7 8 4
- 中務(なかつかさ・宮沢) → 清房(きよふさ・宮沢みやざわ、神職/国学) T 1 6 4 6
- 中務(なかつかさ・竹尾) → 正久(まさひさ・竹尾、神職/国学/歌) G 4 0 6 4
- 中務(なかつかさ・吉野) → 重泰(しげやす・吉野/麻統、神職/国学) S 2 1 9 9
- 中務(なかつかさ・滝本) → 次麿(つぐまる・滝本たきもと、神職/歌人) F 2 9 1 5
- 中務(なかつかさ・橘) → 香(かおる・橘たちばな/山本、儒者) V 1 5 0 3
- 中務(なかつかさ・到津) → 公誼(きみよし・到津いとうづ、神職/国学) T 1 6 4 9
- 中務(なかつかさ・志貴) → 昌芳(まさよし・志貴しき/惣社、神職/国学) Q 4 0 0 6
- 中務(なかつかさ・座光寺) → 為磧(ためかた・座光寺ざこうじ、領主/歌人) X 2 6 2 8
- 中務(なかつかさ・今田) → 頼武(よりたけ・今田いまだ、藩士/執政) I 4 7 9 4
- 中務(なかつかさ・菌田) → 守賀(もりよし・菌田そのだ/荒木田、神職) K 4 4 2 4
- 中務(なかつかさ・畠山) → 盛章(もりあき・畠山はたけやま、神職/歌人) L 4 4 0 1
- 中務(なかつかさ・福島) → 末美(すえよし・福島ふくしま/谷田、神職) J 2 3 1 5
- 中務(なかつかさ・前沢) → 万重(よろづえ・前沢まえざわ、国学者) P 4 7 0 5
- 中務(なかつかさ・宮西) → 諸助(もろすけ・宮西みやにし/本間、神職/国学) L 4 4 6 0
- 中務卿(なかつかさきょう・大鳥居) → 信観(しんかん・大鳥居/高辻/二条、社僧/連歌) N 2 2 7 5
- 中務卿親王(なかつかさきょうしんのう) → 敦慶親王(あつよしんのう、宇多天皇皇子/歌人) B 1 0 4 7
- 中務卿親王(なかつかさきょうしんのう) → 宗尊親王(むねたかしんのう、将軍/歌人) 4 2 0 5
- 中務卿親王家備前(なかつかさきょうしんのうけのびぜん) → 備前(びぜん、歌人) C 3 7 4 9

中務卿親王家三河(なかつかさきょうしんのうけのみかわ)→ 三河(みかわ、歌人) 4 1 6 5
 中務卿恒明親王家按察(なかつかさきょうつねあきらしんのうけのあぜち)→ 按察(あぜち・恒明親王家) B 1 0 1 9
 中務権大輔(なかつかさのごんのだいほ)→ 行道(ゆきみち・藤井ふじい/ト部、廷臣/歌) H 4 6 2 1
 中務少輔(なかつかさのしょう)→ 安治(やすはる・脇坂わかさか、武将/藩主/歌) H 4 5 0 4
 中務少輔(なかつかさのしょう)→ 安政(やすまさ・脇坂わかさか/堀田、藩主/歌) H 4 5 0 5
 中務少輔(なかつかさのしょう)→ 正任(まさとう・井上いのうえ、藩主/歌) L 4 0 2 1
 中務少輔(なかつかさのしょう)→ 定賢(さだかた・岡本おかもと/松下、神職) O 2 0 1 9
 中務少輔(なかつかさのしょう)→ 梅堂(ばいどう・浅野、幕臣/和学) B 3 6 9 2
 中務少輔(なかつかさのしょう)→ 正路(まさみち・塩谷しおのや、幕臣/歌) L 4 0 9 4
 中務丞(なかつかさのじょう・桜井)→ 基佐(元佐もとすけ・桜井さくらい、連歌) 4 4 1 3
 中務丞(なかつかさのじょう・堀江)→ 種久(たねひさ・堀江/藤原、武士/連歌) R 2 6 9 9
 中務丞(なかつかさのじょう・伊庭)→ 貞和(さだかず・伊庭/種村/源、武士/連歌) F 2 0 2 5
 中務丞(なかつかさのじょう・菊池)→ 美振(よしふる・菊池まくら、神職/国学) M 4 7 4 5
 中務少丞(なかつかさのしょうじょう・入江)→ 則栄(のりひで・入江いりえ、歌人) F 3 5 5 6

E3234 **中務典侍**(なかつかさのすけ、中務乳母、藤原高子[灑子さい]、大和守藤原興方女)?-? 平安中期;

994三条中宮妍子の乳母、のち典侍/従四上、1017典侍を辞す;その後も妍子の側近、
 歌人:後拾遺878、藤原惟風の妻?:惟風妻とすると惟経ら母の儷子典侍と同一?、
 1015(長和調和4)以後に惟風弟是貞と再婚;名を灑子と改名、
 [山里をたづねてとふと思ひしはつらき心を見するなりけり](後拾遺;878、
 患って山寺にいる頃人が訪れたが再度は来ないので贈る、
 見舞ってくださると思ったのに実は薄情な心をお見せなんですね)

中務大輔(なかつかさのだいほ)→ 家久(いえひさ・島津/惟宗、武将/連歌) 1 1 5 6
 中務大輔(なかつかさのだいほ)→ 立孝(たつたか・細川ほそかわ、武将/歌人) R 2 6 6 5
 中務大輔(なかつかさのだいほ)→ 慶勝(よしかつ・徳川/源/松平、藩主) C 4 7 9 1
 中務大輔(なかつかさのだいほ)→ 正実(まささね・戸沢とざわ/平、藩主) R 4 0 0 2
 中務大録(なかつかさのだいろうく)→ 行有(ゆきあり・青木あおき/宗岡、官人) G 4 6 4 3

E3235 **中務内侍**(なかつかさのないし・伏見院、藤原経子、藤原永経女)?-? 鎌倉後期女房/歌人、

1280頃後深草院御所出仕/87伏見院内侍/92退出、1280-92「中務内侍日記」、玉2首;173/1810
 [かはる世のうきにつけてぞいにしへのあはれなりしも思ひしらるる](玉葉十三恋1810)

中務皇子(なかつかさのみこ)→ 代明親王(よりあきらしんのう、醍醐天皇皇子) 4 7 3 2
 中務親王(なかつかさのみこ)→ 敦慶親王(あつよししんのう、宇多天皇皇子/歌人) B 1 0 4 7
 中務親王(なかつかさのみこ)→ 具平親王(ともひらしんのう・六条宮、詩歌) Q 3 1 3 9

E3236 **中務命婦**(なかつかさのみょうぶ)?-? 平期通宗家女房?/歌;1086通宗女子達歌合参、続古261

[月のさすまきのいたどとしりながらたれあけよとてたたくくひなぞ](続古今集;三261)

祿子内親王家中務と同一? → 中務(なかつかさ、六条斎院祿子女房) E 3 2 3 2

中務の乳母(なかつかさのめのと)→ 中務典侍(なかつかさのすけ、妍子乳母) E 3 2 3 4

E3237 **長継**(永継ながつぐ・佐伯さえき/姓;宿禰すくね、継成男)770-82859 廷臣;810菓子乱に伊勢使として功績、
 蔵人頭/826左衛門督/詩:文華秀麗入(;新燕の詩)

E3238 **長継**(ながつぐ・鴨かも、長明の父)?-? 平安末期賀茂神社摂社の河合社ただすのやしろ禰宜

E3239 **永継**(ながつぐ・高倉たかくら、法名常祐、永豊男/本姓藤原)1427-151084 廷臣:1482権中納言/85出家、
 犬追物射手、歌:1472「玉津島法楽仮名題百首」/87「安養寺三十首続歌」参加、新菟入

E3240 **長次**(ながつぐ・浦田/通称織部/本姓藤原)1604-? 伊勢山田神職、1675守武「世中百首」千部書写、
 「伊雑宮御造営上京留書」編

E3241 **長世**(ながつぐ・小笠原おがさわら長貴/長如、号;雄嶽、政久男/長喜養嗣)1765-181349 幕臣/1771家督、
 1807日光奉行、「雄嶽詩稿」;息長保編

E3242 **長韶**(ながつぐ・黒田くろだ、長舒2男)1789-184052 筑前秋月藩主;1808家督嗣/老岐守/甲斐守/従五下、
 未成年の福岡藩主黒田斉清に代り長崎警備を勤める/福岡藩の支援で藩財政再建を図る、
 歌を嗜む:「竜徳公御遺草」、
 [長韶(;名)の幼名/号/法号]幼名;金十郎、号;韶翁、法号;竜徳院

- L3289 **長説**(ながつぐ・清岡きよおか/本姓;菅原、号;松柏) 1832-1903⁷² 京の廷臣/儒学を家職の五条家の生、支流の清岡長熙(文章博士)の養子、大膳大夫/1850文章博士正五下/52(嘉永5)大学頭かみ、従四下/1858大内記/正四下、維新後東京移住;正三位/1883(明治16)宮内省殿掌/98正二位、妻:家女房、長延の父
中皇命(なかつすめらみこと) → 間人皇女(はしひとのひめみこ) 3 6 1 4
- E3243 **仲綱**(なかつな・源みなもと、頼政男) 1126-1180 自害^{55歳} 母;源忠清女(or源齊頼女)、平安後期廷臣、正五下/右兵衛尉/蔵人/伊豆守/隠岐守、父と平家追討の挙兵;敗戦;父と平等院で自害、歌人;1172広田ただす社/78別雷社歌合参加、1175・79右大臣兼実家歌合参加、続詞花/月詣/玄々/万代/秋風/雲葉集など入、宗綱・有綱・頼成・広綱・頼季の父、勅撰11首;千載(6首97/128/527/878/890/998)玉(151)新千(2161)新拾(226)新後拾以下
[さきだちし人は闇にやまよふらんいつまで我も月をながめん](千載集十六998)
- E3244 **長綱**(なかつな・藤原ふじわら、法名;道可/通可、忠綱男)?-? 鎌倉期廷臣;左馬頭/正五下、書家、歌人:1226「長綱百首」28頃「定家卿相語」著、36「遠島御歌合」出詠、家集「前権典厩さきのごんてんきゅう集」、「先達物語」著
- E3245 **長綱**(なかつな・藤原ふじわら、小山長村[1213-69]男;作者部類説)?-? 鎌倉期廷臣;蔵人/五位、歌:「藤原長綱集」、続拾遺集3首;603/1212/1229
[なげくまに月日ぞ過ぐるそむきても身をかくすべきうき世ならねば](続拾遺集1229)
忠綱男長綱と同一説あり? → 長綱(なかつな・藤原、道可) E 3 2 4 4
- E3246 **永綱**(なかつな・高倉たかくら、法名;連阿、廉定男/本姓藤原)?-? 1366存 廷臣/故実家:
1366「連阿装束抄」「連阿不足口伝抄」、「高倉永綱記」「刷衣秘伝」「装束裁縫秘記」著
- E3247 **長綱**(なかつな・東坊城ひがしほうじょう/本姓;菅原、茂長男)?-1392 廷臣;大学頭/文章博士/1358従三位、1381正二位/83参議/87式部大輔/氏長者/大蔵卿、後光厳・後円融・後小松天皇侍読、歌人;内裏歌会に参加、二条良基の側近、連歌:1355良基文和ふんな千句参(名;長)、菟玖波4句入、歌;1330元徳二年八月御会/66年中行事歌合/67新玉津歌合参/69応安二年内裏和歌参加、二条良基家の歌会・連歌会に参加、1387浄阿奉納[隠岐高田明神百首]良基と参加(3首入)、勅撰7首;新千載(1143;刑部卿長綱名)、新拾(530/1158;大蔵卿名)新後拾(425/744/1248;兵部卿名)新続古今(580;兵部卿名)、新後拾遺425は続現葉集には聖遠しょうえん法師作とある;同一人か、
[月見れば寝られぬ夜はといひなして涙ばかりをなほつつむかな](新千載;恋1143)
[山陰や月のころをも忘るらむ](菟;秋365/前句;秋のおもひぞ涙落そふ)
長綱(なかつな・北条) → 幻庵(げんあん・北条、早雲男/文人) H 1 8 6 2
永綱(なかつな・藤原) → 範綱(のりつな・藤原、廷臣/出家/歌人) F 3 5 0 8
永綱(なかつな・高倉) → 永相(ながすけ・高倉、16ct廷臣/歌人) D 3 2 9 1
- E3248 **中庸**(なかつね・服部はつとり/本姓;源、別姓;箕田/渡辺、時中男) 1757-1824⁶⁸ 伊勢松阪の医者、国学:1785本居宣長門、代々紀伊藩に出仕;1787藩士;支配勘定格御勝手方/松阪城代与力、妻没;1805(文化5)致仕;のち出家し京に移住;水月庵茂翁・箕田水月を名告る、「三大考」(宣長[古事記伝]17に付載)/「七大考」著、平田篤胤に影響を与え義兄弟となる、歌;本居大平「八十浦の玉」中巻;3首入、
[ほととぎす宿の橘花咲ける時とき来むかへどなどか来鳴かぬ](八十浦;606/待鶴公鳥)、
[中庸(;名)の通称/号]通称;和介/八太郎/義内、号;楓蔭/水月/義翁
- E3249 **長経**(なかつね・源みなもと、重光男/母;行明親王女)?-? 平安中期廷臣:左京大夫、1023道長の金剛峯寺随行、備前守;1031延任、詩文・能射、1023道長に随行「道長高野詣」著
- E3250 **長経**(なかつね・藤原ふじわら/進藤、法名;正信、藤原[進藤]長範男)?1236以後生-? 鎌倉期廷臣;筑前守/左衛門尉、近衛家の家司、歌人、新千載集撰の時に近衛道嗣の家司として故長経法師の歌を二条為定に送る(愚管記)、勅撰5首;新後撰(1137)続千載(1711/1876)続後拾(1189)新千載(2224)、
[思へただ又あふ中のわかれだにうきはならひの暁の空](近衛関白葬儀の後;新千2224)
- E3251 **長恒**(なかつね・杉原すぎはら、安藝入道、満盛男/本姓平) 1424-81^{58歳} 武将/安藝守/宗伊そいの弟、歌/連歌、1472玉津島社法楽仮名題百首和歌参加、73按察使親長家歌合参加、新菟玖波入
- E3252 **長常**(なかつね・田辺たなべ、通称;八左衛門、三郎左衛門昌常男) 1579-1664⁸⁶ 武芸:管槍田辺流の祖、

- 大坂陣で秀頼軍に参戦/落城後に漂泊、1627尾張藩主徳川義直の家臣、「長常記」著
- E3253 **長恒**(ながつね・小笠原おがさわら、通称;善次郎/主膳、茂武男)1715-8167歳 幕臣/1724家督嗣;
徳川吉宗に出仕、西丸書院番頭/1773致仕、故実;「女官装束図」著
- E3254 **永常**(ながつね・大蔵おおくら、字;孟純、伝兵衛男)1768-186093歳 豊後日田出身の農政家、
天明1781-89の度重なる飢饉の惨状に農学を志す、大阪に滞在;諸国行脚し農政研究、
1818江戸に移住/渡辺崋山推薦で三河田原藩物産方に出仕/次に遠州浜松藩物産方に勤務、
「農家益」「農具便利論」「門田の栄」、「仮字集」「田家茶話」「勸善夜話」「黄葉園随筆」著、
[永常の号] 亀翁/黄葉園主人/受知園主人、通称亀太郎
- E3255 **長恒**(ながつね・南部なんぶ、又七郎、古賀定祐男)1791-185969歳 南部尚珍の養嗣子/佐賀藩士;
1837内官/皿山代官、謙信流兵学/真田流砲術、1834「疏導要書」著
- E3256 **長常**(ながつね・小笠原おがさわら、通称;織部、号;軽鷗)?-? 1866存 幕臣;1857甲府勤番支配/浦賀奉行、
1858京町奉行:安政大獄に尊攘派志士を多数逮捕、勘定奉行・海軍奉行歴任、長門守、
「探索書」著、歌;1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、
[ひむがしの海の遠方ほのぼのといろめく波や春のはつ花](大江戸倭歌;12春の初)
- 03204 **長経**(ながつね・中川ながわ、自休じきゅう長男)1804-? 江後期廷臣;有栖川宮諸大夫、歌人;父門、
[長経(;名)の通称] 出雲守/信濃守/玄蕃頭
- E3257 **長常**(ながつね・岡部おかべ、太田運八郎男)1825-66or6743歳? 岡部長英の養子/幕臣;1857長崎奉行、
在任中日蘭通商条約交渉全権となる、居留地の拡大/英語・医学の普及、1861外国奉行、
1862大目付/1863徳川慶喜に随行中刺客に襲われるが難を逃れる/作事奉行、
1864神奈川奉行/65軍艦奉行、のち清水小普請組支配;致仕、
1860「外国人居留場場所規則書」著、1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、
[麓まで棚引きわたる白雲は遠山もとの桜なりけり](大江戸倭歌;275/遠山花)、
[長常(;名)の幼名/通称]幼名;彦十郎、通称;兵衛尉/右兵衛尉/駿河守
- L3217 **長恒**(ながつね・磯部いそべ、東流男)1781-187074 伊勢神戸の町年寄;安政大地震の困窮者救済・
伊勢街道高岡橋の架橋などに尽力、国学/歌;足代弘訓門・井上文雄・本居豊頼門、
佐々木弘綱(信綱の父)と親交、歌人/書家/生花も嗜む、
最後の神戸藩主本多忠貫の歌の師;1867建立「山辺御井之碑」の碑文を書、
[長恒(;名)の通称/号]通称;宇右衛門/良助、号;松所
- 長常(ながつね・天中原) → 南山(なんざん・天中原、史家/天文/歌謡) J 3 2 0 6
長恒(ながつね・熊野) → 正紹(まさつぐ・熊野くまの、漢学/地誌家) D 4 0 9 2
長恒(ながつね・甲把) → 瑞益(すいえき・甲把がっぱ、医者/郷土史) E 2 3 1 2
- E3258 **仲連**(なかつら・源、当季男/能有孫)?-? 平安前期廷臣;右衛門尉;921「醍醐御時内裏菊合」参
[ももしきにうつろふいろははつしものおきてかひあるこよひなりけり](醍醐菊合)
- E3259 **良連**(なかつら・ト部うらべ/吉田兼業、兼隆男)1762-181352歳 吉田神道家;1785神祇大副/従二位、
1787-1810「ト部兼業日記」/1782「中臣祓抄」著
- E3260 **永手**(ながて/ながた・藤原ふじわら、通称;長岡大臣、房前ふささき男)714-77158歳 母;美努王女の牟漏女王、
737従五下/750従四上/52大倭守/54従三位/中納言/式部卿/大納言/右大臣、766左大臣、
道鏡に対抗;光仁天皇擁立;藤原百川ももかわと共に即位に尽力、770正一位;没/追贈太政大臣、
万葉集十九4277、拾遺抄17(:長平名)、
[袖垂れていざ我が苑そのうぐひすの木伝こたひ散らす梅の花見に](万葉;4277)
- E3261 **長輝**(ながてる・中川ながわ/通称采女、長種男)?-1700 加賀金沢藩士/1680家督/1690宝円寺請取火消、
1680「自分人馬数之帳」著、長定の父
- E3262 **長璉**(ながてる・市橋いちばし/通称;民部、稻葉董通男)1733-8553 1755近江仁正寺藩主市橋直挙の養嗣、
1758家督嗣;襲封/仁正寺藩主、詩文:「遊乎館前集」「遊乎館後集」(;息長昭編)
- E3263 **長熙**(ながてる・清岡きよおか、五条為徳男/長材嗣)1814-7360 廷臣;文章博士/1854式部権大輔、
正三位、1859安政5日米条約反対、「天保改暦之記」著
長照(ながてる・永田?) → 心行(しんぎょう・北山ほくざん、富士講行者) N 2 2 8 9
- K3200 **長門**(ながと・待賢門院たいけんもんいん)?-? 平安後期女房歌人;鳥羽皇后待賢門院璋子家女房、
寂超「後葉集」2首(258/430)入、
[播磨路はりまちの須磨の関守る身なりせばあかぬ別れは許さざらまし](後葉集;258、

播磨の故郷に帰ろうとする人に贈る)

- 03280 **永人**(ながと・増田ますだ、)1835- 1906 72 陸奥仙台藩士;小姓、国学者
 長門(ながと・滝川) → 忠厚(ただあつ・滝川、藩士/地誌) P 2 6 1 5
 長門(ながと・杉村) → 直記(なおき・杉村、家老) B 3 2 0 6
 長門(ながと・本郷) → 弘斎(こうさい・本郷ほんごう、藩士/書) I 1 9 8 4
 長門(ながと・藤堂) → 元甫(もととし・藤堂とうどう、藩士/地誌家) D 4 4 2 9
 長門(ながと・伊達) → 宗充(むねみつ・伊達、村良男/領主/民政) D 4 2 9 2
 長門(ながと・堤) → 盛章(もりあき・堤つみ/高田、神職/国学) K 4 4 6 2
 長門(ながと・堤) → 盛受(もりうけ・堤つみ/福島、神職/国学) K 4 4 6 3
 長門(ながと・堤) → 盛夏(もりなつ・堤つみ、盛受男/神職) K 4 4 6 4
 長門(ながと・堤) → 盛雄(もりたけ・堤つみ/荒木田、神職/国学) K 4 4 6 5
 長門(ながと・大久保) → 忠尚(ただひさ・大久保、国学者) F 2 6 6 9
 長門(ながと・柏木) → 眞海(しんかい・柏木かしわぎ、幕臣/儒者) D 2 2 6 6
 長門(ながと・菊池) → 忠樹(ただき・菊池きくち/藤原、神職/国学) W 2 6 7 9
 長門(ながと・松浦) → 東鷄(とうけい・松浦まつうら、易占家) D 3 1 1 7
 長門(ながと・松岡) → 時義(ときよし・松岡まつおか、藩奉行/国学) W 3 1 4 7
 長門(ながと・松風) → 秀胤(ひでたね・松風まつかぜ/松岡、神職) L 3 7 2 6
 長門(ながと・前田) → 初種(はつたね・前田まえだ、神職/歌人) J 3 6 5 8
 長門(ながと・伊木) → 忠澄(ただずみ・伊木いぎ/土倉、藩家老/歌) V 2 6 4 0
 長門(ながと・矢田部) → 盛隣(もりちか・矢田部やたべ、神職/国学) L 4 4 7 3
 盛次(せいじ・矢田部) → 盛次(もりつぐ・矢田部やたべ、神職/国学) L 4 4 7 5
- 3221 **長能**(ながとう/ながよし・藤原ふじわら、倫寧男)949?-?1015頃没67? 母;源認女、道綱母と異母兄弟、
 983左近衛将監/984蔵人/従五下/988図書頭/991上総介/1005従五上/09(寛弘6)伊賀守、
 花山院歌壇で活躍/能因の歌の師;歌道師承の最初、袋草子;公任の擲楯で病没の逸話入、
 975一条大納言家歌合・985内裏歌合参加、「長能私記」著、家集「長能集」、
 後十五番歌合・玄々集(10首)・新撰朗詠集・続詞花集(6首)・万代集・秋風集・雲葉集入、
 勅撰57首;拾遺(7首54/134/161/1021以下)後拾遺(20首11/47/160以下)詞花(2首)以下、
 [身にかへてあやなく花を惜しむかないければのちのはるもこそあれ](拾遺集;一54)
 [長保五年(1003)五月入道前太政大臣(左大臣道長)家歌合に池辺松をよめる、
 君が代のちとせの松のふかみどりさわがぬ水に影ぞ見えける](続詞花;賀345)
 長能(ながとう・喜多) → 長能(ちようのう・喜多、能役者) J 2 8 6 5
- E3264 **仲遠**(なかとお・橘、佐臣男)? - ? 播磨守/文章生、936講日本紀尚復/943日本紀竟宴歌参加、
 956「坊城右大臣師輔歌合」参加/965「日本紀私記」著、新勅撰543/続後撰580、
 [あさなあさな照る日の光ますごとに天兒屋根尊いつか忘れむ](新勅;神祇543、
 天兒屋根尊こやねのみこと)
 [この秋のまゆみの紅葉いかなれば染めぬに色のふかく見ゆらん](師輔歌合;
 まゆみ左/右は宮内くない)
- E3265 **仲遠**(なかとお・源みなもと、二条院判官代義仲男)?-? 平安後期廷臣;蔵人/齋院長官、
 歌:1178廿二番歌合参加、
 [ちはやぶる賀茂の社にもも夜ねて恋ひかねぬとは妹はしらじな]、
 (廿二番歌合;長精進恋)
- L3211 **中徹**(なかとお・生島いくしま/旧姓;岩崎、通称;加賀守)1680-1752 73 近江彦根の歌人、
 京の京極宮家諸大夫、
- E3266 **長遠**(ながとお・藤原ふじわら/塩飽しわく)?-? 鎌倉期;左衛門尉/六位;北条氏御内人、
 歌人:1325成立「続後拾遺集」1354
 [わかのうちや雲井をしらぬあしたづは聞えんかたも波になくなり](続後拾遺1354)
- E3267 **長遠**(ながとお・東坊城ひがしほうじょう、秀長長男/本姓;菅原)1365-1422 58 南北期廷臣;大学頭/文章博士、
 1411非参議/12大藏卿/14右大弁/16従二位/19参議/22正二位、称光天皇侍読、
 1418「仙洞三席御会」詩序、歌:新続古1142、連歌;1385良基「至徳二年石山百韻」参(3句入)、
 [枕の鐘の近きあけぼの](石山百韻;賦何船;初裏6/夜明けは近い、

前句;鷹司頼冬よりふゆ;かすみては月の残るもすくなきに)

- K3287 **長遠**(ながとお・幸山こうやま、初名;広居ひろやす)?-1863 加賀大聖寺の医者、歌;橘曙覧門、越前吉田郡に住、1861松平春嶽(慶永)[古今百人一首]入、
[夜を寒み芦間の波も氷りつる月冴えわたる難波江の里](古今百人一首;97)、
[長遠(;)名]の号] 愚仏/浩斎
- K3234 **長遠**(ながとお・小笠原おがさわら/本姓;源)?-? 旗本/幕臣;河内守、中奥小姓、1863(文久3)目付、1867(慶応3)京都見廻役/王政復古後;新遊撃隊頭;病のため致仕;隠居、1869他の旗本同様静岡に移住、1870(明治3)坂本竜馬暗殺容疑で刑部省より詰問;咎無し、歌;1958蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、
[いせ島や岩うつ浪の音にさへまぎれもやらぬ郭公かな](大江戸倭歌;470/島郭公)
[長遠(;)名]の通称/号]通称;弥八郎/河内守、号(隠居号);忍斎
- E3269 **長時**(ながとき・北条ほうじょう/赤橋、重時男/本姓;平)1229-6436歳 母;平時親女、鎌倉期武将;六波羅探題(北方)/1256(康元元)鎌倉幕府6代執権、従五上/左近将監/武蔵守、時茂・義政・忠時の兄、義宗の父、歌人;1261將軍宗尊親王家御会始参加、現存六帖/秋風集/雲葉集/新和歌集/拾遺風体集/三十六人大歌合入、勅撰続12首;続後撰(801/1056)続古(374/705/931/1098/1767)続拾(509/708)新後撰以下、
[頼むるをまたいつはりと思ひてもなほ忘れぬ夕暮れの空](続後撰;恋801/契待恋)、
[長時(;)名]の通称/法名]通称;陸奥四郎、法名;専阿/観恵
- E3270 **長時**(ながとき・小笠原おがさわら、長棟男)1514-8370歳 母;浦野忠尚女、武将;信濃守護、武田信玄に敗北/1552上杉謙信の家臣、戦乱の中を遍歴;故実/兵法の書を著述、
「小笠原流騷方次第書」「小笠原伝書」「小笠原流射術伝書」「小笠原軍法書」「礼方書」外著多、
[長時(;)名]の通称/号]通称;又二郎、号;湖雲斎
- E3271 **長時**(ながとき・村井むらい、通称;又兵衛、長明ながあき男)1616-9176 加賀大聖寺藩士;1637藩主より召出、1645父没;家督継嗣;藩士、町奉行・寺社奉行・御関所御預を歴任、1688(元禄元)隠居御関所御預、「村井家記」「筆記」著、幼名;七左衛門
- K3208 **長時**(ながとき・小松原こまつばら)?- ? 江前期備前の俳人、1676西鶴「古今俳諧師手鑑」入、
[唐笠やさくらかざしてけふの雪](手鑑/
新古今;春104赤人/百敷の大宮人は暇いとまれや櫻かざして今日も暮らしつ)
- E3272 **長辰**(ながとき・角野かどの/すみの)?- ? 江戸中期歌人、1755-65「和歌八部抄」編
- L3244 **長時**(ながとき・大塚おおつか)1766-182358 近江彦根藩士/儒学大菅南坡(集)門、歌人;大菅中養父門、歌;彦根歌人伝・寿入、小原君雄・小林義兄と交流、
[長時(;)名]の字/通称/号]字;子習、通称;平右衛門、号;日谷/北風軒
永時(ながとき・本間) → 長兼(ながかね・本間ほんま/源、幕臣/歌) K 3 2 1 0
- E3273 **仲俊**(なかとし・橘たちばな、俊通[1002-58]男)?-? 母;菅原孝標女([更級日記]作者)
- E3274 **仲敏**(なかとし・藤原ふじわら、仲親男)?- ? 鎌倉中期廷臣;武人/六位/宣陽門院蔵人/左近将監、歌人;1263為家勸進「住吉社歌合」参加、勅撰2首;続古今1766/続拾遺491
[なかなか思ひいでてぞなぐさむる忘れぬべきむかしならねば](続古今集十九1766)
- E3275 **仲利**(なかとし・北きた、名;貞卿/通称;利助、号;華汀/酔臥亭)1721-6545歳 江中期大阪の詩人、1742東溟「名月篇」入、「酔臥亭遺稿」
- E3276 **仲敏**(なかとし・上田うえだ、別名;御野みぬ/金十郎、半右衛門男/本姓;橘)1809-6355歳 尾張藩士、禄8百石、使番/持弓頭/台場砲術掛を歴任、砲術;吉雄南臯門、国学;本居大平門、歌人、自邸に西洋学館(のち藩校)を設立;伊藤圭介らと海防を主唱、柳河春三らの師、1849「砲術語選」編/52「西洋砲術表之巻」53「西洋砲術便覧初編」、「辛亥雜記」「慨世彙編」、「菊廼舎きくのや集」「上田仲敏歌集」著、
[仲敏(;)名]の通称/号]通称;頼母/帯刀、号;菊廼屋/黄花園、法号;良範賢雄道英居士
黄化逸客と同一? → 逸客(いっかく・黄化こうか、戯作者) G 1 1 7 5
- 仲敏(なかとし・関屋) → 續南(けいなん・関屋せきや、藩医) 5 1 5 9
- 仲敏(なかとし・大槻) → 俊斎(しゅんさい・大槻おおつき、蘭方医) K 2 1 7 1
- 仲敏(なかとし・堀家) → 徳政(のりまさ・堀家ほりけ、神職/歌人) J 3 5 3 8

- E3277 **長年**(ながとし・椎野連いのむらじ)?-? 万葉歌人;十六3822-23:歌論を述べる、古歌(3822)[橋の寺の長屋に我が率寝ぬし童女放りなほはりは髪上げつらむか]について、寺は俗人の寝処ではないまた腰句と尾句に同意の語を用いていて矛盾すると指摘、修正歌(3823)[橋の照れる長屋に我が率寝し童女放りに髪上げつらむか]を示す
- E3278 **長俊**(ながとし・源みなもと;醍醐流、季広男)?-? 平安末鎌倉期廷臣;皇后宮少進/刑部大輔/摂津守、有長の父、歌;1186経房歌合の講師、1195経房歌合参加、夫木抄入、続後拾遺1067、[世の中のおぼつかなさも山里はとはれし人の絶えまなりけり](続後拾遺;雑1067)
- E3279 **長俊**(ながとし・藤原ふじわら、宗親男男)?-? 右近権少将/中将?、歌;1314正和三年「詩歌合」参、[短夜の名とりの川のはやきせにながれてやすく明るる月影](詩歌合;十七番水辺夏)
- E3280 **長敏**(ながとし・鈴木ずき/本姓;橋)?-?1495以前没 武蔵品川の武将/連歌;1467心敬宗祇を迎えた、1470河越千句参加、新撰菟玖波;読人不知衆の1
- 3211 **長俊**(ながとし・観世かんぜ/通称;彌次郎、法名;心祐、信光男)1488-154154歳 戦国期能役者;観世大夫6世元広の相手役・補佐役・代理を勤める、元広の遺子元忠を指導、謡名手/能作者;「正尊しょうそん」「輪蔵りんぞう」、1524「能本作者註文」著、当代劇の新作最後の人、元頼・古津宗印の父
- E3281 **長俊**(ながとし・山中、法名昭春、為俊男/本姓橋)1547-160761 近江六角義賢家臣/秀吉右筆/豊臣姓、1590小田原攻従軍/関ヶ原敗戦/領土没収京住、連歌;96紹巴と百韻/1602「中古日本治乱記」[長俊の通称]橋内[吉内]、山城守
- P3244 **長俊**(ながとし・星野辺ほしのべ、)?-? 江前期;歌人、1670下河辺長流[林葉累塵集]4首入、[逢坂の山に春たつけさよりやここも霞の関と見ゆらむ](林葉累塵;春6)
- L3203 **永俊**(ながとし・井上いのうえ、三郎右衛門男)1684-175370 備中倉敷の商家;宮崎屋/富豪、歌;有賀長伯門、夏鼎ひろさだ(五蔵永美)の父/常之つねゆき(端木はしき/三郎右衛門広輔)の祖父、[永俊(;名)の通称]岩松/安兵衛/三郎右衛門(父を継承/孫常之も継承)
- E3282 **永年**(ながとし・高木たかぎ/修姓;鷹、沢田光寛男)1740-9758 高木永世の養嗣子;伊勢山田神道家、神宮典籍を集録;「二宮叢典」編/「訓詁通」「二宮年表」編[永年(;名)の字/号]字;万年、号;正々館/退翁
- E3283 **長敏**(ながとし・恵美えみ、字:好古/通称;主鈴)?-? 江中期安永1772-81頃京の詩人、1777「賞春芳帖」編
- E3284 **長年**(ながとし・清水しみず、字:子鑑/通称;安兵衛、号;東陽)?-? 江後期因幡鹿野(鹿取新田)藩士、江戸住、1788「毛野紀行」95「熱海紀行」著
- 3212 **永年**(ながとし・春田はるた、)1753-180048歳 尾張出身/幕府御用の具足師;江戸麴町住、甲冑の故実家、歌人;清水浜臣門、1797「輶鏡」、「延喜式工事解」「延喜式名物」「茶器図解」「鉄函図考」「飽休一枝」著、[永年の字/通称/号]字;静甫、通称;播磨、号;平山へいざん/甲山/甲寿/寿廉堂
- E3285 **永年**(ながとし・内池うちいけ、初名;雅雄、中村政富3男)1763-184886歳 近江の国学者;本居大平門、のち安田躬弦門、陸奥岩代瀬上宿の呉服商内池道年の養嗣子、石金音主・阿部磐根と交流、「磐梯考」「塩釜詣日記」「陸奥国信夫郡伊達郡風俗記」「市辺皇子陵考」著、1815「出羽国三山容躰精進潔斎記」30「陸奥国信夫伊達神社記」著、歌;大平撰「八十浦の玉」下巻;長歌入、[永年(;名)の通称/号]通称;宗十郎/与兵衛/与十郎、号;高畿舎たかぎのや、屋号;近江屋
- E3286 **長年**(ながとし・山形まがた、通称宇兵衛、号;柿園主人)1763?-185290? 陸奥弘前藩士/1836足軽物頭、「多魚志草」「本藩明実録」著
- 03260 **長年**(ながとし・藤田ふじた、旧姓;横橋)1781-186585 伊勢度会郡の外宮神楽職(師職)、国学者、藤田長孟ながたか(1762-1838)の親族、[長年(;名)の通称/号]通称;鎖吉/画輔/長太夫/兵衛、号;六々
- E3287 **長翁**(ながとし・氷室ひむろ/本姓;紀、初名;豊長、松井小十郎弘喬2男)1784-186380 氷室種長の養子、種長女陳子と結婚;女婿となる、神職継嗣;尾張津島社神主、社殿修造/神領地風水害対策、周辺住民生活に益す、早くより歌道;香川景樹門、やがて一社を成し門人多数;伊部義成・馬場守信・本多俊氏・片桐春好・松井清蔭ら、1830「みかけのにき」41「いつかの日記」48「芳野日記」、「巨勢の山ふみ」「椿園長翁詠」著、

- 景樹撰「桂花余香」増補刊、妻陳子のぶこも歌人、長峰(早世)・宝喬の父、養子;泰長(長女婿)、
[さくら花咲きて散るまのしばらくは浮世なりけりみ吉野の山](芳野日記/妻と同行)、
[長翁(名)の通称/号] 通称;兵治/兵庫/伊織/将監、号;椿園/長翁ながとし/豊山子、本姓紀
- E3288 **長懋**(ながとし・浅野あきの、藩主重晟4男)1787-1836**50歳** 安藝広島8代藩主斉賢の弟、史家、歌人、
多くの文人・学者と交流し口碑・文書保存に尽力;1816榎本福佐売ぶくさめの古社の由来解明、
「東雲日記」著、
[長懋(名)の幼名/通称/号]幼名;寿之助、通称;右京、号;白杏/白杏公子
- 03293 **長年**(ながとし・松山まつやま、初名;充長/旧姓;日下部)?-1868**頃没** 飛騨高山の国学者、
国学;山崎弘泰(1797-1862/田中大秀門)門、田中大秀(1777-1847)女千重子(歌人)と結婚
- E3289 **長年**(ながとし・松浦まつうら/通称;宗作)1810-77**68歳** 阿波徳島の国学者;野口長年門、
徳島藩校の長久館に出仕、維新後東京に移住、
1858「神典幽考」、「栗国歴世考」「阿波国古義略考」「和名鈔郡郷標目索引」外著多数
- E3290 **長順**(ながとし・葉室はむろ、顕孝男/本姓;藤原)1820-79**60** 廷臣;1863参議/67権大納言/62国事御用掛、
1866議奏、公武合体派;参朝停止、「葉室長順記」「葉室系伝」「和歌御会雑記」、行事記録多数
- 03222 **永年**(ながとし・西川にしかわ、)1821-1899**79** 紀伊海部郡の医者、伊勢度会郡に住、国学、
[永年(名)の通称/号]通称;市令、号;研堂
- 3213 **長年**(ながとし・児島こじま、勘五郎男)1827-1868**獄死 42歳** 播州赤穂の商家の生/1843大阪で篆刻修学、
諸国遍歴;備前閑谷学校に修学・豊後日田の広瀬青邨門、勤王派・1863下関で奇兵隊に参加、
1866大阪で開塾;志士と交流/67花山院家理を擁し九州で討幕挙兵を計画;山口で捕縛;
維新に獄死、「浪速日記」「西行日記」「筑紫日記」著
[長年の通称/号] 通称;堅蔵/参二[三次]/三郎/備後/備後介、号;石城/紅蓼/白桜
- 長利(ながとし・佐久間) → 柳居(りゅうきよ・佐久間、幕臣/俳人) D 4 9 3 3
 長俊(ながとし・熊坂) → 適山(てきざん・熊坂、藩士/絵師) B 3 0 9 4
 長俊(ながとし・榊原) → 香山(こうざん・榊原さかきばら、故実家) J 1 9 2 5
 長俊(ながとし・丸岡/吉村) → 荻爾(かじ・丸岡まるおか/吉村、藩士/国学/政治) V 1 5 8 0
 長年(ながとし・中山、) → 千鶴(ちづる・中山なかやま、商家/歌人/書) N 2 8 1 8
 長歳(ながとし・麻岡) → 麻岡検校(あさおかけんぎょう、平曲家) G 1 0 4 7
 永年(ながとし・白瀬) → 永年(えいねん・白瀬しらせ、医者) D 1 3 2 9
 永敏(ながとし・村田) → 益次郎(ますじろう・大村、藩士/兵学) J 4 0 0 4
 延齡(ながとし・杉江/平出) → 延齡(えんれい・平出、医者) C 1 3 2 4
 長門大夫(3世ながとだゆう・竹本長登太夫) → 松長軒(しょうちょうけん・佐久間、浄瑠璃太夫/作) U 2 2 3 4
 長門入道(ながとにゅうどう) → 久守(ひさもり・大沢おおさわ、家司/記録) C 3 7 0 6
 長門守(ながとのかみ・佐世) → 宗孚(そうふ・佐世させ、武将/連歌) I 2 5 7 8
 長門守(ながとのかみ・松本) → 定好(さだよし・松本まつもと、槍術家) K 2 0 2 1
 長門守(ながとのかみ・金森) → 重頼(しげより・金森かなもり、藩主/茶/歌) O 2 1 0 7
 長門守(ながとのかみ・高井) → 真政(さねまさ・高井たかい/源、幕臣/歌) N 2 0 2 0
 長門守(ながとのかみ・宇多) → 末景(すえかげ・宇多うだ、砲術家) F 2 3 3 7
 長門守(ながとのかみ・九鬼) → 隆国(たかくに・九鬼くき、藩主/歌) U 2 6 2 8
 長門守(ながとのかみ・九鬼) → 隆徳(たかひ・九鬼くき、隆国男/藩主) U 2 6 1 5
 長門守(ながとのかみ・藤井) → 高尚(たかなお・藤井/大中臣、神職/歌学) 2 6 1 3
 長門守(ながとのかみ・毛利) → 元徳(もとりのり・毛利/大江、藩主/歌人) D 4 4 8 6
 長門守(ながとのかみ・梅田) → 高起(たかおき・梅田/平、神職/国学者) L 2 6 6 5
 長門守(ながとのかみ・新庄) → 直容(なおかた・新庄しんじょう、幕臣/歌) K 3 2 4 4
 長門守(ながとのかみ・松平) → 近韶(ちかつぐ・松平まつだいら、幕臣/歌) L 2 8 6 6
 長門守(ながとのかみ・石谷) → 穆清(あつきよ・石谷いしがや、幕臣/奉行) G 1 0 6 2
 長門守(ながとのかみ・松本) → 直記(なおりのり・松本まつもと、神職) O 3 2 9 2
 長門守(ながとのかみ・黒山) → 吉雄(よしお・黒山くろやま、神官/国学) M 4 7 6 5
 長門守(ながとのかみ・朝比奈) → 昌始(まさもと・朝比奈あさひな、幕臣) N 4 0 1 5
 長門守(ながとのかみ・高良) → 武揚(たけあき・高良こうら、国学者) X 2 6 0 9
 長門守(ながとのかみ・山本) → 宗恒(むねつね・山本やまもと/源、侍臣/笛) E 4 2 3 3

- 長門守(ながとのかみ・尾崎)→ 兄輿(しげおき・尾崎、官人/歌人) N 2 1 7 1
 長門掾(ながとのじょう・松浦)→ 東鷄(とうけい・松浦まつら、易占家) D 3 1 1 7
 長門介(ながとのすけ・岩垣)→ 竜溪(りゅうけい・巖[岩]垣/三善、儒者) D 4 9 5 3
 長門大掾(ながとのだいじょう)→ 蘭谷(らんこく・三田村みたむら/藤原、儒/詩人) C 4 8 0 9
 長門弁(ながとのべん) → 有業(ありなり・藤原、歌人) F 1 0 5 9
- E3291 仲福(なかとみ・安蔵やすくら/あんぞう、通称;喜平次)?-1740 上州山田郡桐生梅田の里正、
 「古今当地記」「華誕草」著
- E3292 長富(なかとみ・中里なかざと、高充男)?-? 江中期下総佐倉藩医者、「生生堂製薬規録」著
- E3293 永福(なかとみ・横山/清兵衛)?-? 江後期出雲松江藩士、
 国学者;千家尊孫たかひこ[1796-1873]門、「出雲風土記考」著
- K3240 長富(なかとみ・市橋いちはし、庄内藩主酒井忠徳4男) 1805-59 55 江後期;近江仁正寺藩第9代藩主、
 1822(文政5)仁正寺にんしょうじ第8代藩主市橋長発ながはる末期養嗣;襲封/仁正寺藩市橋家10代、
 従五下/主殿頭のものかみ、1万7千石、正室;八戸藩主南部信真女/二男四女あり、
 砲術家;高島四郎太夫門、1844隠居;養子長和嗣、法号;性善院、
 歌;1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、
 [山の名の嵐もたえて澄みのぼる月に鳴きたつ虫の声ごゑ](大江戸倭歌;秋795)
- K3241 長福(なかとみ・相良さがら、長之の長男) 1824-55 32 肥後人吉藩14代藩主;1839家督嗣、2万5千石、
 従五下/志摩守、正妻;大村純高女の操、法号;賢隆院、
 歌;蜂屋光世「大江戸倭歌集」(1858刊)入、
 [夜もすがら虫のねしげき我が宿の松にほのめく月のしづけさ](大江戸倭歌;秋848)
- 永富(なかとみ・檜村/檜林)→ 長教(ながのり・檜村・檜林、軍記作者) F 3 2 2 7
 長富(なかとみ・水野) → 福富(ふくとみ・水野みずの、藩士/俳/詩歌) B 3 8 6 3
- 3215 中臣女郎(なかとみのいらつめ) ? - ? 奈良後期万葉四期歌人5首;
 675-9/家持への贈歌:家持の答歌なし、
 「否と言はば強ひめや我が背菅の根の思ひ乱れて恋ひつつもあらむ」(万葉集679)
- E3294 仲奉(なかもと・田島たじま、尾張守、仲清男/本姓;尾張宿禰)?-? 1497存 熱田神宮神官/1464権宮司、
 連歌;1492「熱田社法楽万句連歌」参加;5月1日山何百韻
 仲友(なかもと・宮西) → 諸助(もろすけ・宮西みやにし/本間、神職/国学) L 4 4 6 0
- E3296 永倫(なかもと・渡辺わたなべ、駿河清水御船手渡辺久永男) 1668-1729 62歳 母;小笠原信吉女、
 幕臣;1691小姓組に列す、1701(元禄14)遺知1500石継嗣/1707西丸徒頭/09本丸徒頭、
 1710目付;1718肥前長崎・長門・豊前・筑前の異国船漂流の報あり幕命で調査、
 1724新番頭/27長崎奉行/従五下出雲守、異国船打払調査の覚書あり、
 [永倫(;名)の初名/通称/法名]初名;久倫ひさとも、通称;八十郎/孫左衛門、法名;随節
- P3238 長友(なかもと・篠原しのはら、通称;長兵衛)?-? 下野国烏山藩主永井直敬なおひろ(1664-1711)の家老、
 浅野家廃絶後の1702播磨赤穂藩に入封;家老として大石邸に入る、1706信濃飯山藩移封、
 さらに武蔵岩槻藩に移動、歌人;茂睡[鳥の跡]入、
 [いとはやも明け行く空は長閑にて春に霞の立ちなびくらん]([鳥の跡]春11)
- E3297 永配(なかもと・齋藤さいとう、通称;徳[篤]蔵、号;梅翁/梅洲) 1793-1877 85歳 仙台藩士、
 評定所役人;公義使を勤める、儒;志村五城門、歌人、1837「歳時和歌集」補填、
 1858-77「齋藤梅翁日記」、「齋藤永配上書」「梅翁覚書」「日吉山王の社に奉る三十一首」著
- E3298 長知(なかもと・黒田くろだ/賜姓;松平、津藩主藤堂高猷3男) 1838-1902 65歳 母;橋本清娯女の妙貞院、
 1848福岡藩主黒田長溥ながひろの養嗣子;黒田慶賛しげと改名、侍従、
 1863養父長溥に代り上京;長州藩と朝幕間を周旋;幕末政界に活躍、
 禁門変に朝廷・幕府に長州藩赦免を奏上、
 1869(明治2)2月斉溥(改め長溥)の隠居で家督継嗣;筑前福岡12代藩主;/下野守/正二位、
 同年6月版籍奉還で福岡藩知事となる;藩の太政官札匱造事件が発覚;1871(明治4)罷免、
 儒学;佐藤一斎門/国学;井上文雄・本居豊穎門/書;市河米庵門、連歌/歌人、
 「淵の玉藻」著、1853-4二百韻1度・百韻3度参加、1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、
 [ほととぎす鳴く一声をたよりにて磯辺伝ひたどり行くかな](大江戸倭歌;夏471)、
 [長知(;名)の幼名/初名/通称/号]幼名;建若、初名;慶賛しげ、通称;官兵衛、号;如淵

- 長知(ながとも→ながちか) → 長知(ながちか・横山、武将/藩重臣) E 3 2 2 6
 長淑(ながとも・吉田) → 長淑(ちようしゆく・吉田/馬場、成徳/蘭医) F 2 8 9 6
 仲虎(なかとら・三宅) → 高炳(たかあき・三宅みやげ、絵師) Z 2 6 7 0
- 03232 長虎(ながとら・乗松のりまつ/本姓;源;) 1784-1816³³ 近江彦根藩士、国学・歌人;小原君雄門、
 歌;[彦根歌人伝・鶴]入、
 [長虎(;名)の通称/号]通称;一郎右衛門、号;文丸
- E3299 永名(ながな・路みち) ? - ? 平安前期廷臣;対策及第/詩人、経国集入
 P3251 仲直(なかなお・高階たかしな) ? - ? 南北期廷臣/歌人;藤葉とよ集入、
 [うたたねにあひみる夢のさめぬるやあくもまたぬ別なるらん](藤葉;恋564)
- J3297 永直(なかなお・讃岐さぬき) 783 - 862^{80歳} 平安前期廷臣/漢学;大学で法律修学/奉試及第、
 830明法博士/左少史/831勘解由判官兼任/834外従五下;大判事/勘解由次官兼任、
 836公きみ姓を朝臣に賜姓/本拠を讃岐から右京三条二坊に改む、
 845法隆寺僧善愷と檀越登美真人直名の訴訟事件に活躍;859(貞観元)従五下、
 本朝文粹;833野相公小野篁「令義解りょうぎげ序」に清原夏野等撰令義解の執議に参加の記事、
- F3200 長直(なかなお・小笠原おがさわら、民部少輔、貞頼男) 1587-1675⁸⁹ 武将/父は秀吉臣;家康に領地没収、
 伊豆八丈の南三島の領主、「辰巳無人島訴状并口上留書」著
- F3201 長直(なかなお・おさなほ・小笠原おがさわら、長救男) 1714-56^{43歳} 幕臣/1734家督継嗣、
 1777漆奉行;武蔵仙波・上野世良田の祭器を検分、「窮理私言」著、
 [長直(;名)の通称/号]通称;孫次郎/新左衛門、号;虚応
- N3281 永直(なかなお・玉田たまだ) 1828-1893⁶⁶ 山城愛宕郡の国学者/神道家?、玉田永鷹の一族?、
 [永直(;名)の初名/通称]初名;千秋、通称;主計かづえ
 長直(なかなお・桃井) → 日隆(にちりゅう;法諱・精進院、日蓮僧) D 3 3 5 7
 仲長(なかなが・大口屋/桃) → 東園(とうえん・桃もも、商家/儒者) B 3 1 4 5
 仲長(なかなが・中西) → 融(とのおる・中西なかにし、藩士/書家) I 3 1 7 9
- F3202 長央(なかなか・村井むらい、通称;九兵衛、長彰男) ?-1868 伊勢菰野藩士/1829家督継嗣/52勘定奉行、
 和算;藤田貞升門/歌;井上文雄ふみお門、1862「歌仙家集拾遺」、「枕詞転用例」著、
 1864文雄「さきはひ草」入
 長仲(なかなか・貫洞) → 卓堂(たくどう・貫洞ぬきどう、俳人) O 2 6 1 5
- J3274 長々浪人(ながながのろうにん) ? - ? 江戸狂歌;1785「後万載集」入:
 [さぶらひの鑑がみと人のいふなれば我もうらやにかゞみてぞすむ]
- F3203 仲業(なかなり・源、法名:照心、仲兼男) ?-? 1271存 鎌倉期廷臣;文章生/蔵人/能登守、
 歌:1255「頭朝卿家千首」参、別本和漢兼作集/夫木集/雲葉集入、続古1435/続拾遺1217
 [憂きことはもとの身にして老いらくの影のみかはるます鏡かな](老後述懐;続拾遺1217)
- F3204 仲成(なかなり・ながしげ・和気わけ、法名;見恵、夏成男) ?-? 1350存 廷臣;典薬頭/施薬院使/宮内卿、
 後伏見/花園天皇侍医、歌:風雅917、
 [行きくれてやどとふすゑの里の犬とがむるこゑをしるべにぞする](旅歌;風雅九17)
- F3205 長成(なかなり/ながしげ・菅原すがわら/高辻/辻、為長男) 1205-81^{77歳} 母;辨暁法印女、廷臣;文章博士、
 大学頭/少納言/1253(建長5)従三位非参議/54後深草天皇侍講/59正三位/龜山天皇侍読、
 1261(弘長元)式部大輔/従二位/62豊前権守/70正二位、氏長・清長・帥典侍(隆行室)の父、
 1271(文永8/67歳)参議;辞退(替りに息子清長が右京大夫)、氏長者、81(弘安4)没、
 詩人、「元秘抄」「元秘別録」著、1253(建長5)定家13回忌追善詩歌(為家勸進)に詩入、
 [声聞息出無余教 授記初彰唯一文](定家追善詩歌二十八品並九品;13)
- 03201 長就(なかなり・内藤ないとう/本姓;源、長武男) ?-1696 江戸の幕臣;小普請奉行、和学者/歌人、
 歌;1688浅井忠能[難波捨草]3首入、
 [またでよにやみぬべきやは時鳥つれなき程はももひなりとも](難波捨草;夏115)、
 [長就(;名)の通称/号]次郎右衛門/伝兵衛、号;一安
- F3206 永成(なかなり・祝部はふりべ/ほうりべ/樹下氏、祝部資光男/祝部資信義嗣) 1725-95⁷¹ 日吉社小比叡禰宜、
 1755江戸日吉山王社神主、1745「祝部氏系図」著
 修就(なかなり・川村) → 修就(ながたか・川村かわむら、幕臣/奉行/歌) F 3 2 0 7

- P3265 **長成母**(ながなりのは・藤原ふじわら、藤原長忠[1060-1129]女)?-? 平安期歌人;続詞花集入、藤原忠能(1095-1158/参議正三位/左京大夫/修理大夫)の妻、長成(正四下/兵衛佐/皇后宮亮)の母、経重(従五下)・忠祐(天台園城寺阿闍梨)・大納言公保室の母、[修理かみ忠能身まかりてのち 秋の夕思にいつることや侍りける、いにしへをこふる涙もひまぞなき露おきそふる秋の夕暮](続詞花;哀傷407)
- F3208 **長成女**(ながなりのむすめ/ながしげー菅原すがわら)?-? 鎌倉期歌人;参議菅原長成の女、新後撰1089/玉葉1659、[いかにせん雲井くもぬの雁のつてにだに見えずなりゆく人の玉章たまづき](新後撰;恋1089)[長成女は2人] : 勅撰集歌人がどちらかは不明
①(源?)通信室(みちのぶのしつ)
②帥典侍そちのすけ藤原隆行室(たかゆきのしつ)
- 仲貫(なかぬき・節藁) → 節藁仲貫(ふしわらのなかぬき、吉田、藩士/狂歌) C 3 8 7 6
- 03207 **長主**(ながぬし・中田なかた、)1658-1717 60 加賀金沢の商家(豪商)/和学者、加賀の曹洞宗大乘寺卍山道白に帰依;1694(元禄7)道白禪師が京の鷹ヶ峰源光庵を再興;長主がその建物を寄進、[長主(;名)の号]不生斎/陰静軒/的々庵/静家
永主(ながぬし→ながかず・中村)→永主(ながかず・中村なかむら/大野、歌人) D 3 2 3 9
仲塗(なかぬり・加陪) → 加陪仲塗(かべのなかぬり・幕府大工/狂歌) F 1 5 8 0
仲塗(なかぬり・賀部) → 賀部仲塗(かべのなかぬり・商家、狂歌) P 1 5 3 1
- 3214 **長根**(ながね・芍薬亭しゃくやくてい、本阿弥喜三郎/本姓;菅原)1767-1845 79 江中後期江戸の戯作者、初世朋誠堂喜三二門、下谷三枚橋に住、「狂歌名所図会」「絵本春の若葉」「百福物語」著、狂歌;1787「才蔵集」入(浅黄裏成名)、[砥との肌と刀のはだとあはせ硯との水ももらさぬ中にこそあれ](才蔵集;479/寄硯恋、あはせ硯は砥石で刃物を磨き刃をつけること/砥・肌・合せ・水は縁語)
[芍薬亭長根の別号] 狂歌;初号;浅黄裏成あさぎのうらなり、潜亭、2世朋誠堂喜三二、三橋亭
長畝(ながね・前田) → 長畝(ながうね・前田、藩士/詩歌俳) D 3 2 2 5
- F3209 **長忌寸娘**(ながのいみきおとめ、意吉麻呂女?)?-? 万葉四期歌人/738橘奈良麻呂宴に参加;1584、久米女王くめのおおきみの次に記載されているので久米女王の侍女説あり、[めづらしと我が思ふ君は秋山の初もみち葉に似てこそありけれ](万葉;八1584、懐かしいと思う奈良麻呂様は初紅葉に似ていらっしゃるよ)
参考 → 意吉麻呂(おきまろ・長忌寸、688-706頃万葉二期) 1 4 1 3
中院(なかのいん;号) → 光忠(みつただ・中院/六条、廷臣/歌人) D 4 1 7 9
中院(なかのいん;号) → 兼基(かねもと・二条、撰関/文筆) O 1 5 9 9
中院(なかのいん;通称) → 具通(ともみち・久我こが、太政大臣/歌人) Q 3 1 6 3
中院(なかのいん;通称) → 通基(みちもと・久我こが/源、内大臣/歌) C 4 1 6 6
中院(なかのいん;通称) → 斎藝(ちやうげい;法諱、天台僧) I 2 8 0 0
中院尼(なかのいんのあま) → 俊成卿女(としなりきよのむすめ、歌人) 3 1 4 5
中院一品(なかのいんのいっばん) → 親房(ちかふさ・北畠きたばたけ、廷臣/史学) 2 8 0 5
中院右大臣(なかのいんのうだいじん) → 雅定(まささだ・源、廷臣/故実/歌人) C 4 0 5 2
中院右大臣家夕霧(なかのいんのうだいじんけのゆうぎり) → 夕霧(ゆうぎり、女房/歌) B 4 6 2 2
中院前太政大臣(なかのいんのさきのだいじょうだいじん;風雅) → 通雄(みちお・久我) B 4 1 2 4
中院相国(なかのいんのしょうこく) → 通雄(みちお・久我こが/源、太政大臣/歌) B 4 1 2 4
中院禅門(なかのいんのぜんもん) → 為家(ためいえ・藤原/御子左、廷臣/歌人) 2 6 5 5
中院僧正(なかのいんのそうじょう) → 遍昭(遍照へんじょう;法諱、廷臣/天台僧正/歌人) 2 7 0 5
中院僧正(なかのいんのそうじょう) → 真然(しんぜん;法諱、真言僧) P 2 2 1 4
中院僧正(なかのいんのそうじょう) → 観賢(かんけん;法諱、真言僧) D 1 5 5 9
中院僧正(なかのいんのそうじょう) → 玄縁(げんえん、高階、興福寺別当) H 1 8 9 6
中院太政大臣(なかのいんのだいじょうだいじん) → 通雄(みちお・久我こが/源、歌) B 4 1 2 4
中院入道右大臣(なかのいんにゅうどうのうだいじん) → 雅定(まささだ・源、廷臣/故実/歌人) C 4 0 5 2

- P3254 **中院肥後** (なかのいんのひご) ? - ? 鎌倉期;興福寺中院の童、歌人、
1237刊[檜葉集]入、
[人の夜の衣をかへしてぬるよし申したりける返事に、
君はさは夜半の衣をかへすなりいかなるわれぞうちもねられぬ] (檜葉;雑童738)
中大兄皇子 (なかのおおえのみこ) → 天智天皇 (てんちてんのう) 3 0 1 2
中の川少将 (なかのかわのしょうしょう) → 実範 (じつぱん/じちはん;法諱、法相・真言・天台僧) V 2 1 0 4
中関白 (なかのかんぱく) → 道隆 (みちたか・藤原、摂政/関白) B 4 1 6 9
- F3210 **那賀寒田郎子** (なかのさむだのいらつこ) ?-? 常陸香島郡伝説の美少年[常陸国風土記入]
長之丞 (ながのじょう・木田余) → 群樹 (むらき・木田余きだまり/源、藩士/歌) D 4 2 7 3
長之丞 (ながのじょう・黒屋) → 昌雄 (まさお・黒屋くろや、藩士/歌人) P 4 0 5 5
仲之丞 (なかのすけ・浅野) → 忠 (ただす・浅野あさの、藩家老) P 2 6 6 4
仲之丞 (なかのすけ・樺山/村山) → 松根 (まつね・村山/樺山、藩士/歌) J 4 0 8 4
仲之允 (なかのすけ・牧) → 胤昌 (たねまさ・牧まき、藩士/儒・歌人) Z 2 6 4 8
仲之助 (なかのすけ・内田) → 政風 (まさかぜ・内田うちだ、藩士/記録) B 4 0 8 3
仲之助 (なかのすけ・中野) → 省我 (せいが・中野なかの、郷土史家) H 2 4 6 5
仲之助 (なかのすけ・青柳) → 惟雄 (ただお・青柳あおやぎ、藩士) V 2 6 0 6
仲之輔 (仲之助なかのすけ・吉川) → 天浦 (てんぼ・吉川よしかわ、神職) E 3 0 2 7
中皇命 (なかのすめらみこと) → 間人皇女 (はしひとのひめみこ) 3 6 1 4
長野大学 (ながのだいがく) → 在満 (ありまる・荷田かだ、歌学/故実) 1 0 3 4
中道閑 (なかのどうかん) → 道閑 (2世どうかん・清水、藩士/茶人) C 3 1 3 7
中聖 (なかのひじり) → 智得 (ちとく;法諱、時宗3代遊行上人) F 2 8 0 2
- F3211 **仲宣** (なかのぶ・源みなもと、貞恒男/光孝天皇孫) ?-944? 廷臣;右衛門督/正四上、歌;後撰133
[散ることの憂きも忘れてあはれてふことを桜にやどしつるかな] (後撰集三春下133)
- F3212 **仲暢** (なかのぶ・馬淵まぶち/通称弥太郎/七郎左衛門、高定[1657-1722]男) ?-?1722前没 加賀金沢藩士、
父著「武家昆目集」から抜粋;「加陽御年譜」編
- F3213 **仲舒** (なかのぶ・田沢たざわ/森/阿部、田沢保久男) ?-1850; 70余歳 母;日暁にちぎょう尼、出羽の医者、
江戸住、幕府寄合医師、歌;村田春海・加藤千蔭門、歌謡、周任かねとうの父、
1840「流水藁」著、「字籠」「語籠」「雑籠」「歌髓類句」編、母の著「日暁禅尼集」刊、
「自詠三十六番歌合」「祝詞解」「家鑑」「皇鑑」「天使日記」著、「古文医学眞宝」「医家奇賞」著、
蜂屋光世「大江戸倭歌集」(1858刊)入、
[殊さらに集めしとにはあらねども折にあひたる窓の雪かな] (大江戸倭歌;冬1271)
[仲舒の別名/通称/号]別名;保久(父名継嗣)、通称;駒平/宗伯、号;宗沢/流水[園]
中信 (なかのぶ・狩野) → 董川 (とうせん・狩野かのう、奥絵師) T 3 1 4 1
仲宣 (なかのぶ・田宮) → 橘庵 (きつあん・田宮、戯作/随筆) I 1 6 6 4
栄信 (なかのぶ・狩野) → 伊川 (いせん・狩野、水墨絵師) E 1 1 3 6
尚寛 (なかのぶ・奥村) → 尚寛 (なおのぶ/ながのぶ・奥村、藩士/儒/歌) C 3 2 0 2
- F3214 **長延** (ながのぶ・荒木田あらかた、法名;寂延、成長3男) ?-1235 鎌倉期神職;伊勢内宮権禰宜/正五下、
出家、成定の弟、歌人;1186西行勸進「二見浦百首」入/1233(天福元)「御裳濯みもすそ歌集」編、
藤原定家・鏝也ばんやと交流、定家など都の歌人に「小朝熊社歌合」を勸進、
勸撰8首;新古(1774)新勅(566/765/1088/1119/1317)続後撰(280/721)、
[つくづくと思へばやすき世の中を心となげく我が身なりけり] (新古;雑1774)
- F3215 **長宣** (ながのぶ・菅原すがわら/家名;高辻たかつじ、清長男) 1271-1325 母;源仲遠女、
廷臣;文章生/越中掾/治部権大輔/皇后宮少進/1308左馬頭/11(応長元)従三位非参議、
1318(文保2)正三位、1325(正中2)没、長躬・長秀・長春・長朝・長宗の兄弟、国長・為成の父、
歌人;1315京極為兼[正和四年詠法華経和歌]参加、「三十首歌」(新三井集入)、玉葉1745、
[心づきしよひあかつきの鐘の音もまたずわかれてきくしもぞうき] (玉葉集十三恋1745)
[のちもまたやすくたのしきくににゆけばむまれんことぞかねてうれしき]、
(詠法華経歌;24/薬王品)
- F3216 **長信** (ながのぶ・藤原ふじわら/進藤しんどう、筑前守長範男) ?-? 南北期廷臣;六位蔵人/左衛門尉、
長高・長経の弟、歌;新後拾遺1335、1364-5頃「一万首作者」の藤備前蔵人藤原長信と同一か、

[さびしさになれての後や山郷の松の嵐も友ときかまし](新後拾遺集十六雑歌1335)

- F3217 **長信**(ながのぶ・藤原ふじわら) ? - ? 南北期廷臣;1365頃成立「一万首作者」入;藤備前藏人の名前記進藤長範男と同一? → 長信(ながのぶ・藤原、新後拾歌人) F 3 2 1 6
- F3218 **永宣**(ながのぶ・冷泉れいぜい/高倉たかくら、永親男/本姓;藤原) 1464-1530⁶⁷ 廷臣;1503従三位/参議、1515(永正12)権中納言/25正二位、26(大永6)出家;法名宗倫、歌/連歌:後柏原天皇の歌会/連歌会に参加、1512「永正九年試筆十首」/20-24百韻4度参加、
- F3219 **長延**(ながのぶ・中川なかがわ、長詮男/本姓;藤原/進藤) 1804-68⁶⁵ 祖父中川長晟の養子、江後期廷臣、歌;1831香川景樹門、1832宮内少輔、近衛家諸大夫、56「近世歌人師弟一覽」編、日記あり、[長延(;名)の通称/号]通称;宮内少輔/三河介/讃岐守、号;蓼花園
- L3290 **長延**(ながのぶ・清岡きよおか、長説ながつ男) 1845-1905⁶¹ 母;家女房、京の廷臣;大膳大夫/文章博士、維新号;東京移住;子爵/宮内省殿掌/正三位、妻;中大路当頭女的美左(1849-1909)、修子・染子・厚子・長言・為子の父、[長延(;名)の号] 松年
- 長延(ながのぶ・松岡) → 能一(よしかず・松岡まつおか、和算家) C 4 7 4 9
- 長信(ながのぶ・田村) → 誠頭(のぶあき・田村たむら、藩主/歌人) I 3 5 8 9
- 長信(ながのぶ・三好) → 尚広(なおひろ・三好みよし、庄屋/歌人) O 3 2 9 8
- 中坊(ながのぼう) → 道清(どうしょう/どうせい;法諱、社僧/歌人) F 3 1 3 7
- 3216 **長皇子**(ながのみこ、那我親王、天武第四皇子)?-715 母;大江皇女/弓削皇子の同母兄、693(持統7)弟と浄広式/699持統難波行幸/702三河行幸/706文武難波行幸に随従、704・714益封/一品、万葉二期歌人5首;60/65/73/84/130、栗栖王・文室真人浄三・邑珍・広瀬女王の父、[霰あられ打つあられ松原住吉すみのえの弟日娘おとひをとめと見れど飽かぬかも](万葉;一65、弟日娘は港として繁栄していた住吉の遊女か?)
- F3220 **仲教**(なかのり・村上むらかみ/本姓;源)?-? 南北期廷臣;五位/左近衛大夫、歌人;1364頃一万首作家入、勅撰2首;風雅1876・新拾遺1294、藤葉集入、[うき世とはなべていふなることわうを我が身ひとつになしてこそ思へ](風;雑1876)[はかなしや人の契の浅ち原あだなる露のなさけばかりは](藤葉;恋486)
- J3288 **仲範**(なかのり) ? - ? 室町期神職、連歌;1423「熱田法楽連歌」連衆(2句)、[星や雲居のまぼりともなる](熱田法楽;初裏4/星も三種の神器の光で空を守る、前句;宥任;月までも三つの宝の光にて)
- F3221 **仲象**(なかのり・川合かわい) ? - ? 江後期寛政1789-1801頃吉備の人/京住;狂文作者、1796「神籬」99「本朝小説」、「餅酒軍記」著
- F3222 **永範**(ながのり・藤原、文章博士永実男) 1100/02?-80^{81or79} 母;中原師平女、文章博士/東宮学士、式部大夫/1169宮内卿、正三位、後白河以下3代天皇侍読;大嘗会和歌出詠、平安末随一の学者、詩;中右記部類紙背漢詩集/和漢兼作集入、文章;「願文集」「詩序集」入、古今著聞/今鏡に逸話、歌;1078別雷社歌合参加/平家納経願文作者?、後葉集1首(563)入/続詞花集入、光範みつりの父、勅撰9首;千載(5首636/639/1224/1284/1285)新古(751)新勅撰(485)続古(1911)風雅(2192)、[すべらぎ(天皇)の末さかゆべきしるしには木高くぞなる若松の森](千載;賀636) (九寿二[1155]年大嘗会風俗歌/近江若松の森を詠む)
- F3223 **修範**(脩範/脩憲ながのり・藤原ふじわら、通憲[信西]男) 1143-83?^{41?} 母;紀二位(藤原兼永女の朝子)、1159平治乱連座;隠岐配流/60召還、74非参議、83参議・左京大夫/出家;法名;成蓮房円浄;大原に隠棲、西行・顕昭と親交(山家集入)、成範の弟、範能・範雅(法印)・範信(法印)の父、歌人;自邸で歌合催(季経集入)、1170住吉社・72広田社・78別雷社歌合参加、続詞花(721;千載519と同歌)・今撰・言葉・月詣・玄玉・万代集入集、勅撰5首;千載(317/519/595)続古今(870)新続古今(2071)、[日を経つつゆくにはるけき道なれどすゑを都と思はましかば](千載519;関東下向歌)
- F3224 **長則**(ながのり・大中臣おおなかとみ/家名;河辺、長任男) 1208-76⁶⁹ 伊勢の神職;1231少宮司、1271伊勢大宮司、「大神宮司神事供奉記」著
- F3225 **長典**(ながのり・丹波たんば、時典男)?-?1289^存 鎌倉期医者;廷臣;女医博士/雅楽頭/1285兵庫頭、

歌;勅撰3首;玉葉(1151/1764)/風雅1561

[身のうれへ慰むかとして見る月や秋をかさねて老となるらむ](風雅1561)

- P3249 **長範**(ながのり・柴島/本姓藤原、通称;十郎左衛門)?-? 鎌倉南北期;武士;歌人;1345刊[藤葉集]入、
1337(延元2/建武4)頃に讃岐守護代(守護は細川顕氏/[外記日記紙背文書]入)、
[待侘びてぬるよのとはせめてげに夢ばかりなる契ともがな](藤葉;恋488)
- F3226 **長範**(ながのり・荒木田あさき)?- ? 伊勢神宮神官、
連歌:1356刊[菟玖波集]3句入(雑2/羈旅1)、
[先立つに残る身とても頼まれず](菟;雑1480/前句;見るにつけても世はうかりける)
- F3227 **長教**(ながのり・檜村ならむら・檜林ならばやし、別号;永富、通称;市郎右衛門)?-? 安桃江前期軍記作者、
1586-1615頃「室町殿日記」編;(抜粋1706刊「室町殿物語」)、「絵本武将勲功記」著
- L3255 **長教**(ながのり・駕河おし・駕氷おしひ)?-? 江前期京の医者、
歌人;望月(広沢)長孝ながよし(1619-81)門、のち江戸住、随筆家、
[長教(;名)の別号/通称/号]別号;長賢、通称;申也、号;風弦斎
- P3247 **長矩**(ながのり・平瀬ひらせ) ? - ? 江前期;上方の武士/歌人、
1670下河辺長流[林葉累塵集]22首入、
[きのふけふくもりみはれみ生馬山たちみる雲にふる時雨かな](林葉累塵;冬612)
- F3228 **長軌**(ながのり・黒田、長重男)1686-171530 筑前秋月藩主/1710家督、隠岐守、
連歌:「漢和聯句」
- F3229 **永律**(ながのり・えいりつ・谷崎たにざき、通称;永律一・谷崎勾当)1654-173376 江戸本郷向ヶ岡の医者;鍼医、
国学者、歌;中院通茂門/室鳩巢と20年間親交、
盲目ながらも朝顔を愛す;「あさかほの記」著/[朝顔の勾当]と称される、
1700茂睡[鳥の迹]入・広通「霞関集」入、
[夢にだに見ぬ朝顔の花かづらたえずこころになどかかるとらむ](霞関;秋418)
- F3230 **長令**(ながのり・近藤こんどう、通称;又兵衛)?-? 享保元文1716-41頃松代藩士/軍学;佐枝尹重門、
「秘伝接戦之巻」著、「兵要録不審問答」問;著
- P3204 **長教**(ながのり・村山むらやま)1693-175563 近江彦根藩士;御馳走奉行、国学者/歌人、
歌;[彦根歌人伝・亀]入、
[長教(;名)の通称]宮内/随翁
- L3214 **長則**(ながのり・石田いしだ)1699-1789長寿91 播磨美嚮郡の国学者、
[長則(;名)の通称/号]通称;藤七郎/忠兵衛、号;松陰斎
- F3231 **長昇**(ながのり・向井むかい、字;英馬/通称;伝七郎、号;東溟、長職男)1743-9654 南部盛岡藩士、
1760御側詰/69御側頭、俳人:1768父の句集「岩手山」編刊、長樹ながきの父
- F3232 **永図**(ながのり・齋藤さいとう、通称;徳蔵/衛守)1744-181774 陸奥(陸前)仙台藩士/小姓頭、
歌:「奉納五百首和歌」著
- N3274 **長徳**(ながのり・高月たかつき) ? - 1811 伊予吉田の商家法花津屋(豪商)、歌人;賀茂季鷹門、
本間游清と交流、「水沼成蹊母の賀集前集」入(成蹊は大洲の商家/書家)、
俳人狸兄の後裔/紅器(光熙みつひろ)の一族、
[山鳥の尾上の桜咲きしより長くも匂ふ春ぞあかれぬ](成蹊母への賀歌)、
[長徳(;名)の通称/号]通称;与右衛門/退助、号;一適斎、屋号;法花津屋ほけつや
- L3212 **長紀**(ながのり・池田いけだ、伊木忠知男)1756-182368 片桐池田家長玄の養子;第7代当主、
1805養父隠居;家督嗣;備前周匝すさい城主2万2千石、
岡山藩池田斉政の仕置家老;藩政参画、
歌人、1821(文政4)隠居;養子長貞が家督嗣、歌:[類題吉備国歌集]入(1首)
[長紀(;名)の通称]伊賀守/広佐ひろせ
- F3233 **永教**(ながのり・玉田たまだ、通称;主計、徳島藩士横山永親男)1756?-183681? 阿波鳴門の生、
上京;垂加神道修学/のち吉田神道修学;下鴨住、家塾の秀穂舎開設;敬神尊皇を主唱、
神道講釈師;玉田流の祖、陸奥から九州まで諸国行脚し神道講釈、
1800「年中故事記」02「衢(阡陌)立石ちまたのたてい」03「神国令」09「菅家世系録」18「竈神秘説」、
1828「麓のしるべ」35「一ノ宮附八部大祓」、「和歌三神の抄」外著多数、永鷹ながたかの父

- L3234 **長載**(ながのり・江見えみ、)1759-182971 越後村上上の神職;西奈弥せなみの羽黒神社祠官、
国学者/上京;松岡雄淵門;垂加神道を修学/国学;谷川士逸・本居宣長門、
1805(文化2)-1828(文政11)の日誌が残る、
[長載(;名)の通称/号]通称;将曹/大和守、号;啓斎
- F3234 **長教**(ながのり・今村いまむら、別名;長遜/字;紹甫、長順男)1798-185861 上州の生/医者:江戸で開業、
伊勢崎藩侍医、書に長ず、
1818「癩瘡奇談」編、「偷聞随筆」著、平田宗愷そうがい「玉船集」平田昂と校正、
[長教の号] 少翁/棲雲/簾外舎
- K3265 **永教**(ながのり・青木あおき/本姓:藤原、通称;半蔵)?-? 江後期;幕臣;留守居与力、
1816(文化13)屋代弘賢・日下部鉄之助と共に奥右筆所詰;3百石、1826御台様用達、
二丸留守居;七百石拝領に昇進、歌;1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、
[白雲をしのがん松に住みなれて千代を数かぞふるあしたづの声]、
(大江戸倭歌;雑1783/鶴契遐年)
- K3283 **長卿**(ながのり・蘆沢あしざわ/旧姓;玉井、)1803-8684 讃岐高松藩士/国学者、
[長卿(;名)の字/通称/号]字;子統、通称;水之助、号;加山/箴翁きょうおう
- K3224 **長儀**(ながのり・小笠原おがさわら、政登まさなり3男)?-1860 旗本;元掛川藩主の旗本小笠原長賢ながよしの養子、
1848家督嗣;幕臣/肥前守、浦賀奉行、蝦夷を巡見したか?、広保の父、蜂屋光世邸菊合に参、
歌;1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、1860鋤柄助之「現存百人一首」入、
[くれて行年のこなたの若水に春来る事も汲みて知るかな](大江戸倭歌;2/年内立春)
[岩がねに友呼ぶ熊の声さえて吹雪にくもる蝦夷の海つら](現存百人一首;4)
- L3228 **長矩**(ながのり・上平うへひら、通称;主税ちから)1824-9168 大和吉野郡の玉置神社祠官、
神道・歌;出雲路定信門
- L3287 **脩孝**(ながのり・北島きたじま、通称;神健彦、全孝たけのり男)1834-9360 出雲出雲郡の出雲国造76代、
出雲大社権宮司/大教正、従三位、母;淑子すみこ、北島内孝うちりの兄、妻;高浜加禰子、
齊孝なりり・福子(冷泉為勇妻)の父、
1882(明治15)崇敬講として出雲北島教会を設立/83神道出雲教会/85神道出雲教と改称、
のち息齊孝の代で出雲教教団となる
- F3235 **永囷**(ながのり・増子まこ、通称;現蔵、高橋種義男/増子衛守の養嗣)1838-9861 岩代二本松藩士、
儒;安積良斎・三谷慎斎門、1868江口三郎右衛門に随従し朝臣や各藩使臣と折衝、
新政府修史局出仕/茨城県各地の郡長/槍術の達人、「知行高帳役人帳及附録」編、
高橋規現・成田頼寿の弟
- 長徳(ながのり・中瀬) → 柯庭(かてい・中瀬なかせ/松下、藩士/儒者/書) S 1 5 5 9
長徳(ながのり・金井) → 万戸(ばんこ・金井かない、俳人) H 3 6 5 7
長徳(ながのり・羽太) → 正忠(まさただ・羽太はぶと、幕臣/和学) R 4 0 5 7
長法(ながのり・幸阿弥) → 幸阿弥(九世こうあみ、蒔絵師) P 1 9 6 0
長則(ながのり・奥村) → 寸彦(すんりゅう・奥村おくむら、俳人/武術) H 2 3 3 2
- N3231 **半**(なかば・宍野ししの、)1844-188441 薩摩隈之城の郷士の生/薩摩藩士、
1868国学;平田鉄胤門、復古神道修学、のち1872教部省出仕/少教正/大教院の大講義、
富士一山講社を組織;駿河国富士郡浅間神社官選初代宮司/山梨県北口浅間神社社司兼任、
1882富士講諸派を結集し扶桑教を設立;初代管長;造化三神を主神とし神道の国法を主唱、
皇典講究所創立に尽力/「皇典講究所創設告文」を連名で著、「扶桑教」「富士信導記」著、
[半(;通称)の名/別通称]名;植宏、別通称;半左衛門/半之進;のち半と改称
- F3236 **長治**(ながはる・浅野あさの、長晟の長男)1614-7562 山城の生/1630従五下・因幡守、
1632(寛永9)父の遺領のうち備後三次郡と恵蘇郡;5万石;三次みよし初代藩主;名君、
1662「因州公道之記」著、歌;了然尼撰(茂睡編)[和歌むらさき]2首入、
正室;常陸笠間藩主浅野長重女、阿久里(播磨赤穂藩主浅野長矩正室)の父、
養子;弟光晟(本家を継嗣)の2男長尚(早世)・3男長照(家督嗣)、1675(延宝3)没、
[一こゑはふり捨てがたき鈴鹿路やなれや関守山ほとゝぎす](若むらさき;42関路郭公)、
[つながれぬ心ぞやすき捨て小舟おふうき世の風はさもあらばあれ](同;203)、
[長治(;名)の通称/法号]通称;又六郎/因幡守、法号;鳳源院俊岳了英

- P3243 **長治**(ながはる・福岡あふくま、)? - ? 江前期:歌人/1682河瀬菅雄[麓の塵]入、
[しばしとて立ちよる陰の涼しさに秋をまづしる森の下風](麓の塵;夏186)
- N3245 **長治**(ながはる・神保じんぼう、旗本荻原友村6男) 1641-1715 75 江戸の簗本神保長賢の養女の婿、
幕臣;1678(延宝6)御書院番/1680蔵米3百俵、88(元禄元)桐間番/小納戸、
1689日光山検分/1692新恩3百俵/1697(元禄10)武蔵多摩郡内に領地900石、
1712(正徳2)佐渡奉行;在任中江戸で病没;法名覚往、長男長澄が家督嗣
- F3237 **長春**(ながはる・河辺かわべ、精長男/本姓大中臣) 1658-93 36 伊勢大官司/1675相統/89神祇少副、
両宮摂社再興修復に尽力、「宮司記」「宮司長春言上書」、1684「宮司長春注文」著
- F3238 **永春**(ながはる・荒木田あらきだ)? - ? 江中期享保1716-36頃伊勢神宮の神官、歌人、
「斎内親王群行次第記」「神宮文体」編/「御太刀御奉納記」著
- L3258 **長治**(ながはる・鍵屋かぎや、) 1737-1816 80 大和添下郡の国学者、
[長治(;)名]の通称/号]通称;長兵衛、号;蝶二
- F3239 **長春**(ながはる・藤野ふじの、藤環中とうかんちゅう) 1765-1831 67 日蓮僧/還俗、大阪に住/書家・篆刻家、
1829「難波名所」著
[長春(;)名]の字/通称/号]字;醜王じゆんおう、通称;一郎、号;環中
- P3217 **長春**(ながはる・山越やまごし、通称;丈助)?-1844 伊予宇和郡の国学者・歌人;二宮正禎まさただ門
- N3269 **欽治**(ながはる・多胡たご、) 1832- 1908 77 上野碓氷郡の国学者・歌人;新居守村門、
[欽治(;)名]の字/通称/号]字;章夫、通称;桂実、号;清風軒玉桂
- N3260 **長陽**(ながはる・田近たちか、) 1836-1901 66 豊後岡藩士/国学;平田鍊胤門、神代文字の研究、
勤王派、西寒田神社宮司、大講義、皇典講究所大分分所長/大分県立竹田中学校教授、
[長陽(;)名]の初名/通称]初名;重陽、通称;陽一郎
- 長春(ながはる・植木) → 悦(えつ・植木うえき、藩士/兵学者) E 1 3 0 8
長治(ながはる・中川) → 篤信(あつのぶ・中川ながわ、漢学/神道) I 1 0 1 0
永晴(ながはる・佐竹) → 義寛(よしひろ・佐竹さたけ/高倉、藩主/歌) N 4 7 0 9
中東民部少輔(なかひがしみんぶのしょうほ) → 時就(ときなり・大中臣、神職/連歌) J 3 1 6 4
- L3245 **中彦**(なかひこ・太田おおた、丸山重宗長男) 1772-1826 55 信濃島田村豪家の生、飯田藩士太田納の養子、
医学;1786(15歳)三河御園村稲垣弁蔵門;古医術修学/1792(21歳)江戸の瀬尾昌玄門、
橘宗仙・稲葉意仲門;外療・腹診を修学/蘭学;長崎の吉雄幸作門、飯田藩医、
易;太田玄澄門/国学;祖父松沢元剛・東洲左濶門、国学・歌;内山真竜門、歌学;森廣主門、
歌人;岩澤幸年・安富主計・三浦元簡と交流、能書家、之信ゆきのぶ(藩医/歌人)の父、
「各々御用慎」著、
[中彦(;)名]の別名/通称/号]別名;奈可彦なかひこ、通称;富之助/徹之進/文次、
号;天竜翁/天竜窟/佳古/文碩/瓢屋主人/雲松舎/雪翁/中毘古なかひこ、法号;有寶院
奈可彦(中毘古なかひこ・太田) → 中彦(なかひこ・太田おおた/丸山、藩医/歌人) L 3 2 4 5
- F3240 **長彦**(ながひこ・阿刀あと、樹雄亭)? - ? 江後期文政1818-30頃大坂の俳人:奇淵社、
鳳朗門、「舎笠集」著
中山長彦と同一? → 長彦(ながひこ・中山なかやま/阿刀、神職/国学/歌人) F 3 2 4 1
- F3241 **長彦**(ながひこ・中山なかやま/本姓;阿刀あと/阿倍あべ、中山素定もとさだ長男) 1782-1845 64 紀伊の神職、
紀伊有田郡立神社の神主;父を継嗣、幼時に和歌山藩儒山本東籬門、詩文;川合春川門、
国学者・歌;本居宣長・大平門、神道葬祭/有田郡中諸社司教導に就任、
1804頃社頭祠殿建立、1809(文化6)従五下、俊彦の父、
「唾々掌編」「居易余言」「飛母賀多奈」「復古葬祭志」「五位袍色考并付笠」、1820「千引石」著、
歌;大平撰「八十浦の玉」下巻;長歌入、
[さへづるやから国心ことやめていざ神の代の御ふみまなばな](八十浦;922/反歌)、
[長彦(;)名]の初名/通称/神号]初名;栄充、通称;甲斐守、神号;猛広別御心長彦命
栄彦(ながひこ・松木) → 栄彦(さかひこ・松木/度会、神職) H 2 0 1 1
- F3242 **仲久**(なかひさ・三善みよし) ? - ? 連歌;菟玖波2句入(931/1168)、
[玉章たまづきを頼むの鷹のつてにみて](菟;恋931/前句;涙の数も袖にこそあれ)
- F3243 **中久**(なかひさ・金築かねつき/本姓;源)? - ? 江初期出雲国富村の祠官/神道:島重老門、

1816「祭政一致之辨」著

- F3244 **脩久**(ながひさ・賀茂かも、雅久男)?-? 南北期上賀茂社神主/正四下、
歌:1407内裏九十番歌合参加、新拾(1397)下4首、
[しきたへのとこの浦風しづまりて夜のまにつもる雪のあさあけ]、
(九十番歌合;52番浦雪)
- K3273 **存久**(ながひさ・青木あおき、)1668-? 陸奥仙台の生、歌人;中院通躬門、
[存久(;名)の別号/通称/号]初名;定広、通称;申松/市郎兵衛/半九郎、号;竹窓
- P3219 **長久**(ながひさ・山田やまだ、)?-1703 江前期;陸奥盛岡の和学者
[長久(;名)の通称]新之丞/太郎兵衛
- F3245 **長尚**(ながひさ・黒沢くろさわ、石斎男)?-1737 出雲松江藩士;宗門奉行/御次頭役、
地誌「雲陽志」編、長顕ながあき弟
[長尚(;名)の通称/号]通称;長七/岡之助/図六/宮内/治部大夫/図書、号;尚斎
- K3272 **永古**(ながひさ・青木あおき、永章いしやう男)1807-1867 61 肥前長崎諏訪神社大宮司、
歌;香川景樹門、中島広足「瓊浦集」(1840刊)入、
[永古(;名)の通称]卯之助/大進/若狭守/筑後守
- N3282 **永久**(ながひさ・玉田たまだ、通称;靱負/安藝)1811-58 48 阿波徳島の国学/歌人
- L3213 **長寿**(ながひさ・石井いひ、)1830-1902 73 出羽(羽後)秋田郡の歌人、
維新後;学務委員/村会議員を務める、
[長寿(;名)の通称/号]通称;岩太郎、号;松の本
- 永久(ながひさ・吉雄) → 献作(献策けんさく・吉雄よしお、医者) J 1 8 1 1
永久(ながひさ・本木) → 昌造(しょうぞう・本木、通事/近代印刷) K 2 2 6 2
長久(ながひさ・梅津) → 忠経(ただつね・梅津うめづ、藩家老/歌人) V 2 6 8 7
- 03237 **中英**(なかひで・服部はつとり、旧姓;宍戸)1823-1900 78 三河刈谷の生、
尾張藩茶道教授服部順良の養嗣子/名古屋住、国学・歌;上田甲斐子門、
[中英(;名)の通称]勉蔵/順石
仲英(なかひで・服部) → 白費(はくひ・服部/中西、儒者) D 3 6 8 2
- F3246 **長秀**(ながひで・中条なかじょう、兵庫頭入道、景長男/本姓;藤原)?-? 南北期;室町幕府評定衆;
左衛門尉/備前守/兵庫頭、剣術家;奥山慈音門/中条流の祖、
歌人;延文-弘和1356-84頃活躍;1367新玉津島社歌合参加/1375幕府和歌会始参加、
勅撰10首;新千載(995/1468)新拾(977/1346/1692)新後拾(5首)、
[住吉の松のことの葉かはらずは神代にかへれ敷島の道](新千載;神祇995、
等持院贈左大臣足利尊氏家にて詠む)
[長秀の法名]元威/光威/元盛
- F3247 **長秀**(ながひで・小笠原おがさわら、通称;又次郎、長基男)1366-1424 59 信濃守護武将;義満家臣、
1402遁世、故実家;「犬追物起源」、「弓馬問答」「百問答」著
- F3248 **長秀**(ながひで・松田まつだ、松田秀藤の養嗣子)?-? 室町中期幕府奉公人/政所執事代、
「松田丹後守長秀記」著
- P3245 **長秀**(ながひで・原はら、)?-? 江前期;上方の歌人、
1670下河辺長流[林葉累塵集]14首入、
[朝氷とけてみなわは巻向のあなしの川に春やきぬらん](林葉累塵:春9)
- F3249 **長秀**(ながひで・佐々木ささき秀長/吉田、字;茂伯、本姓源)1703-87 85 幕臣/1764天文方;宝暦暦修正、
1779書物奉行/80天文方吉田家を興す、「七曜暦」「宝暦甲戌元暦和解」「暦法新書続録」著、
[長秀(;名)の通称/号]通称;文次郎/四郎三郎/備後守、号;良斎
- N3272 **永秀**(ながひで・高倉たかくら/本姓;藤原、法名;常山)1728-99 72 京の廷臣;右兵衛督、桃園天皇に出仕、
正三位、国学・垂加神道;竹内式部(敬持たかもち)門/徳大寺公城らと王政復古主唱;
1758(宝暦8)式部・公城ら処罰の宝暦事件に連座;免官、1760(宝暦10)出家/法名;常山
- 長秀(ながひで・正木) → 千幹(ちもと・正木まさき、商家/国学者) F 2 8 4 8
長秀(ながひで・井沢) → 蟠龍(ぼんりゅう・井沢いざわ、藩士/神道家) I 3 6 6 6
長秀(ながひで・井田) → 亀学(きがく・井田いだ、藩士/易学家) J 1 6 8 3
良仁(ながひと) → 後西天皇(ごさいてんのう、詩歌人) C 1 9 6 0

- 長仁(ながひと) → 道助親王(どうじょしんのう、真言僧/歌人) F 3 1 5 5
 長人(ながひと・紀ノ) → 紀ノ長人(きのながひと、狂歌) G 1 6 1 0
 栄仁親王(ながひとしんのう) → 栄仁親王(よしひとしんのう、伏見宮/歌人) G 4 7 4 6
- F3250 仲平(なかひら・藤原ふじわら、基経男)875-94571 母;人康ひとやす親王女、廷臣;908参議/917従三位、
 921左衛門督、937左大臣/943正二位/45病で出家、兄時平・弟忠平と共に三平と称せらる、
 歌:伊勢集入(伊勢との贈答)、平中物語/大和物語入、自邸を[枇杷殿]と称す、
 921醍醐御時菊合参加(;さいものかみ名)、袋草紙;伊勢集・公忠弁集の逸話入、
 古今六帖・秋風集入、勅撰9首;古今(748)後撰(7首349/458/617以下)続後撰(1034)以下、
 [花すすき我こそしたに思ひしか穂にいでて人にむすばれににけり](古今集;恋748)、
 [仲平(;名)の通称/法名]通称;枇杷左大臣、法名;静覚
- 登平(なかひら・源) → 登平(みちひら・源、廷臣/歌人) C 4 1 3 4
 仲衡(なかひら・常盤井) → 巖戈(いかしほ・常盤井ときわい、神主/国学) F 1 1 1 7
- F3251 長衡(ながひら・高辻たかつじ、国長男/本姓;菅原)1321-8969 鎌倉南北期廷臣;1379左大弁、
 1385文章博士、正三位、後円融天皇侍読、歌:新千載1971/新後拾遺1099、
 [藻塩草かきおく筆の跡みてもなほ我が道に迷ふはかなさ](新千;雑1971、
 前参議菅原[高辻]為長[1158-1246]の書き置いた物を開き見て詠む)
- F3252 永平(ながひら・神谷かみや、初名;元平、元邦もとくに男)1813-8573歳 名古屋味噌溜製造業;豪商、
 国学:植松茂岳・本居春庭門、1864藤島神社祠官、藩命で「六国史」校合、能書家、
 1851「七夕歌集」編、「尾張海郡国玉神社事」「田租調庸私考」著
 [永平(;名)の通称/号]通称;亀之助/永楽屋伝右衛門/稲羽/因幡守/栗田内蔵、
 号;梧屋きりのや/屋号;永楽屋
- F3253 永平(ながひら・本居もとおり/中山、本居大平4男)1819-42早世24 国学;足代弘訓門、建正・清島の弟、
 中山美石の養子;三河吉田藩に出仕、のち故あって実家に戻り本居内遠の准養子、
 1840「本居永平詠草」編、「永平随筆」「小田若苗」「文章詠草」「八衢の道種々」「律令図解」著、
 [永平(;名)の通称]通称;楠橘/楠吉ななきつ
- 長平(ながひら・藤原、歌人) → 永手(ながて/ながた・藤原、廷臣/歌人) E 3 2 6 0
 長平(ながひら・井手/富樫) → 広蔭(ひろかげ・富樫/井手、商家/国学) 3 7 1 4
 長衡(ながひら・菅沼) → 直槌(なおつち・菅沼すがぬま、庄屋/歌人) N 3 2 5 0
- F3254 永弘(ながひろ・青木あおき、長清男)1656-172469 肥前長崎の神職;祖父賢清が長崎諏訪社再興、
 以後代々諏訪社宮司、国学者/京の吉田兼敬門;吉田神道修学、広く和漢学に通ず、
 日本書紀神代巻の研究、各地歴遊し神道の普及に尽力/霊元院に神代巻を講ず;
 従六上/周防守、1694退職;上京後長崎に帰郷せず、「六根清浄太祓松風鈔」著、
 「神代鈔」「日本書紀聞書」「神道大意聞書」「護身神法抄」「中臣祓松風抄」外著多数
 [永弘(;名)の通称/神号]通称;主計頭かづえのかみ、 神号;亀石霊社
- F3255 長寛(ながひろ・相良さがら、岡山藩主池田宗政2男)1751-181363 母;藤子ふじこ(歌人)、
 肥後人吉藩主相良福将の養嗣子、1769家督相続;人吉藩主;2万2千石、儒;細井平洲門、
 1786藩校習教館創設;東白髪を館長とし学制制定;1804「習教館規則」著、
 1788武道演習場の郷義舎創設;藩の文教に尽力、
 [長寛の別名] 初名;政長/長泰、通称;護之進、法号;興刻院
- F3256 長裕(ながひろ・溝口みぞぐち、通称;半兵衛)?-? 江中期;越後新発田藩士/都講/1786家老、
 儒者;白石を敬慕、1792「世臣譜」著
- F3257 長広(ながひろ・大橋おおはし、本姓:平)1788-185164歳 京の国学者;本居大平門、古学研究/歌人、
 藤井高尚門、「源氏そこのしとき」、1850「鈴屋大人五拾回霊祭歌」著、42「和歌言葉之栞」校、
 大平撰「八十浦の玉」下巻;長歌/短歌入、
 [倭には村山あれどたふときは畝火耳成天の香具山](八十浦;966山)、
 [長広(;名)の通称/号]通称;九右衛門/泰造、 号;柿園/柿庭、
- F3258 長溥(ながひろ・池田いけだ、近江大溝城主分部わけ光実4男)1803-5351歳 池田長喬の養嗣子;幕臣;
 1808家督嗣;9百石、小普請/書院番/西丸目付/1841普請奉行/43作事奉行;千2百石、
 1846(弘化3)大目付、1842「晃山巡覧余草」44「池田筑後守親類書」著
 [長溥(;名)の通称]通称;唯之助/修理

- 03246 **永寛**(ながひろ・原田はらだ、)1807-1871⁶⁵ 因幡気多郡の利川はわか神社社司、漢学/国学者、詩歌人、
医者;弟謙堂と共に江戸の箕作阮甫門、鳥取藩医、兄弟で郷里に牛種痘を実施、
「墨園集」(詩歌集)著、原田則長(1778-1837/利川社司)と同族、
[永寛(;名)の別名/通称/号]別名;永広/長寛、通称;香織/美濃守、号;墨園/(栗)帯霞
- F3259 **長溥**(ながひろ・黒田くろだ、島津重豪9男)1811-87^{77歳} 福岡藩主黒田斉清の養嗣;継嗣襲封、美濃守、
従四下、蘭学:1828シーボルトと会見;交流、ペリー来航時に開国論、公武合体派/佐幕派、
殖産興業・医学普及に尽力、長崎海軍伝習所付属医学校設立に5百両寄付、蘭学者を支援、
歌/連歌:1853嘉永6年百韻興行ほか百韻多数、「鳥類写生帖」画、長知の父、
[長溥(;名)の幼名/初名/字/通称/号]幼名;桃次郎、初名;斉溥なりひろ、字;子観、
通称;官兵衛、号;竜風/霞関/群楽堂/擎成しゅうせい、
- K3260 **長裕**(ながひろ・森もり) ? - ? 江後期;歌人、1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、
[かた糸のくるしき中とかこちしにとけてあふよのふしもありけり]、
(大江戸倭歌;恋1434/逢恋)
- F3260 **長寛**(ながひろ・増田ますだ) ? - ? 江後期文筆家;善長よしながの孫
1852姫路藩士の江戸深川三十三間堂の通し矢を催した際に祖父と関わり記録を残す;
1852「江都三十三間堂矢数」校訂
- M3209 **長弘**(ながひろ・小西こにし、旧姓;大原)1830-86⁵⁷ 信濃伊那郡の歌人;岩崎長世門、信濃飯田住、
伊原周祐かねすけ・野原正基・大原正敷・井村守恭らと交流、小西長喬ながたかと同族、
[長弘(;名)の通称] 利兵衛/利右衛門
- 03221 **長広**(ながひろ・西岡にしおか、)1837-1885⁴⁹ 三河渥美郡の国学者
[長広(;名)の通称] 元太郎/藤左衛門
長弘(ながひろ・摩島) → 松南(しょうなん・摩島まじま/源、儒者/詩) B 2 2 0 4
長弘(ながひろ・矢野/楠本) → 麓山(ごうざん・楠本くすもと、藩士/儒者) J 1 9 3 7
長裕(ながひろ・鈴木) → 秀外(しゅうがい・鈴木すずき、商家/俳人) W 2 1 8 2
長寛(ながひろ・黒田) → 綱政(つなまさ・黒田/松平、藩主/連歌) B 2 9 2 9
長熙(ながひろ・高橋) → 東陽(とうよう・高橋、儒者/詩) H 3 1 7 6
- F3261 **仲房**(なかふさ・源みなもと、神祇伯頭仲男/母;俊輔女)?-? 平安後期廷臣;淡路守、
歌;1119忠通「内大臣家歌合」参加、1128頭仲催「住吉社歌合」「広田社歌合」参加
[みつしほのひるまにすぐるあづまぢやきよみがせきにもみぢしにけり](住吉社歌合)
- F3262 **仲房**(なかふさ・万里小路までのこうじ、秀房男/本姓藤原)1323-88 廷臣;祖父宣房嗣1353参議、
1365権大納言/82准大臣、「一品卿記」、嗣房つぐふさの父
- F3263 **長房**(ながふさ・藤原ふじわら、初名;師光、権大納言経輔男)1029or30-1099^{71or70歳} 母;日野資業女、
平安後期廷臣;1063従三位、77正三位/83参議/大蔵卿/92大宰大貳/99出家;没、
袋草紙に逸話、「出羽弁集」入、歌:1049内裏歌合・51内裏歌合・内裏根合参加、
1078内裏歌合参加、新撰朗詠集・後葉集(229)入、袋草紙;秀歌3首自慢の逸話入、
勅撰6首;後拾(351/837)・金葉(18/79/338)・詞花(53)、
[朝まだき八重咲く菊の九重に見ゆるは霜のおけばなりけり](後拾遺;秋351/大蔵卿)
- F3264 **長房**(ながふさ・藤原ふじわら、光長男)1169-1243⁷⁵ 母;参議藤原俊経女、鎌倉前期廷臣;1201左中弁、
1204参議/10出家、歌人;1201和歌所歌合参加、1198上覚「和歌色葉」往復書簡入、宣房の兄
- K3204 **永房**(ながふさ・間宮まみや/本姓;源)?-? 江前期;上方の俳人、歌人、
1673西鶴「生玉万句」栞もみぢの第三句/第八月発句等入、
[詩に曰く山また山の月更ふて](生玉万句;栞第三、
和漢朗詠集;江澄明/山復た山何いづれの工たくみか青巖の形を削り成せる・・・)、
脇句;可山;書物棚より遠き鹿の音ね/書物棚に詩を付る)、
[月の兎出やらざ耳ひけ山の間い](月発句;出やらざ;出でやあらずば)、
歌;1688浅井忠能[難波捨草]に3首入、
[聞佐びぬわが身ひとつの夕暮にむかしかはらぬ萩のうは風](難波捨草;秋210/夕萩)
- F3265 **永房**(ながふさ・高倉たから、高倉永重男/本姓;藤原)1688-1755⁶⁸ 叔父高倉永福ながよしの養嗣、
廷臣;1716従三位/22参議/42正二位/43権大納言、故実家、「装束事」著、持明院宗時の父
- N3221 **永房**(ながふさ・齋藤さいとう、通称;繁之丞)?-?文化1804-18頃没 陸奥仙台藩士;伊達重村に近侍、

国学者

- 永房(ながふさ・藤原) → 仁教(にんきょう/にんぎょう、法相僧/歌人) G 3 3 2 7
 永房(ながふさ・桑岡) → 貞佐(ていさ・桑岡くわおか、俳人) 3 0 0 3
 長房(ながふさ・藤原) → 慈心(じしん;号、覚真;法諱、廷臣/法相僧) T 2 1 9 0
 長房(ながふさ・杉浦) → 桐村(とうそん・杉浦、音曲家/絵師) 3 1 4 3
 長房(ながふさ・幸阿弥) → 幸阿弥(11世こうあみ、蒔絵師) P 1 9 6 0
 長総(ながふさ・賀島) → 正根(まさね・賀島/藤原、藩士/国学) F 4 0 4 7

3217 仲文(なかふみ・藤原ふじわら、公葛男;祖父興範男説あり)923-992(or908-978)70or71 廷臣;
 蔵人/加賀守、977上野介/正五下、冷泉天皇東宮期よりの側近、
 藤原元輔・大中臣能宣・菅原輔昭と親交、歌人;36歌仙の1、
 公任撰「前十五番歌合」入、家集「仲文集」、金玉・秋風集入、和歌色葉入(;名誉歌仙の1)、
 勅撰8首;拾遺(436/535/551)新古今(1398)新千(2179)新拾(1191/1908)新後拾(1451)
 [ありあけの月の光をまつほどにわが世のいたくふげにけるかな](拾遺集436;月待つ心)

- 仲文(なかふみ・堤) → 有節(ゆうせつ・堤つみ/石川、儒者) D 4 6 1 1
 永章(ながふみ・青木、玉園) → 永章(えいしょう・青木、神職/歌人) 1 3 3 5
 長文(ながふみ・松本) → 重文(しげふみ・松本まつもと、藩士/儒者) S 2 1 5 3
 長文(ながふみ・伊藤) → 長文(ちやうぶん・伊藤、儒者) J 2 8 7 8
 仲冬(なかふゆ・千村) → 峯陽(とうよう・千村ちむら/木曾、儒者/詩) H 3 1 8 7

F3266 長穂(ながほ・安田やすだ/別姓;梅坊うめのぼう/佐伯)1796-185661 紀伊熊野の商人/和歌山藩に出仕、
 本草家畔田くろだ伴存ともありら学者たちの経済的支援をする篤志家、歌人、
 国学・歌;本居大平門、諸平と交流、大平撰「八十浦の玉」下巻;長歌・短歌入、
 1820(文政3)大平編[万葉常百首]の序文執筆、
 妻;さと子(国学/歌人)/穂並・千穎ちかひ・穂末ぼづえの父、

[春日野に つばなぬかす児 つばなは まろにたばへ 恋やせに よしとふものぞ
 手もすまに ぬきてたばへ 茅花ぬかす児](八十浦;761茅花)、

[長穂(;名)の通称/号]通称;雑賀屋(さいかや)長兵衛、号;魚顔/浜木綿屋

- 長穂(ながほ・中山) → 俊彦(としひこ・中山なかやま、神職/国学) V 3 1 9 4

F3267 仲正(仲政なかまさ・源;清和流、三河守頼綱男)1066?-1140?75歳? 母;小一条院中納言局、
 平安後期廷臣;1095蔵人/従五下、兵庫頭/下野守、源三位頼政・三河・美濃の父、
 十訓抄・古今著聞に美女砂金騒動の逸話、歌人:1104俊忠・28顕仲・34顕輔家歌合参加、
 1134-5為忠家両度百首参加、家集「蓬屋集」(散佚)・「源仲正集」(後人が夫木抄から抄出)、
 後葉集3首/続詞花集3首入、

勅撰15首;金葉(146/184/Ⅲ141/177)詞花(335)千載(71/104/187/198/997/1064/1164)、
 玉葉(424)風雅(860/1980)新拾遺(167/802)、

[沢水さはみづに火串ほぐしの影のうつれるを二ふともしとや鹿はみるらん](金葉;夏146、
 照射ともしの心を詠む/照射は鹿を寄せるための松明)、

[思ひ出もなき世はなにのをしければ残りすくなき身をなげくらん](続詞花;雑874)

J3287 仲昌(なかまさ) ? - ? 室町期;加賀守、
 連歌;1423「熱田法楽連歌」連衆(8句)

K3271 仲昌(なかまさ・安部あべ) ? - 1734 江中期陸奥津軽の神職/歌;冷泉為泰門

F3268 秀昌(なかまさ/ひでまさ・中原、致当男)1727-8559 廷臣;1738権少外記/63少内記/85権大外記、
 1555「復辟勅答私記」著

- 中正(なかまさ・藤原) → 中正(なかただ・藤原、廷臣) E 3 2 1 0
 中正(なかまさ・源) → 中正(なかただ・源、歌人) E 3 2 1 1
 中雅(なかまさ) → 中雅(ちゆうが/なかまさ、連歌) F 2 8 8 2
 仲正(なかまさ・藪内) → 竹心(ちくしん・藪内やぶのうち、茶人) D 2 8 2 3
 仲昌(なかまさ・渡辺/内田) → 陶丘(とうきゆう・内田うちだ、絵師) C 3 1 6 7

F3269 長雅(ながまさ・花山院かざんいん/号;鷹司、定雅2男/本姓;藤原)1236-8752歳 母;藤原定高女、
 廷臣;1254(建長6)参議/正四下/63正二位/84(弘安7)大納言、琵琶;橘成季[著聞集作者]門、
 1287「皇帝団乱旋荒序四方八方説万秋楽六帖蘇合香四帖只拍子」著、

- 歌：1265 龜山殿五首歌合参加/弘安百首入、
勅撰19首；続古4首(281/841/1012/1589)続拾(413/1006/1030/1044/1314)新後撰(3首)以下、
[禊ぎ川がわ小夜ふけがたによる波のかへるや夏の別れなるらん](続古：夏281/夏祓を)
- F3270 **長雅**(ながまさ・高辻たかつじ、号；才林、章長男/本姓；菅原) 1515-80 66歳 母；町広光女、戦国期廷臣、
家学；漢学を修学、文章博士、大学頭、1547従三位/59正三位/60侍読/80(天正8)権大納言、
1543「桂薬記」補/44「貞敦親王敬白文案」著/47「天文16年11月和漢聯句」催、
聯句；1556三条西公条催「大覚寺和漢千句」参加(；[菅中納言]名)
- F3271 **長政**(ながまさ・黒田くろだ、孝高[如水]長男) 1568-1623 56歳 母；櫛橋伊定女、武将；豊臣秀吉の臣；
朝鮮出兵で勇名/家康に従い関ヶ原で戦功/1600筑前に転封；福岡藩主52万石、
大坂夏陣に出陣、京の報恩寺に客死、妻；蜂須賀正勝女/継室；家康養女栄姫(ねね)、
「黒田長政家訓」、1622「定則」著、聯句；1611慶長十六年五月集雲らと和漢聯句、
連歌：1622昌琢と何路百韻/庭田重有等連歌、
[長政(；名)の通称/法号]通称；松寿/吉兵衛、 法号；興雲院
- F3272 **長祇**(ながまさ・滋岡しげおか) ? - ? 江前期大阪天満宮神主、連歌：「御社頭千句三ツ物留」著
- 3218 **長雅**(ながまさ・平間ひらま、別名；良淳、江戸の浪人平間貞方男) 1636-1710 75 母；鈴木信安女、
江戸の生/京で鷹司家の知遇を得る/歌学者；日野弘賢・望月長孝ながよし[長好]門、
長孝没後その伝書を多数継承；京歌壇の中心、1696京の栗田山に隠棲/晩年撰津住吉住；
門人多数を指導；有賀長伯の師、「平間長雅和歌集」「長雅詠草」「風塵記」「長雅菊之記」著、
1691「富緒川とみのおがわ」著/「片岡山」編、「神国和歌師資相伝正統血脈道統之譜」「和歌三義」著、
「筆のまよひ」「春樹木頭秘抄」著/外編著多数、「風観齋長雅家集」(門人長伯撰)、
[長雅(；名)の号] 耻山軒ちざんけん、風観窓/風観齋/六諭居士、法号；精剛院
- L3241 **長正**(ながまさ・小津おつ、) 1653-1729 77 伊勢松坂の商家；油屋、道智(宣長の祖父)の実兄、
国学者/歌人；清水谷実業門、長親(道円)の父、
[長正(；名)の通称/号]通称；清兵衛、号；道生/三思、屋号；油屋
- F3273 **長雅**(ながまさ・岡部おかべ、通称庄九郎/五郎兵衛、長興男) 1692-1758 67 幕臣/1720家督/天英院用人、
先手鉄砲頭、1729「文廟御絵伝略」、「桜田御殿之古事」著
- F3274 **長昌**(ながまさ・吉川よしかわ、通称助八郎) ?-? 江前期和算家；杉山貞治門、1670「算法発蒙集」校
- F3275 **長昌**(ながまさ・小笠原おがさわら、通称；三郎右衛門/新蔵) ?-1714 尾張藩用人；寺社奉行、
1660-66「小笠原長昌日記」、「万治日記」著
- F3276 **長昌**(ながまさ・渡辺わたなべ、通称；助五郎/助左衛門) ?-? 陸前仙台の兵法家；鹿又次高門、
1758微妙止善極秘受、「兵法雄鑑解」著
- K3213 **長昌**(ながまさ・昌長まさなが・米倉よねくら/本姓；源) 1720-88 69歳 幕臣；使番、歌人；賀茂真淵門、
本居大平「八十浦の玉」入、
[降りつみし雪も霞みてみ吉野は花待つ春に成りにけるかも]、
(八十浦；2/1758[宝暦8]真淵家宴)、
[長昌(；名)の通称/号]通称；鑄右衛門/右近/鞆負ゆげい/頼母たのも/采女うねめ、号；米山
- F3277 **永雅**(ながまさ・高倉たかくら、永範男/本姓藤原) 1784-1855 72 母；冷泉為村女/兄の永彰を嗣ぐ、
廷臣；1805正四下/08従三位/12正三位/13左兵衛督/15(文化12/32歳)参議/16従二位、
1817即位親王代参仕/18(文政元)東照宮奉幣使/25(文政8)権中納言；正二位/31辞任、
1844(弘化元/61歳)権大納言；45辞任、1818「高倉宰相日光例幣使参向記」著
- F3278 **永政**(ながまさ・水島みずしま、通称次輔/治平、本姓平) 1794-? 1853存 京の笛演奏家/山陵研究、
三条実方の山陵会参加、「山陵考」「式社詣之記」「陵墓考」「山城五陵考」「山城国式社考」著
- F3279 **永雅**(ながまさ・森もり、為泰男) ?- ? 幕末期松江絵師/1871家督、「御島日記」画
- N3266 **永修**(ながまさ・田谷たや、) 1848- 1921 74 近江高島郡の阿志都弥神社大宮司、
国学；倉橋泰聡やすとし・平田鍊胤門、中講義
[永修(；名)の初名/通称/号]初名；永福、通称；遠江守、号；淡水舎
- 長正(ながまさ) → 長正(ちようせい、俳人) L 2 8 3 0
長昌(ながまさ・藤岡) → 近方(ちかまさ・藤岡ふじおか、藩士/国学) N 2 8 4 0
長雅(ながまさ・藤原/四条) → 隆衡(たかひら・四条/藤原、廷臣/歌人) D 2 6 6 2

- 長政(ながまさ・橋、以房男)→ 寂縁(じやくえん、僧/歌人) G 2 1 0 8
 修政(ながまさ・池田) → 茂政(もちまさ・池田/徳川/松平、藩主) B 4 4 6 9
- F3280 **長政室**(ながまさのしつ・黒田くろだ、名;ねね/栄姫、保科正直女)?-1635 徳川家康の養女、
 1600黒田長政と結婚、連歌:1630「寛永七年千句」息忠之・長興らと詠
- N3222 **永昌母**(ながまさのはは・齋藤さいとう、)1663-173775 陸奥仙台藩士齋藤伊右衛門永昌の母、
 国学者/歌人
- F3281 **長益**(ながます・本保ほんぼ) ? - 1728 加賀金沢藩士/詩人;小瀬桃溪と交流、
 新井白石・室鳩巢と唱和、1724「桃溪先生詩集」編、
 [長益(;)名)の字/通称/号]字;子謙、通称;三郎兵衛、号;梅嶺/敬聚齋
- 長益(ながます・織田) → 有楽(うらく・織田おだ、武将/茶人) 1 2 9 6
 長益(ながます・河村) → 秀世(ひでよ/ひでつぐ・河村、藩士/歌人) E 3 7 0 8
- F3282 **長松**(ながまつ・滋岡しげおか、号;大足軒)?-? 1804-30頃大阪天満宮神主、連歌/連歌書書写、
 「独吟千句」「梅千句」「十百韻」「独吟連歌」「堀川院百首題詠草」「除夜のすさみ」、「上京日記」
- 長丸**(ながまる・太田) → 見龍(けんりゅう/けんりょう・太田おおた、医者) M 1 8 8 3
- 3219 **仲麻呂**(なかまろ・安倍/阿部あべ、唐名;朝衡/晁衡、船守男)701?-77070歳 奈良期唐の廷臣、
 716遣唐留学生に選出/717(養老元)入唐;改名朝衡、玄宗の寵を受け秘書監兼衛尉卿、
 鑑真に渡日を招請、帰途海上で遭難、再び唐朝廷臣;北海郡開国公/没後;潞州大都督、
 詩;文苑英華・文華秀麗集入、古今和歌集目錄「失題」(五絶)入、歌;古今集1首、
 [天の原ふりさけ見れば春日なる三笠の山に出でし月かも](古今406)
- 仲麻呂(なかまろ・藤原) → 押勝(おしかつ・恵美、奈良期政治家) 1 4 1 6
- L3231 **長麿**(ながまる・内田うちだ、)1827-189468 備前磐梨郡の国学者・歌;藤原忠朝・平賀元義門
 [長麿(;)名)の初名/通称/号]初名;義芝、通称;吉十郎/七郎兵衛/七郎作、
 号;佐波良之垣内/大坂之舎/窓月/竹翁
- F3283 **永見**(ながみ・小野おの、毛野男)?- ?/782-806没 陸奥介/征夷副将軍、詩:陵雲入、岑守みねりの父、
 従軍中に陣死;友人賀陽豊年が哀悼五律作
 参考 → 豊年(とよとし・賀陽かや、漢学者/詩人) R 3 1 3 4
- F3284 **長見**(ながみ・森もり、通称;助治/助左衛門、広浜堂、彦左衛門男)1742-9453 讃岐多度津藩士、
 1785吟味方/94小物成奉行、国学;史/文、子弟教育、-83「国学忘貝」著
- 03205 **修省**(ながみ・中島なかじま、通称;槌吉)?-? 江後期紀伊和歌山藩士、
 国学者;本居内遠(1792-1855)門
- 中御門(なかみかど;称) → 経宗(つねむね・藤原ふじわら、廷臣/歌人) D 2 9 9 5
- F3285 **中御門天皇**(なかみかどてんのう・慶仁やすひと、東山天皇皇子)1701-3737 1709-35在位/幕府と良好関係、
 歌/笛を嗜む、1729「観象詩歌」、「中御門院御詠草」「院当座和歌」「南殿花御覧歌」著
- 中御門右大臣(なかみかどのうだいじん)→ 宗忠(むねただ・藤原、右大臣/故実/歌) 4 2 0 7
 中御門左大臣(なかみかどのさだいじん)→ 時平(ときひら・藤原、歌人) 3 1 3 6
 中御門摂政(なかみかどのせつしょう)→ 良経(よしのね・九条/藤原、歌人) 4 7 1 6
 中御門中納言(なかみかどのちゅうなごん)→ 家成(いえなり・藤原) 1 1 5 1
 中御門内大臣(なかみかどのないだいじん)→ 宗能(むねよし・藤原、廷臣/故実/歌) C 4 2 8 0
- F3286 **仲道**(なかみち・津川つがわ) ? - ? 江後期大阪心学:鎌田柳弘門、1829「卯花日記」著
- N3259 **仲道**(なかみち・田島たじま、)1841-191676 尾張中島郡の郷社浅井神社祠官、
 国学・歌;大国隆正・小塚直持門/神道・国学;津田穂積門、
 [仲道(;)名)の初名/通称/号]初名;仲人、通称;美濃守、号;楓蔭/松か根
- 中道(なかみち・下里) → 延平(のぶひら・下里しもと、国学者/歌) D 3 5 0 6
 中道(なかみち・堀家) → 徳政(のりまさ・堀家ほりけ、神職/歌人) J 3 5 3 8
 仲道(なかみち・畑) → 畑仲道(はたけのなかみち、狂歌作者) I 3 6 7 7
 仲道(なかみち・久保) → 虚斎(ちゆうさい・久保くぼ、儒者/詩人) G 2 8 0 5
 仲通(なかみち・岡島) → 石梁(せきりょう・岡島/岳、藩儒/詩) D 2 4 9 7
 仲路(なかみち・野口) → 東溟(とうめい・野口、儒者/開塾/尊攘) H 3 1 3 7
- F3287 **長通**(ながみち・久我こが、内大臣通雄みちお長男/本姓源)1280-135374 母;家女房源仲基女、廷臣;
 1293従四上左近中将/94正四下/97従三位/98正三位/1301従二位/02(乾元元/23歳)参議、

1303権中納言/08正二位中納言/09(延慶2/30歳)権大納言;12辞任/父と義絶、
 1318後醍醐天皇即位、23(元亨3)大納言還任・奨学院別当;24辞任/28権大納言還任;左大将、
 1330(元徳2/51歳)内大臣;従一位/31右大臣;東宮傳(東宮後見は源通頭)、元弘の乱、
 1332(元弘2/光厳天皇)辞任、後醍醐天皇隠岐配流/33(正慶2)右大臣還任、後醍醐天皇還幸、
 1334(元弘4/建武元;後醍醐天皇)右大臣辞任;刑部卿、36足利幕府開・後醍醐天皇吉野南朝、
 1340(暦応3/61歳/光明天皇)太政大臣/41奨学院別当・氏長者/42大臣辞任、
 1363病没(赤痢?)、通相みちまさ・長通女ながみちのむすめの父、
 歌:1350「為世十三回忌和歌」出詠、勅撰4首;風雅(2130)新千(278/1183)新拾(1788)、
 [そのかみを思へばわれも御笠山さして頼みをかけざらめやも](風雅;神祇2130)、
 [時しあれば春くる方を照しきて開けそめぬる法の花ぶさ]、
 (為世13忌歌;冒頭歌/詠法華經序品和歌)、
 [長通の称] 後中院相国のちのなかのいんしょうこく/千種、

N3256 **長通**(ながみち・千家せんげ、)1747-1819⁷³ 出雲出雲郡の神職、茶道;千家連枝、
 和学者;大野泰珠やすし(是誰)門、古学を研究、歌;小豆沢勝興(常悦)門、
 歌;千家尊孫編[類題八雲集]入、
 [長通(;名)の初名/通称]初名;長道、通称;筑後

F3288 **長道**(ながみち/ながただ/ちようどう・村井むらい、長世ながよ男/本姓;平)1796-1836⁴¹ 加賀金沢藩士、
 1828家督嗣;1万6千石/前田斉広に出仕;年寄として藩政指導、謡曲・能面・装束の研究、
 佐久間寛台ひろもとの謡曲注釈書「謡言粗志」の訂補を河合良温・渋谷重武・勝木元直に命ず、
 1930「仮面集録」31「謡曲私言」「面名集」/32「能面鑑定大概」、「装束抄」「螢雪小記」外著多数、
 [長道(;名)の初名/通称/号]初名;長恵ながえ、通称;又六/鞆負/又兵衛、
 号:浩翁/浩齋主人/浩然道者/無間子

F3289 **脩道**(ながみち・菅野すげの) ? - ? 狂詩文:台州門、1792台州「含錫紀事」序

K3280 **長訓**(ながみち・浅野あさの、長懋ながとし5男)1812-72⁶¹ 安藝新田藩主浅野長容の婿養子;
 1824(文政4)家督嗣;新田藩5代藩主;長訓を名乗る/従五下美作守/のち近江守、
 1858(安政5/47歳)慶熾の遺跡継嗣;広島藩11代藩主;茂長に改名/従四下安藝守/侍従、
 浅野家宗家12代、1860左少将、代々財政難;藩政改革断行;野村帯刀・辻将曹を家老に登用、
 新材登用/洋式軍制導入、1866第二次長征に停戦を主唱;幕府朝廷に連署請願、
 維新後新政府に恭順;長訓に再改名、1869隠居;長薫に家督譲渡、
 正室;浅野長容女の峻、養子;長薫(弟懋昭男)・雪年、
 [長訓(;名)の別名/通称/号]別名;茂長もちなが、
 通称;千之助/為五郎/美作守/近江守/安藝守、号;節山

F3290 **長行**(ながみち・小笠原おがさわら、長昌男)1822-91⁷⁰ 肥前唐津藩士;藩政に功劳、
 1862幕臣;奏者番、1866老中就任/慶喜を助け幕政活躍/征長戦争時は小倉で指揮、
 1867外国事務総裁;兵庫開港尽力/幕府崩壊後;会津/五稜郭籠城;降伏、
 歌:「小笠原長行詩歌」「養老塙歌草稿」「長崎紀行」
 [長行(;名)の通称/号]通称;敬七郎/行若/函書頭/老岐守、
 号;明山/洗耳/天全/天金/遠清/夢生/夢楼

長道(ながみち・村井) → 長道(ちようどう・村井、能楽研究) 2 8 5 5
 長道(ながみち・津田) → 伝兵衛(でんべえ・津田、藩校学頭/海防) E 3 0 2 3
 修道(ながみち・杉) → 梅太郎(うめたろう・杉すぎ、藩士/教育) D 1 2 3 8

F3291 **長通女**(ながみちのむすめ・久我こが、前太政大臣[1280-1363]女)?-? 南北期歌人、風雅集494

F3292 **仲光**(なかつ・広橋ひろはし/家名;勘解由小路/日野/本姓;藤原、広橋兼綱2男)1342-1406⁶⁵ 廷臣、
 持明院統近臣;1378参議・従三位/大宰権帥/権中納言/1388権大納言/96従一位;出家、
 「仲光卿記」「仲光口宣案」著、歌;公武歌会に参加;1367新玉津社歌合参加・
 1369応安二年内裏和歌参加(蔵人正五上左少弁名)・81「内裏三十首」参加、
 勅撰3首;新後拾(367/1203)・新続古(420)、
 [さをしかのしがらむ萩に秋みえて月も色なる野ちの玉河](新後拾遺;秋367)

仲光(なかつ・森) → 春溪(しゅんけい;号・森もり、絵師) I 2 1 8 8

P3259 **長光**(ながみつ・荒木田あらかた、)?-? 平安鎌倉期;伊勢内宮神職;六禰宜、

歌人;1233刊[御裳濯集]10余首入、長光乙女(ながみつのをとめ/娘?)も歌人(同集入)、
[雁歌とて、

なきてゆく雲みのかりの声さぶみあさぢ色づく野辺の夕露](御裳濯集;秋364)

- F3293 **永光**(ながみつ・藤原ふじわら、成時男/実はその兄邦兼男か?)?-? 廷臣;順徳院側近/左兵衛権少尉、
蔵人/五位/丹後守/木工頭、歌人;1213内裏歌合・43河合社歌合参加、定家参加の歌会同席、
勅撰10首;新勅(837/1003/1097)続後撰(4首766/978/1098/1307)続拾(1012)玉(559/2499)、
[さりともと頼むもかなしむばたまの闇のうつつの契ばかりを](新勅撰;恋837)
- F3294 **長光**(ながみつ・葉室はむろ、長隆男/本姓藤原)1309-6557 廷臣;1325蔵人/26記録所寄人/27中宮大進、
1331蔵人頭/32(元弘2/正慶元)正四上参議・左兵衛督/33(建武元)中宮亮/34従三位、
1338(暦応元/光明天皇)正三位/40権中納言;42辞任/46従二位/50正二位、
1354(文和3/46歳/後光厳天皇)権大納言;62辞任、「長光卿記」著、
息;長宗(1375参議/87出家;法名;祐信?)
- L3206 **長盈**(ながみつ・井上いのうえ、旧姓;名越)1740-180566 周防岩国の白山神社祠官/岩国藩士;神道方、
神道・歌人;森脇軍蔵(惟右これすけ)門、
[長盈(;名)の通称] 撰津守/忠左衛門
長満(ながみつ・大野) → 玄鶴(げんかく・大野おの、医者/地誌) I 1 8 2 7
- P3260 **長光乙女**(ながみつのをとめ・荒木田あらかだ、?)?-? 平安鎌倉期;伊勢内宮神主の娘?、
歌人;1233刊[御裳濯集]入、
[ゆく秋のかたみにひろふもみちばを袖にもためずふく嵐かな](御裳濯集;秋494)
- J3289 **仲峯**(なかみね) ? - ? 室町期神職、
連歌;1423「熱田法楽連歌」連衆(1句)
- K3258 **長嶺**(長峰ながみね・遠山とおやま、?)?-? 江後期;幕臣/歌;清水浜臣(1776-1824)門、
江戸住、信濃飯山藩主本多助賢(すけとし1791-1858)の歌の師、
1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、
[和田中のいくりにおふる深みるのみるだにかたき恋もするかな]、
(大江戸倭歌;恋1394/不見恋、和田中のいくりに;海中の岩礁)、
[いく春もあらじ老木の梅の花けふさきがけて散らんとぞ思ふ]、
(同;雑1925/指物にかきつけける)、
[長嶺(;名)の通称] 喜蔵/器蔵きぞう
- 03248 **長峰**(ながみね・氷室ひむろ/本姓紀、長翁ながとし男)?-?早世 母;陳子のぶこ(歌人)、
尾張海東郡津島神社神主家の生、歌;父(1784-1863/香川景樹門歌人)門、
国学;野村秋足(1819-1902)門、
1882大島為足・山本正晴・佐藤美宣らと歌道研究の会設立
父 → 長翁(ながとし・氷室ひむろ/紀、神職/歌人) E 3 2 8 7
- P3253 **長宗**(ながむね・中条ちゆうじょう、頼平の長男/本姓;藤原)?-? 鎌倉期;武家/従五下/左衛門尉/伊豆守、
幕府評定衆?/景長・秀長の兄/長宗没後に弟景長が家督嗣(武将/最後の評定衆)、
歌人;1310為相[柳風抄]入、
[露ちればなびかぬかたのえだすきてさくはなかるき庭のはぎはら](柳風抄;秋70)、
[長宗の別名]宗長/長家
- J3286 **長宗**(ながむね・葉室はむろ、長光男/本姓藤原)?-? 南北・室町期廷臣;蔵人/1349正五下、
1375参議;正四上、1387出家(正三位)/法号;祐信?、
祐信なら1407内裏九十番歌合参加(;3首)
- F3295 **長棟**(ながむね・小笠原おがさわら、通称;又次郎、貞朝男)1492-154958 信濃守護:武将、定基と家伝争奪、
1512弓馬兵法秘伝を父より受、「長棟軍歌之記」、1532「羽鏡」、「軍馬秘術」著、信定の父
長膺(ながむね・岩城) → 蟾居(せんきよ・岩城、商家/俳人) M 2 4 0 5
- F3296 **長村**(ながむら・大江おおえ) ? - ? 鎌倉期撰津住吉の津守家家人、歌人;津守集入、
1303成立「新後撰集」1365;読人しらずとして入集
[松風の音をきかでや山里をうき世の外と人はいひける](新後撰集;雑1365読人しらず)
- F3297 **長郡**(ながむら・杉村/杉邑すぎむら)?-? 江中期:大和大福新屋の農業/暦算家、
1732「日東通暦」50「天度判断」著

- 長群(ながむら・仁井田) → 雉岡(ちこう・仁井田にいだ、儒者/海防) E 2 8 1 6
 中村七三(なかむらしちざ) → 七三郎(しちさぶろう・初世中村、歌舞伎役者) 2 1 2 7
- F3298 難可免(ながめ・森仰亭しんぎょうてい/花月、小山重良)?-? 下総古河の狂歌作者、
 1836「俳諧調三十六花撰」編
- F3299 長以(ながもち・青山あおやま、別名;宜時/通称;又七郎、宜長男)1754-1805 52歳 兄宜忠の嗣;幕臣;
 1771小納戸、1797徳川家慶小姓、「戸山の記」著
 長持(ながもち・道具屋) → 道具屋長持(どうぐやのながもち、狂歌) S 3 1 5 0
 長茂(ながもち・山県) → 源右衛門(げんえもん・山県、藩士/記録) H 1 8 8 9
 仲基(なかもと・富永) → 謙斎(けんさい・富永、思想家) E 1 8 8 3
- P3258 永元(ながもと・荒木田あらかぎ、三禰宜忠定男)1165-1245 77 平安鎌倉期;伊勢内宮神職;1237七禰宜、
 六禰宜/正四上、1245(寛元3)没、歌人;1233刊[御裳濯集]4首入、家集[荒木田詠元集]あり、
 [我がやどの梅の匂ひやしたふらむをちかた人のゆきもやらねば](御裳濯集;春63)
- G3200 長基(ながもと・丹波たんば、頼基男)?-1230/40? 医者:典薬頭/施薬院使/針博士/1203医博士、
 1194「四花患門灸法」著
- G3201 長基(ながもと・藤原ふじわら、長忠男)?-? 1323存 鎌倉後期;1312従三位/19正三位/侍従/近江介、
 治部卿/蔵人頭を歴任、1309「長基卿記」著
- G3202 長基(ながもと・小笠原おがさわら、通称;孫次郎、政長男)1347-1407 61 信濃守護:武将、弾正少弼、
 義満の兵法師範、菊池武光と戦う/1391明德乱に武功/父より弓馬兵法伝授、
 「弓馬之書」著、「長基聞書」編
- P3222 長基(ながもと・山村やまむら、通称;九郎右衛門)1689-1759 71 信濃飯田の商家/町年寄、
 国学/歌人;依田正純門
- G3203 長元(ながもと・黒田くろだ、土佐藩主山内豊策男)1811-67 57歳 筑前秋月藩主黒田長韶ながつぐの養嗣子、
 1830家督嗣;秋月藩主襲封/甲斐守、儒;近藤木軒門/学事奨励、1860致仕、
 「歌道之連歌」「茶之湯式」、「秋月侯問安余録」「静修軒漫録」著、
 歌;1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、
 [幾度いくたびも波のうき霧たちかはりながめぞつきぬ松が浦島](大江戸倭歌;秋817/浦霧)
 [長元の号] 静修軒/自笑庵
- G3204 延基(ながもと・平出ひらで、延齡ながとし男)1835-89 55歳 尾張名古屋の医者;父門/医務取締、
 国学;植松茂岳門/画、「普救堂叢書」編、「本草綱目異同考」著、法号;洒落齋光風霽月
 [延基(;名)の字/通称/号]字;子宥、通称;順良、号;琴籟
 長元(ながもと・土岐) → 敦山(あつのお・土岐とき、幕府医者) E 1 0 7 2
 長元(ながもと・平尾/興津) → 元義(もとよし・平賀、平尾/興津/犬丸、地誌/歌人) 4 4 2 4
- G3205 仲守(なかもり・笠かきの朝臣)? - 835 平安前期廷臣;式部丞/左衛門佐/左中弁/従四下、
 834遣唐装束司、815・824・827の3度空海に願文執筆依頼、詩:経国入
- G3206 仲盛(なかもり・姓不詳) ? - ? 南朝参議、歌:新葉1027
 [咲きそめて後こそあらめまつほどは花にもまがへ嶺の白雲](新葉集;雑歌1027)
- G3207 長盛(なかもり・橘、秋実男/母秋篠氏成女)?-? 平安前期大膳少進/兵部大丞/長門守/従五下、
 宇多天皇布引滝行幸に随従/歌;古今927、室;棟良王女、直幹なおもと・忠幹ただもとの父
 [ぬしなくてさらせるぬのをたなばたにわが心とやけふはかさまし]
 (かすはお供えする意/古今集:雑927;7月7日布引滝従駕)
- G3208 長守(なかもり・菅原すがわら/家名高辻たかつじ、宣忠(or在長男)1129-1203 75歳 文章博士/大学頭/院侍読、
 1199「出雲寺勸進帳序」著
- G3209 長衛(なかもり・遊佐ゆさ、長滋ながしげ男)?-? 室町期越中蓮沼武将/父と共に畠山政長家臣、
 歌;堯恵門/「詠草」2巻、連歌:父と宗祇迎え千句連歌催、新菟玖波入
- G3210 長盛(なかもり・増田ますだ/真下)1545-1615 自害 71歳 尾張の武将/大和郡山城主/家康の怒を買う、
 連歌;1610千句
- G3211 長盛(なかもり・岡部おかべ、正綱男)1568-1632 65歳 武将;1584父の遺領を継嗣、長久手戦に従軍、
 以後徳川家康の家臣として従軍;大坂冬夏陣に戦功/1609丹波亀山城主、
 1621福知山に移城;5万石、24(寛永元)美濃大垣城主;5万千2百石、従五下/内膳正、
 経史に通ず;老臣岡辺大和らを教授、晩年;歌/連歌を好む;斎藤徳元等と一座す、

「在城日記」「雄心院殿日記」「行儀之事」著、
[長盛(；名)の別名/通称/法号]後名；康綱(家康の字を賜る)、通称；半弥/弥次郎、
諡号；久要公、法号；雄心院

- P3229 **永盛**(ながもり・吉田よしだ、太郎左衛門盛之もりゆき2男)1649-1705⁵⁷ 備中倉敷の油商；油屋の生、国学者、
重之の弟、分家し東油屋、嘉保(-1721/本家油屋を継嗣)の父、
嘉保の長男保行(保之/-1715)が東油屋を嗣、嘉保の次男永好(1700-82)が本家油屋を嗣、
[永盛(；名)の通称/屋号]通称；牛助/孫右衛門/嘉兵衛/九郎右衛門、屋号；東油屋
- G3212 **長守**(長盛ながもり・中島なかじま、通称太兵衛、貫齋)1694-1762⁶⁹ 大阪砲術；武衛/自得/佐々木流奥義、
中島流を称す、泉州七堂浜で砲術実験、「中島流砲術伝書」編
長守(ながもり・長田) → 好静(よしず・長田ながた、名主/神職) O 4 7 2 5
存守(ながもり・内藤) → 存守(ありもり・内藤ないとう、神職/国学) F 1 0 9 0
永盛(ながもり・大中臣) → 永胤(ながたね・大中臣おおなかとみ、神職/歌) E 3 2 1 7
仲泰(なかやす・千村) → 峯陽(とうよう・千村ちむら/木曾、儒者/詩) H 3 1 8 7
仲泰(なかやす・下間) → 仲孝(なかたか・下間しもつま、真宗僧/能役者) D 3 2 9 9
- G3213 **長泰**(ながやす・藤原ふじわら/家名；大曾禰、評定衆藤原時長男)1211-62⁵² 鎌倉幕臣；1249引付衆、
1254上総介、連歌；菟玖波集11句入、
[松よりも花に猶ふくあらしかな](菟玖波集；二十発句2065)
- G3214 **長康**(ながやす・三善みよし) ? - ? 五位、歌；1384刊「新後拾遺」968
[よそにちる玉となみえそせく袖のたぎつ心はわきかへるとも](新後拾遺；恋968)
- G3215 **長泰**(ながやす・進藤しんどう、通称；左衛門尉、幸泰男/本姓藤原)?-? 1497^存 近衛家諸大夫/筑後守、
従四下、近藤政家に出仕、連歌；1495宗祇種玉庵の「新撰菟玖波祈念百韻」連衆(8句入)、
新菟玖波集3句入
- G3216 **永康**(ながやす・高倉たから、法名常玄、永継男/本姓藤原)1464-1512^{49歳} 廷臣；1498参議/1502出家、
永家の父、歌；1480甘露寺親長家月次歌会に父と参加、「口伝秘抄」著
- N3224 **長泰**(ながやす・相良さがら、稻留伝翁男)1544-1629^{86(94歳説あり)} 薩摩島津家の武将、鹿児島藩士、
島津義久の使者として相良義陽に赴き許可を得て相良を名乗る、和学者、
1582(天正10)八代在番/日向紙屋の地頭、財部の地頭、島津義弘の許に城攻めに軍功、
朝鮮の役に木脇祐辰と共に船奉行、庄内の乱に参陣、1600関ヶ原戦後義弘を伴い帰国、
妻；伊地知重康女、頼豊・新吉・島津忠恒側室の父、没後島津家久(忠恒)より追悼歌あり、
[長泰(；名)の初名/通称/号]初名；長辰、通称；新助/新右衛門尉/日向守、出家号；閑栖齋
- 03297 **長安**(ながやす・大久保おおくぼ、猿楽師大蔵信安2男)1545-1613⁶⁹ 戦国・江前期の武将、
祖父；春日大社の猿楽金春流能楽師/父は播磨大蔵に流罪；大蔵流を創始/長安誕生、
父は甲斐に移住；武田信玄お抱え猿楽師、長安は信玄により家臣として採用、
譜代家老・土屋昌統の与力に昇進；大蔵から土屋に改姓、
蔵前衆となり領国の黒川金山等の開発に従事、信玄没後；長篠戦で兄新之丞が没、
1582(天正10)武田家滅亡；(武田勝頼に疎まれ三河に逃れ猿楽師の説あり)、
徳川家康の家臣として出仕；大久保忠隣の与力；大久保に改姓、信長死去；
甲斐は徳川領となり本多正信・伊奈忠次郎が甲斐内政再建；長安は所務方として実務、
長安は釜無川・笛吹川堤防復旧や新田開発・金山採掘などに尽力、
1590(天正18)家康の関東移住；長安は奉行(代官頭)に就任；土地台帳を作成、
長谷川長綱・彦坂元正・伊奈忠次と共に関東代官頭；家康直轄領百万石のの事務差配、
1591(天正19)武蔵八王子8000石を所領；八王子宿に陣屋設置、宿場建設・浅川堤防築造、
家康に治安維持・国境警備の重要さ進言；旧武田家臣団中心の八王子五百人同心創設；
さらに1599(慶長4)倍増；八王子千人同心となる、1600関ヶ原戦；秀忠軍輜重役となる、
戦後；大和代官・石見銀山検分役・佐渡金山接收役歴任/1601徳川四奉行補佐の甲斐奉行、
さらに石見奉行/美濃代官を兼任、1603家康が将軍；長安は従五下石見守、
家康6男松平忠輝の附家老/佐渡奉行/所務奉行/年寄に列す、
1604普請奉行；武蔵御嶽神社本社を普請/1606伊豆奉行、全国金銀山統轄・公通網整備；
里程標(1里=36町)整備、[天下の総代官]と称せられる、
晩年；金銀採掘量低下により家康の寵愛を失う；諸代官を罷免、1613(慶長18)中風で没、

没後;生前の不正蓄財問題;息子が蓄財の調査を拒否;1613嫡男藤十郎はじめ家族7人切腹、縁戚関係の諸大名も改易(大久保長安事件)、謎めいた生涯は後世作品に脚色される

- L3224 **長泰**(ながやす・岩橋いわはし、)1666-1764**長寿99** 紀伊名草郡湯橋の庄官/禁忌に触れ終生外出禁止、歌人;冷泉為久・冷泉為村門、
[長泰(;名)の初名/通称/号]初名;里通、通称;吉郎太夫、号;最了
- P3237 **長易**(ながやす・渡辺わたなべ、通称;玄古/号;簡亭)?-1762 和泉堺の国学者/神道家/歌人、歌;平間長雅(1636-1710)門/神道;吉川惟足(1616-94)門、淡路洲本に住
- N3291 **長泰**(ながやす・壺井つばい、)1687-1732**46** 江戸の幕臣/国学者、大坂破損奉行(;城・蔵の造営修理)、
[長泰(;名)の通称]鍋之助/源右衛門/五郎左衛門/彦五郎、法名:日相
- L3273 **長保**(ながやす・河内かわうち、)1704-1781**78** 伊予大洲の搾油業、歌;如雪(長秀)門、歌道;有栖川職仁親王よりひとしんのう門、
[長保(;名)の別号/通称/号]別号;吉武、通称;小一郎/園市郎/治兵衛、号;可睡、屋号;山形屋
- N3223 **永保**(ながやす・齋藤さいとう、旧姓;鈴木)1709-83**75** 陸奥仙台藩士齋藤永昌の養嗣子;仙台藩士、連歌稽古人、
[永保(;名)の通称]六郎太夫
- G3217 **長泰**(ながやす・三輪みわ、大坂屋飛兵衛)?-? 江後期越後与板の廻船問屋7代目、地誌;1802「越後国全図附録」著
- G3218 **長安**(ながやす・木村きむら、通称;斧三郎、宇佐美長孝男/医者玄長嗣)?-? 江後期1814法眼/奥医師、「家譜」著
- N3254 **修安**(ながやす・鈴木すずき、)? - 1812 筑後久留米藩士;御先手物頭、鈴木修重ながしげの孫、国学者、
[修安(;名)の通称]勇蔵/平兵衛
- L3271 **長賜**(ながやす・川村かわむら/本姓;源、)1794-1846**53** 出羽久保田の国学者;平田篤胤門、
[長賜(;名)の通称]多一郎
- G3219 **長保**(ながやす・小笠原おがさわら、長世ながつぐ男)?-? 1837**存** 江後期文政1818-30頃幕臣:弾正少弼/大和守/従五下、1821浦賀奉行/29書院番頭、小姓組番頭/32大番頭、1821「雄嶽詩稿」編/24「甲申旅こうしんたび日記」著、歌;1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、
[春雨の降るから小野の浅みどりもとのかれふぞまれになりゆく](大江戸倭歌;春161)、
[長保(;名)の通称/号]通称;単斎/弾正少弼/大和守、号;一指
- K3261 **永寧**(ながやす・宮村みやむら、)? - ? 江後期;歌人、1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、
[黒髪の乱れしけさの別れよりまた寝の床ぞ起きうかりける]、(大江戸倭歌;恋1448/後朝恋)
- 03255 **養安**(ながやす・広中ひろなか、通称;六太夫)1799-1864**66** 三河渥美郡田原の素封家、歌人;[類題三河歌集]入、「廣中養安詠草」著(歌・紀行)、冷泉家・岩上登波子・磯丸と交流
- G3220 **長安**(ながやす・浅石あさいし、通称;治左衛門)?-1874 江後期陸中三戸軍学者;甲州流、「奥の種々」著、
[長安(;名)の号]山陽舎/活水/竹水
- | | | | |
|----------------|---|---------------------------|-----------|
| 永愷(ながやす・橋) | → | 能因(のういん、法師/歌人) | 3 5 0 2 |
| 永保(ながやす・吉雄) | → | 権之助(ごんのすけ・吉雄、通事/翻訳) | E 1 9 7 9 |
| 永保(ながやす・寺田) | → | 保(たもつ・寺田、国学) | S 2 6 9 4 |
| 世恭(ながやす・江田) | → | 世恭(せいきょう・江田、国学/歌) | H 2 4 9 0 |
| 長保(ながやす・亀田) | → | 鶯谷(おうこく・亀田、儒者) | C 1 4 1 3 |
| 長泰(ながやす・池田/相良) | → | 長寛(ながひろ・相良さがら、藩主/学制) | F 3 2 5 5 |
| 長泰(ながやす・平沢) | → | 了延(りょうえん・古筆こひつ/7世、平沢、鑑定家) | G 4 9 5 6 |
| 長康(ながやす・山形) | → | 魯隠(ろいん・山形やまがた、俳人) | 5 2 1 8 |
| 長康(ながやす・小笠原) | → | 巖実(いんじつ;法諱・小笠原、真宗僧/歌) | Q 1 9 4 2 |
| 長救(ながやす・幸阿弥) | → | 幸阿弥(12世こうあみ、蒔絵師) | P 1 9 6 0 |

- 3220 **長屋王** (ながやのおおきみ、高市皇子男) 675/683-729 自害 55-47 母; 天智天皇皇女御名部みなべ皇女、
 廷臣; 704正四上/宮内卿/式部卿/大納言/721従二位右大臣、
 724聖武天皇即位に正二位左大臣; 台閣主班; 皇親政治復活、国風宣揚の氣運を推進、
 729讒言密告あり(長屋王の変); 窮問の末に自害; 藤原氏の陰謀?、
 詩歌人で詩歌界の支援者; 自邸佐保楼でしばしば詩歌宴を開催、万葉三期歌人、
 万葉歌5首(75/268/300/301/1517)/詩; 懷風藻3首、
 [宇治間山うじまやま朝風寒し旅にして衣貸すべき妹もあらなくに](万葉; 遺知75、
 文武天皇吉野行幸に随従、宇治間山; 高市郡明日香の芋峠越えの途中の山か)
 妻; 吉備内親王(草壁皇子女)、生年について; 675(懷風藻) or 683(公卿補任)、
 母 → 御名部皇女(みなべのひめみこ・天智天皇皇女/元明天皇の姉) F 4 1 4 0
 娘 → 円方女王(まどかたのおおきみ、万葉歌人) J 4 0 9 3
 中養父(中藪なかやぶ・大菅) → 圭(けい・大菅おすが、歌/詩人) 1 8 0 0
 中山右大臣(なかやまのうだいじん) → 教嗣(のりつぐ・九条/藤原、廷臣) F 3 5 0 6
 中山僧正(なかやまのそうじょう) → 範玄(はんげん、法相僧/歌人) H 3 6 5 2
 中山大納言(なかやまのだいなごん) → 兼宗(かねむね・中山、廷臣/歌人) 1 5 7 7
 中山中納言(なかやまのちゅうなごん) → 顕時(あきとき・藤原、廷臣) C 1 0 5 4
 中山内大臣(なかやまのないだいじん) → 忠親(ただちか・中山//藤原、廷臣/故実) 2 6 2 6
 中山宮(なかやまのみや) → 尊覚親王(そんかくしんのう、天台梶井宮門跡) F 2 5 2 6
 中山文斎(なかやまぶんさい) → 菊之丞(5世きくのじょう・瀬川、歌舞伎役者/戯作者) B 1 6 0 3
 中山冷泉(なかやまれいぜい) → 為親(ためちか・冷泉れいぜい、歌/連歌) S 2 6 4 9
- G3221 **仲行** (なかゆき・高階たかしな、仲範男) 1121-79 59 平安後期藏人/藤原忠実・頼長の家司/晩年出家、
 1151-61忠実説話言談「富家語ふけご」筆録
- G3222 **仲之** (なかゆき・源みなもと) ? - ? 江前期洛北の出雲路社人、
 1702「神代卷講習次第抄」著
- N3246 **仲之** (なかゆき・須田すだ、旧姓; 河野) 1704-86 83 信濃伊那郡の医者/須田家の養子; 飯田藩医、
 国学・歌人; 澄月門、美尾みお(三保/歌人)の父、
 [仲之(;名)の通称] 珉庵
- G3223 **中行** (なかゆき・荒巻あらまき/本姓; 源、通称; 利久右衛門) ?-? 紀伊和歌山藩士; 1830-44頃国学頭、
 国学・歌学; 本居大平門、「刀製辨」「鳴神之鼓」著、大平撰「八十浦の玉」下巻; 長歌/短歌入、
 [濃紫朱もみどりも宮人の衣の色はしなぞ見えける](八十浦; 899衣)
 中行(なかゆき・長久保) → 場谷(ようこく・長久保ながくぼ/長、儒者) 4 7 8 3
 中恭(なかゆき・中川) → 恭重(ゆきしげ・中川ながわ、医者/歌人) H 4 6 0 3
 仲之(なかゆき・下間) → 仲孝(なかつか・下間しもつ、真宗僧/能役者) D 3 2 9 9
- G3224 **永行** (ながゆき・高倉たから、法名; 常永、永季男/本姓; 藤原) ?-1416 廷臣; 1398参議/99出家、
 服飾故実家; 1396「法体装束抄」99「装束雑事抄」、「常永入道記」、
 歌; 宮廷歌壇; 1407内裏九十番参加、1408北山殿歌会/14頓証寺法楽百首参加、
 1415詠法華経和歌参加、勅撰; 2首; 新後拾遺671/新統古今1609、
 [いく声もあだにぞきかぬ郭公待つ里人のかぎりなければ](新後拾遺; 雑春671)
- G3225 **永幸** (ながゆき・村上むらかみ、沙金入道) ?-? 室町初期馬術家; 大坪道禅門、「幸秀論」著
- G3226 **長之** (ながゆき・榎村えのむら、通称; 助太夫) 1559-? 姫路宿村目代、築城時に二階町[改名]小年寄役、
 「惣社集日記」著
- G3227 **長行** (ながゆき・川合かわい、字; 子方/号; 隣山) ?-? 宝暦-天明1751-81頃駿河駿東郡の郷土史家、
 1786「駿州名勝志」著
- K3215 **長行** (ながゆき・七里しちり/本姓; 源) 1744-1820 77 伊勢津藩(安濃津藩)士、
 国学; 谷川士清・本居宣長門、本居大平「八十浦の玉」中巻に3首入、
 [御空ゆく月影きよみ酒のみてあそぶ今宵のためしきろかも](八十浦; 402月)、
 [長行(;名)の別名/通称/号]別名; 政要、通称; 勘十郎/佐紀、号; 松叟/松屋/剛斎
- P3225 **長淳** (ながゆき・四方田よもだ) ?- 1831 京の赤井組与力/青蓮院宮大夫、歌; 小沢廬庵門、
 歌人として活動、1831(天保2)没(法号; 退休院)、
 [ふな出する天の川原の秋萩を手折てかさせ玉のかつらに](短冊; 七夕七草の1)

[長淳(；名)の字/通称]字；長直、通称；勘十郎/重之丞

長淳(ちやうじゆん・四方田) → 長淳(ながゆき・四方田よもだ、官吏/歌人) P 3 2 2 5
長行(ながゆき・小笠原) → 長行(ながみち・小笠原、幕臣/詩歌) F 3 2 9 0
長之(ながゆき・黒田) → 光之(みつゆき・黒田、藩主/連歌) F 4 1 0 5
長之(ながゆき・村井) → 長明(ながあき・村井むらい、藩士/隨筆) D 3 2 1 6
長之(ながゆき・脇) → 蘭室(らんしつ・脇わき/脇屋、儒者) 4 8 1 0

- G3228 仲世(なかよ・和氣わけ、清麻呂男) 784-852 69歳 平安前期廷臣；大学寮/文章生/806大学大允、841豊前守/844播磨守、詩人；経国集入、広世ひろよ・真綱まつなの弟
- L3210 中世(なかよ・伊部いべ、通称；莊七) 1770-1848 59 土佐藩士/土佐郡住、国学・歌人
- N3299 長世(ながよ・常世田とこよだ、通称；三郎左衛門) 1760-1828 69 下総海上郡の国学者；平田篤胤門
- G3229 長世(ながよ・村井むらい、初名；長祥ながよし、長穹ながたか男) 1776-1827 52 加賀金沢藩士、長道の父、1796「村井長祥日記」「村井長世日記」、96「御在国日記」編、1805「江戸急発足大概」著、[長世(；名)の通称/号]通称；喜四郎/兵部/又兵衛、号；屋漏堂主人、法号；正寿寺
- G3230 永世(ながよ・富田とみた、高党、通称；京屋金蔵、清吉男) 1777-1855 79 武蔵秩父太田村の農民、上州藤岡の飛脚問屋京屋に奉公/問屋支配人、国学；関岡野洲良・黒川春村・門、歌；加藤千蔭・清水浜臣門/郷土史/狂歌に通ず、「上野名跡志」「上野歌枕」「上野国内廻」「秩父名勝志」「老曾の森」「茅蜩記」「筆の中立」著、[永世の号] 浅葎庵/金風亭
- 03261 永世(ながよ・二神ふたがみ、綱紀[伝蔵]男) 1790-1854 65 伊予宇和郡城辺町の商家(堀舎二神家2代)、国学者・歌人；本居大平門/御莊三歌人の1、歌；半井梧菴編[鄙のてぶり]入、[永世(；名)の別名/通称/号]別名；秀平/綱定、通称；佐太郎/重兵衛、号；堀舎ほりや
- L3233 長世(ながよ・占部うらべ/旧姓；和泉、通称；主税ちから) 1792-1815 早世 24 筑前遠賀郡別府村の神官
- L3226 長齡(ながよ・宇田川うだがわ、通称；七輔) 1799-1856 58 伊予川之江の金貸業、歌人
- G3231 長世(ながよ・岩崎いわさき/本姓；藤原、松井[松居]) 1807-79 73 甲斐の国学者、1839平田篤胤・鍊胤門/本居内遠門、歌/能楽に通ず、篤胤著[古史伝]出版に尽力妻と共に各地を遊歴/1852信州飯田に移住；歌/国学を指導、松井(松居)直太郎と称す、信濃に平田国学を普及；飯田藩から嫌疑、上京；1864禁門変で自宅焼失/大坂で国学指導、維新後神職；大坂難波稻荷神社祠官、京の豊国神社官司、1865「神字彙」「拝造化三神詞」著
[長世(；名)の通称/号]通称；太郎/直太郎(・松居)/右衛門、号；笛の舎/あそびのや
- G3232 永世(ながよ・奥村おくむら/貞幹さだもと、助之丞男) 1812-60 49 加賀大聖寺藩士/1849家督/御弓土蔵奉行、領内故事旧蹟調査；1845「藩国見聞録」著
- 03265 長世(ながよ・細川ほそかわ、庄次郎長英男) 1819-1881 63 陸奥会津藩士、歌人；沢田名垂・野矢常方門、[鶴城三十三番扇合]の講師、小山代官見習/家老付御用所詰歴任、1863(文久3)北方防備の任で蝦夷へ渡る；維新後斗南藩へ移る；脱藩し京都住、1872(明治5)開拓使；資生館舎監兼務、のち東京で曙新聞記者/会津若松で歌塾を開く、「奇題百詠」著；「白虎隊の長歌」柞、
[長世(；名)の通称/号]通称；万吾/左兵衛/忠八、号；春流しゅんりゅう
- 03249 長世(ながよ・久松ひさまつ/本姓；菅原) 1829-70 42 伊予松山藩士；代々執政、弓術・砲術に精通、藩命で藩士の教練に当る；集散離合操縦発射の法を指導；「火功全軍録12巻」著、幼時より和漢学を修学/歌人；半井梧菴(忠見)門、維新後；1868徴士/69今治藩大参事；藩政改革に尽力；過労で発病；没
[長世(；名)の通称/号]通称；彦兵衛/監物、号；桜廻園/霞園
- 永世(ながよ・桐山) → 正哲(しょうてつ・桐山きりやま、藩医/本草/蘭学) U 2 2 7 9
長世(ながよ・小笠原) → 長世(ながつぐ・小笠原、幕臣/詩人) E 3 2 4 1
長与(ながよ・金森) → 得水(とくすい・金森かなもり、国学者/茶人) L 3 1 0 8
- P3262 仲能(なかよし・荒木田あらかぎだ、?)-? 平安鎌倉期；伊勢内宮神職/歌人、1233刊[御裳濯集]2首入、
[ながめじと思ひすててもいかがせむうつろふ花の夕暮の空](御裳濯集；春140)
- G3233 仲能(なかよし・藤原ふじわら/田村/亀谷、藤原仲教男) ?-? 鎌倉前期幕府評定衆；学問所番(吾妻鏡入)、

左馬助/木工権頭/刑部大輔/従四下/1213芸能に優れ学問所番/38能登守兼任、出家、
続古今(1834;出家の翌日に為継が贈歌しその返歌)、

[袖のうへはありしにもあらぬ色ながら同じ身にしむ秋風ぞ吹く](続古今;1834/返歌)、
(1833為継の贈歌;ありしにもあらぬ袂の秋の風いかなる色に吹きかはらん)

中義(ながよし・伴) → 伴中義(とものながよし、滑稽本作者) Q 3 1 1 2

中良(ながよし・桂川/森島) → 中良(ちゅうりょう・森島/桂川、蘭学/戯作) 2 8 1 9

G3234 永能(ながよし・星野ほしの、保能男)?-? 南北期尾張熱田大宮司の一族/北朝刑部少輔/従四下、
1345尊氏天童寺参詣に随従、歌;1334八月十五夜内裏歌合参加、新続古今1083

[せきとめて月みるほどの涙さへあまれば袖にかげもたまらず](新続古今1083;寄月恋)

G3235 長慶(ながよし/ちようけい・三好みよし、初名;範長、芥川城主元長男) 1522-64 43 河内の戦国武将;筑後守、
1532摂津芥川城主;父戦死で家督、1534細川晴元家臣/幕府に出仕;幕府の実権を握る;
叔父三好政長を敗死させ將軍足利義晴・晴元を追放;畿内を制圧支配、一時は四国を支配、
家臣松永久秀に謀られ息子義興・弟安宅冬泰を殺害;その無実を知り失意;
河内飯盛城中で病没、政略家だけでなく歌、連歌を嗜む、連歌;宗養門、連歌界の支援者、
1561「飯盛千句」催/62「飯盛城道明寺法楽百韻」、師宗養らと百韻多数、「三好長慶連歌」、
[長慶(;名/号)の幼名/通称]幼名;千熊丸、通称;孫次郎、法号;聚光院

G3236 長吉(ながよし・池田いげだ、信輝[恒興]男) 1570-1614 45 歳 母;荒尾善次女、美濃犬山の武将、
秀吉の家臣;1581秀吉養子;羽柴姓、小田原攻参戦、近江佐倉3万石/1585従五下備中守、
朝鮮渡海船奉行/池田姓;1600関ヶ原で兄輝政と家康軍に参加;戦功/初代因幡鳥取藩主、
「秀吉三十六首短冊」、幼名;藤三郎、法号;隣松院

G3237 永慶(ながよし・高倉たから、法名;常恵、永孝男/本姓;藤原) 1590or91-1664 74or75 母;三条西実枝女、
1623従三位/中納言/39正二位/42権大納言、1645辞任/63出家、
幕府より廩米2百俵を賜り江戸滞在、歌;1638後鳥羽院四百年忌御会参加、
故実家:「御服事」、「高倉大納言藤永慶卿記」著、和漢聯句あり
[十とかへりの花まつやどの松が枝にまづ咲きかゝる春の藤波](後鳥羽院四百忌;48)、
兄弟;雅陳王・織田左京大夫室、妻;佐竹義重女、
子;永敦・義隣・佐竹義寛・一柳直家室・中院通純室

G3238 長好(ながよし・織田おだ、通称;三五郎、頼長男/本姓;平) 1617-51 35 茶:父門/祖父有楽の茶器所蔵、
関東有楽流茶道の祖、「織田三五郎遺品分配目録」著
[長好の号] 可休/可久/空八/極巖

3222 長孝(長好ながよし/ちようこう・望月もちづき/広沢ひろさわ) 1619-81 63 歳 信濃出身/京室町で絹布商/
歌学:松永貞徳門;古今伝授、堂上歌;飛鳥井雅章門、1658剃髪;洛西広沢池畔に隠棲;
広沢に改姓、歌集「広沢輯藻」「長好法師家集(塵泥)」、歌学「詠歌大本秘抄」、
「桂雲集類題」「歌道或問」「古今集仰恋」「小狭野屋長孝和歌」著、1681(天和元)没、
没後1722松堅[倭譚五十人一首]入、
[此の秋もまた世に通ふ草の戸をさせてふ虫の音ねさへ悲しき]、
(広沢輯藻;秋歌454;広沢の庵にて虫の声を聞きて/雅章賞賛の歌)
[ちりはてし梢は晴れて霜の上うへの一葉ふたはにくもる月影]、
(倭譚五十人一首;9冬月冴/天地輝く中で曇るのは落葉の一枚二枚;深夜の一瞬)、
[長孝(;名)の別名/号]別名;重好/重公/兼友、通称;作右衛門、称;信濃望月しなのもちづき、
号;桂雲/水蛙、(隠棲後;)広沢隠士/小狭野屋ささのや/閑入軒、法号;道空長孝

G3239 長能(ながよし・吉川よしかわ、九郎兵衛正信男) 1643-1709 67 歳 越中富山藩士;
1671藩祖前田利次の母天徳院50回忌奉行、1681越後高田城請取時の貸具足奉行、
1697-1708作事奉行;江戸に赴く、藩状を日記体で記録:「随筆」著、
[長能(;名)の通称]九郎兵衛/十郎右衛門

G3240 永福(ながよし・高倉たから、初名;季任、永敦3男/本姓;藤原) 1657-1725 69 歳 母持明院基定女、
廷臣:兄永重を継嗣;1688従三位/1715正二位/1717(享保2)権大納言、故実家、
「装束事」「高倉家故実返答」、1699「高倉永福卿書簡」著

G3241 長義(ながよし・桑原くわばら/本姓;菅原、大納言五条為庸4男) 1661-1737 77 廷臣;桑原家の祖、
1701従三位/13式部権大輔、14参議/25権中納言;辞任/28式部大輔/34正二位、

- 「聞名寺系譜」編、「北野社献策之次第」「安楽寺天満神御縁起」著
- G3242 **長好**(ながよし・大田おおた/字;東作、宜春堂)?-1723 肥前長崎の生/尾張名古屋に住;儒者/詩人、神道/暦学/医学に通ず、「宜春堂遺稿」
- P3230 **永好**(ながよし・吉田よしだ、嘉保よしやす2男)1700-8283 備中倉敷の油商;油屋の生、国学者、保行(保之)の弟、兄が東油屋を嗣、永好が本家油屋を継嗣、養子長恒が家督嗣、[永好(;)名)の通称/屋号]通称;与一右衛門、屋号;油屋
- G3243 **長宜**(ながよし・内池うちいけ、継塵庵/継松庵)1719-9577 陸奥仙台の富商、歌:有賀長因門、書/茶を嗜む、「継塵集」「志賀紀行」「柞葉集讃岐紀行」著
- G3244 **長快**(ながよし・鶴殿うどの/通称;甚左衛門/左京)?-1819 旗本/幕臣:1808小納戸/11西丸用人、1812「肝要工夫録」13「一刀流兵法目録」、「児童孝行短歌」「神徳集」
- G3245 **長好**(ながよし・片山かたやま/通称;彦助)?-? 1803存 越中富山藩士/関流和算家:中田高寛門、「交式斜乗諺解」編
- K3218 **修營**(ながよし・波多野はたの、通称;養作)1762-183170 筑前遠賀郡若松村の里正、国学者
- G3246 **長良**(ながよし・菊池きくち)1786- 187287歳 陸中東磐井郡薄衣の和算家:千葉胤秀門;免許皆伝、江戸に出て長谷川寛・山路諧孝門、江戸に開塾/晩年帰郷;1859邑主泉田氏に暦算書3百余巻を献上;苗字帯刀を許可、1794「十字環之解」著、「奇術之解」「開放盈朧術」「極数術解」「奇術之解」、1846「算法徒然草」外著多数、[長良(;)名)の別名/字/通称/号]別名;成裕、字;錦衣、通称;宇多之丞/長太郎/善右衛門、号;東雄/菊山老人/錦衣先生、法号;盤弘院、茂左衛門長寿の父
- P3202 **良由**(ながよし・武藤むとう、通称;求馬)1792-? 武蔵多摩郡野口村の天台宗玉泉山常宝寺の修験、維新後;神官、国学者;子弟教育、1873学制発布で化成小学校教師に招聘;辞退し自適生活
- L3237 **長好**(ながよし・小笠原おがさわら、長熙男)1800-6263 信濃伊豆木小笠原家の家老;主家の長計・長厚・長裕に出仕、歌人;桜井春樹・植松茂岳・市岡猛彦門、小笠原三千子・長厚・雄風・原田忠徹と交流、[長好(;)名)の通称]通称;五十五郎/主計かづえ、法号;泰量院
- G3247 **永好**(ながよし・間宮まみや、間宮好礼男)1805-7268 江戸神田の生/常陸水戸藩士/倭書局で編集活動、国学:小山田与清門、維新後;1869伊能穎則の推挙で神祇権大史/70大史;従七位、のち文部省勤務、「八洲文藻」師与清と共編、「万葉地名抄」「万葉長歌部類」「万葉類語」著、「松蔭集」「松屋随筆」「神野日記」「八雲のしをり」、1860「犬鷄随筆」61「箱根七湯志」外著多、歌;1856文雄「摘英集」入/58蜂屋光世「大江戸倭歌集」入(妻と入集)、1860鋤柄助之「現存百人一首」入、[松浦瀉波路はるかに霞むなり唐もこしまでも春やゆくらむ](大江戸倭歌;春67)、[永好(;)名)の字/通称/号]字;叔芳、通称;一郎/又左衛門、号;松屋しょうおく/槐蔭亭/喚犬喚鷄之舎、妻の八十子も歌人
妻 → 八十子(やそこ・間宮、久米博高女みを子、歌人)D 4 5 6 9
- G3248 **長好**(長善/長義ながよし・菅原すがわら/修姓;菅かん、長愛の長男)1812-1905長寿94 十官上司の家、代々伊予大三島の大山祇神社神職/母;松浦氏長女の鶴子、1822(11歳)郷里を出て国学修学;藤井高尚門、伊勢の本居塾で修学、皇典研究者、さらに江戸の平田鉄胤・塙忠宝(保己一男)門/常陸色川東海門、和漢学/仏典/蘭書に通ず、憂国の志で東奔西走、神祇官再興運動着手;種々の建白書奉呈、維新後も要職を歴任、「田令図解抄」編刊(色川東海の遺志継嗣)、「偶感録」「旅の春雨」「仮名くみ題」「鏡の浦」著、伝記は「長好伝」(同翁頌徳会刊)入、[長好(;)名)の幼名/通称/号]幼名;常吉、通称;三郎/候太夫/右京、号;冠石/冠山
- 03299 **長善**(ながよし・三好みよし)1821-188161 河内石川郡の医者、[長善(;)名)の通称/号]通称;泰治、号;松居/松軒
- G3249 **良義**(長義ながよし・吉田よしだ/卜部うらべ、良熙男)1837-9064 江末期神職;1867神祇大副/68参与、吉田・日吉各社宮司、神道;鍬胤門/国学:玄道門、「卜部良義日記」「吉田祭旧儀復興願」著
- G3250 **長憲**(ながよし・大橋おおはし/本姓;平、長広男)1835?-189662 江戸末期京の歌人、「香木考」「正倉院宝庫」著、[長憲(;)名)の字/通称/法号]字;子考、通称九右衛門/河内大目、法号;釈法潤信士

- G3251 **永賢**(ながよし/ながかた・松井まつい、法印永雄ながお男) 1839-1900 62歳 京の官人:妙法院宮諸大夫、
:父を継嗣/従四位/1848出羽守、国学・歌;中村良顕門、維新後;大阪控訴裁判所に勤務、
1867「河本延之大家集」編、遺詠集「ひさしぐさ」(;女婿高安月郊編)
[永賢(;名)の通称]通称;耕象/耕蔵/出羽守、
- M3212 **長義**(ながよし・小林こばやし、) 1843-1906 64 信濃伊那郡の国学者;平田鉄胤門、
[長義(;名)の通称]伴七郎/政太郎
- 永喜(永善ながよし・林) → 東舟(とうしゅう・林、幕臣/儒者/詩) E 3 1 8 9
永美(ながよし・井上五臓) → 夏鼎(ひろさだ・井上いづえ、商家/歌人) L 3 7 0 8
長能(ながよし・藤原) → 長能(ながとう・藤原、歌人) 3 2 2 1
長祥(ながよし・村井) → 長世(ながよ・村井、藩士/文筆家) G 3 2 2 9
長吉(ながよし・池田) → 非吹(ひすい・池田、藩士/俳人) C 3 7 3 7
長好(ながよし・黒田) → 継高(つぐたか・黒田くろだ、藩主/芸能) F 2 9 6 6
長祚(ながよし・浅野) → 梅堂(ばいどう・浅野、幕臣/文筆) B 3 6 9 2
長義(ながよし・波木井はきい/南部) → 日教(にっきょう;法諱、日蓮僧) D 3 3 8 0
長義(ながよし・川喜田) → 重盈(しげみつ・川喜田かわきた、商家/国学) O 2 1 1 0
長義(ながよし・清水) → 佩香園蘭丸(はいこうえんらんまる、狂歌) B 3 6 2 1
長温(ながよし・鈴木) → 長温(ひさよし・鈴木すずき、商家/俳・歌人) J 3 7 9 7
長淑(ながよし・吉田) → 長淑(ちようしゆく・吉田/馬場、成徳/蘭医) F 2 8 9 6
中吉子好(なかよしこよし) → 子好(こよし・中吉なかよし、狂歌師) E 1 9 0 0
- G3252 **仲頼**(ながより・源みなもと、卜部兼仲男/源資遠の養子)?-? 平安後期廷臣;檢非違使/左衛門尉、
後白河院北面/清盛の讒訴で讃岐へ配流;のち召還/1185鎌倉幕府御家人、
歌人;1178廿二番歌合参/91若宮社歌合参、月詣集・夫木抄入集、千載集(416/935)、
[峰越えにならの葉つたひおとづれてやがて軒端にしぐれ来きにけり](千載;冬416)
- G3253 **永頼**(ながより・藤原ふじわら、尹文男、母;藤原定方女)?-1010 平安前期廷臣;木工頭/皇太后宮権大夫、
歌:966内裏前裁合/977左大臣頼忠前裁合参加、
[うゑてける花の匂ひのかひもあるかさやけき月にしづえ見ゆれば](内裏前裁;右26)
- G3254 **長頼**(ながより・村井むらい、通称;又兵衛、長忠男) 1543-1605 63 加賀金沢藩士;藩主前田利家の側近、
戦功あり、「村井豊後守働覚書」著
- G3255 **長頼**(ながより・鈴木すずき/修姓;鈴、長常男/本姓;源)?-? 江前期幕臣/1686家督/97大工頭、
日光東照宮を修繕、1705桂昌院靈牌所造営大工頭、
「日光宮造替留記」、1684「鈴木修理日記」、1685「桑華詩編」著、
[長頼(;名)の通称/号]通称長兵衛/修理、号;秋峰/秋峰源子
- G3256 **長頼**(ながより、姓不詳) ? - ? 江前期漢詩人;1682道達どうたつ「眠寤集」両吟緩和千句入
- P3246 **長従**(ながより・塩見しおみ、) ? - ? 江前期;上方の武士/歌人、
1670下河辺長流[林葉累塵集]14首入、
[わか草はまだみえそめぬ雪のうちにまづねよげなる野辺の鶯](林葉累塵;春32)、
[うきことは今ぞきこえぬ世をいとふよしのの滝の音にまぎれて](同集;1191)
- G3257 **永頼**(ながより・小堀こぼり、別名;勝順かつより、伊藤重澄2男) 1684-1765 82歳 小堀勝経の養嗣、
1723家督継嗣;加賀金沢藩士;2千石/馬廻組/町奉行/定番頭、1758致仕、
詩人、「四序閣詩歌」(:息定明さだあき編)、
[永頼(;名)の通称/号]通称;左内/左兵衛/牛右衛門、号;牛山/龜山/西圃/幽玄亭/四序閣
- G3258 **長順**(ながより・今村いまむら、字;子正/通称;次郎兵衛、山県大弐男) 1763-1832 70歳 上州那波の生、
医者;田中義信門、母多加子の再婚先の今村姓を名乗、医開業/1796伊勢崎藩侍医、
俳人;竹内勇水門、「黴瘡奇談」「杏林雑話」、「俳諧不問談」著、「俳諧一字題句合」評、
追善「俳風満都の塵」、
[長順(;名)の号] 岨雲/笠翁/清江舎/老松館
- N3253 **永頼**(ながより・鈴木すずき/本姓;穂積、旧姓;竹本) 1781-1850 70 伊予今治藩士;執政、国学者、
「鈴木永頼見聞録」著、
[永頼(;名)の通称] 織之助/矢治馬
- 長順(ながより→ながとし・葉室) → 長順(ながとし・葉室、廷臣/文筆) E 3 2 9 0

長順(ながより・三好) → 長頼(ちようらい・三好みよし、遁世/歌人) O 2 8 0 6
長順(ながより・西村/飯沼) → 愆斎(よくさい・飯沼いぬま/西村、医者/本草) B 4 7 7 2
長従(ながより・浅野) → 快温(はやあつ・森、藩主/詩文) F 3 6 7 1

G3259 長良(ながら・藤原ふじわら、枇杷殿、冬嗣男) 802-856 55 母;藤原真作女的美都子、陽成天皇外祖父、
廷臣;844参議/854権中納言/没後;贈太政大臣、830「本辞秘抄」著、
兄弟;良房/良相/順子(文徳天皇母)、息子;国経/基経/高経、息女;高子(陽成天皇母)

G3260 長柄(ながら・照井てい、郷土田村足根男) 1819-1889 71 羽前田川郡長崎村の医者;江戸で蘭方医学、
帰郷し庄内最初の蘭医/のち日本古医方に転ず;神方流、戊辰戦に軍医として従軍、
国学;大滝美津憲・益谷末寿門/鈴木重胤門;先祖の姓照井に改姓、
重胤の「日本書紀伝」を教部省に提出し師の冤罪を雪ぐ、三山神社禰宜・鶴岡日枝社祠官、
教導職・少教正を歴任/その間子弟教育、「出羽神社考」「五百津鉏」「古四王神社考」著、
[長柄(;名)の別名/通称/号]別名;随/乍/璞乎はくこ、通称;清彦/宗甫、号;磯前家

永良(ながら・呉綿堂) → 呉綿堂永良(ごめんどうながら、狂歌) N 1 9 7 6

長良(長柄ながら・於保曾礼/大曾礼) → 於保曾礼長良(おおそれながら、狂歌) B 1 4 7 2

存(ながらう・陶山) → 訥庵(とつあん・陶山すやま、藩士/農政) O 3 1 4 0

流れ公方(ながれきんかた) → 義植(よしたね・足利/源、室町幕府将軍) E 4 7 3 4

渚亭(なぎさてい) → 躬国(みくに・永沢ながさわ、歌人) 4 1 8 0

波激舎(なぎさのや) → 守部(もりべ・橘、国学者/歌人) 4 4 2 8

渚廼舎(なぎさのや) → 光則(みつり・保田、藩士/国学者) 4 1 2 8

今帰仁王子(なきじんおうじ) → 朝敷(ちようふ・今帰仁なきじん、琉球王子) N 2 8 0 9

竹柏園(なぎぞの) → 弘綱(ひろつな・佐々木、国学/歌人) G 3 7 4 2

鳴虫(なきむし・錦亭) → 錦亭鳴虫(きんていなきむし、絵師) I 1 6 1 7

椰屋(なぎや・渡辺) → 眞菅(ますが・渡辺わたなべ、神職/歌人) T 4 0 8 1

泣和津地声太夫(なきわづじごえだゆう) → 真幸(まさち・斎藤、里正/俗謡家) D 4 0 6 9

奈牙遠(なげお・後藤) → 利哉(としや・後藤、国学/歌人) N 3 1 9 6

名越岡隠士(なごしのおかいし) → 春夫(はるお・佐々木、商家/国学;万葉) G 3 6 0 5

名越廼舎(なごしのや) → 直助(なおすけ・権田ごんだ、医/国学) B 3 2 3 7

G3261 なごや蝶七(なごやちようしち)? - ? 江後期京の歌舞伎作者、「竜一夫婦鯨」著

名古屋道三(なごやのどうさん) → 道円(どうえん・賀島かしま、医者/藩医/歌) B 3 1 5 6

名左衛門(なざえもん・中島) → 喜勝(よしかつ・中島なかじま/中村、砲術家) C 4 7 9 0

菜作(なさく・栗原) → 保定(やすさだ・栗原くりはら/源/長坂、国学/歌) F 4 5 8 7

G3262 名実(なざね・矢田部やたべ) ? - 900 平安前期廷臣;884文章生/890対策及第、
897少内記/899(昌泰2)大内記/六位、
878日本紀私記「元慶私記」の著者?(講義博士は善淵愛成よしなり)、
歌:古今444、

[うちつけに濃しとや花の色を見む置く白露の染むるばかりを](現象否定の仏教思想)

(古今集:物名444/けにこし、けにこし[牽牛子]は現在の朝顔)

梨壺の五人(なしつぼのごにん) ;

村上天皇勅命により梨壺(昭陽舎)に設けられ撰和歌所(別当藤原伊尹)の寄人、
大中臣能宣・清原元輔・源順・紀時文・坂上望城の5人、万葉集読解(古点)・後撰集撰集を行う

→ 能宣(よしのぶ・大中臣) 4 7 2 3

→ 元輔(もとすけ・清原) 4 4 1 2

→ 順(したごう・源) 2 1 2 6

→ 時文(ときぶみ・紀) 3 1 3 5

→ 望城(もちき・坂上) B 4 4 3 6

梨の舎(なしのや) → 季文(すえふみ・中田/加藤、庄屋/国学) I 2 3 9 0

梨本祖師(なしもとのそし) → 尊意(そんい;法諱、天台座主) B 2 5 4 6 1

梨本大僧正(なしもとのだいそうじょう) → 明快(みょうかい;法諱、叡山天台僧/歌) G 4 1 2 1

梨本宮(なしもとのみや) → 守脩親王(もりおさしんのう、昌仁法親王/天台座主) F 4 4 2 2

名輔(なすけ・平山) → 静(しずか・平山ひらやま、歌人) T 2 1 0 1

- 齋堂(なずなどう・せいどう・平塚)→ 飄齋(ひょうさい・平塚/平、幕臣/俳人) F 3 7 2 4
- G3263 譽純(なすみ/しげずみ・有馬ありま、字;君徳、通称仮宿、允純男)1769-1836⁶⁸ 越前丸岡藩主、
左兵衛佐、1812西丸若年寄、「祝融要務」「打毬法令書」、1826「観花図巻」著、
1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、
[軒近き竹にさへづる鶯はうれしき春のふしとこそ聞け](大江戸倭歌;春78)、
[譽純の号] 墨磨/円陵/霞城主人/竹斎/圮橋しきょう老人/宇水漁翁、法号;無曆庵
妻は歌人 → たつ子(たつこ・有馬ありま、稲葉正弘女) G 2 6 2 0
- 謎解坊春雪(なぞときぼしゅんせつ)→ 春雪(しゅんせつ・謎解坊、謎解) K 2 1 1 2
- G3264 魚妙(なたい・鎌田かまた、通称三郎太夫、九峯)1727?-1796^{70?} 武蔵川越藩士/京留守居役、
刀剣鑑定、1777「祈刀辨疑」、96「本朝鍛冶考」、「鍛冶銘尽」著
- 3223 名垂(なたり・なたる・沢田さわだ、名;成裕しげやす/蕃しげる、英さかる男)1775-1845^{71歳} 会津藩士、
歌;安部井武門/京の芝山持豊門/国学;大平門、藩校日新館の和学師範/故実家、
藩命で「日新館童子訓」「新編会津風土記」の編纂に参加、「五家園家集」(;萩野重英編)、
「和学修行意見書」「家屋雑考」「阿奈遠可志あなをかし」「油揚伝」「桃太郎伝」「太郎丸随筆」著、
古典の擬作「無名家集」著、
[名垂(通称)の別通称/号] 別通称;友治/新右衛門、
号;五家園/五架園/花圃/木隠の翁/和氣在躬/自列亭/髦翁/放翁/酪酔
父 → 英(えい/さかる・沢田、藩士/儒者) C 1 3 4 4
なつ(・奥林) → なつ女(なつじよ・奥林おくばやし、歌人) K 3 2 4 5
- K3251 夏香(なつか・本多ほんだ) ? - ? 江後期;歌人、
1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、本多忠憲ただのり(号;其香きこう)の別号か?、
[おりたちて洗ふとき衣ぎぬさらさらに夏とは知らじ槇の島びと]、
(大江戸倭歌;夏666/夏島)
[人しれぬ袖の涙の水はしのぶの山のしずくなりけり](同;恋1557))
- G3265 夏蔭(なつかげ・川喜田/川北/河北かわきた、政式まさり、政和2男)1764-1816^{53歳} 伊勢津の商家;
川喜田久太夫家12代、国学者;1787本居宣長門/1801本居春庭門、画;幾坂烟厓門、
歌人;「夏蔭和歌集」著、養嗣子;芝原遠里とおさと、
[夏蔭(名)の幼名/通称]幼名;善太郎、通称;久太夫/四郎兵衛
- G3266 夏蔭(なつかげ・前田まえだ、幕臣孫七郎男/本姓;菅原)1793-1864^{72歳} 江戸の国学者・清水浜臣門、
考証学・歌・歌学に精通、天保1830-44頃下谷泉橋通に開塾、水戸斉昭に重用;
水戸藩の江戸駒込中屋敷で国学講義/1854幕府勘定役として仕官;徳川慶喜の師、
自邸で紅葉合催/塙次郎と廢帝の先例を調べたと誤解される、幕命で蝦夷地取調御用;
幕府の蝦夷地関係史料編纂作業の主任;病のため「蝦夷志料」完成前に病死、
妻;義子よに(歌人)、夏繁の父、
「鶯園文叢」「鶯園紅葉合」「鶯園雑考」「鯉鱗歌集」「万葉集垂露」「蝦夷新定地名考」、
「万葉集筆説」「枕の塵」「古今集辨誤」「万葉集筆説」、1812「大和物語錦繡抄」、
1832「宇奈為婆那理辨」36「鶯園百転」43「都の大路」著/63「汲古集」編、外編著多数、
蜂屋光世と交流;1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入(妻よし子・息子夏繁と共に入集)、
1860鋤柄助之「現存百人一首」入、
[棚引くにまかせてやみん小松ばらけふは霞の中のねのびぞ]、
(大江戸倭歌;51中の子日)、
[蓮の葉の光涼しき露のまにこぼれもはてずあくる月かな](現存百人一首;4)、
[夏蔭(名)の別名/通称/号]初名;垂穂、通称;健助、号;鶯園、法号;古槐院
- P3214 夏樹(なつき・猪熊いのくま、慶歡2男)1835-1912⁷⁸ 讃岐大内郡の白鳥神社祠官家の生、
儒学・歌;友安三冬みふゆ門/国学・歌;友部方秀まさひで・中村尚輔ひさすけ門、
維新後;京住;京都白峰宮(のちの白峰神宮)の造営;1868(慶応4)創建;宮司となる、
明治5下命で伊勢神宮神楽改正取調べ/1885京都府師範学校教員、
「訂正増註源氏物語湖月抄」「大和路の日記」「都の青葉」「瑞枝舎百首」著、
[夏樹(;名)の初名/通称/号]初名;千枝、通称;舎人/浅之進、号;瑞枝舎みずえのや
- P3208 夏樹(なつき・守山もりやま、法名;秀礼)1839-1910⁷² 筑後久留米の神職;櫛原天満宮祠官、

- 国学;矢野一貞がざだ門/神道・歌;船曳磐主いぬし(鉄門かど)門
- L3238 **夏子**(なつこ・小川おがわ、旧姓;中安)1843-1925⁸³ 江戸の生/下総佐原の小川琴城の妻、
歌人;村木繁枝・沢田重頼門
- G3267 **夏繁**(なつしげ・前田まへだ、夏蔭男/本姓;菅原)1841-1916^{76歳} 幕臣/国学者;父門、母;義子よこ、
父の未完「蝦夷志料」を完成、1863「総国郡郷考料」、「総国郡郷名字類聚」著
歌;1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入(父母と共に入)、
[ゆく方もかく咲きぬやと桜花あひあふ人に問ひ問はれつつ](大江戸倭歌;287行路花)、
[朝夕にとも迎へるいし硯かたしや後にのこす言葉は](同;雑1820)、
[夏繁(;名)の幼名/通称/号]幼名;犬吉、通称;健次郎、
号;鶯園おうえん/香雪/錦衣山人/小羅浮舎主人/大庚山人
夏繁妻(なつしげのつま・前田)→ よし子(よし・前田まへだ健助の妻/歌人)K 4 7 6 3
- K3245 **なつ女**(なつじよ・奥林おくばやし)?- ? 江後期;歌人、
1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、
「おぼろ夜の月はなかなか花鳥のいろねの外の哀をぞそふ」(大江戸倭歌;春176)
- G3268 **夏嗣**(夏継なつぐ・浄野きよ、姓かばね;宿禰)?-? 827存 平安初期廷臣/官人;814主殿助、815播磨介、
のち丹後守/従五下、叡山延暦寺の鐘銘を著、詩:経国集入
- G3269 **夏長**(なつなが・東坊城ひがしぼりょう、聡長男/本姓;菅原)1836-59^{早世24歳} 母;外山光実女の照、
廷臣;少納言/侍従、従四上、1852「御忌三千七百韻」、56「東坊城夏長日記」著
- G3270 **夏野**(なつの・清原真人きよはらのまひと、初名;繁野しげの、小倉王男)782-837^{56歳} 母;小野縄手女、804賜姓、
823参議/832右大臣/従二位、日本後記撰修/内裏式改修、詩:経国入、「律義解」「令義解」編
夏野草浪(なつのおくさなみ) → 草浪(くさなみ・聴風軒、金井寛、狂歌) C 1 7 3 9
夏の屋(なつのおや) → 草浪(くさなみ・聴風軒、金井寛、狂歌) C 1 7 3 9
- K3274 **夏彦**(なつひこ・青木あおき/京藤)1833-65³³ 越前南条郡の生/越前府中の酒造業;平吹屋、
歌;橘曙覧門、
[夏彦(;名)の通称/屋号]通称;巳之助/庄三郎、屋号;平吹屋
- G3271 **夏久**(なつひさ・賀茂かも、季久男)?- ? 1451存 室町期;上賀茂社神主/正四下、1437「夏久記」著、
歌:新続古1694、
[秋来ぬと神も知るらむかた岡の森の下風音かはりぬる](新続古今集;十七雑歌1694)
- L3268 **夏丸**(夏磨なつまる・川合田かわいだ、)1838-1917⁸⁰ 飛騨高山の国学・歌人;山崎弘泰門、
[夏丸(;名)の別名/通称/号]別名;水穂、通称;官左右かんそう、号;蛙園
- G3272 **なつみ**(なつみ・寺町てらまち/越智おち、三知かづとも[百庵]の妻)?-1775 俳人、
参考 → 百庵(ひやくあん・寺町/越智、幕臣/茶/歌)E 3 7 4 3
- G3273 **夏海**(なつみ;号・石井いし、通称;静蔵、別号;石斎/安瀾堂、本姓;平)1783-1848⁶⁶ 佐渡相川絵師;
紀南嶺/谷文晁門、測量/西洋油絵;司馬江漢門、文政1818-30頃地方付絵図師;
1837文海と実測し「佐渡実測地図」完成(;文海と共著)、
佐渡の古伝説を合巻に執筆;広告文のみで出版されなかった、
狂歌:北川真顔門;判者を許可、
「之世歌せうた」、「むかしの反古さがし」/1817「小万畠雙生種蒔」著
- L3264 **夏海**(なつみ・豊島とよしま、通称;徳三郎)1822-95⁷⁴ 美濃岐阜中竹屋町の手習の師匠、
国学/歌人;氷室長翁・香川景恒門、伊奈波神社の出雲館花の寮での桂園派歌会に参加、
塩谷則満・片桐春好と交流、
[皆人はこゝろこゝろに出しかど同じさくらのもとに来にかり](花の寮歌会)
- E3295 **夏水**(なつみ・森もり、豊後岡藩士渡辺彦九郎2男)1844-98⁵⁵ 豊後直入郡の絵師森嶮谷かいくの養子、
養父嶮谷は春木南溟門の四条派絵師(名;昌親/貞記)、養父門絵師;豊後岡藩絵師となる、
由学館司業、国学者、1862(文久2)脱藩;京坂の尊攘運動に参加、
維新後帰郷;絵画を指導/西寒多さむた神社の神職(主典)、権中講義、
[夏水(;名)の初名/号]初名;玉彦、号;南山耕雲外史/劔華
夏海(なつみ・城村) → 五百樹(いおき・城村しるむら/じょうむら、神職/国学)K 1 1 3 3
奈つみ(なつみ・葛飾) → 葛飾奈つみ(かつしかのなつみ・狂歌) R 1 5 9 5
- K3281 **夏道**(なつみち・浅野あさの、通称;勘兵衛/号;茅村ぼうそん)1830-68³⁹ 京の歌人/大津橋本町住、

八木立礼・服部春樹・長尾名鳥・閑雲野鶴と交流

棗の木(なつめのみ・島川) → 鎌瀧(かまら・島川、源氏物語研究/歌) F 1 5 8 5

I3243 魚貫(なつら/ぎよかん) ? - ? 俳人;心祇(魚貫)門、1748「六日記」共編(青祇と)

G3274 魚貫(なつら・神山かみやま、豊杵の長男)1788-1882長寿95歳 母;市、下総埴生郡飯岡村の農民、歌人;独学、小山田与清と交流、門弟;山口豊風とよかぜ・木村正辞・椿仲輔・伊能穎則ら多数1854/67「苔清水」著(;藤原正賢編)、57「麻葉あさのは集」編、「詞の道芝」著、歌;1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、

[庭鳥の鳴く声聞けば小山田の霞の奥に里はありけり](大江戸倭歌;春73/遠村霞)

[魚貫(;)名)の通称/号]通称;三郎左衛門/周助、号;松廼屋/無境庵

魚貫(なつら/ぎよかん・天地斎) → 心祇(しんぎ・轍、俳人) D 2 2 7 6

瞿麦園(なでしこのその) → 清香(きよか・今尾/奥河内、歌人) O 1 6 6 7

奈泥志古廼屋(なでしこのや) → 古風(ひさかぜ・冷泉/荘原、医者/国学) 3 7 9 2

G3275 奈豆麻呂(なでまろ・巨瀬こせ朝臣、比登ひと男)666-75388 大納言神祇伯、万葉四期4273/3926左注

G3276 奈杼麻呂(なとまろ・安宿公やすかべのきみ)?-? 756出雲掾、万葉四期4473:自邸餞宴歌

G3277 名虎(なとら・紀) ? - ? 平前期廷臣/惟喬親王外祖父(清和と女静子の男)/有常父

G3278 名鳥(なとり・長尾ながお元遠/通称良吉、元資男)1818-6245 伊勢桑名藩士/出家;園城寺常林院住職、還俗;近江で国学を教授/蟬丸社祠官/国事に奔走、「天爾乎波大意詞」「答和漢辯説」著

J3275 七転八興(ななころびやおき) ? - ? 江戸狂歌;1785「後万載集」2首入;

[立ち上るつみの烟の香に匂ふ此身は死出の旅うなぎかも]

七助(ななすけ・松岡) → 毅軒(きけん・松岡まつおか、藩士/儒者) I 1 6 6 1

七ツ大夫(ななつたゆう・金剛) → 長能(ちやうのう・喜多きた、七大夫/能役者) J 2 8 6 5

七百両の金五郎(ななひゃくりやうのきんごろう) → 一夢(3世いちむ、講釈師) D 1 1 6 6

七実(ななみ・清水) → 秋全(あきまさ・清水、藩士/国学/歌) D 1 0 8 7

G3279 奈々美津(ななみつ・五実軒)?-? 1804-18頃読本作者、1816「鎗権三累慘」著

なにがし主馬(なにがししゅめ) → 丹野(たんや・本間、能太夫/俳人) 2 6 9 8

何の屋(なにのや) → 香以(かうい・細木ほそき/さいき、商家/俳人) 1 9 7 0

G3280 何丸(なにまる・茂呂もろ一元、小沢治郎右衛門男)1761-183777 信濃書画商/俳:關更門/医者、芭蕉研究、1791「草花廼集」、1809「七部集大鏡」「芭蕉翁句解参考」20「俳論語集」著、1824二条殿百韻興行

J3295 なには(なにわ;組連) ? - ? 江中期江戸麻布の川柳の組連;

取次;1764「東馬評万句合」入、

取次例;[竹の子をぬすまれてから番がつき](1764万句合/前句;たえぬ事々々)

([武玉川]五では「～番をつけ」とある)

難波(なにわ・今枝) → 直温(なおほる・今枝、藩士/儒者) C 3 2 1 1

浪華一九(なにわいっく) → 一九(いっく・浪華なにわ、嘶家/雑俳) D 1 1 7 1

浪花軒(なにわげん/ろうかげん) → 常因(つねより・紀、怪談蒐集) E 2 9 2 8

浪華散人(なにわさんじん、俳人) → 舍孳(しゃぼつ・堀;1707-77、八千房はちばう) G 2 1 5 2

浪華散人(なにわさんじん) → 祐佐(ゆうさ・伴ぼん、書肆/浮世草子) B 4 6 6 9

浪華散人(なにわさんじん) → 義内(ぎない・林/村上、医者/滑稽本) B 1 6 9 2

浪速散人(なにわさんじん) → 一楽(いちらく、1678-?、浄瑠璃) B 1 1 2 7

浪華市隠(なにわいん) → 春耕(しゅんこう・千葉ちば、俳人) J 2 1 6 4

浪華酔墨子(なにわすいぼくし) → 酔墨子(すいぼくし・浪華なにわ、漢学者) 2 3 8 7

浪華生(なにわせい) → 香雨(かうう・赤松あかまつ、商家/鑑定家) H 1 9 3 9

難波津隠士(なにわういんし) → 旨恕(しじよ・片岡、連歌/俳人) E 2 1 0 2

難波津散人(なにわづさんじん) → 重安(じゅうあん・伊勢村、仏師/俳人) G 2 1 7 9

難波津散人(なにわづさんじん、「備前海月」著) → 旨恕(しじよ・片岡) E 2 1 0 2

浪華亭(なにわてい) → 貞信(じしん・初世さだのぶ・長谷川はせがわ、絵師) F 2 0 4 3

浪華堂(なにわどう) → 多仲(たちゆう・芳村よしむら、文筆家) R 2 6 4 7

難波天皇(なにわのすめらみこと) → 仁徳天皇(にんとくてんのう) G 3 3 7 2

G3281 難波天皇妹(なにわのすめらみことのいろと)?-? 仁徳天皇異母妹八田皇女?

万葉484;大和の兄に贈歌、

[一日ひとひこそ人も待ち良き長き日けをかくし待たえばありかつましじ]、

(万葉;相聞484/待たえの[え]は自発/こんな待たれたら生きていられそうにない)

→ 八田若郎女(やたのわかいらつめ、応神帝皇女) D 4 5 7 0

難波内侍(なにわのないし) → 兵衛内侍(ひょうえのないし・順徳院、歌人) F 3 7 1 3

浪速蘆父(なにわのろふ) → 昌喜(昌熹まさよし・入江、国学者/歌) I 4 0 5 3

浪花俳諧長者(なにわはいかいちやうじや) → 之道(しどう・槐本、俳人) F 2 1 2 4

難波俳林(なにわはいりん) → 西鶴(さいかく・井原、俳人/浮世草子) 2 0 0 1

浪速梅林逸人(なにわばいりんいちじん) → 逸人(いつじん・浪速梅林、俳人) H 1 1 3 8

G3282 難波麻呂(なにわまる・石川)? - ? 714-8常陸守(介は春日老);

「常陸国風土記」成立に関与?

七日関白(なぬかかんぱく) → 道兼(みちかね・藤原、栗田関白/歌) B 4 1 3 8

七日弁(なぬかのべん) → 定通(さだみち・藤原ふじわら、廷臣/歌人) C 2 0 4 5

G3283 靡(名曳なびく/なびき、傀儡女くぐつむすめ)?-? 美濃青墓の歌人、詞花186

[はかなくもけさのわかれのをしきかないつかは人をながらへてみし](詞花集:別;186)

3224 魚彦(なひ・楫取かとり、伊能[稲生いのう]景栄かげまさ男)1723-8260 下総香取郡佐原名主;

1735父の遺跡嗣、国学・歌:林笠翁(良通)門/1759賀茂真淵門/県門四天王の1、

俳/画;鯉の絵が得意、郷里の郡名に因み楫取に改姓、門人2百余、

1764「古言梯こげんてい」69「伊久也登梨」75「万葉集竟宴歌」「万葉名所歌集」78「万葉集新釈」、

1779「冠辞懸緒」、「古言梯再考」「雨夜の燈火」「雨夜の燈火」、「楫取魚彦家集」外著多数、

[天の原吹きすさみたる秋風に走る雲あればたゆたふ雲あり](魚彦家集;146/雲を)、

[魚彦(;名)の別名/字/通称/号]別名;豊彦/景豊/景良かげよし/景彦、字;子温、

通称;茂左衛門/茂右衛門、号;青藍(;俳号)/茅生庵、法号;光雲院、継妻稚木わかきも歌人

G3284 魚淵(魚浮池なぶち・佐藤さとう/旧姓;吉村、名;信胤、字;子鵬)1755-183480歳 信州長沼の生、

佐藤家を嗣ぐ、漢方医/法橋、俳人:猿左門/1810一茶門、芭蕉句碑を建立、

1805「はいかい百千鳥」12「木槿むくげ集」16「迹祭あとまつり」著、

[魚淵(;号)の別号] 松益[正益]/二水観/梅梯舎/艸不庵/正風堂/正風院/蓬舎/元魯山人

G3285 魚淵(なぶち・石黒いじろ/旧姓;寺内)1817-9074歳 石黒判太夫の養子;加賀金沢藩士/大坂留守居役、

国学/歌:田中躬之・黒沢翁満・鈴木重胤門、明治;民部省庶務司准大祐、

1888伊勢教本院に出仕、1864/5「旭桜雑誌」、「補短集」「詞の山比古」著、「葉役日録」編、

[魚淵(;名)の通称/号]通称;堅三郎、号;晩香/九如、

G3286 那倍(なべ・伊藤いとう、里村玄仲女/紹巴の孫)1609-7365歳 京の商人伊藤長勝妻、仁斎の母、

「万覚帳」著

G3287 なべ(恩納おんな) ? - ? 尚敬王の時代1713-51頃恩納村の農民、琉歌女流歌人、

1726北山巡視時の「万座毛歌」著、「琉歌全集」18首入、

[恩納岳あがた里が生まれ島 もりもおしのけてこがたなさな]

鑑冠日親(なべかぶりのにっしん) → 日親(にっしん;法諱・久遠成院、日蓮僧) E 3 3 3 8

鍋吉(なべきち・山国) → 共昌(ともまさ・山国やまぐに、藩士/天狗党) Q 3 1 5 7

鍋吉(なべきち・下郷/清水) → 雷首(らいしゅ・清水/下郷/平、儒者/詩) 4 8 5 4

鍋吉(なべきち・成瀬) → 正敦(まさあつ・成瀬なるせ、藩士/記録) B 4 0 1 8

鍋吉(なべきち・都筑/坂原) → 定敬(さだよし・坂原さかはら、幕臣) K 2 0 3 0

鍋吉(なべきち・梶原) → 昭豊(あきとよ・梶原かじわら/松田、国学) H 1 0 3 5

鍋九郎(なべくろう・佐藤) → 誠(まこと・佐藤さとう、藩士/歌/金石学) 4 0 8 1

鍋次郎(なべじろう・久志本) → 常陳(つねのぶ・久志本/度会、神職/日記) D 2 9 0 3

鍋介(鍋助なべすけ・鏡屋/鈴木) → 常明(つねあき・鈴木、国学/医者) B 2 9 5 4

鍋太(なべた・金井) → 由輔(2世ゆうすけ・金井、歌舞伎作者) C 4 6 8 6

鍋太郎(なべたろう・樺山) → 玄佐(げんさ・樺山、武将/歌人) B 1 8 8 1

鍋太郎(なべたろう・中根) → 正英(まさてる・中根なかね、幕臣/記録) E 4 0 2 6

鍋太郎(なべたろう・志賀) → 理斎(りさい・志賀しが、幕臣/漢学/狂歌) B 4 9 0 8

鍋之助(なべのすけ・酒井) → 忠勝(ただかつ・酒井、藩主/大老) E 2 6 9 3

- 鍋之助(なべのすけ・壺井) → 長泰(ながやす・壺井つばい、幕臣/国学) N 3 2 9 1
鍋之助(なべのすけ・松木/亀田) → 佳彦(よしひこ・亀田/度会/松木、神職) G 4 7 1 9
鍋之助(なべのすけ・朝岡) → 国隆(くにたか・朝岡あさおか/藤原、幕臣/歌) B 1 7 6 4
雙松(双松なべまつ・荻生) → 徂徠(そらい・荻生、儒学) 2 5 3 1
鍋松(なべまつ・松木/亀田) → 佳彦(よしひこ・亀田/度会/松木、神職) G 4 7 1 9
鍋屋(なべや・水野) → 政和(まさかず・水野、鋳物師/和算家) B 4 0 7 7
那辺斎(なへんさい) → 牧山(ぼくざん・三井みつゐ高就、詩人) G 3 9 4 0
腥[鯉]斎佃(なまぐさいたづくり) → 川柳(5世せんりゅう・緑亭風叟/雑俳点者/草双子) 2 4 4 3
腥[鯉]斎ごまめ(なまぐさいごまめ) → 川柳(6世せんりゅう、5世男/川柳作者) 2 4 4 4
- J3276 奈間川野等人(なまかわのらびと)?- ? 江戸狂歌;1785「徳和歌後万載集」入、
[とこやみのよし簀の岩戸ひき明けて面おもてしろくもいづる辻君]、
(後万載;861/寄夜発神祇・夜発は辻君)
- J3278 なまくらのお大尽(なまくらのおだいじん)?-? 江戸の狂歌作者;1787「才蔵集」入;
[芋もなく団子もくはぬ春の夜の朧月見はしき物もなし](才蔵集51)
(新古今/大江千里 照りもせずくもりもはてぬ春の夜の朧月夜にしく物ぞなき)
- 奈蒔野馬乎人(なまけのばかんど) → 燕子(えんじゅう・志水、幕吏/戯作者) B 1 3 0 4
- G3288 奈万須盛方(名満壽/鱈-なますのもりかた、遠藤弥市)?-1791 江戸馬喰町旅宿山城屋の主人、狂歌;
四方連/伯楽連、1784「老菜子ろうらいし」雅望と共編(;南畝母還暦狂歌集)、
1785後万載4首/1787才蔵入、
[鳥がなくあづま男の先触れは春たちかへる花の江戸人](徳和歌後萬載集;春)
- 生儘成(なまのまなり) → 生儘成(うまれのまなり、狂歌) B 1 2 9 5
- J3279 名真のり(なまのり・酒上さけのうえの)?-? 狂歌;1787「才蔵集」入;574
[らうそくのながれも水の縁なればぼんぼり移る川の月かげ]
(わが新宅に行燈と燭台をおくりける人に;才蔵集574)
- なみ(永松/有井) → 諸九尼(しよきゅうに・もろくに、俳人) C 2 2 2 9
- L3277 浪江(なみえ・河原かわはら、名;信義)1773-96早世24 佐渡北方の国学/歌人;江戸の成島信遍のぶゆき門、
浪江(なみえ・花形はながた) → 参行(さんぎょう・伊藤、富士講教主) M 2 0 0 5
浪江(なみえ・上野) → 厩谷(きゅうこく・上野うえの、儒者) M 1 6 5 8
浪江(なみえ・河村) → 秀俊(ひでとし・河村、藩士/国学者/詩歌) D 3 7 3 1
浪江(なみえ・横浜) → 善左衛門(ぜんざえもん・横浜よこはま、藩士) M 2 4 3 4
浪江(なみえ・小谷) → 古蔭(ふるかげ・小谷こたに、国学/書家/神職) E 3 8 6 5
浪江(なみえ・秋山) → 惟恭(こいみや・秋山あきやま、神職/詩歌) P 1 9 4 2
浪江(なみえ・小国) → 重友(しげとも・小国おぐに/鈴木、神職/国学) N 2 1 6 5
浪江(なみえ・大森) → 隆公(たかきみ・大森おおもり/藤原、神職/国学) W 2 6 2 0
浪江(浪衛なみえ・宍道) → 貞(ただし・宍道しんじ/楊井やない、藩士/歌) X 2 6 6 2
- K3220 並雄(なみお・稲田いなだ、通称;嘉門)?-? 江後期;尾張名古屋の医者、
国学者;本居大平門、大平撰「八十浦の玉」下巻入;長歌[時雨]・短歌入、
[はしけやし妹にあはむと足曳の山路も遠くなづみてぞこし](八十浦;857恋)
- G3289 浪緒(なみお・藤田ふじた、名;信年)1804-4946歳 出羽米沢藩士;勘定方、歌;北村信精・本居大平門、
「杣木琴」著、秀緒の父
[浪緒(;号)の通称/別号]通称;七左衛門、別号;浪雄/桐園
- 03230 浪尾(なみお・波多野はたの、旧姓;黒山)1813-187058 筑前鞍手郡の生、歌人、
遠賀郡山鹿村の神職波多野春郷はるさと(1811-57)の妻、国学;伊藤常足つねたる門(夫と同門)
- 波雄(なみお・四方) → 龍文(2代りゅうぶん・四方よも、鋳物工) M 4 9 1 9
波音(なみおと、江波屋清五郎) → 朝霞亭波音(ちようかていなみおと、狂歌) H 2 8 7 0
- L3266 並樹(なみき・辛島からしま、)1824-189774 筑前福岡藩士;国学者/修猷館訓導、
のち管崎宮祠官、
[並樹(;名)の別名/通称]別名;勝敏、通称;喜太夫
- 雙樹園(なみきのその) → 政方(まさみち・名島/度会、医/国学) H 4 0 5 3
並木舎(なみきのや) → 五瓶(初世ごへい・並木なみき、歌舞伎作者) 1 9 4 0

- 並木舎(なみきのや) → 五瓶((3世ごへい・並木、歌舞伎作者) 1942
 並木舎(なみきのや) → 五柳(ごりゅう・並木/4世五瓶、歌舞伎作者) E 1906
- G3290 甫子(なみこ・押小路おこじ、初名;満子、小槻正路女)1808-8477歳 押小路師武の養女、
 1835(天保6)孝明天皇の乳母(幼君御乳人)、1846即位後は大御乳人/71退出、
 隠居女官名;榎木、その日記は幕末維新期の宮中生活の貴重な資料、
 1836-71「大御乳人甫子雑記」/1842-46「春宮御乳人甫子記」1859-「押小路甫子日記」著
- K3247 波子(なみこ・石井い、医者梶原義丹女)1717-9781 筑前遠賀郡則松村の歌人、
 遠賀郡若松村の石井昌祐(1705-75)と結婚、
 [波子(;名)の別名/号]別名;奈美子、号;南之
 蜂屋光世「大江戸倭歌集」入集の[波女]と同一?、
 ☆[久方の月の光と見ゆばかり垣根に白く咲ける卯の花](大江戸倭歌;夏408/波女)
 [いたづらに待つ夜も明けぬあすか川心の淵の瀬とやかはりし](同;恋1542/なみ女)
- 03234 並子(なみこ/へい・橋村はむら/本姓;度会、橋村正並女)1816-8469 伊勢度会郡上中ノ郷度会の生、
 外宮神職橋村正立まさたつ(1809-89)と結婚、歌人;足代弘訓門、絵師/南画;大家谷口靄山門、
 正克まさかつの母、
 [志かのうらや夕霧はれてにほの海のこる入日の波あらふなり]
 [並子(;名)の初名]万須
- 波女(浪女なみじよ) → 諸九尼(しよきゅうに・もろくに、俳人) C 2 2 2 9
 浪次郎(なみじろう・細川) → 鼻山人(はなさんじん・細川、東里山人、戯作) F 3 6 4 5
 並輔(なみすけ・細川) → 鼻山人(はなさんじん・細川、東里山人、戯作) F 3 6 4 5
- L3252 並継(なみつぐ・奥おく/本姓;漆島、旧姓;藤波)1824-9471 豊前宇佐村の生;
 宇佐八幡宮祠官奥(本姓;漆島)家の養嗣子/儒;1835(12歳)広瀬淡窓門、のち帆足万里門、
 1852(嘉永5)宇佐神宮官人代/従五下対馬守、1855国学;江戸の平田鉄胤門、書家/詩文、
 1863(文久3)より京で憂国の志士と交流;国事奔走、宇佐帰郷;勤王倒運動;
 弟時枝重明と共に日田に投獄、維新の大赦で出獄、
 1870神祇少史/神祇権大史、神祇権大史/開拓使官吏/大蔵官僚、
 修史局四等編修官;正七位/1886;致仕、斯文学会幹事;大日本中学会を創設し会長就任、
 東莞義塾を創設;子弟教育、東京で没、「蝦夷風俗彙纂」「開拓使事業報告」「農事要略」著/
 「菱池遺稿」(奥豊彦編)、時枝重明の兄/妻;千賀子(旧姓;渡辺)/豊彦/末弘ヨシの父、
 [並継(;名)の字/通称/号]字;子紹、通称;対馬守、号;菱池(宇佐社の池名)
- 浪の一(なみのいち、都名いちな) → 光崎検校(みつざきけんぎょう、歌謡/三弦) D 4 1 4 2
 波之助(なみのすけ・島川) → 成梁(せいりょう・島川/二見、国学者) J 2 4 8 4
 比宮(なみのみや) → 家重室(いえしげのしつ・徳川とくがわ、歌人) K 1 1 4 7
- G3291 並彦(なみひこ・松木まつき、坂井通彦男)1670-1759長寿90歳 伊勢外宮神官、1718改姓;松木、
 「宇治山田地理家数吟味控」著
- K3275 並房(なみふさ・青木あおき、本姓;藤原)1777-183054 備中松山藩士、江戸住、国学;平田篤胤門、
 [並房(;名)の通称]五郎治/平兵衛
- K3290 浪穂(なみほ・宮崎みやざき/旧姓;安元、通称;伊賀守)1820-8768 宮崎信敦の養子、国学者、
 養父を継嗣;筑後三潯郡蛭池村の三島神社社司、儒;日田の広瀬淡窓咸宜園に修学、
 古事記・日本書紀の研究/詩歌の講義
- 浪秀(なみほ・広岡) → 正恭(まさたか・広岡ひろおか/藤原、神職/尊皇) S 4 0 1 7
- L3260 浪麿(なみまる・金万かねまん、通称;作左衛門)1790-186071 上総望陀郡金田村畔戸の貧しい漁師、
 詠歌を好み漁の最中も詠歌す、伊良湖崎の磯丸に似ているが浪麿は世間に知られず没
 南無阿弥陀仏(なむあみだぶつ) → 重源(ちゅうげん;法諱・俊乗坊、浄土僧/大仏再建勧進) I 2 8 1 1
- 南無庵(なむあん) → 蘭更(らんこう・高桑、俳人) 4 8 0 3
 南無庵(なむあん) → 良交(りょうこう、蘭更門俳人) H 4 9 4 9
 南無庵(なむあん) → 嵐外(らんがい・辻つじ/山本、商家/蘭更門俳人) B 4 8 6 5
 南無庵(なむあん) → 得終(とくしゅう、蘭更の妻、俳人) K 3 1 8 7
 南無庵(2世なむあん) → 蒼虬(そうきゅう・成田、蘭更門俳人) 2 5 0 7
 南無庵(3世なむあん) → 大夢(たいむ・直山、俳人) C 2 6 2 3

南無庵(4世なむあん) → 文器(ぶんき・小島こじま、大夢門/俳人) E 3 8 9 5
 南無庵(6世なむあん) → 公成(こうせい・河村/仁壁、俳人) B 1 9 5 0
 名無具同字(なむぐどうじ) → 楽(たぬし・ら・今村、医/国学/歌) G 2 6 3 4
 南無三坊(なむさんぼう) → 百庵(ひやくあん・寺町/越智、幕臣/茶/歌) E 3 7 4 3
 南無仏庵(なむぶつあん) → 仏庵(ぶつあん・中村、書家) D 3 8 2 4
 納屋七(なやしち・屋号) → 貞秋(さだあき・広田ひろた、問屋/歌人) P 2 0 2 1
 那雄(なゆう・黒川) → 亦夢(えきむ・黒川、俳人) 1 3 5 6
 なよ子(なよこ・野出) → なを子(なをこ・野出ので、歌人) O 3 2 2 6
 奈与竹乃屋(なよたけのや) → 賢直(よしなお・那須なす、藩士/絵師/歌) O 4 7 0 9
 那羅延院(ならえんいん; 諡号) → 眞仁法親王(しんにんほっしんのう、天台座主/日記) P 2 2 5 5

P3203 檜雄(ならお・駒形こまがた、通称; 許斐このみ養達) ?-1879 筑後山門郡の国学者; 西原晁樹あさき門、柳川藩校伝習館助教授

奈良曾能(ならその) → 睦齋(ぼくさい・山口、和漢学者/教育) D 3 9 1 4
 檜園(ならその) → 清先(きよさき・小寺、神職/国学) D 1 6 1 5
 檜園(寧楽園ならその) → 松根(まつね・古川、歌人) J 4 0 8 3
 檜園(ならその・) → 茂正(しげまさ・竹村たけむら、国学/歌/神職) Z 2 1 3 6

J3277 奈良朝起(ならのあさおき) ? - ? 狂歌作者; 1785「徳和歌後万載集」入、
 [朝日さす人もなければとりもちのさほの河原にねぶる水鳥](後万載; 339、
 日射すと鳥刺す・竿と佐保を掛る)

奈良僧都(ならのそうず) → 覚弁(かくべん; 法諱、法相僧/歌人) B 1 5 7 2

G3292 奈良花丸(ならのはなまる・出雲寺和泉掾) ?-? 日本橋狂歌; 本所連、徳和歌後萬載集入;
 [あきはてし埒らちの日影の紅葉もみぢばをいつそむるぞと問へばあたって]、
 (後万載; 秋306/日陰紅葉; 埒は紺屋の干場の柵)

奈良帝(ならのみかど、古今集90に初出) 3説あり:

- ①文武天皇説[古今集伝本注] → 文武天皇(もんむてんのう) 4 4 3 8
- ②聖武天皇説[続古/新千/新後拾] → 聖武天皇(しょうむてんのう) 2 2 0 6
- ③平城天皇説[続後拾遺集] → 平城天皇(へいぜいてんのう) 2 7 6 0

現存の[奈良御門御集]には外に; 光孝天皇・元良親王・人麻呂の歌が混じる

平城宮御宇天皇(ならのみやあめのしたしろしめすめらみこと) → 聖武天皇(しょうむてんのう) 2 2 0 6

檜舎(檜の屋ならのや) → 三冬(みふゆ・友安、儒者/国学/歌) F 4 1 7 8
 檜舎(乃楽舎ならのや) → 吉胤(よしたね・岡おか、藩士/国学者) E 4 7 3 9
 檜の舎(ならのや) → 広丸(ひろまる・土屋つちや、国学/神道) K 3 7 2 1
 檜廼屋眞柴(ならのやましば) → 眞柴(ましば・檜廼屋ならのや、狂歌師) I 4 0 8 9

3225 奈良麿(ならまろ・橘たちばな宿禰/朝臣、諸兄男/母; 不比等女の多比能) 721-757 处刑? 37 奈良末期廷臣、
 736(天平8)父らと賜姓; 橘/740従五下/従五上/741大学頭/743正五上/745撰津大夫、
 746民部大輔/747(天平19)従四下/749(天平勝宝元)従四上侍従・参議/752但馬按察使、
 755兵部卿(当時家持は兵部少輔)/757左大弁、藤原仲麻呂と対立; 種々の讒言・密告あり、
 757謀反の罪で捕縛され誅される(連座440人; 黄文王・大伴古麻呂・小野東人ら拷問死)、
 のち90年後の847贈大政大臣正一位、嶋田麻呂・清友・安麻呂・入居の父、
 万葉四期3首; 1010/1581/1582

[手折らずて散りなば惜しと我が思ひし秋の黄葉もみぢをかざしつるかも]、
 (万葉; 八1581/橘朝臣奈良麻呂の集宴にて)

奈良屋清吉(ならやせいきち) → 普栗釣方(ふぐりのつりかた、書肆・狂歌) B 3 8 7 0

G3293 檜悦(ならよし・柳やなぎ、別号; 有悦ありよし、惣五郎男) 1832-91 60歳 伊勢津藩士/江戸藩邸の生、
 和算; 村田恒光門/肥前長崎で蘭字より蘭学; 数学・測量・航海術を修学、
 帰郷後伊勢湾を測量/維新後; 海軍省に出仕; 水路部を創設、海軍少将・元老院議員、
 歌に長ず、宗悦むねよしの父、1850「新巧算法」51「新巧算題」、「算袋」「当世塵劫記再訂」、
 「算法矩合新書」、歌; 「海人の捨縄」著、外多数、
 [檜悦(; 名)の幼名/通称/号/法号] 幼名; 芳太郎、通称; 惣五郎/方次郎、号; 練理、
 法号; 大智院

- G3294 **成詮**(なりあき/なりあきら/しげあき・祝部はふりべ/ほうりべ、成光男)?-? 南北-室町初期神職/五位/出家、
歌:新後拾遺1341、成胤なりたねと兄弟、
[よそに我が思ひやるより山里はさびしからでや人の住むらむ](新後拾;雑1341)
- G3295 **就明**(なりあき・内藤ないとう/旧姓;渋谷、通称;権太夫)1672-1732**61歳** 陸前仙台藩士、
藩主の命により内藤閑斎の跡を継嗣、
1713「題畜牡巷額三詩歌」編、「俊山公子実録」編
- P3220 **成章**(なりあき・山田やまだ、) ? - 1753 筑後久留米藩士;用人、歌人;葛岡宣慶のぶよし門、
[成章(;名)の通称/号]通称;新内/斎、号;翫古堂翁/不求
- G3296 **成章**(なりあき・菊池きくち、初名;政章/通称;久左衛門)1744-1820**77歳** 陸奥田名部の国学/歌人、
国学・歌;小川仲之門、書も修学、南部藩田名部代官所代官/勘定奉行方勤務、
1808-13全国行脚/菅江眞澄と交流、
「月花集」「伊紀の松原」「まきの下草」「こころのゆくゑ」「田名部恐山御用日記」著
- G3297 **成章**(なりあき・玉田たまた) ? - ? 江後期大阪の書家、
奈良から江戸初期の名家筆蹟を集刻、1787「耳比磨利帖」編、「白雉帖副本」著
- M3205 **成章**(なりあき・黒田くろだ、次章つぐあき長男)1787-1828**42** 出雲能義郡の庄屋の生、国学;吉田芳章門、
歌;父門、「庭訓往來精注鈔」著/「女訓浪華名所」(鄙閑月述/黒田成章館主人;書画)
- G3298 **斉昭**(なりあき・徳川とくがわ、治紀3男/本姓;源)1800-60**61歳** 母;烏丸資補女、江戸藩邸の生、
兄斉脩なりのぶの嗣子;1929襲封;水戸9代藩主、藩内改革推進派に擁立され民政安定を図る、
保守門閥派と対立、新人材を登用;藩校弘道館設立;学問奨励、兵備;洋式鉄砲隊組織、
幕政にも種々の改革を提言;反発を招き1844幕命で退隠させられる、
謹慎赦免後も海防強化・開国反対を主唱;尊攘派の中心/老中井伊直弼と対立;幽閉、
詩人;「景山詠草」「景山詩集」、1834-51「明倫歌集」編:与清・令世・夏蔭ら編纂参加、
「景山文集」「景山菓子」「景山薬方」「景山鷹録」「新伊勢物語」「潜竜閣全集」「烈公歌集」外多、
[梓弓春とも知らず大君の仮の宮居を忍ぶ我が身は](松平春嶽[古今百人一首]入;34)、
[斉昭(;名)の幼名/初名/字/号]幼名;敬三郎/啓三郎/虎三郎、初名;紀教、字;子信、
号;景山/潜竜閣、諡号;烈公
息; 慶篤よしあつ(長男/1832-68/水戸藩10代藩主)
慶喜→ 慶喜(よしあつ・徳川、7男/最後の将軍)F 4 7 7 4
正室;吉子女王(貞芳院/文明夫人/有栖川宮織仁親王女)
側室;荻原古与(萩原協盛女)・直(山野辺義質女)・貞子(春子/松波光寧女)・
登聞(柳原隆光女)・利子(立原杏所女)・万里小路睦子(建房女)
高丘徳子(永季女)・高橋道子(重賢女)・高橋悦子(高明女)
- L3270 **成章**(なりあき・川喜田かきた、旧姓;村木)1803-1870**70** 伊勢四日市の生/伊勢津の川喜田邦矩の養子、
商家川喜田家分家の四郎兵衛家を嗣、国学;富樫広蔭門、
[成章(;名)の通称/号]通称;平兵衛/四郎兵衛、号;梅遊
- 03291 **成章**(なりあき・松橋まつはし/本姓;源、通称;仙齡)1811-77**67** 紀伊田辺の国学者;本居内遠門、
紀伊和歌山住
- L3249 **成章**(なりあき・岡本おかもと)1815-1869**55** 長門萩藩士/江向住、壮年期に致仕、儒者、
経書研究に専念/国学者、江南塾を開設;子弟教育;門弟多数、遺文「栖雲山人詩集」、
[成章(;名)の通称/号]通称;権九郎、号;栖雲/従鷗老漁
- D3279 **成章**(なりあき・若井わかい)1822-1890**69歳** 尾張名古屋藩士/儒;細野要斎門/程朱学修学、
天保1830-44頃小納戸詰/1858「攘夷戯談」著;攘夷決行を主唱、藩主徳川慶勝幽閉で停職、
1862復職/63小納戸組仇として上京;勤王/攘夷論;国事奔走、1865藩校明倫堂主事、
留書頭、維新後;名古屋大属/1873中島郡一宮村の眞清田神社祠官兼権大講義、
「中島治綱」著、
[成章(;名)の字/通称/号]字:子憲、通称;鋏吉、号;重斎
- H3207 **成章**(なりあき・岸本きしもと/本姓;源、通称;隼太)?-? 江戸後期遠江横須賀の歌人、「成章詠草」著
- 03286 **発明**(なりあき・松田まつだ、通称;定次郎/市太夫)1824-63**40** 因幡鳥取藩家老鶴殿家の家臣、国学者、
養子松田道之と倒幕運動;因幡・伯耆の尊攘派の首領、1863(文久3)京に病没

成明(なりあき・半井) → 成明(なりあきら・半井なからい、幕府医者) H 3 2 0 2
 成章(なりあき・柴田) → 風山(ふうざん・柴田しばた、儒者/書) 3 8 6 8
 成章(なりあき・高階) → 成章(なりあきら・なりり・高階、廷臣/歌人) H 3 2 0 0
 成章(なりあき・富士谷) → 成章(なりあきら・富士谷、国学/歌学) 3 2 2 7
 成章(なりあき・関島) → 成章(なりあきら・関島、藩士/文筆) H 3 2 0 3
 成章(なりあき・石川/関藤) → 藤陰(とういん・関藤せきとう/石川、藩儒/蝦夷踏査) B 3 1 0 7
 成章(なりあき・石川) → 成章(しげあき・石川いしかわ、幕臣/日記) B 2 1 7 9
 成章(なりあき・橘) → 成章(なりあきら・橘、絵師/神職) H 3 2 0 4
 成章(なりあき・江尻) → 霧松(おうしょう・江尻えじり、儒者/詩文) C 1 4 1 4
 成章(なりあき・今井) → 柳荘(りゅうそう・今井いまい、代官/俳人) F 4 9 0 3
 成章(なりあき・岸) → 岱(たい・岸きし、岸岱、絵師) 2 6 0 0
 成章(なりあき・植田) → 玄筋(げんせつ・植田、儒者/垂加神道) E 1 8 3 1
 成章(なりあき・松岡/松) → 玄達(げんたつ・松岡、儒医/本草) C 1 8 6 1
 成麗(なりあき・西池) → 成麗(なりあきら・西池にいけ、神職) H 3 2 0 6
 就章(なりあき・松本) → 龍沢(りゅうたく・松本まつもと、書家) F 4 9 1 4

N3297 **齊昭正室**(なりあきのせいしつ・徳川とくがわ、名;吉子よに女王、有栖川熾仁12女) 1804-93長寿90 京の生、
 母;安藤大和守女の清子、1831(天保2)水戸藩9代藩主徳川齊昭の正室;江戸降嫁、
 兄;有栖川宮韶仁親王・尊超入道親王/姉;喬子(浄観院/2代将軍家慶正室)・織子・幸子、
 歌人、多芸;有栖川流書・刺繍・押絵・箏・箏箏など、
 慶篤(1832-68/水戸藩10代藩主)・慶喜(1837-1913/一橋/15代将軍)の母、
 1860(万延元)齊昭が幽閉中に没;剃髪し貞芳院、水戸藩は紛糾の中藩主慶篤の後見、
 1868慶篤病没、1869偕楽園内の好文亭に住/東京の向島小梅邸(旧下屋敷)住、
 [天ざるひなにはあれど櫻花雲の上まで咲き匂はなん](降嫁前に宮中で詠)、
 [吉子の初名/諡]初名;登美宮とみのみや、没後諡;文明夫人

G3299 **齊昭側室**(なりあきのそくしつ・徳川とくがわ、名;秋/睦子ちかこ、万里路までのこうじ建房6女) 1834-192188 京の生、
 1848頃水戸9代藩主齊昭の側室、歌人/音楽を愛好、
 1860齊昭没後に剃髪;秋庭(しゅうてい;号)、家集「秋庭詠草」、「農人形の記」「面影」「もしほ草」、
 「おもひのまま」著

H3200 **成章**(なりあきら・なりり・高階たかしな、通称;欲大弍、業遠男) 990-105869歳 平安中期廷臣;
 紀伊/肥後/阿波/伊予守、1054(天喜2)大宰大弍、1058正三位;大宰府に没、
 母;3説;修理大夫業尹女・修理少進紀重平女・修理大夫業平女?
 妻:大弍三位賢子(紫式部女)、歌:後拾遺962、
 章行/為家/妙法尼の父、
 [磯なるゝ人はあまたにきこゆるをたがなのりそをかりて答へん](後拾;雑962、
 人の局を忍び叩くと[誰たそ]と問うので詠む/磯に馴れる海士[馴染みの男]は多い、
 そのうちの誰の名告りを借用して答えようか)

H3201 **業頭**(なりあきら・白川しらかわ、業頭王、資邦男/本姓;源) 1266-132055歳 鎌倉期廷臣;1300神祇伯、
 従二位、1301「業頭王なりあきらおう記」「褰帳女王とばりあげのおおきみ出立並雑具之事」、資清の父

H3202 **成明**(なりあきら・半井なからい、上野館林藩士半井益庵頼路男) 1670-174576歳 母;半井宇庵女、
 幕医半井達時の養嗣子、幕臣;医者/従五下宮内卿/典薬頭、内頭匠、
 1687養父の家督継承、1741致仕、「半井成明参内院参記」著、
 [成明(;名)の通称]通称;宇庵/驢庵、法号;通仙院

3227 **成章**(なりあきら・富士谷ふじたに/不尽谷/藤谷/本姓;藤原、皆川春洞しゅんどう[成慶]2男) 1738-7942歳
 皆川淇園の弟、1756筑後柳河藩士京留守居役富士谷尹寿の養子;中立売西洞院南角に住、
 柳川藩に国学者として出仕、歌;職仁よりひと親王門、歌学者、天文/暦学/管絃にも通ず、
 1773「あゆひ(脚結)抄」、「万葉類語」「層城詩草」「詠歌法」「北園成章家集」外著多数、
 御杖みつえの父、成章歌学は御杖により継承、
 [成章の通称/号]通称;千右衛門/専右衛門、号;北辺/成章/層城/富章/蘭園主人、
 法名;紹琬

H3203 **成章**(なりあきら・関島せきじま、号;硯竜、光昭男)?-1836 上州安中藩の右筆、故事伝説の研究、

「西野私記」著

- H3204 **成章**(なりあきら・林はやし/本姓;橘、号;耕雲)?-1880:80余歳没 石見の絵師;横山晴暉門、宗像社神職、
「口中図解」編
- H3205 **斉彬**(なりあきら・島津しまづ忠方、通称;又三郎、斉興男)1809-5850歳 母;池田治道女、従四位下/侍従、
薩摩藩主;1851襲封/薩摩守、従四位上/左近衛権中将、洋学;祖父重豪門、殖産/富国強兵;
西洋技術導入、徳川慶喜を擁立;井伊直弼の反対にあう/挙兵計画中;病死、贈正一位、
「斉彬公歌集」、手記、歌;1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、
[五月雨の晴れし名残の雲間よりもれて涼しき月の影かな](大江戸倭歌;532雨後夏月)、
[斉彬の号] 惟敬/麟洲/盤山/春叢、
母 → 斉興室(なりおきのしつ・島津周子、池田治道女/和漢学)H3212
- H3206 **成麗**(なりあきら・西池にいけ/本姓;賀茂、藤木成起2男)?-1889 西池郁頭の養子;上賀茂神社社司、
正四下佐渡介/丹波守、「賀茂補任録」著、
[成麗(;)名)の幼名/初名/通称]幼名;数之介、初名;成堯、通称;九十九/佐渡介/丹波守
成章(なりあきら・若井) → 成章(なりあき・若井わかい、儒者) D3279
成章(なりあきら・岸本) → 成章(なりあき・岸本きしもと/源、歌人) H3207
成章(なりあきら・関藤) → 藤陰(とういん・関藤せきとう/せきふじ、儒者) B3107
成章(なりあきら・江尻) → 莚松(おしょう・江尻えじり、儒者/詩文) C1414
成章(なりあきら・岡本) → 成章(なりあき・岡本おかもと、儒・国学/教育) L3249
成詮(なりあきら・祝部はうりべ) → 成詮(なりあき・祝部はうりべ、神職/歌人) G3294
業頭王(なりあきらおう) → 業頭(なりあきら・白川、廷臣/記録) H3201
成明親王(なりあきらしんのう) → 村上天皇(むらかみてんのう、天曆帝/詩歌) 4212
- H3208 **斉敦**(なりあつ・一橋ひとつばし、家名;松平/徳川、治済はるさだ6男/本姓;源)1780-181637歳 母;岩本氏、
幕臣;1793左近衛中将/従三位/権民部卿/1799家督を継嗣/1808参議、
「三院御集」入、妻;二条治孝女の保子、斉礼(なり)の父
[斉敦(;)名)の幼名/法号]幼名;好之助、法号;嚴恭院
- H3209 **成家**(なりいえ・藤原ふじわら、俊成男)1155-122066歳 母;藤原親忠女的美福門院加賀、定家の同母兄、
平安末鎌倉期廷臣;1203従三位/10正三位/11兵部卿、15出家、歌人;父門、
1178別雷社歌合(父判者)定家と参加/86・95経房歌合参加/1287貴船社歌合参加、
1200若宮歌合参加、月詣集・玄玉州・閑月集・拾遺風体集入、
勅撰5首;千載(440/747)新千載(118)新続古今(501/696)、
[冬くればゆくてに人はくまねども氷こほりぞむすぶ山の井の水](千載;冬440)
成家(なりいえ・九条) → 政忠(まさただ・九条くじょう/藤原、関白) D4047
業氏(なりうじ・細川) → 経氏(つねうじ・細川/源、武将/歌人) B2973
成枝(なりえ・河路) → 光広(みつあき・河路かわじ、商家/歌人) I4174
成笑(なりえみ・栗) → 栗成笑(くりのなりえみ・赤坂、狂歌) B1777
- H3210 **就興**(なりおき・相良さがら) ? - ? 江前期長門萩藩士、1706「武門太平不忘記」著
- H3211 **斉興**(なりおき・島津しまづ、賜姓;松平、斉宣(なり)のぶ男)1791-185969歳 母;鈴木勝直女、薩摩藩主;
1809襲封、従三位/豊後守/大隅守、1820(文政3)まで祖父重豪が後見、財政窮乏、
財政改革1827-48;調所広郷を抜擢し再建成功、外国船の琉球来航・通称要求に苦慮、
斉彬・久光の父、斉彬に家督譲らず斉彬派40数名を処刑;幕府より隠居を強請される;
斉彬の襲封で収拾、「島津氏系譜略」「斉興公御自記」著、
[斉興(;)名)の幼名/別名/通称/法号]幼名;憲之介/虎寿丸、別名;忠温、通称;又三郎、
法号;金剛定院
- 03275 **成越**(なりおき・牧田まさた、徳岡久栄男)1792-187887 伯耆倉吉の国学者・歌;飯田秀雄・飯田年平門、
[成越(;)名)の通称]良平/孝助
- 03295 **成興**(なりおき・円岡まるおか、通称;一学)1823-190179 筑後久留米藩士;御用人、1869会計局総裁、
国学・歌;船曳磐主いわぬし(鉄門かな)門
- H3212 **斉興室**(なりおきのしつ・島津しまづ、池田治道はるみち3女)1792-182434 母;伊達重村女の生姫、江戸生、
1807薩摩藩主島津斉興(なりおき)と結婚(正室)、漢学者/国学・歌人/薙刀の名手、
斉彬(なりあきら)・池田斉敏・候姫(山内豊熙室)ら4男1女の母:自ら養育、賢夫人と称される、

「三十六歌仙こほろぎ物語」著、

[島津斉興室の名/号]名;弥姫いほひめ/周子かねこ(結婚後名)、号;愛楽亭/賢章院

H3213 **成景**(なりかげ/しげかげ・祝部はふりべ/ほりりべ、成時男)?-? 南北期神職:日吉社祝/兵庫頭、成任なりとう弟、
歌:新拾遺999、新後拾遺1244/1334、

[ねぬる夜の夢に越えける相坂や人もゆるさぬ関路なるらん](新拾遺;恋999)

H3214 **成種**(成量なりかず・大江おえ)?- ? 1360存(40歳未満没) 南北期廷臣;民部少輔、
二条良基の側近:連歌作者、1355良基「文和千句」参加、菟玖波集「13句入、
「梵灯庵返答書」に連歌上手として入、

[月に散る花の山風夜よ吹きて](菟;春138/前句;別れの春はおもかげの夢、
関白前左大臣良基家百院連哥に)

H3215 **成員**(なりかず・橋たちばな、) ?- ?元禄1688-1704頃没 江前期;国学者、
仮名遣に関する研究;1678刊「仮名字例」・1696「倭字古今通例全書」著
[成員(;名)の字/通称/号]字;仲字、通称;山崎吉里、号;貉[貉]睡堂

H3216 **成種**(なりかず・西にし、通称;吉兵衛)1811-5444歳 阿蘭陀通詞西吉兵衛(10世)の養子、
阿蘭陀通詞;1818(文政元)父の跡職を継承、
1832(天保3)御用和蘭陀辞書翻訳認方掛を命ぜられ「ドゥーフ=ハルマ」編纂に従事、
オランダ使節来航/フランス船渡来/漂流アメリカ人送還などに応接、
1848阿蘭陀大通詞/52年番通詞、1851「エゲレス語辞書和解」53「嘉永六別段風説書」訳、
1854「甲寅和蘭別段風説」訳、「かびたん存付之儀申上候横文字和解」著

N3233 **成一**(なりかず・島川しまかわ、通称;瀬蔵、鎌満男)1827-9064 江戸の国学・歌;齋藤彦磨・井上元貞門、
陸奥(陸中)胆沢郡の駒形神社司宮

H3217 **成賢**(なりかた・しげかた・祝部はふりべ/ほりりべ、成茂なりしげ男)?-1275 日吉社小比叡禰宜/大蔵大輔/近江守、
正四下、成良なりながの父、歌人;1263住吉社歌合・信実勸進「日吉社歌合」参加、雲葉・閑月集入、
勅撰13首;続後撰(899)続古(551/1518)続拾(337/705)新後撰(660/752)玉(1311)以下、
[くちねただなほ物思ふ名取川うかりし瀬々に残る埋むれ木](続後撰;恋899)

H3218 **成賢**(なりかた・綾小路あやのこうじ/本姓;源、有頼男)?-1391 1374参議/左中將/75遠江権守、従二位、
歌:「一万首作者」入、新拾1794、連歌;菟玖波3句入、敦有あつかりの弟、
[もしほ草かきおく数はつもれどもまたあらはるゝ言の葉ぞなき](新拾;雑1794、
寄草述懐)

H3219 **業賢**(なりかた・清原きよはら、後名;良雄、賢宣の長男)1499-156668歳 戦国期廷臣;下総守/少納言、
侍従/1542従三位、1549(天文18)良雄と改名/50正三位、1558以後は周防に滞在;同地没
漢学者:1528「孝経抄」1529「業賢日記」、「建武式目註」「御講釈聞書建武式目註」著

03215 **成質**(なりかた・半井なからい、通称;春軒)1835-190672 長門萩藩医、吉田松陰・久坂玄瑞と親交、
のち海軍軍医/萩医師会長、歌人、歌集「竹廼舎遺稿」あり、
[すゞみ舟のりてぞくたる夏箕川なつのあつさを岸にのこして]([萩の歌人]入)

成方(なりかた・藤原) → 盛方(もりかた・藤原) 4 4 2 6

成方(なりかた・坂本) → 成方(しげかた/なりかた・坂本さかもと、幕臣/国学) O 2 1 6 4

斉賢(なりかた・藤) → 仲郷(なかさと・藤とう、神職/古蹟研究) D 3 2 7 3

H3220 **業兼**(なりかね・平たいら、業房男)?- ? 鎌倉前期廷臣;1191治部卿/正四下/1205非参議、
1209出家、歌;1200(正治2)石清水若宮歌合参加(再従兄弟の藤原敦房と)、
[白露にまがふ桜も咲きにけりおほうち山の春のあけぼの](若宮歌合;桜十五番左)

H3221 **成兼**(なりかね・高階たかしな、成朝なりとも男)?-? 鎌倉後期廷臣;大工権頭/五位、歌:続千載1264、
祖父宗成撰「遺塵和歌集」(1300刊)には歌はない、
[思ひ寝の枕に見えし面影は夢と知りてもなほぞ恋しき](続千;恋1264)

H3223 **業清**(なりきよ・源みなもと、経業男)?-? 平安後期廷臣;五位/上西門院(1126-89)判官代?、
歌;新続古今集2025、
[数ならぬ身を商山に入れしかどまたをさまれる世にぞ出でぬる](新続古;雑2025、
商山四皓;鬚眉皓白しゅびうはくの四人の隠士の東園公・綺里季・夏黄公・用里ろくりが、
秦末の乱を避け陝西省商山に入った故事)

H3222 **業清**(なりきよ・藤原ふじわら;北家長良流、良清男)?-? 母;源盛邦女、鎌倉期廷臣;1226山城守、

正五下、九条家歌壇で活躍：1200良経家歌合/04春日社歌合/05元久詩歌合参加、
新古今集2首(963/1522)、雲葉集入、

[たれとなき宿の夕べを契りにてかはるあるじを幾夜とふらむ](新古;羈旅963)

- H3224 **成潔**(なりきよ・祝部はふりべ/ほりりべ)?-? 鎌倉期神職;日吉神社禰宜、歌;比叡社歌合参加、
[たづねつる花は尾上に咲きそめてのこり待たるる山桜かな](比叡社歌合;四番左)
- H3225 **業清**(なりきよ・藤原ふじわら、業尹or懐清男?)?-? 南北期廷臣;1367大膳権大夫/従四上、
歌人;1364一万首作者入、新千載1905/新拾遺1206、
[たらちねの跡に残りて笛竹の世にはしられぬねこそなかるれ](新千;雑1905)
- H3226 **成清**(なりきよ、姓不詳) ?-? 南北期廷臣;従三位/従二位、歌:新拾遺837、
[心して篷とまひきおほへ浮雲も雨になるとの沖つ舟人](新拾;羈旅837、篷は舟の覆い)
- H3227 **斉清**(なりきよ・黒田くろだ、斉隆男) 1795-1851 57歳 福岡藩主;1795家督嗣;遺領47万3千百石、
1834致仕、養嗣子;薩摩島津藩主島津重豪男の長溥ながひろ、蘭学:シボルト門、
1825「鷺経」、「菊譜」「金魚説」「駿遠信濃弁葉鑑」著、33/51祈祷連歌興行3度
[斉清(;名)の幼名/初名/通称/号]幼名;松次郎/松二郎、初名;長順、通称;官兵衛、
号;楽善/楽善堂、法号;乾竜院
- H3228 **成国**(なりくに・藤原ふじわら、伊予介連水男)?-954 平安前期廷臣;蔵人/944播磨介;
945播磨国解文不備のため解官、947右衛門佐の時;駿河国司の訴により勘問(日本紀略)、
歌:後撰845、
[秋の田のかりそめぶしもしてけるがいたづらいねを何につままし](後撰;恋845、
人の許を訪れ呼入れられず簀子に仮寝した朝の詠/かりそめぶしは仮に横になる意、
いたづらいねは空しく寝る意/秋と飽き・刈りと仮・稲と寝ねを掛る/田の縁語で貫く)
- H3229 **成国**(なりくに/しげくに・祝部はふりべ/ほりりべ、成久男)?-1363 南北期神職;日吉社禰宜/惣官/正三位、
1355(文和4)近江東坂本の自邸が後光厳天皇の行宮となる、成光/成広なりひろの父、
歌人:藤葉集入、
勅撰15首;風(1584/1589/2146)新千(467/1595/1686/1705)新拾(537/1185/1392/1538)以下、
[ひとしほは手折りて後も染めてけり時雨にかざす山のものぢば](風雅;雑1584/紅葉を)
- H3230 **成邦**(なりくに・岡島おかじま、号;大膳)?-1732 安房神社の神官:京神祇管領より大膳の号を受、
1762(宝暦12)「房総里見誌」著
- H3231 **斉邦**(なりくに・伊達だて、初名;宗礼、宗充むねまさ男/斉義の養嗣子) 1817-41 25歳 仙台12代藩主;
1828襲封、妻;斉義女徽子、大槻清準に謡曲新曲を作らせる、歌人;「竜山公和歌」著、
[斉邦(;名)の幼名/通称/号]幼名;幸五郎、通称;藤三郎/総次郎、号;竜山
業国(なりくに・水足) → 博泉(はくせん・水足みづたり、儒者) D 3 6 5 1
- 03266 **成子**(なりこ・しげこ・堀ほり、名;勢子、徳島藩主蜂須賀重喜[1738-1801]) 1785-1853 69 松平治昭の妹、
歌人、能書家、信濃飯田藩主堀親審ちかしの室、
歌;桜井知栄尼ちえいに門/のち多田千枝子門、1853(嘉永6)没、
[むかし誰うえそめてかくいと桜いとなかく世にたえぬかをりそ](歌碑)
[成子(;名)の通称/号]通称;阿波御前、号;桂珠院
- P3233 **就子**(なりこ・吉成よしなり、) 1814or17-1888 75or72 出羽仙北郡の歌人、角館に私塾開設;女子教育、
歌;[明治歌集](橘東世子とせに撰)入
生子(なりこ・藤原) → 生子(せい・藤原:弘徽殿女御、歌人) B 2 4 7 9
業子(なりこ・日野・時光女) → 業子(ぎょうし・日野、義満室・歌人) C 1 6 5 4
済子(なりこ・姉小路あねがこうじ) → 卿内侍(きょうのない・姉小路基綱女/歌) C 1 6 8 2
- H3232 **成言**(なりこと/なりとき・荒木田あらかた)?-? 伊勢内宮禰宜、
歌;1295「伊勢新名所絵歌合」参加
- H3233 **就言**(なりこと・平佐ひらさ、通称;市丞)?-? 毛利輝元の侍臣、
1588(天正16)輝元の上洛に随行;その行動記録;「天正記」著
成駒屋(なりこまや;屋号) → 歌右衛門(4世うたえもん・中村なかむら、歌舞伎役者) 1 2 6 5
- H3234 **成前**(なりさき/しげさき・祝部はふりべ/ほりりべ、成胤男)?-? 室町前期日吉社禰宜/惣官/大蔵卿/従四上、
仲前と改名か?、歌;1443一条兼良家歌合参加、新続古今1937、
[世を祈る身にしあらずはいかで我君につかふる数となるべく](新続古:雑1937/述懐)

- K3268 **齊省**(なりさだ・松平まつだいら、徳川家斉24男)1823-41天逝19歳 武蔵川越藩主松平齊典の養子嗣、
 従四位上/侍従/大蔵少輔/大蔵大輔/近衛少将、家督継嗣前に没、
 正室: 柳姫(武蔵川越藩主松平直温女)/継室: 睿子(備前岡山藩主池田齊政女)、
 歌; 蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、
 [思ひきや匂ふ高嶺の桜花法の手向にあふぎ見んとは](大江戸倭歌; 雑2003、
 天保十二[1841]年春大御所の君[父家斉]かくれさせ給ふときに/齊省はその5月に没)、
 [齊省(;名)の幼名]紀五郎
- 成定(なりさだ・荒木田) → 成良(なりよし・荒木田あきさだ、蓮上/神職/歌) I 3 2 3 9
 成貞(なりさだ・木本) → 成理(なりまさ・木本きもと、神道/軍学) I 3 2 1 4
 齊定(なりさだ・上杉) → 齊憲(なりのり・上杉うえずぎ、藩主/歌) K 3 2 2 9
 業定(なりさだ・藤田) → 春松(はるまつ・藤田ふじた、国学者) K 3 6 7 5
- P3261 **成定女**(なりさだのむすめ・荒木田あきさだ、成良女/蓮上法師女)?-? 平安鎌倉期; 歌人、
 父成定(成良なりよし/1164-?)は伊勢内宮禰宜で出家し蓮上法師、
 歌; 1233刊[御裳濯集]2首入、
 [いづくともしらぬ山ぢの花のかに誘はれいづる春のあけぼの](御裳濯集; 春95)
- H3235 **業智**(なりさと・中山なかやま、通称弥十郎)1799-? 幕臣; 江戸町奉行所組与力、
 平曲、「眞際しんさい随筆」著、
 [業智の号] 真如実際居士/眞際/琵琶洞
- P3256 **成実**(なりさね・荒木田あきさだ、忠成男)?-? 平安鎌倉期; 伊勢内宮の神職、
 歌人; 1182賀茂重保撰[月詣つきもうで集]入、娘(成実女)も歌人; 御裳濯みすそ集入、
 [蒲草化為螢、
 五月雨にをがやの軒のくちぬればやがて螢ぞ宿にとびかふ](月詣集; 巻44)
- H3236 **成実**(なりさね/しげさね・藤原ふじわら、親実男)1191-125666 鎌倉期廷臣; 1226宮内卿/従三位/31兵部卿、
 1229(寛喜元)正三位宮内卿/大弐兼任、21大弐辞任/兵部卿(:36息成基侍従就任で辞任)、
 1254(建長6)従二位/1256(康元元)出家、成基(正四下兵衛佐)・実誉(僧/関東住)の父、
 歌人; 1232「石清水若宮歌合」催: 勸進(; 定家ら判)、1232洞院摂政歌実家歌合参、
 1248宝治御百首/51影供歌合参加、万代集・現存六帖・秋風集・雲葉集・閑月集入集、
 勅撰27首; 新勅撰(395/432/552)続後撰(6首108/398/761以下)続古(5首)続拾(2首)以下、
 [冴ゆる夜は降るや霰あられの玉櫛笥たまくし三室むろの山の明け方の空](新勅; 冬395、
 百首歌の冬歌)
 [神なびの三室の山の夕時雨いくたび秋の色をそむらん](洞院摂政家歌合; 746)
- H3237 **成実**(なりさね/しげさね・祝部はふりべ/ほうりべ、別姓; 樹下、祝部成房男)?-? 1327存 加賀権守/日吉社神主、
 惣官、従五上/歌: 風雅1509、成仲の父、
 [ゆふかけて今日こそ急げ早苗とる御戸代みとしろを田の神の宮人](風雅; 雑1509、
 御戸代は神の御料の田; 神田しんでん)
- P3257 **成実女**(なりさねのむすめ・荒木田あきさだ、)?-? 父は平安鎌倉期伊勢内宮の神職、
 歌人; 御裳濯集4首入、
 [春きてもなほかきくもり白雪のふるさと寒しみよしのの山](御裳濯集; 春11)
 [山めぐりよさむの衣うすもみぢしぐるる秋を人のとへかし](御裳濯集; 秋479)
- H3238 **成茂**(なりしげ/なりもち/しげもち・祝部はふりべ/ほうりべ、允仲まさなか男)1180-125475歳 母; 源光基女、日吉社禰宜、
 惣官/正四下、大蔵少輔/丹後守、妹; 後鳥羽院下野しもつけ(源家長室)、成賢なりかたの父、
 1247「山王神聖御鎮座猿伝記」著、歌人; 1248「宝治百首」参/「祝部成茂宿禰集」; 宝治百首詠、
 1204春日社歌合/15院四五番/43河合社歌合/51影供歌合等多数参加、
 1253(建長5)定家13回忌追善詩歌(為家勸進)に歌入、
 明月記・井蛙抄・古今著聞に逸話、現存六帖・秋風抄・雲葉集・御裳濯集入、
 勅撰44首; 新古(565)新勅(155/756/1041/1066/1316)続後撰(8首101/159以下)続古以下、
 [冬の来て山もあらはに木この葉降り残る松さへ峰にさびしき](新古; 冬565)
- J3281 **成繁**(なりしげ・祝部はふりべ/ほうりべ、成実男)?-? 鎌倉期神職; 日吉社禰宜/四位、成仲の弟、
 歌人; 勅撰3首; 新千載998/新拾1419/新後拾520、
 [ももとせをやたびおくりし神代よりふりて久しき志賀の浜松](新千; 神祇998)

- H3239 **業繁**(なりしげ・横瀬よこせ、国繁男)?-1511 上野新田庄の武将/連歌:新菟2首入
- H3240 **業蕃**(なりしげ・祝部はふりべ/ほうりべ/生源寺しょうげんじ、業福男)1771-1830⁶⁰ 近江滋賀郡日吉神社禰宜、
惣官/美濃守、1826従三位、国学者/歌を嗜む;[鴉のうみ]入、
1823「日吉七社船謡考証略解」著、業雅なりまさの父
- H3241 **成季**(なりすえ・藤原ふじわら、実範男/母;小野資通女/祖父能通養子)?-? 1107存 廷臣;大内記、
1086文章博士、南家学を確立/詩文;1055勸学院詩会参加、88「勸学会表白」著、
中右記部類紙背詩集・和漢兼作集入
- H3242 **成季**(なりすえ・橘たちばな、清則男/橘光季の養子?)?-?1272前没 鎌倉中期;九条道家の近習/右衛門尉、
伊賀守、詩歌に通ず、九条家で競馬に活躍/絵画を好む、「擲金抄てききんしょう」詩入、
琵琶;藤原孝時門;のち破門/長雅に伝授、
隠居中;1254(建長6)説話集「古今著聞集」編(序;[散木士]/跋文;[朝散大夫]と自称)、
[人は屏風のやうなるべきなり 屏風はうるはしうひきのべつれば倒るるなり
ひだをとりて立つれば倒ることなし](古今著聞集卷三)
- H3243 **成季**(なりすえ・星山ほしやま、本姓;荒木田)?-? 伊勢度会河崎の生/1716-36頃内宮権禰宜、
1718「神拝鈔」、21「御遷宮諸雑記」28「御遷宮雑事記」著
成季(なりすえ・高松) → 成季(重季げすえ・高松、廷臣/歌人) C 2 1 2 4
- H3244 **成助**(なりすけ・賀茂かも、号;大池神主、成真男)1034-82^{49歳} 神職;1050上賀茂社権禰宜/51神主、
1056従五下、住吉神主津守国基・良暹と親交/橘俊綱邸に出入り、勅勘を蒙る、
歌:「成助集」、「津守国基集」入、月詣集入、賀茂家歌人群の先達、後葉集2首/続詞花集入、
勅撰11首;後拾(27/58/80/849)金葉(642)詞花(198)千(632)新古(1187)新勅撰(1380)、
玉葉(1801)新拾遺(1034)、
[けふは君いかなる野辺に子の日して人もまつをば知らぬなるらん](後拾遺;春27)、
(正月子ねの日に良暹が誘っておきながら日暮れまで音信がないので詠む/松と待つ)
- H3245 **業資**(なりすけ・白川しらかわ、名;康家、業資王、仲資男)1184-1224⁴¹ 母;ト部基仲女/1198神祇伯、
資宗の兄/資光の父、「業資王記」「鞠神之事」「和訓精要鈔」著
- H3246 **成敬**(なりたか・甲田こうだ、心縄/心縄軒)?-? 陸前仙台藩士/甲州流兵法:大嶺広通門、
1714景通に授与、「重役之巻聞書」「氣之巻」著
- H3247 **成高**(なりたか・和気わけ、家名;半井、成庸男)1723-1803⁸¹ 母;和気成明女/医者:典薬頭大炊頭、
1777将軍に屠蘇を献上、「神遺方叙」著
- H3248 **斉荘**(なりたか・徳川とくがわ/家名;松平/田安、家斉11男/本姓;源)1809-1845³⁶ 尾張12代藩主、
兄弟に家慶・斉温、1813田安斉匡なりまさの養子/20元服;斉荘と改名/26斉匡女と結婚、
1836家督嗣/39(天保10)実弟徳川斉温の遺領を継嗣;尾張藩主、田安邸から尾張邸へ移る、
歌;千種有功門、1843「岐阜の道しるべ」「懿公道之記」著、「兎山君御詠」著、
[海原や心浮き立つ浮島に隅なき富士を三保の松原](松平春嶽[古今百人一首]入;33)、
[斉荘(;名)の幼名/字/諡号/法号]幼名;要之丞、字;公臨、諡号;懿公、法号;大覚院
妻(斉匡女) → 斉荘室(なりたかのしつ・徳川猶、日記) H 3 2 5 0
- H3249 **斉敬**(なりたか・二条にじょう、斉信男/本姓;藤原)1815or16-78^{64or63} 母;水戸藩主徳川治紀女の従子、
廷臣;1831権大納言、安政大獄の連座;謹慎/1859内大臣/62公武合体派確立/63関白、
孝明天皇の補佐/67明治天皇摂政、1868王政復古で廃職、「相談詠草」「二条摂政記」著
- H3250 **斉荘室**(なりたかのしつ・徳川とくがわ、名;猶、号;貞慎院、田安斉匡なりまさの女)1807-72^{66歳}
1826父斉匡養子の斉荘と結婚、1839夫の尾張藩主相続により市ヶ谷藩邸住、
1852(嘉永5)「柏御殿日記」著
- H3251 **斉貴**(なりたけ/なりたか・松平まつだいら/本姓;源、斉恒長男)1815-1863⁴⁹ 出雲松江藩主;1822襲封、
従四上/侍従/出羽守/左近権少将、幕命で「南史」「北史」を校刻・「出雲版延喜式」を完成、
鷹狩を好む;鷹書菟集/森正幸に下命「鷹事記」撰、角力・酒色に耽る;1853勸告を受け致仕、
剃髪;改名斉斎、1828「延喜式考異」、「鷹乍据太刀請取渡之図」著、
「山緒之鳥樽ニ載セ請取渡之図」著、「鐘岱愛鷹之記」の画
[斉貴(;名)の幼名/別名/号]幼名;鶴太郎、初名;直貴なりたか/剃髪名;斉斎、
号;瑤光翁、法号;直指庵竹林瑤光
成丈(なりたけ・朝起あさおき、狂歌) → 朝起成丈(あさおきのなりたけ、才蔵集入集) D 1 0 2 5

成丈(なりたけ・朝寝あさね、春廼屋)→十右衛門(じゅうえもん・豊島屋とよしまや、商家/狂歌)W 2 1 7 1

成丈(なりたけ・堪忍かんにん、狂歌)→堪忍成丈(かんにんのなりたけ、桑名屋武右衛門)G 1 5 5 6

H3252 成忠(なりただ・高階たかしな、姓;真人/朝臣、法名道観、良臣男)923-998 76歳 儒;紀伝道門/948文章生、
一条天皇侍読/大和守/東宮学士/大学頭/987式部大輔/従二位、991改姓;朝臣/出家;道観、
「延暦寺中堂供養記」著、本朝文粹入、歌;956坊城右大臣師輔歌合参加、
[かるかやの穂に出でて物を言はねどもあゆく草ばにあはれとぞ思ふ](師輔歌合;
かるかや左11/あゆくはゆらゆら揺れうごくさま)

母;藤原博文女、息子;助順・信順・明順あきのぶ・積善もりよし・清昭(清照しょうしょう)、

息女;貴子 → 貴子(たかこ、高内侍、定子母/儀同三司[伊周]母/歌) 2 6 9 9

光子 → 光子(みつこ・高階、定子の女房/呪詛事件) L 4 1 1 3

H3253 業尹(なりただ/なりまさ・藤原ふじわら懐能かねよし、清尹男)?-? 鎌倉後期廷臣;修理大夫/刑部大輔、
歌;1301新羅社歌合参、新三井集入、新後撰865/続千載2056、懐世かねよ/懐通かねみちの父

H3254 業忠(なりただ・清原きよはら、号;環翠軒、宗業男)1409-67 59 漢学者;明経博士/大蔵卿、
詩人;46文安詩歌合参加、「永享大饗記」著、和漢聯句

H3255 成忠(なりただ/しげただ・丹波たんば、定長男)?-? 室町前期兵庫頭/歌人、新後拾756
[うらがるる後はなかなかおく露もあさちが庭のまつむしの声](新後拾遺;八雑秋756)

03273 成紘(なりただ・本多ほんだ、)1734-1804 71 近江彦根藩家老中野家の家臣、歌人

歌;[彦根歌人伝・寿]入、

[成紘(;名)の通称/号]通称;正五郎、号;一哭舎八雲

P3232 業忠(なりただ・吉田よしだ、)1827-1900 74 大坂の国学者・歌人;中村良頭・藤村叡運門、
「清風軒遺草」あり、

[業忠(;名)の通称/号]通称;利兵衛/利右衛門、号;貫堂/清風自来軒

就忠(なりただ) → 就忠(しゅうちゅう、連歌) Y 2 1 0 4

就忠(なりただ・高洲) → 平七(へいしち・高洲たかす、藩士) 2 7 4 9

教忠(なりただ・藤波) → 教忠(のりただ/なりただ・藤波/大中臣、神職) E 3 5 9 9

K3201 成忠卿母(なりただきょうのはは)? - ? 平安後期歌人、寂超「後葉集」入(412)

高階成忠(923-998/良臣男)の母(藤原博文[?-929]女)か、

但し後葉集の中納言惟仲(944-1005)との関係から年齢的に差が大き過ぎる;

[成忠卿女]の誤写と考えられる→成忠女とすると高内侍(貴子たかこ)or高階光子、

但し後葉集527(高内侍名)があるので光子か;なお不詳、

[夢とのみ思ひなりにし世の中をなにいまさらにおどろかすらん](後葉集;恋412、
中納言これなか久しくありておとづれたとき詠)

成忠女(なりただのむすめ・高階たかしな)→ 貴子(たかこ、?-996/50歳前後没/儀同三司母) 2 6 9 9

H3256 成種(なりたね・祝部はふりべ)? - ? 鎌倉後期日吉社祝/従五上、歌;比叡社歌合参加、
[たち残す霞のうへの山の端にまがふ色なき花の白雲](比叡社ひえのやしろの歌合;二番左)

H3257 成胤(なりたね/しげたね・祝部ほりべ/はふりべ、成光男)?-? 1407存 南北/室町期日吉社禰宜/正五下、
歌;1407内裏九十番歌合参加、新続古今3首;714/1335/1815、成詮なりあきの兄弟/成前なりさきの父、
[うち寄する沖つ白波音さえて雪に鳴海なるみの浦風ぞ吹く](新続古;六冬714)

H3258 成胤(なりたね・小田おだ/通称;監物/小戸斎、成近男/本姓;橘)1660-1716 57 伊勢山田の神職、
主典祝部、大神宮檢非違使/詩文に長ず、1710「天罪図説」「大八洲図説」著、
1711「神道八箇図」15「警蹕けいひつ之事」著

H3259 齐民(なりたみ・松平まつだいら、徳川家斉14男)1814-91 78歳 母;八重[皆春院]、
1817美作津山藩主松平齐孝の養嗣子;1831(天保2)襲封、藩の財政再建・教育普及に尽力、
1855慶倫に家督譲渡;致仕、1868和宮[静寛院宮]護衛/將軍世子家達の後見、
正三位/三河守/左近権少将/左近中将、1841「甲午存稿」44「経岐詩集」著、
歌;1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、

[のどかなる霞とともに白馬をけふ引きわたす九重の庭](大江戸倭歌;41白馬節会)、

[齐民(;名)の幼名/字/号]幼名;銀之助、字;子政、号;確堂/梅暁/大無、法号;文定院

M3218 成爲(なりたみ・佐治さじ、)1621-1690 70 江戸の古典/歌;北村季吟門、対馬藩に出仕、
対馬府中藩士;貿易のため設けた釜山の朝鮮草梁倭館の経営使;1678移転新築完成、

- [成為(；名)の通称] 六之助/左左衛門もくざえもん/左衛門尉さえもんのじょう
 成為(なりため・冷泉) → 政為(まさため・冷泉/藤原、廷臣/歌人) 4 0 1 0
 成田屋(なりたや) → 留次郎(とめじろう・成田屋、本草/朝顔) P 3 1 0 1
- H3260 **成親**(成近なりちか・藤原ふじわら、透遠、民部丞経秀[季成]男)?-? 平安後期廷臣;鳥羽院蔵人所衆、刑部丞/従五下、歌人;千載821(続詞花集601)、
 [枯れはつる小笹をささが節を数かぞふれば少なかりけるよゝの数かぞかな](千載;恋821、鳥羽院御時蔵人所衆の時に女に代りて詠む/枯れと離れ・節々よと夜々を掛る)
- E3216 **成親**(なりちか・藤原ふじわら、家成男)1138-1177**殺害**40 廷臣;1157右中将/越後守/59平治乱で親頼方、捕縛解官;平重盛幹旋で助命/1166参議/75権大納言/正二位、77鹿谷の謀議参加;捕縛/備前に流罪;殺害、母;藤原経忠女、成経の父
- H3261 **成近**(なりちか・小田おだ/本姓;橘)1636-72**37歳** 伊勢大神宮司家の役人、詩文、「万治元年内宮御炎上記」著
- N3275 **成親**(なりちか・鷹見たかみ、号;笑甫)?-1740 摂津兵庫の福岡藩浜本陣経営(屋号;絵屋)、歌人、保具やすとも(1709-84)の父
 成近(なりちか・半井) → 瑞寿(ずいじゅ・半井なからい/和気、医;典薬頭) E 2 3 6 6
 成親(なりちか・神田) → 成親(せいしん・神田かんだ、俳人) E 2 4 1 3
 成親(なりちか・黒沢) → 敬信(たかのぶ・黒沢くろさわ、藩士/国学) W 2 6 8 2
- H3262 **济継**(なりつぐ・姉小路あねがこうじ、法名;常济、基綱男/本姓;藤原)1470-1518**49** 廷臣;飛弾国司、1496右中将/1508従三位/1509参議/12正三位/15致仕、1517飛驒に住;18同地に没、歌;三条西実隆門、「济継卿集」著
 成次(なりつぐ・飯田) → 成次(せいじ・飯田いだ、俳人) B 2 4 8 9
- H3263 **成経**(なりつね・藤原ふじわら、成親男)1156-1202**47歳** 平安末期廷臣;1177父と鹿谷謀議に参加、捕縛;喜界島へ流罪、1178徳子懐妊による大赦/帰郷(平家物語入)、1190参議に復職/皇太后宮大夫、「遠嶋和歌」著
- L3242 **成庸**(なりつね・小島おぼた、通称;八之允?)1711-87**77** 京の国学者/小島成重の養子/肥後熊本住、歌人/散楽を嗜む/古礼を修学;蘊奥を究む
- L3250 **業常**(なりつね・岡本おかもと/本姓;石上、)1778-1822**45** 近江彦根藩士;軍監、歌人、宣愿のぶよしと同族、[業常(；名)の通称] 織部/佐渡/半介
- H3264 **齐恒**(なりつね・松平まつだいら、治郷[不昧]長男)1791-1822**32歳** 出雲松江藩主;1806襲封、茶道;父門、保己一に延喜式校訂を依頼(；息齐貴の代に完成)、従四下/侍従/出雲守/出羽守、俳諧;清秋・麻中門、「ひとめぐり」編、「露滴齋句集」編、追悼集「十二歌仙」、[其香子薙髮遁世したまふに 身の秋は軽し瓢ひさごの形なりもよき]、[齐恒(；名)の幼名/号]幼名;鶴太郎、号;露滴齋/瓢庵/月潭/宗潔、法号;月潭院
- H3265 **齐典**(なりつね・松平まつだいら、直恒3男)1797-1850**54歳** 母;菊地お梶、武蔵川越藩主;1816兄直温の遺領を継嗣、1820幕命で相州警固役;度々の外国船渡来に対処;功績、藩財政は窮乏/1849老中、文武奨励/兵学を修学、歌;尾高高雅門/国学;沼田順義門、藩校博諭堂を建設;石井扱所・長野豊山を儒員に登用、保岡嶺南に下命;「日本外史」を公刊[川越版]として諸藩に普及、従四上/大和守/左近少将、1832「海防伺書及指令」43「相州紀行」、「巖武備」、「絵巻夢之巻」、「興国歌詩歌集」著、歌;蜂屋光世「大江戸倭歌集」(1858成立)入、
 [鳴くやとて郭公待つこの頃は幾夜かわれも起き明かすらん](大江戸倭歌;夏426)、
 [齐典(；名)の幼名/初名/法号]幼名;乙之助/徳之助、初名;矩典、法号;興国院、
- H3266 **業連**(なりつら・藤原ふじわら、民部二郎、佐藤業時男?)?-? 鎌倉後期廷臣;1280民部大丞/-83加賀守、歌;続千載1935
 [世を海の波の下草いつまでかしづみはてぬと身をうらむべき](続千載;十七雑1935)
- H3267 **成烈**(なりてる・三橋みつはし・みはし/本姓;藤原、篠田隆光男)1726-91**66** 幕臣三橋成房の養嗣子、1740養家の家督継嗣、1750大番、歌;冷泉為村門、大坂在番時に読本/教訓書を出版、「詩仙堂志」編、1775「新斎夜話」78「続新斎夜話」、「梅園雑話」、石野広通「霞関集」入、
 [さしかよふ小舟あらはにみしま江のみぎは寒けきあしのむら立](霞関;冬603/寒蘆)

- [成烈(；名)の通称/号] 通称；源三郎/藤右衛門、号；梅臈館主人、法名；天楽
- H3268 **斉輝**(なりてゝ・池田いげだ、初名；隆政/通称；新之丞、岡山藩主斉政なりまさ男)1797-1819**早世23歳**
備前岡山藩；内蔵頭/1816父と同じく将軍家斉の諱字を受け改名、
正室；一条忠良女の知子ともこ(1797-1858/寛彰院)、
1806-18「斉輝公日記」、18「余筆文章」著
- J3280 **成任**(なりとう/しげとう・紀き、忠道男/歌人文利の孫)？-？ 平安後期廷臣；伯耆守/号；紀雑色、
「陸奥話記」著？
- H3269 **成任**(なりとう/しげとう・祝部ほりべ/はふりべ、成時男)？-？ 南北室町期；神職/日吉社権禰宜/正五上、
歌人；新千載1343/新拾遺1596、成景なりかげの兄、
[さのみよもつれなからじと偽りのつもるにつけてなほぞ待たるる](新千；恋1343)
- H3270 **業遠**(なりとお・高階たかしな、敏忠男)？-1010 平安中期廷臣；丹波守/春宮亮/正四上、
妻；江侍従(ごうのじゅう)、業敏・成行・成章・成佐・成経の父
- H3271 **斉広**(なりとお・毛利もうり、斉熙なりひろ2男/本姓；大江)1814-36**早世23歳** 母；池上藤太夫女(真嶺院)、
1836(天保7)長門萩藩主、従四下/侍従/左近権少将/大膳大夫、襲封後20日で没、
資性聡明/儒；林述斎門、山県太花を侍講とし文章に長ず、
「述志録」「言志論」「革興記」「慷慨論」「事斯語」「与人論」、1830「みさご草紙」著、外著多数、
[斉広(；名)の幼名/初名/字/号/法号]幼名；保三郎、初名；崇広、字；公胖、
号；泰斎/翠濤/呉竹/棲鳳、諡号；崇文公、法号；崇文院
- H3272 **済時**(なりとき・藤原ふじわら、通称；小一条大将、師尹もろまさ男)941-995**55** 母；藤原定方女、
平安前中期廷臣、969/従三位/970参議/988正二位/990左近大将/991大納言、贈右大臣、
村上天皇女御芳子の兄/頼忠の従弟、箏；村上天皇門、栄花・古事談・今昔物語等に逸話、
「小一条大将済時卿自筆記」著、
歌；960(天徳4)内裏歌合/966内裏前裁合(；左方頭人)/977廉義公頼忠前裁合など参加、
勅撰6首；拾遺(441/467)新古(1734)新勅(1073)続後撰(1164)新千(1493)、菟玖波1句入、
息子；為任ためとう・通任みちとう、
息女；城子(せい)三条天皇皇后)・敦道親王妃
[水底みなそこに宿る月だに浮かべるを沈むや何のみくづなるらん](拾遺；雑441、
廉義公[三条左大臣頼忠]前裁歌合；水上秋月/沈む我が身は水層なのか)
斉時(なりとき・北条時高)→ 斉時(としとき・北条、武将/歌人) N 3 1 0 0
成時(なりとき・牧野) → 古白(こはく・牧野まさの/田口、武将/連歌) N 1 9 4 1
- H3273 **済俊**(なりとし・姉小路あねがこうじ、梅樹院、飛騨国司済継男)1506-27**早世22歳** 1521左少将/22美濃権介、
歌；「聖廟法楽和歌」「済俊集」著
- N3228 **成利**(なりとし・清水しみず、旧姓；志水)1689-？**長寿 1781(93歳)存** 京の有栖川職仁親王に出仕、
国学/歌人、のち尾張名古屋に住、
1781(安永10/93歳)絵師内藤東甫(閑水)主催の金剛山長栄寺尚齒会に参加(9人)；詠歌、
(他参加者；都筑高104歳・松平秀雲[君山]85歳・僧杲照84歳・僧慧胤83歳・子鹿こしか存82歳・
横井並明[也有]80歳・永田忠良80歳・僧覚融80歳)[尾張名所図絵入]、
[成利(；名)の通称/号]通称；将作/昌佐、号；集木軒
- K3235 **斉稷**(なりとし・池田いげだ、治道2男)1788-1830**43** 因幡鳥取藩8代藩主；1807兄昭邦(齐邦)後継襲封、
鳥取池田家10代/従四下/のち従四上/因幡守/左近中将/侍従、母；側室浦の方(佃氏)、
正室；米沢藩主上杉治広女の演姫(天殊院)、蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、
[ふきわたす千代のためしのあやめ草しづくもかをる軒の五月雨](大江戸倭歌；夏496)、
[斉稷(；名)の幼名/通称/法号]幼名；永之進/別名；道彝みちつね、通称；因幡守、法号；耀国
院
- H3274 **斉敏**(なりとし・池田いげだ、島津斉興男、池田斉政養子)1811-42**32** 養家継嗣；備前岡山藩主；1829襲封、
伊予守/侍従/従四下/左少将、「斉敏公日記」/1794「官位職服大略」著、島津斉彬なりあきらの弟、
歌；1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、
[たまさかに逢ひみし夢も覚めやすく明くる程なき短か夜の空]、
(大江戸倭歌；恋1493/夏夜恋)、

- [齊敏(；名)の幼名/前名/法号]幼名；治五郎/丈之助、前名；久寧/為政、法号；雄国院
- H3275 **成富**(なりとも・鈴木すずき) ? - ? 江後期駿河神宝/祭器検分：1831「淺惣山奈四社見聞記」著、四社とは駿河の淺間神社・惣社・山宮・奈吾屋社
- H3276 **業倫**(なりとも・中原なかはら) ? - 1172 平安後期明法家；右衛門志/1152明法博士、大判事/従五下、1163「長寛勘文」；藤原忠重等の熊野社に対する罪名を勘申
- H3277 **成朝**(なりとも/しげとも・高階たかしな、宗成むねなり男) ?-? 鎌後期廷臣；遠江守/刑部少輔/右馬権頭/従四上、歌人；近衛家基家歌会常連、1300父撰「遺塵歌集」17首入、勅撰3首；新後撰(968)玉葉(437)続千載(1779)、兄弟；成尚なりひさ、[さのみまた人の心を疑はば我がいつはりのほどや知られむ](新後撰；恋968)、息子；成兼なりかね、息女；成朝女、姉妹；成朝姉/新陽明門院兵衛佐/新陽明門院中将、
参考 → 成尚(なりひさ・高階、歌人) I 3 2 0 3
→ 成朝姉(なりともあね、歌人) H 3 2 8 0
→ 兵衛佐(ひょうえのすけ、歌人) F 3 7 1 0
→ 中將(ちゅうじょう、歌人) G 2 8 4 0
→ 成兼(なりかね・高階、歌人) H 3 2 2 1
→ 成朝女(なりともむすめ、歌人) H 3 2 8 1
- H3278 **成友**(なりとも・荒木田あらかぎ、榎倉武季男) ?-1720 伊勢狩野派の絵師/改姓；荒木田、1721「御遷宮諸雑記」編
- H3279 **業智**(なりとも・間宮まみや、通称；益十郎、号；修斎舎舜雅) 1778-1835⁵⁸ 阿波堀江の茶人；小笠原流作法、歌人、1816刊「蔵六談」著
- J3293 **業知**(なりとも・吉川よしかわ/桜居さくらい、通称；晴次郎) 1784-1840⁵⁷ 近江彦根藩士、国学・歌人；村田泰足門、歌；[彦根歌人伝・続寿]入
全故(なりとも・柏木) → 素龍(そりゅう・柏木/藤原、書家/歌/俳) E 2 5 5 0
- H3280 **成朝姉**(なりともあね・高階たかしな、宗成男) ?-? 鎌倉後期歌人；1300遺塵和歌集16首入、[うきをだに捨つるはかたき世の中の花の春しも帰るかりがね](遺塵；はる20)
弟 → 成朝(なりとも・高階、廷臣/歌) H 3 2 7 7
姉妹に → 兵衛佐(ひょうえのすけ・新陽明門院/歌人) F 3 7 1 0
→ 中將(ちゅうじょう・新陽明門院/歌人) 2 8 4 0
- H3281 **成朝女**(なりともむすめ・高階たかしな) ?-? 鎌倉後期歌人；1300遺塵和歌集入、[庭のおもの春のけしきを見渡せばよもの草ばぞあをみそめぬる](遺塵；春8)
父 → 成朝(なりとも・高階、廷臣/歌) H 3 2 7 7
- H3282 **成豊**(なりとも/しげとも・祝部ほうりべ/ほふりべ、成繁なりしげ男) ?-? 1394^存 南北期神職；日吉社禰宜/民部大輔、従四下、歌人；1377?永徳百首詠進、勅撰3首；新拾遺1423/新後拾遺788/1143、[おのづからつかへぬ隙も心こそなほ怠らぬ七の神がき](新拾；神祇1423)
- H3283 **成直**(なりなお/しげなお・源、法名；幽提ゆうだい/ゆうてい、足利直冬男?) ?-? 父と不和；南朝武将/西国住父没後；南朝廷臣；宰相、右兵衛督、歌人；1365内裏三百六十首(正平廿年点取三百首和歌)/71南朝三百番歌合/75五百番歌合参加、勅撰；新続古698、新葉14首(44/88/95/178/472/491/576/723/741/950/985/1192以下)[吹きおろす嵐の音もたかしまのみをのそま山雪降りにけり](新葉473/新続古698)、[有りとだに今こそ見ゆれ春の日の光にあたる野辺のいとゆふ]、(新葉；44/遊糸/内裏三百六十首点取三百歌；31)
- H3284 **生直**(なりなお・藤木ふじき通直[道直]みちなお、通称；主殿/甲斐守) 1656-99⁴⁴ 書家；叔父寂源門/書博士、正五下、内大臣花山院定誠さだのぶより秘伝を受、「甲斐守生直直筆」著
- K3238 **斉直**(なりなお・鍋島なべしま、治茂長男) 1780-1839⁶⁰ 母；側室(福岡氏)、1805家督嗣；肥前佐賀9代藩主、従四下/侍従/肥前守、直懿なおたかを斉直なりなおの改名、財政逼迫；再建改革；行政簡素化、支藩鹿島藩を廃止・長崎警備の返上を画策するが廃藩は周囲の反対で挫折・長崎のフェートン号事件で追及され閉門、1819江戸藩邸焼失などで借金13万両に膨らむ、1830家督を斉正に譲り隠居、正室；池田治道女の姚姫(名；幸/浄諦院)/側室；石井尚片女、歌；蜂屋光世「大江戸倭歌集」(1858成立)入(正室と共に入集)、
[住の江の浜の松風声そへて友呼ぶ千鳥ち代と鳴くなり](大江戸倭歌；雑2053)、

[斉直(；名)の幼名/初名/法号]幼名；祥太良、初名；直懿ななおか、法号；巖松院、
正室；歌人 → 斉直室(なりなおのしつ、姚姫/幸/浄諦院) K 3 2 3 9

K3239 斉直室(なりなおのしつ・鍋島なべしま、鳥取藩主池田治道女)1789-1837 49 名；姚姫/幸、歌人、
肥前佐賀9代藩主鍋島斉直の正室、出家；浄諦院、
歌；蜂屋光世「大江戸倭歌集」(1858成立)入(夫斉直と共に入集)、
[あかずとて秋の花野を分けゆけば千種の色にすれる袖かな]、
(大江戸倭歌；秋757/野径秋草)

H3285 成仲(なりなか/しげなか・祝部ほうりべ/はふりべ、成実男)1099-1191 長寿93歳 日吉社禰宜/惣官、
正四上大舎人頭、天台教学に通ず、「十善師夢想記」著/「日吉社服忌令」編、成繁なりしげの兄、
息女；成仲女(勝命入道の室)；新拾遺903に贈答歌；息子早世、養子；充仲まさなか、
歌人；歌林苑の会衆、1172清輔尚齒会/78別雷社歌合/82重保尚齒会2度参加、
家集「樹下集」「祝部成仲集」、後葉・続詞花・月詣・雲葉集入、和歌色葉名誉歌仙に数えられる、
勅撰31首；詞花(93)千(7首39/67/216/373/522/690/1051)新古(115/844/890/1609/1674)、
新勅(562)続後撰(1107)続古(852)続拾(467)新後撰(195)玉(139)続後拾(1290)以下、
[天の河かへらぬ水をたなばたはうらやましとや今朝は見るらん](詞花；秋93、
織女の心；河を渡り帰る牽牛と帰らぬ河水の対比)、
[め(妻)におくれてはべりけるころ、
秋風の身にしむばかりかなしきは妻なきとこの寝覚なりけり](続詞花集；哀傷409)、
女 → 成仲女(なりなかのむすめ、勝命入道の室) H 3 2 8 9

P3211 囀中(なりなか・矢西やにし)1824-1909 86 近江大津の商家菱屋の分家、国学者、
歌；[鳩のうみ]入

H3286 成長(なりなが・荒木田あきだ/家名；岡田、忠成男)1140-93 54歳 平安後期；伊勢の神職；内宮一禰宜、
四位上/歌；御裳濯集3首入、千載集撰に漏れ失意のまま没、新勅1193、
成良なりよし/成定/長延ながのぶ/成長女らの父
[かきつむるかみちの山のことはのむなしくくちむあとぞかなしき](新勅撰集1193)
参考 → 成長女(なりながのむすめ・荒木田) H 3 2 8 9

H3287 成良(なりなが/なるなが/なりよし/しげよし/しげなが・祝部ほうりべ/はふりべ、成賢男)?-? 鎌倉期日吉社禰宜、正四下、
成久の父、1264後嵯峨院の日吉社御幸時に詠歌、
勅撰6首；続拾遺(261/1449)新後撰(804/1032)続千(1535)新千(1503)、
[高砂の待つ嵐は夜寒にて月に深けぬるさをしかの声](続拾；秋261/夜鹿)

H3288 斉広(なりなが・前田まえだ/松平/本姓；菅原、重教2男)1782?-1824 43歳 母；貞琳院、
1796叔父治脩の養嗣子；1802家督；襲封；加賀金沢藩主/正四下、筑前守/加賀守/肥前守；
海保青陵を招き重商主義的政策による財政再建；中絶/1822致仕、室；隆子、斉泰の父、
謡曲；矢田八郎左衛門を招聘、「前田斉広書翰」著、
[斉広(；名)の幼名/初名通称/号]幼名；亀万千/勝丸/犬千代、初名；利厚、通称；又左衛門、
号；世功/大信/清静、法号；金竜院文古雲遊

成良(なりなが・荒木田) → 成良(なりよし・荒木田/蓮上、内宮禰宜/歌) I 3 2 3 9

斉長(なりなが・藤) → 斉長(まさなが・藤とう、神職/藩士) F 4 0 3 1

H3289 成仲女(なりなかのむすめ・祝部ほうりべ/はふりべ)?-? 平安後期歌人、勝命しょうみょう入道[1112-90?]の室、
新拾遺904；子を失って嘆く父との贈答歌、
[君がためいとど命の惜しきかなかかる憂きめを見せじと思へば](新拾；904、父へ返歌、
父成仲の贈歌；903子に先立たれ歎く頃都にいる娘に贈る、
もろともに越えましものを死出の山また思ふ人なき身なりせば)

H3290 成長女(なりながのむすめ・荒木田あきだ)?-? 平安後期歌人、成長4女、
父の歌が千載集の撰に漏れたことを歎く詠歌；内裏で評判となる、続後撰集1086、
[もの思ふ袂たもとににたるもみぢかな時雨やなにの涙なるらん](続後撰1086)
参考 → 成長(なりなが・荒木田、神職) H 3 2 8 6

H3291 成主(なりぬし・祝部ほうりべ/はふりべ)?-? 鎌倉後期日吉神社禰宜/従五上、
歌；比叡社ひえのやしろの歌合参加、
[峰続きおなじ色なる白雲はさきそふ山の桜なりけり](比叡社歌合；三番左)

- L3274 **成音**(なりね・河清かきよ、) ? - 1736 伊勢鈴鹿の国学/歌人;武者小路実陰門
- H3292 **斉信**(なりのぶ/ただのぶ/ときのぶ・藤原ふじわら、通称;右金吾、為光男) 967-1035 69歳 母;藤原敦敏女、平安中期廷臣;蔵人頭/991左中将/別当/996(長徳2)参議;従四上/1000中宮権大夫/従三位、10001(長保3)権中納言/右衛門督/02中宮大夫/04従二位/08正二位/1009(寛弘6)権大納言、1011春宮大夫、16中宮大夫・按察使兼任/20(寛仁4)大納言兼中宮大夫、/28民部卿/35没、一条朝の四納言(公任・俊賢・行成と)、1031「慈慧僧正伝」著、袋草紙;道長詩会での逸話入、詩人;内裏や道長邸の詩会の常連、朗詠の名手、詩句は本朝麗藻・類聚句題抄・本朝文集・新撰朗詠集・本朝文粹などに入集、歌人:986内裏歌合/990-98頃花山院歌合参加、勅撰6首;後拾遺(113)千載(912/960)新古今(1928)新拾遺(20/543)、続詞花集2首入、兄弟;誠信/道信/公信さんのぶ/低子(よに・弘徽殿女御)ら、経任・斉長・永慶・良斉らの父、[闇のよにたがへる星とみえつるはわたる蛍のひかりなりけり](花山院歌合;蛍右)[女の深き山にもいらまほしきよしいひて侍りければ つかはしける、山よりも深き所をたづねみばわが心にぞ人はいるべき](千載;恋912/続詞花663)
- H3293 **成信**(なりのぶ・牧野まきの/通称;将監) ?-1673? 備前岡山藩士/大坂陣に出陣/1643致仕、奥羽・中国・九州遍歴、和学者;紀行文執筆、下野で客死、「風車集」「北国道記」著、[成信(;名)の号]号;風車軒/任佗坊にたぼう
- H3294 **斎宣**(なりのぶ・島津しまづ、賜姓;松平、重豪しげひで長男) 1773-1841 69歳 母;堤氏女、薩摩藩主;1787襲封、正四上/豊後守/薩摩守、1791(19歳)まで父の政務介助を受ける、藩財政の著しい悪化;1807樺山久信・秩父季保を家老に登用/近思禄党の登用/前代の政策廃止/藩校の改革等、政策・人事で父重豪と対立;父により1808二人の家老は罷免・切腹/09斎宣は隠居、重豪は孫の斎興(斎宣男)を立て1833没するまで実権を把握、詩歌;「行余集」「天遊堂集」「溪山侯御撰画賛百首」「止水軒詩五言画譜」「斎宣公詩集」著、[斎宣(;名)の幼名/別名/通称/号]幼名;虎寿丸、別名;忠堯、通称;又三郎、号;溪山/止水軒/楽只らくしくし大和尚、法号;大慈院舜翁
- H3295 **斉信**(なりのぶ・二条にじょう、法号;成徳院、治孝はるたか男/本姓;藤原) 1788-1847 60歳 兄斉通の養嗣子、江後期廷臣;1815内大臣/20右大臣/24左大臣/従一位/47致仕、1827「文政10年8月24日月次御会」参加
- H3296 **斉脩**(なりのぶ・徳川とくがわ/家名;松平、治紀の長男/本姓;源) 1797-1829 33歳 1816水戸藩8代藩主、1816襲封;参議/権中納言、雅楽/詩に通ず、室;將軍家斉女の峰姫、嗣子;弟斉昭、「鼎山詩稿」「源哀公詩」「垂裕閣文集」「柳営宴遊儀式」、1823「柳営管絃之記」著、1823「水戸斉修卿記」著、「東藩文献志」編 [斉脩(;名)の幼名/初名/字/通称/号]幼名;栄之允/鶴千代、初名;斉修、字;子誠、通称;左衛門督、号;鼎山/天然子/信天翁/瓢亭、諡号;哀公 妻 → 斉脩室(なりのぶのしつ・徳川美子、峰姫) H 3 2 9 7
- L3251 **成信**(なりのぶ・興野おきの、加藤木信衛門長男) 1819-65 斬首 47 常陸茨城郡高久村組頭の家の子、1830(12歳)加倉井砂山の日新塾で修学;初代塾長、のち会澤正志齋門、国学も修学、1838(20歳)同郡増井村の興野助右衛門の養子/水戸藩士;1844(弘化元)郡方手代、1849(嘉永元)徳川斉昭の雪冤運動に参加;投獄;追放刑/54赦免、57(安政4)弘道館歌道方、1878郡方手代に再任/尊攘運動に挺身;1864(元治元)那珂湊合戦に参加;65(慶応元)斬首、[成信(;名)の別名/字/通称/号]別名;任/輓、字;道甫/大車、通称;助九郎//介九郎/介右衛門、号;槐庵/槐菴かいあん/茶梅/茶榎菴/春草/琴屋/河澄
- 03265 **成信**(なりのぶ・堀田ほった、通称;三省) 1819-69 51 近江坂田郡の医者、歌人;[鳩のうみ]入
- 03250 **整信**(なりのぶ・土持ひじもち、通称;完治) ?-? 江中後期;日向高千穂の岩戸村の庄屋、和漢学;敬神尊皇の志あり/勤勉/儉約家、村民に茶・椎茸栽培を奨励、妻;園女(和漢の学に長ず)、息子;霊太郎信贊のぶし(1814-97/歌人/書家/神道)/1832(天保3)信贊が家督嗣
成順(なりのぶ・高階) → 成順(なりより・なりのぶ・高階たかしな、廷臣/僧乗蓮) I 3 2 4 2
成信(なりのぶ・藤原) → 安成(やすなり・藤原;改名成信、詩歌) C 4 5 4 4
成信(なりのぶ・西村) → 有年(ありとし・西村にしむら/藤原、藩士/歌) I 1 0 2 2

- 齋信(なりのぶ・藤原) → 斉信(ただのぶ・藤原) F 2 6 5 2
 斉延(なりのぶ・藤原/齋藤) → 斉延(まさのぶ・藤とう/齋藤/藤原、神職) F 4 0 6 1
 成伸(なりのぶ・祝部) → 成伸(なりなか・祝部、/禰宜/歌人) H 3 2 8 5
 成寿(なりのぶ・富士谷) → 御杖(みつえ・富士谷、国学/歌学) 4 1 2 3
 体信(なりのぶ・青木) → 雲岫(うんしゅう・青木あおき、儒者/兵学) D 1 2 8 3
 業延(なりのぶ・大谷) → 栄庵(えいあん・大谷、天台僧/書/記録) C 1 3 4 9
- H3297 齊脩室(なりのぶのしつ・徳川とくがわ、名;美子、通称;峰姫、徳川家斉女) 1800-53 54歳 母;梶勝俊女お登勢、江戸城本丸の生;家斉の正室に養育される、1814水戸家鶴千代[齊脩]と結婚、1829夫没;峰寿院と号す、1822(文政5)「寄月懐旧」著
- H3298 成範(なりのり・祝部ほうりべ/はふりべ) ?-? 日吉社神主/歌:1263住吉/玉津島社歌合参加:成賢と
- H3299 成儀(なりのり・浅羽あさば) ?-? 江戸初期の系譜家、歴史書「桜雲記」著?
- N3271 凝式(なりのり・高木たかぎ、桔梗屋) 1790-1862 73 尾張名古屋の菓子商、歌人;氷室長翁ながとし門、儒・詩歌;河村益根門、1847香川景周(景恒/1823-65)に随行(長翁・三貫らも同行);関西の旅(景周;須摩日記入)、[凝式(;名)の字/通称/号]字;子当、通称;又兵衛(・桔梗屋)、号;震斎/堇園
- I3200 齊礼(なりのり・一橋ひとつばし、斉敦なりあつ2男/家名;松平/徳川/本姓;源) 1803-30 早世 28歳 母;野尻氏、幕臣;1814兵部卿/15従三位左近中将/16家督継嗣、27参議、「三院御集」入、
- I3201 成憲(なりのり・牧野まきの/字;子鋏、薄田長兵衛男/成武養嗣) 1819-69 51 備前岡山藩士/1849家督嗣、目付/近習物頭/郡代添役/1866国事周旋方、67奉還論主張:討幕派、「池田家履歴略記後編」著、[成憲の通称/号]通称;孝三郎/権六郎、号;柁軒だけん/柁翁
- K3229 斉憲(なりのり・上杉うえすぎ、斉定長男) 1820-89 70歳 母;畠山義周女、出羽米沢藩主、1836従四下侍従/式部大輔、1839(天保10)家督継嗣;米沢12代藩主;弾正大弼、1856左近衛権少将/59藩内に種痘推奨/64従四上;左近衛中将兼弾正大弼藩政改革;洋式軍隊訓練導入、1868戊辰戦に歎願書を提出;破棄され奥羽越列同盟の盟主、新政府軍と戦闘し敗北、維新後に領地を削減;家督を長男茂憲に譲り隠居、正室;山内豊資女の貞姫/継室;松平頼恕女の郁姫、歌:1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、[色も香もそのふに満ちて常盤木もおもがはりせる花のまさかり](大江戸倭歌;春238)、[斉憲(;名)の幼名/後名/通称/号]幼名;鶴千代/篤千代、後名;斉定(父と同名)、通称;喜平次/米沢中将、号;曦山
- 成章(なりのり・高階) → 成章(なりあきら・高階・歌人) H 3 2 0 0
 成範(なりのり・藤原) → 成範(しげのり・藤原成憲、歌人) C 2 1 7 8
 成範(なりのり・藤原) → 成範(しげのり・藤原、鎌倉期歌人) C 2 1 7 9
 成範(なりのり・寺村) → 成範(しげのり・寺村、藩側用人) S 2 1 1 9
 成教(なりのり・松井) → 成教(しげのり/なりのり・松井/源、随筆筆者) C 2 1 8 3
 成徳(なりのり・水無瀬) → 実徳(さねのり・園池/藤原/水無瀬、廷臣) L 2 0 2 4
- I3202 成春(なりはる・細川ほそかわ、持親男) ?-1485 室町戦国期;淡路守護/足利義政御伴衆、細川勝元側の武将、1470「細川系図」編
- 成元(なりはる・富士谷) → 御杖(みつえ・富士谷、国学/歌学) 4 1 2 3
- I3203 成尚(なりひさ・高階たかしな、宗成わねなり男) ?-? 鎌倉後期廷臣;蔵人/歌人:1300遺塵歌集17首入、成朝なりとも・成朝姉・新陽明門院兵衛佐・新陽明門院中将などの兄弟、[ふめば惜し越ゆべきすゑも花なればここにやけふの山路くらさむ](遺塵;春27、蔵人のころ永仁四年1296内裏御会に山路落花を)
- I3204 成久(なりひさ/しげひさ・祝部ほうりべ/はふりべ、成良男) ?-? 鎌倉後期日吉社禰宜;惣官、大蔵大輔/飛騨守、正四下、二条派歌人:1320大僧正桓守勸進「日吉社三首歌合」参加、「比叡社歌合」参加、続現葉・臨永・松花集・藤葉集(2首)入集、成国(なりくに/しげくに)の父、勅撰17首;新後撰(220/765/837)続千載(326/570/1183/1352/1761)続後拾(2首)以下、[みじか夜はあしまにやどる程もなしやがて入江の夏の月影](新後撰;三夏220)[前大僧正桓守すすめはべりける日枝社三首歌合に冬月を、つくばや山はやまの木の葉ちりはててさはる影なき冬のよの月](藤葉;冬326)

- 成寿(なりひさ/なりのぶ・富士谷) → 御杖(みつえ・富士谷、国学/歌学) 4 1 2 3
 成久(なりひさ・半田) → 門吉(もんきち/かどきち・半田、藩士/討幕論) I 4 4 1 8
 就姫(なりひめ・久我) → 美子(よしこ・久我が/細川、歌人) D 4 7 2 8
- 3228 業平(なりひら・在原ありわら、平城天皇皇子の阿保親王5男)825-880⁵⁶ 母;桓武天皇皇女伊豆内親王、
 826兄行平・守平・弟仲平らと在原姓を賜る/847藏人/右馬頭/879藏人頭、従四上右近権中将、
 文徳天皇皇子惟喬親王に近侍、棟梁・慈春の父、歌人:六歌仙の1、
 伊勢物語主人公とされ;斎宮怡子い内親王と密通;高階師尚(823-880)の実父?(伊勢物語)、
 色好みとして伝説化;虚実混同、家集「業平集」、菟玖波2句、
 勅撰86首;古今(30首53/63/133/268/294以下)後撰(10首224/252/以下)拾(381/728/1234)、
 新古(11首105/851以下)新勅(7首)続後撰(7首)続古(5首)玉(3首)続千(2首)以下、
 [ちはやぶる神代も聞かず龍田川からくれなゐに水くくるとは](古今;294)
 [業平(;名)の通称]在五中将/在中将/在五
 妻 → 有常女(ありつねのむすめ・紀、歌人) B 1 0 7 9
 登平(なりひら・源) → 登平(みちひら・源、歌人) C 4 1 3 4
 勢平(なりひら・吉井/由井) → 勢平(せへい・吉井/由井、歌舞伎作者) L 2 4 4 1
 業平艶美(なりひらえんび) → 艶美(えんび・在原ありわら、洒落本作者) F 1 3 3 2
 成平榻見(なりひらとうげん) → 艶美(えんび・在原ありわら、洒落本作者) F 1 3 3 2
- K3202 成平妻(なりひらのつま・賀茂かも)?- ? 賀茂成平(賀茂社の司)の妻、政平の母、
 歌;1155-6寂超「後葉集」1首入(清輔「続詞花集」にも入)、
 [山里の石井いほの水は水草みくさみて見えけんものをすまぬけしきは](後葉集;雑523、
 賀茂社に成平を訪ねるといえないとの返事/のちに居留守を使ったと聞き詠む)
 業平母(なりひらのはは) → 伊豆内親王(いとないしんのう) B 1 1 7 1
- I3206 成広(なりひろ/しげひろ・祝部ほうりべ/はふりべ、成国男)?-? 南北室町初期神職;日吉小比叡禰宜/五位、
 成光なりみつの弟、歌;新後拾遺673、
 [時鳥まだ里なれぬほどなれや聞きぬと語る人の少なき](新後拾;雑春673)
- I3207 斉熙(なりひろ・毛利もうり、熙成/憲熙、治親男/兄斉広なりひろ養嗣)1783-1836⁵⁴ 長門萩藩主;1809襲封、
 藩政に村田清風登用/銃陣「神器陣」を編成/1824隠居、俗謡作者、1816「はなむしろ」著、
 [斉熙(;名)の号]号;蘭斎/蘭腕らんえん/露朝/三夕堂/柏堂、法号;成徳院
- I3208 斉裕(なりひろ・蜂須賀はちすか、徳川家斉22男)1821-68⁴⁸ 蜂須賀斉昌の養子;阿波徳島藩主;1843襲封、
 中将/淡路守/阿波守、養父の時藩財政悪化;一揆発生/襲封当初から財政改革に取り組む;
 藩士知行の削減/特産の藍商人の献金を求める/洋学兵学の奨励;淡路島に砲台建設、
 1862-3幕府陸海軍総裁;出費嵩み財政破綻寸前、幕末期藩論が統一せず;新政府から軽視、
 正室;標子(鷹司政通女)、息子茂韶が家督嗣、「阿州侯建白」著、
 歌;井上文雄/加藤千浪門、没後歌集「うづがもと」刊、1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、
 [卯の花の下行く河に水かへば駒の立髪雪ぞつもれる](大江戸倭歌;夏413/卯花蔵水)、
 [斉裕(;名)の通称/号]通称;松菊/淡路守/阿波守、号;橘堂/翼斎/橘園/大竜公
- K3262 業広(なりひろ・仁瓶にい) ?- ? 江後期;歌人、
 1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、
 [くやしくも袖ぞふれぬる月草のうつろひ安きいろと知らずに](大江戸倭歌;恋1565)
- L3280 業広(なりひろ・神原かんばんら、友子ともゆき長男)1823-67⁴⁵ 阿波那賀郡の酒造業;高石屋、国学・歌;父門、
 [業広(;名)の字/通称/号]字;子勤、通称;五郎右衛門(父の称)、号;杉堂/杏花邸舎/舎芳
- M3210 業広(なりひろ・小西こにし)1824- 1879⁵⁶ 撰津伊丹の国学者、中村良臣の伊丹家塾に入門、
 のち国学・歌;中島広足門、
 [業広(;名)の通称/号]通称;新右衛門、号;雪屋
 斉広(なりひろ・毛利) → 斉広(なりとお・毛利、藩主) H 3 2 7 1
 業広(なりひろ・木下) → 籬村(いそん・木下、儒者/詩人) E 1 1 1 2
 業広(なりひろ・大谷) → 永庵(えいあん・大谷、天台僧/書家) C 1 3 4 7
 業広(なりひろ・山田) → 椿庭(ちんてい・山田、医者/詩) K 2 8 9 2
 成広(なりひろ/しげひろ・守屋) → 中洲(ちゅうしゅう・守屋もりや、藩士/詩文) G 2 8 2 2
 成裕(なりひろ/しげひろ・菊池) → 長良(ながよし・菊池きくち、和算家) G 3 2 4 6

- 齊溥(なりひろ・島津/黒田)→ 長溥(ながひろ・黒田、藩主/連歌) F 3 2 5 9
- I3209 就房(なりふさ/たかふさ・杉岡すざおか、長次男)1624-1706 83歳 長門萩藩士/宝庫預役、
古文書/記録などを通覧;1702「吉田物語」編(;毛利3代の事蹟)、「松井物語」編、
[就房(;名)の通称/号]通称;権之助、号;空潭是心
成房(なりふさ・市江) → 鳳造(ほうぞう・市江いちえ、藩士/陶工) G 3 9 4 2
- I3210 成藤(なりふじ・しげふじ・二階堂にかいどう/本姓;藤原、四郎左衛門盛行男)?-? 1349存 建武期の廷臣、
二階堂時藤の養子、従五下/美濃・越中権守/安藝・三河守、建武新政府の武者所に出仕、
1344「高野山金剛三昧院奉納和歌短冊」入、歌/勅撰2首:風雅1613/新拾遺1840、
[こほりても音はこのれる水無瀬川したにや水のありてゆくらむ](風雅集;雑冬1613)、
[六の道いつかは出でん小車のわづかなる世に又むなれぬる](金剛三昧院歌;21む)、
[成藤(;名)の通称] 六郎左衛門尉
- I3211 成藤(なりふじ/しげふじ・祝部ほりべ/はふりべ、成増男)?-? 南北期神職;日吉社権神主/五位、
歌;新拾遺1196、
[うらむるもしたふも同じ涙にて逢ふ夜はさへにぬるる袖かな](新拾;恋1196)
成文(なりふみ・富士谷) → 元広(もとひろ・富士谷、国学) E 4 4 1 7
成文(なりふみ・牧野) → 竹所(ちくしょ・牧野、幕臣/詩人) D 2 8 1 8
- I3212 濟政(なりまさ・源みなもと、本名;頼時、時中男)?-1041 母;安親女、信濃・播磨・丹後守/源家流催馬楽;
笛・箏・和琴・郢曲、蹴鞠、歌人;1035賀陽院水閣歌合参加、
息子;資通(すけみち)、息女;藤原政兼妻(隆禅母)・敦貞親王妻(藤原宗家母)・
藤原能長室(女御通子、基長母)・藤原信家室・藤原定頼室(経家母)
- J3282 成政(なりまさ・佐々きさき、成宗男)1538-1588切腹51歳 安桃期尾張比良城武将/信長家臣;
冬の黒部越え/富山受封、秀吉に敗戦/肥後移封;一揆発生の罪を問われる;尼崎で切腹、
歌;[何事も変りはてたる世の中を知らでや雪の白く降るらむ]、
(松平春嶽[古今百人一首]入;42)
- I3213 就正(なりまさ・長屋ながや/通称太郎左衛門、出家号;宵郷)?-? 室町末/江戸初期長府毛利氏家臣、
毛利三代に出仕/朝鮮出征軍功、元就の軍功筆録、「長屋太郎左衛門覚書」著
- K3209 成政(なりまさ・細川ほそかわ) ? - ? 江前期和泉堺の俳人、1676西鶴「俳諧師手鑑」入、
[人も汗もしばしとゞまる清水哉](手鑑、
新古今;夏262西行;道の辺に清水流るゝ柳蔭しばしとてこそ立ちどまりつれ)
- P3215 成政(なりまさ・安岡わやすおか、通称;肥前)1622-1692 71 佐渡相川の大山祇神社祠官、
神道;橋三喜みつよし門/歌;小倉実起・公連きんつら(1681父子で佐渡配流)門、
歌;[佐渡名勝志](小倉実起との唱和入)・[鳥跡後集新哥さざれ石]28首入、
[しら露の枝よりつたふ春雨に下草かけて梅が香ぞする](梅の歌/さざれ石)
[ふる雪は積りにけりなしら鳥の鳥羽山松の枝をもるまで](松上雪/さざれ石)
- I3214 成理(なりまさ・木本きもと、別号;成貞、道成男)1698-1771 74 会津藩士/1710小姓役/江戸留守居役、
垂加神道;跡部良頭門/藩主松平正容侍講/1765若年寄、軍学;岡田正勝門;長沼流佐枝派、
神道;玉木正英門、大目付/御用人を経て若年寄、木本成勝の孫/成善なりよしの父、
「清浄集」「珍瓏集」「亦一篇」「泉津草」「木本氏雑記」「夷子大黒記」著、
[成理(;名)の通称/号]通称;梶之助/左衛門/総[惣]五郎/九郎左衛門、
号;春山[子]、神号;春山霊社(正親町公通より授与)
- I3215 齊政(なりまさ・中尾なかお/通称甫、号;白圭)?-? 江中期安芸和算;藤井直好門、1738「算学便蒙」
- I3216 齊政(なりまさ・池田いけだ、初名政久、幼名;木工之丞/通称;新十郎/、治政はるまさ2男)1773-1833 61歳、
鳳台院(酒井忠恭女)/江戸藩邸の生、1794父隠居;備前岡山第6代藩主襲封、
岡山藩池田家宗家8代、改名;齊政、従四位下/上総介/近衛権少将、
儉約財政断行/文化振興/有能な人材登用、正室;絲子(伊渡子、池田重寛の娘)、
息子齊輝・孫本之丞・弟政芳長男齊成が次々早世;
薩摩藩主島津斉興男の久寧(為政、斉敏)を婿養子とす;1829隠居、32「齊政公日記」著、
法号;観国院
- I3218 齊匡(なりまさ・田安たやす、一橋治済男/本姓源・松平・徳川)1779-1848 70 1787田安家を嗣、
1827権大納言、1827剃髪号;三玄翁、画;住吉派、「月の余波なごり」著

息女；尾張藩主徳川斉荘なりたかの室・松平定通さだみちの妻（鑿子こし/貞寿院；歌人）

- I3219 **業雅**（なりまさ・祝部ほうりべ/はふりべ/生源寺しょうげんじ、業蕃なりしげ男）1797-1856⁶⁰ 神職；近江日吉神社社司、1849従三位、皇学を研究/歌人、業功なりりの父、1831「桂林集」編、「日吉社群書」編
[業雅（；名）の通称]三位/宿禰/伊勢守
業尹（なりまさ・藤原） → 業尹（なりただ・藤原、廷臣/歌人） H 3 2 5 3
斉正（なりまさ・鍋島） → 直正（なおまさ・鍋島なべしま、藩主/詩歌） C 3 2 4 7
成昌（なりまさ・中林） → 竹洞（ちくどう・中林、絵師/儒詩/歌） D 2 8 6 0
就正（なりまさ・沢さわ/小原） → 峯山（とうざん・小原おほら、医/本草） E 3 1 6 0
斉匡女（なりまさのむすめ・田安） → 斉荘室（なりたかのしつ・徳川、日記） H 3 2 5 0
- I3220 **成益**（なります・伴とも/姓かばね；宿禰、宇治人男）789-852⁶⁴ 漢学；紀伝道に修学/823文章生/844左中弁、846法隆寺僧善愷の告訴事件で解任/850丹波権守、詩；経国集入
- I3221 **成益**（なります・大江） ? - ? 連歌；1356成立「菟句波集」入1句
成麿（なりまる・佐成） → 千尋（ちひろ・佐成さなり/藤原、藩士/歌） M 2 8 6 0
- 03213 **成己**（なりみち・中村なかむら、通称；隼太）?-1904 播磨竜野藩士、国学者、のち竜野神社祠官
- 3229 **成通**（なりみち・藤原ふじわら、初名；宗房、宗通男）1097-? 1160存 母；藤原頭季女、廷臣；1131参議、1143正二位/56大納言/白河側近/蹴鞠の名手、1159出家/法名；栖蓮、多芸多才；馬術・笛等、今鏡・古今著聞集・発心集等に才・人柄など入、1195「成通卿口伝日記」（：蹴鞠）、歌人；1134中宮亮頭輔歌合参加、家集「成通卿集」、後葉・続詞花・言葉・和漢兼作・月詣・万代集入、勅撰24首；金葉（6首27/63/300/400/452/674）詞花（196/377）千載（4首）新古（622）続古以下、[声せずはいかで知らまし春霞へだつる空に帰るかりがね]（金葉；一春27/帰雁）、[たぐひなくつらしと思ふ秋の夜の月を残して明くる東雲]（続詞花集；秋178）
- I3222 **就道**（なりみち・奥村おくむら）1751- ? 1810存 上州館林藩士/文筆家、菅茶山/頼山陽/大塩中斎らと交遊、1810「雙鶴帖」著
- P3205 **成道**（なりみち・門司もじ、通称；右京/陸奥介）1759-1831⁷³ 筑前遠賀郡下底井野村の神官/国学者
- I3223 **就道**（なりみち・丹たん/字；子正、通称；与一郎/市郎兵衛）1778-1825^{48歳} 水戸国学者；1804彰考館入、「万葉集作者部類」「百姓教訓書」、1815「曝井并手綱浜古歌考」著
- I3224 **斉通**（なりみち・二条にじょう、一字名；藤、治孝男/本姓藤原）1781-98^{夭逝18歳} 母；水戸藩主徳川宗翰女、内大臣/従二位、1797「内大臣兼左大将御拝賀次第」著
- 03231 **成道**（なりみち・馬場ばば、）1833-1914⁸² 陸奥仙台藩士/儒・国学・歌；佐藤直翁ちよくおう門、のち桜岡大神宮社司、
[成道（；名）の通称/号]通称；昇/能保留のぼる、号；桃翁/桃乃舎
- I3225 **齐光**（なりみつ・大江おおえ、維時男）938-987^{50歳} 母；藤原遠忠女、平安期廷臣；蔵人頭/981参議、式部大輔/左大弁/正三位、冷泉～一条天皇の侍読、歌；960内裏歌合参加
- I3226 **成光**（なりみつ・しげみつ・姓不詳）?- ? 平安後期歌人、連歌；1127成立「金葉集」（664）；
[奥おくなるをもやはしらとはいふ ; 成光/詞書；はしらを見て/端と柱を掛る、
見わせば内にもとをばたててけり ; 観暹かんせん法師/戸と外を掛る]
- I3227 **成光**（なりみつ/なるみつ/しげみつ・祝部ほうりべ/はふりべ、成国男）?-? 1394存 神職；日吉社小比叡禰宜/宮内少輔、従四下、成広の兄、成詮なりあき/成胤の父、歌人；1367新玉津島社歌合・二条為遠家歌会参加、勅撰11首；新千載（1427）新拾遺（627/915）新後拾（328/485/1058/1106）新続古（4首）、
[しらせばや名残はなほも有明のつきぬ心にあまる涙を]（新千；恋1427）
- L3259 **集光**（なりみつ・笠原かさばら、）1841-1887⁴⁷ 阿波徳島の神職；一宮大明神の大宮司、国学者、
[集光（；名）の通称]五十鈴/豊後守
業光（なりみつ・日野） → 宗順（そうじゅん；法諱、歌人/連歌） F 2 5 0 9
均光（なりみつ・柳原） → 均光（なおみつ・柳原やなぎわら/藤原、大納言/歌） C 3 2 6 6
- I3228 **成宗**（なりむね・しげむね・藤原ふじわら、信季男?）?-? 鎌倉期廷臣；1205従五上/弾正少弼、歌人；1195九条良経家五首歌会参加、良経家詩歌行事に参加、万代集入、勅撰3首；新勅撰（60/249）/続後撰（985）、
[花なれや外山とやまの春のあさぼらけあらしに香る峰の白雲]（新勅；春60、九条良経家五首歌の詠）
- I3229 **成宗**（なりむね・しげむね・荒木田あらかた）?-? 鎌倉期伊勢の神職；内宮権禰宜、

歌;1295頃「伊勢新名所絵歌合」参加

[桜木の名におふりの春風にをらぬ袂も花の香ぞする](新名所絵合;桜木里 四番左)

- I3230 **齊宗**(なりむね・伊達だて、齊村なりむら2男)1796-1819早世24歳 母;喜多山藤蔵美昭女の信、江戸の生、1812兄周宗ちかむね没;仙台10代藩主を襲封、従四下/左近権少将/陸奥守、劍術;狭川新之丞門/槍術;諏訪万右衛門門、詩歌;大槻平泉・志村蒙庵を侍講とす、歌;家集「羨花和歌集」、詩文「雉矢ちし篇」、「英山公御会集」「つれづれのすさみ」著妻;紀伊大納言徳川治実女の信子、養子;齊義なりよし(娘芝姫[藜子げた]の婿;11代藩主嗣)、1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、
[いひいでん世のためしとやきりつぼのひとかたならぬ中の契りは]、
(大江戸倭歌;雑1988/源氏物語の桐壺巻を)、
[齊宗(;名)の幼名/初名/号/法号]幼名;徳三郎/総次郎、初名;徳純/宗純、号;英山、法号;広徳院

- I3231 **齊村**(なりむら・伊達だて、重村2男)1774-96早世23歳 江戸の生/1783陸前仙台藩の世子、1790襲封;仙台8代藩主;従四下左近権少将/美作守/陸奥守、1796(寛政8)江戸よりの帰途病氣;帰国後没、周宗ちかむね/齊宗なりむねの父、詩文;大槻平泉を侍講とす、「桂山様御詠」、「雉矢篇」著、
[齊村(;名)の幼名/初名/号/法号]幼名;式三郎/総次郎、初名;祝村、号;桂山、法号;永慶院

齊村(なりむら・多田) → 麦洲(ぼくしゅう・多田ただ、医者/俳人) D 3 6 3 1

成茂(なりもち・祝部) → 成茂(なりしげ・祝部はふりべ、神職/歌人) H 3 2 3 8

- I3232 **成元**(なりもと/しげもと・橘たちばな、忠元男?)?-? 1091存 平安前中期廷臣;従五下/1081近江少掾、歌;1058(天喜6)公基歌合/72気多宮歌合(藤原通宗催)/91(寛治5)従二位親子草子合参加、源俊頼と連歌(散木奇歌集)、勅撰2首;後拾遺(137)金葉(108)、能因の裔?/能元(栄職ひでより?)の兄弟?、続詞花集入、
[桜花道みえぬまで散りにけりいかがはすべき志賀の山越え](後拾;春136/山路落花、京北白河から志賀峠を越え志賀寺崇福ちうぶく寺に抜ける道)
[通宗朝臣(藤原/1040?-84)家にて 五月雨をよみ侍りける、
さみだれはみづののはらもなかりけりいづれか淀のわたりなるらん](続詞花;夏131)
[成元(;名)の号] 和歌橘大夫/馬大夫/鳥大夫/鳥橘太、

- I3233 **成元**(なりもと/しげもと・藤原ふじわら)?-? 平安後期廷臣;散位/歌;1091左近中将宗通歌合参加、
[草枕しのだの森に旅寝して山ほととぎすひとこゑぞきく](宗通歌合;郭公左)

- 03224 **成意**(なりもと・野口にのぐち、通称;九郎右衛門)?-? 陸奥会津藩士/神道;木本成善(1735-1801)門、会津藩心学師

- I3234 **成基**(なりもと・富士谷ふじたに、字;弘之/通称;民三郎、成章男?)1774-? 江後期産科医;賀川蘭齋門、1792「土佐日記抄」「二南訓闡」/1810「教偏産言」著

全故(なりもと・たけもと・柏木) → 素龍(そりゅう、歌/俳/書;ほそ道浄書) E 2 5 5 0

成元(なりもと・細谷) → 成元(せいげん・細谷/柳夏、俳人) B 2 4 3 2

成元(なりもと/なりはる・北辺きたのべ/富士谷) → 御杖(みつえ・富士谷、国学/歌学) 4 1 2 3

成職(なりもと・祝部) → 成職(なりより/なりもと・祝部はふりべ、神職/歌) I 3 2 4 4

- I3235 **齊護**(なりもり・細川ほそかわ、号;立之たつゆき長男)1804-6057歳 母;土井利厚女の富、1818父の遺領継嗣;宇土藩主/1826宗家に望まれ肥後熊本藩主細川齊樹の養子;熊本藩主;襲封/中将、藩財政困窮/実学党と学校党の対立などに苦慮、学問の奨励、国学者を庇護/歌人、1932「道の記」、「詩文稿」著、遺草「陽春集」著、歌;1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、

[逢坂の関の杉むら打ち霞み越えて一夜に春は来にけり](大江戸倭歌;5関立春)

[齊護(;名)の幼名/初名/号]幼名;与松、初名;立政たつまさ、号;松窓、法号;泰巖院(泰源院)

- I3236 **成保**(なりやす・賀茂かも、成忠男)?-? 1165存 平安後期神職;1162片岡社祝/四位、1165出家歌人;千載5首;68/188/374/428/992、続詞花集2首入、
[さみだれの雲のたえまに月さえて山ほととぎす空に鳴くなり](千載集;夏188)
[友のなくなりけるに あとなる人の許へ、

誰とてもとまりはつべき身ならねどまづは先だつ人ぞかなしき] (続詞花; 雑909)

成安(なりやす) → 成安(せいあん・正法寺、俳人) 2 4 5 3

I3237 齊泰(なりやす・前田まゐだ/松平、齊広なりなが男/本姓; 菅原) 1811-8474 母; 栄操院、加賀金沢藩主;
1822襲封/正二位/若桜守/加賀守、藩政改革; 老臣奥村栄実や黒羽織党など改革派を登用、
佐幕政策; 公武間を調停/1866致仕/68倒幕が優勢になると積極的に政府軍を支援、東京住、
「鶯蛙老公之狂歌」「申樂免廢論」著、謡曲「雷電」改作、1830-36「温敬公日記」著、各種書簡、
[齊泰(;)名)の幼名/初名/通称/号]幼名; 勝千代/勝丸/犬千代、初名; 利候、通称; 又左衛門、
号; 梅阜/後凋/三華翁/棄世道人/球外道人、諡号; 温敬公

P3263 成行(なりゆき・荒木田あきだ、延広男?)?-? 平安鎌倉期; 伊勢内宮神職/歌人、
1233刊[御裳濯集]2首入、
[むらさめのすぐるを野辺の雲まより山郭公こゑもらすなり](御裳濯集; 春222)

I3238 齊敬(なりゆき・二条にじょう、斎信男/本姓藤原) 1816-7863 廷臣; 藤原氏最後の摂政、1831権大納言、
安政大獄連座/1859内大臣/62右大臣; 公武合体派確立/63左大臣/67明治天皇摂政、
「二条摂政記」、歌集「相談詠草」、「右大将御拝賀御着陣等次第」著

成之(なりゆき・細川) → 成之(しげゆき・細川、連歌) D 2 1 2 6

成之(なりゆき・佐々; 変名) → 正雄(まさお・丹羽、農家/廷臣/勤王家) B 4 0 4 2

I3239 成良(なりよし/なりなが・成定なりさだ・荒木田あきだ、蓮上れんじょう、成長2男) 1164-? 1193存 伊勢神職、
1182内宮禰宜/従四上、1193出家; 蓮上、長延ながのぶの兄、娘(成定女)も歌人、
歌人: 千載1245(蓮上法師名/俗名成実なるさねとある)、1233刊[御裳濯集]3首入、
[日のひかり月のかげとて照しける暗き心の闇晴れよとて](千載; 1245、
神力品の如日月光明、能除諸幽冥の心を詠む)

[二見百首歌中に藤袴をよめる、蓮上法師、

ふちばかま秋のものせにたつ霧のたえまにみればほころびにけり](御裳濯集; 秋324)

L3282 成善(なりよし・木本きもと、成里なりまさ2男) 1735-180167 陸奥会津藩士; 若年寄、神道; 父門、
[成善(;)名)の通称/号]通称; 九郎左衛門、号; 積山翁、神号; 継彦霊神

03279 就祥(なりよし・益田ますだ、毛利家家老益田広堯ひろあき男) 1743-9856 長門阿武郡の生、
1765(明和2)父没; 家督嗣; 長州藩加判役(家老)/留守居役、1778(安政7)長州藩永代家老・
須佐領主益田家10代、国家老として藩財政改革; 1783撫育方収入繰入等/藩主の不興;
罷免逼塞、1784(天明4)赦免; 隠居、家督を嫡男就恭が嗣、和学者、
正室; 実松波信濃守光資女(毛利広定養女)、
[就祥(;)名)の通称/号]通称; 喜三郎/越中/又兵衛、号; 佐江

I3240 成美(なりよし・和気わけ、成高男) 1756-182065歳 江中期医者: 17785家督/大和守/典薬頭、
1775「海亭夕話」校、「西遊詩草」著

N3270 齊義(なりよし・伊達だて、一関藩主田村村資4男) 1798-182830 母; 脇坂安親女阿琴、江戸生; 一関住、
1819仙台藩の摂関/仙台10代藩主齊宗女と婚約; 婿養子として陸奥国仙台藩11代藩主、
伊達家27代当主、従四下/左近衛権少将、陸奥守、伊達藤次郎宗義に改名/更に齊義に改名、
1826(文政9)齊宗女の芝姫(藜子)と婚礼; 1828(文政11)没/後継問題; 養子齊邦が家督嗣、
正室; 芝姫(藜子しげこ)/側室; 美寿(砂沢定栄女)・恒子(山本敬勝女/13代藩主慶邦の母)、
[齊義(;)名)の別名/通称/諡]別名; 顕嘉あきよし/宗義、通称; 吉五郎/石見/藤次郎/陸奥守、
諡; 正山公

L3227 成美(なりよし・上田うゑだ、通称; 鉉作) 1826-17247 近江彦根藩士、歌人; 長野義言門、
歌; [鳩のうみ]入

L3272 就義(なりよし・河合かい、旧姓; 伊東) 1830-9768 備前岡山の神職; 安仁あに神社宮司、伊東正直の弟、
国学・歌人; 業合大枝・上田及淵門、
[就義(;)名)の通称] 源五郎

I3241 成美(なりよし・水本みづもと、字; 君之、通称; 保太郎、号; 樹堂) 1831-8454 鹿兒島藩士/儒; 西島城山門、
明清律の研究、1868昌平黌教授、「禺于日録」「武家職官考」著

N3229 成美(なりよし・清水しみず、号; 梅莊/一文不知翁) 1845-191874 伊勢員弁郡の国学者; 富樫広蔭門
詩歌人、「梅莊詩鈔」著

成良(なりよし・祝部) → 成良(なりなが・祝部はふりべ、神職/歌人) H 3 2 8 7

樂美(なりよし・田中) → 金峰(きんぼう・田中たなか、詩人) I 1 6 2 7

I3242 成順(なりより・**なりのぶ**・高階たかしな、法名; 乘蓮、明順男) ?-1040 母; 中将尼、平安中期廷臣; 藏人、1009(寛弘6)父明順と叔母高階光子が呪阻事件の首謀者として糾弾; 父は没、1025(万寿2)筑前守、道心深く日夜法華經を誦読; 任国先で慈悲深く民は喜んだという、母の中将尼(源清時女)が任地筑前を訪ね管崎を参詣(後拾遺集入)、1030(長元3)帰京; 出家; 乘蓮、自邸付近に仏堂を造り各地の高僧を招く、1040(長暦4)没、成忠なりただの孫、経重の兄、

妻 → 伊勢大輔(いせのたいふ1008-60頃) 1 1 1 4

[成順女(なりよりのむすめ)]

①藤原寛子女房(延信王妻・基房妻・忠俊と交渉、康資王母/郁芳門院母、後拾遺歌人)

→ 康資王母(やすすけおうのは) 4 5 2 2

②俊子内親王家女房(筑前乳母、後拾遺歌人)

→ 筑前乳母(ちくぜんのみめと) D 2 8 3 2

③源兼俊母(後拾遺歌人) → 兼俊母(かねとしのは) F 1 5 7 1

④藤原季綱母(太皇太后宮大進惟経妻)

⑤藤原成尹母(越中守令尹妻)

⑥藤原正季母(駿河守親信妻); 参照 → 正季(まさすえ) C 4 0 8 2

⑦藤原通宗母(太宰大貳経平妻?); 参照 → 通宗(みちむね・藤原) 4 1 2 0

I3244 成職(なりより/なりもと・祝部はふりべ) ?- ? 鎌倉期日吉社禰宜/従四下、歌; 比叡社歌合参加、[咲き続く色をば雲にまがはせて香かはかくれなき山桜かな](比叡社歌合; 六番右)

[成頼(;名)の号/法名]号; 高野宰相入道、法名; 智成/空親

成頼(なりより・葉室/藤原) → 成頼(しげより/なりより・藤原、廷臣/平家作者?) D 2 1 3 9

済(成なる・北原) → 秦里(しんり・北原きたはら、藩士/詩/画) Q 2 2 0 4

鳴子庵(なるこあん・川崎屋) → 稻井(とうせい・鳴子庵、俳人) F 3 1 9 1

成実(なるざね・荒木田) → 成良(なりよし・荒木田/蓮上、内宮禰宜/歌) I 3 2 3 9

成瀬翁(なるせおう) → 虚庵(きょあん・渋川/板部/万里小路/王、絵師) N 1 6 0 8

鳴滝(なるたき/めいろ) → 実業(さねなり・清水谷/藤原/三条西/堀、権大納言/歌) 2 0 4 4

鳴滝音人(なるたきのおとんど) → 音人(おとんど・鳴滝、狂歌) 1 4 9 8

鳴滝大納言(なるたきのだいなごん) → 忠良(ただよし・藤原、廷臣/歌人) G 2 6 0 2

鳴滝法印(なるたきのほういん) → 道禅(どうぜん; 法諱、真言醍醐寺座主) G 3 1 2 1

I3245 愛親(なるちか・中山なかやま、字; 仁甫、栄親男/本姓藤原) 1741-1814 母; 勸修寺高頭女、廷臣; 1761参議/74権大納言正二位、尊号事件で幕府と対立/閉門; 中山夢物語として流布、歌; 正親町実連門、忠尹ただまさ/續子の父、

「中山愛親卿記」「中白問答」「六義園全図」「富子立皇太后記」「神宮上卿記」著、

[愛親(;名)の号] 惜陰堂/雲裳存庵

愛親(なるちか・山本) → 菰園(みえん・山本やまと、儒者/書画) 4 1 5 2

鳴門(なると・田中) → 鳴門(めいもん・田中、儒者/詩人) 4 3 3 9

鳴門(なると・井川) → 鳴門(めいもん・井川、絵師) 4 3 4 0

鳴門(なると・荒井) → 鳴門(めいもん・荒井、儒・詩人) 4 3 4 1

N3230 功長(なるなが・滋岡しげおか、飛鳥井雅光2男) 1804-87 大坂天満宮神主滋岡家の養子; 12代継嗣、国学; 敷田年治門・歌学; 有賀長隣門、大塩の乱で焼失の満宮神影を光格天皇に誓願、社殿再建に尽力

I3246 愛長(なるなが・甘露寺かんろじ/本姓; 藤原、法号; 融心、国長2男) 1807-59 母; 上冷泉為章女、江後期廷臣、1847参議正四上/57権中納言/58正二位、

「愛長卿記」「青馬宴申沙汰記」「愛長卿記」著、各種備忘記録多数

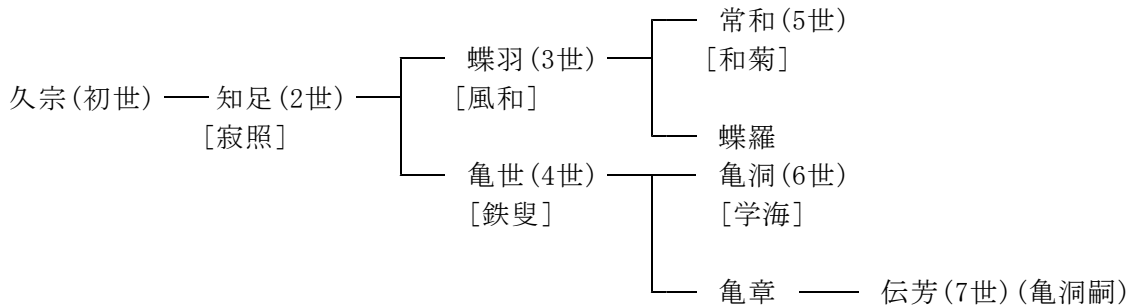
鳴海(なるみ・荒瀬) → 安船(やすふね・荒瀬あらせ、商家/国学/歌) E 4 5 8 6

成光(なるみつ・祝部) → 成光(なりみつ・祝部、神職/歌人) I 3 2 2 7

鳴海の千代倉家(なるみのちよくらげ); 尾張鳴海の醸造業で産を成した下里家、蝶羽の代から下郷、千代倉は屋号; 初世は久宗、2世知足から俳諧を趣味とした家系、

2世 → 知足(ちそく・下里、寂照) E 2 8 6 1

3世	→	蝶羽(ちょう・下里/下郷、風和)	H 2 8 2 6
4世	→	亀世(きせい・下郷、鉄叟)	B 1 6 3 4
5世	→	常和(じょうわ・下郷、和菊)	C 2 2 2 0
5世弟	→	蝶羅(ちょうら・下郷、鈴波)	K 2 8 0 7
6世	→	亀洞(きどう・下郷、学海)	B 1 6 5 7
7世	→	伝芳(でんぼう・下郷)	E 3 0 3 1



鳴海六俳仙 (なるみろくはいせん) ; 尾張鳴海を中心として活躍した芭蕉門下の俳人6人

→	知足(ちそく・下里)	E 2 8 6 1
→	如風(じよふう・文英和尚)	C 2 2 9 3
→	業言(ぼくげん・寺島)	D 3 9 0 5
→	自笑(じしやう・岡島)	E 2 1 0 8
→	重辰(じゅうしん・児玉)	2 1 4 5
→	安信(安宣やすのぶ・寺島)	C 4 5 5 6

苗代(なわしろ) → 苗代(びやうだい、俳人) I 3 7 0 5

縄直(なわなお・土屋) → 縄直(ただなお・土屋つちや/源、幕臣/歌) U 2 6 0 6

I3247 **縄正** (なわまさ・相良さがら、初名; 正縄/字: 子木/通称; 十太夫、号; 光寛、平吉男) 1739-9860 庄内藩士、武芸指南; 無極流槍術/柔術/弓術、刀剣甲冑鑑定、笛/琴に通ず、1763「槍法全書」、「茶呑咄」「豆蔵天狗」著

3226 **縄麿** (なわまる・内蔵くら/姓; 忌寸いみき) ?-? 奈良期廷臣/官人; 745大蔵少丞/47越中介、54造東大寺司判官、越中時代家持と交遊、歌; 万葉四期4首; 3996/4087/4200/4233、4230左注/4250題詞/4251題詞 [我が背子が国へましなばほととぎす鳴かむ五月はさぶしけむかも] (万葉; 十七3996、748(天平20)四月廿六日越中掾大伴池主の館むろつみで税帳使家持を餞する歌)

I3248 **南阿** (なんあ、海老名南阿彌えびなのなみ) ?-1381 足利義満の同朋衆/連歌作者: 救済門?、観阿弥・一忠を重視、曲舞「東国下(海道下)」「地獄」作曲、1356-70紫野千句参加(; 18句・うち第六発句)、菟玖波集2句入、御伽草「猿源氏」のモデル、[雪はるゝそなたの山は見えながら] (菟; 雑1201/前句; 霞に出る日こそ遅(遠)けれ)

楠庵(なんあん) → 紫笛(しき・如雲舎、黄檗僧/狂歌) F 2 1 2 1

I3249 **南陰** (なんいん・杉浦すぎうら、名; 正臣、重文男) 1848-8639歳 近江膳所藩校遵義堂の教官、儒; 岩垣月洲門、「楠陰残壁」著、[南陰(; 号)の通称]通称; 退蔵

南院国師(なんいんこくし) → 祖円(そえん・規庵、臨濟僧) D 2 5 3 6

I3250 **南院式部卿親王女** (なんいんしきぶきょうのみこのむすめ、貞保親王女or是忠親王女?) ?-? 平安前期歌人; 元長親王[陽成の皇子?-976]と恋、後撰1054; 親王に夏の装束を贈る時の歌 [わがたちて着るこそうけれ夏衣おほかたとのみ見べき薄さを] (後撰集; 恋1054)

貞保親王は清和天皇皇子、是忠親王は光孝天皇皇子(源宗于むねゆきの父)

南院式部卿宮(なんいんしきぶきょうのみや) → 貞保親王(さだやすしのう、管弦/神楽) C 2 0 5 9

南院式部卿宮(なんいんしきぶきょうのみや) → 是忠親王(これただしんのう、歌人) E 1 9 2 7

楠蔭書屋(なんいんしよおく) → 箕山(きざん・塩谷しおのや、儒者/幕臣) J 1 6 1 1

南院阿闍梨(なんいんのあじり) → 維範(ゆいはん; 法諱、真言僧) 4 6 4 4

南院宮(なんいんのみや) → 是忠親王(これただしんのう、源宗于父/歌) E 1 9 2 7

南雲斎(なんうんさい・三輪) → 表秀(あきひで・三輪、歌人) D 1 0 8 2

- I3251 **南英**(なんえい;道号・周宗しゅうしゅう;法諱、俗姓;秦)1363-143876歳 武州の臨濟僧;古天・白崖門、近江香積寺を開山/建長寺住持、「香積南英集」「南英和尚語録」著
- I3252 **南英**(なんえい;道号・謙宗けんしゅう;法諱、俗姓;藤原)1387-145973 薩摩の曹洞僧;傑堂門、五位思想、1435-9入明、1446越後弥彦山に種月寺を開く、49「洞上雲月録」編/「五位」編
- I3253 **南栄**(なんえい) ? - ? 伊勢山田の俳人;1633重頼「犬子集」2句入、
[蜘蛛も家の虹梁こうりやうにひけ糸柳](犬子集;一260/虹梁は反りを持たせて造った梁)
南英(なんえい;法諱) → 道庵(どうりゅう;法諱、真宗本願寺派僧) I 3 1 2 8
南英(なんえい・南部) → 行信(ゆきのぶ・南部なんぶ、藩主/歌人) F 4 6 2 1
南園(なんえん・吉成) → 信貞(のぶさだ・吉成よしなり、藩士/記録) B 3 5 4 9
南園(なんえん・平松) → 理準(りじゅん・平松ひらまつ、真宗大谷派僧/詩歌) L 4 9 8 6
南園(なんえん・村山) → 漢古(かんこ・村山むらやま、役人/漢学/詩歌/教育) V 1 5 9 6
南淵(なんえん・竹内) → 恭通(たかみち・竹内たけうち/古川、国学) Y 2 6 0 8
楠園(なんえん・館) → 通因(みちよし・館たち、藩士/国学/詩歌) J 4 1 7 0
南翁(なんおう) → 杏坪(きょうへい・頼らい、儒者/史家) 1 6 3 8
南翁(なんおう・友松) → 氏興(うじおき・友松/佐藤、儒/神道) 1 2 2 3
南翁(なんおう・号) → 南雄(なんゆう;道号・宜泰、臨濟僧) O 3 2 1 7
- I3254 **南翁軒**(なんおうけん) ? - ? 江後期大阪の相法家、
1802「相法秘受解」「相法諺解」著
- I3255 **南化**(なんか;道号・玄興げんこう;法諱[別名宗興]、俗姓土岐)1538-160467 美濃の臨濟僧;邦叔宗楨門、妙心寺58世、秀吉の信頼;祥雲寺開山、「虚白外集」「古聯句集叢」、「定慧円明国師虚白録」著、
[南化玄興の号]号;虚白、諡号;定慧円明国師
- I3256 **南柯**(南珂なんか・児玉こだま、豊島俊畠男、児玉親繁の養嗣子)1746-183085歳 甲府の生/江戸に住、武州岩槻の児玉家の養子;岩槻藩士、儒;昌平黌に修学/歌;芝山持豊門、岩槻藩校遷喬館の創設に尽力/教育者、「村学教諭」「漂客紀事」「奥の道芝」「徳教篇」「老談余波」「老耄談」「豊島実録」「論語集説」著、
[南柯(;号)の名/7字/通称]名;琮、字;玉卿、通称;宗吾、
- I3257 **南河**(なんか) ? - ? 伊勢の俳人;尋花楼連、
1776樗良「誹諧月の夜」1句入、
[我が菴あんを見とるゝ雪のゆふべ哉](月の夜;112/粗末な庵も雪化粧)
- J3284 **南河**(なんか・安田やすだ) ? - 1790 備後福山の俳人;野坡門流;1771文台/風羅堂4世
南瓜(なんか・宗園) → 南瓜宗園(なんかそうえん、狂歌作者) I 3 2 5 8
南柯(なんか・芳賀) → 潜庵(せんあん・芳賀はが、藩医者) L 2 4 5 4
南柯(なんか/南柯王・伊沢) → 世徳(つぐのり・伊沢いざわ、医者/詩歌人) F 2 9 1 9
南華(なんか・城戸) → 広文(ひろぶみ・城戸きど、書家) H 3 7 0 9
- I3259 **南雅**(なんが) ? - ? 江中期俳人;嘯山社中春夜楼連に属す、
1772几董「其雪影」2句/73「明鳥」1句/76「続明鳥」1句/76樗良「月の夜」1句入、
[水門を柳の叩く月夜哉](其雪影;巻尾241/推敲;僧敲月下門を利かせる)
- I3260 **南芽**(なんが) ? - ? 江後期大阪俳人;雑俳;荻風てきふう門、
1783荻風「青とくさ」序文
南瓜庵(なんかあん) → 除風(じょふう・生田堂、真言僧/俳人) C 2 2 9 4
- 03218 **難海**(なんかい;法諱/字;山隅)1675-174369 近江彦根の成就院の住僧、
歌人;[彦根歌人伝・鶴]入
- 3230 **南海**(なんかい・祇園ぎおん/修姓;祇/阮、名;正卿/瑜/貢、祇園順庵男)1677-175175歳 和歌山藩士、
儒者;1689木下順庵門(木門)/詩文、97家督/絵師;文人画創始者の1、
1700不行跡のため和歌山城下追放、那賀郡長原村で10年間謫居;著述活動、
赦免;藩儒となる;藩の学政に参与、「詩学逢原」「南海詩集」「南海詩訣」「南海詩法」、
「鍾秀集」「江南竹枝」「鏡花水月集」「一夜百首」「湘雲瓊語」「蘭蕙雪冤」外著多数、
[南海の字/通称/別号]字;伯玉/斌ひん/汝珉じよびん/履昌、通称;与一郎/余一/与一、
別号;蓬萊/箕踞ききょ散人/信天翁/觀雷/鉄冠道人/湘雲主人
- 03294 **南海**(なんかい・大高坂おおたかさか、山本義唯2男)1766-183873 儒者/1784大高坂家を継嗣、詩人、

伊予松山藩士/絵師;叔父吉田蔵澤門;墨竹の真髓を継承、
墨竹画は吉田蔵澤→大高坂南海→丸山閑山→中野雲濤へ続く、
詩集「竹石余花」著/「有無肺」著、
[南海(;号)の名/字/通称/別号]名;龍雄、字;延年/大平、通称;四郎兵衛、
別号;舍人/天人/如風/魯齋/玉亀

- 13261 **南海**(なんかい・横谷) ? - ? 京の医者?/滑稽本作者;
1821「当世医者風流解ふりげ」著
- 13262 **南海**(なんかい・近藤こんどう、名;春熙はるひろ/字;光風、篤山男)1807-62**56歳** 伊予小松藩儒・儒;父門、
昌平鬻に修学、小松藩校養正館教授/藩主の侍講、家塾継承;教育者、
「南海楼詩稿」「近藤篤山事略」著、「南海家君遺草」、
[南海(;号)の通称/別号] 通称;竹之助/勇之助、 別号;霞石/清世一閑人
南海(なんかい・村山) → 維益(こゑます・村山むらやま/村上、医者) O 1 9 8 5
南海(なんかい・近松) → 茂矩(しげり・近松/松、藩士/兵法/俳人) C 2 1 8 2
南海(なんかい;出家号) → 宗衍(むねのぶ・松平、藩主/浄瑠璃作詞) C 4 2 1 2
南海(なんかい・丸山) → 惟義(これよし・丸山まるやま、藩士/儒者/歌) R 1 9 3 6
- 13263 **南涯**(なんがい・菅かん、本姓;菅原、名;周監) ?-? 江中期京の篆刻家:高芙蓉[1722-84]門、
高山彦九郎と交遊、「南涯印譜」著
[南涯(;号)の字/通称]字;子文、通称;喜間太/勝右衛門
- 13264 **南街**(なんがい・中山なかやま/江坂えさか、名;光繁、字;子纓)1749-1810**62** 備後福山藩士;執政/詩文/書、
「南街詩文集」著
- 13265 **南涯**(なんがい・吉益よしまつ、名;猷/字:修夫/通称周助、別号;謙齋、東洞男)1750-1813**64** 京の医:父門、
1788京の大火で大阪に移住/92帰京、気血水説を主唱、
「気血水弁」「傷寒論解説」「薬徴考」、「南涯詩集」著
- 13266 **南涯**(なんがい・吉田よしだ、名;誉/字;子翼/通称;意専)1752-1825**74歳** 薩摩鹿児島の子、
京で医者:中西深齋/小野蘭山門、「黴瘡新書」著、大倉佐登子(詩人/絵師)の父
- 13267 **南涯**(なんがい・岡田おかだ、名;邦彦、字;士髦/節叟、通称;節蔵、別号;遵古堂)1763-1836**74** 大阪の生、
京で儒者:岩垣竜溪門、京で講説業、
1802「舗糟集」35「薑花集評語」、「十四日詩社詩」「孟子折衷」著、「南涯遺稿」
- 13268 **南陔**(なんがい・富永とみなが、名;贛こう)1774-1854**81歳** 尾張名古屋藩家老石河家の家臣、
詩文/歌に長ず、国学;富樫広蔭門、茶/画に長ず、田中寅亮の父、
1858「新選続書画一覽」、「書画法一家」「植樫法」「草訣百韻」「摸台嶽図」
[南陔(;号)の字/通称/別号] 字;君貢、通称;貢、別号;草々庵、法号;草々庵
- 13269 **南涯**(なんがい・林はやし、日比野ひびの巖月2男)1775-1841**67歳** 林華嶽の養嗣子;尾張名古屋藩士、
儒;磯谷滄洲門、1804馬廻/大番/1807(文化4)藩校明倫堂典籍、同教授/納戸を歴任、
1832(天保3)督学、著作を残すことを好まず、「南涯林先生詩集」著、
[南涯(;号)の名/字/通称]名;維祺、字;介夫/介父、通称;彦八、法号;政忠院
- 13270 **南涯**(なんがい・井内いうち、名;収/季曉、字;孚卿)1784-1846**63** 佐賀藩士/儒;昌平鬻入;精里門/舎長、
1830藩校弘道館助教/34教授/詩文、「珮川詩鈔」評語入、「南涯詩文集」著、
[南涯(;号)の通称] 伝右衛門/壮一郎
- 13271 **南陔**(南陔なんがい・小田おだ、藩医松岡道遠2男)1790-1835**46** 叔父小田済川さいせんの養嗣子;
長門長府藩士、1808儒官/のち昌平鬻入:古賀精里門、帰郷後長門豊裏藩訓導、
長府藩校敬業館訓導、長府藩主侍講、武久季平(歌人)の兄、
「不誼録」「南陔経説」「中庸守約」「和漢喪期便覧」「南陔詩文稿」著、
草場佩川「佩川詩鈔」(1849刊)の頭書欄外に評語入(;菅茶山・筱崎小竹・古賀精里らと)
[南陔(;号)の名/字/通称]名;圭、字;廷錫、通称;順蔵
南涯(なんがい;号) → 妙永(みょうえい;法諱・壽春;道号、臨濟僧/聯句) G 4 1 1 6
南涯(なんがい・早崎) → 巖川(がんせん・早崎はやさき、儒者) H 1 5 7 0
南涯(なんがい・細貝) → 清直(きよなお・細貝ほそがい、国学/藩学校) V 1 6 1 5
楠涯(なんがい・松田) → 立敬(たつり・松田まつだ/種谷、儒/詩歌) Z 2 6 5 7
南海漁父(なんかいぎよぶ) → 良経(よしつね・九条/藤原、撰政/歌) 4 7 1 6

南外史(なんがいし;号) → 聖僕(しょうぼく;道号・義諦;法諱・臨濟僧) E 2 2 7 5
南海波斯(なんかいはいし;号) → 祖通(そつう;法諱・貫山;道号、曹洞僧) K 2 5 1 2
南会木(なんかいぼく) → 陸夜(りくや・南みなみ、俳人) 4 9 8 3
南柯王(なんかおう・伊沢) → 世徳(つぐのり・伊沢いざわ、医者/詩歌人) F 2 9 1 9

3231 南郭(なんかく・服部はつとり、修姓;服、元矩2男) 1683-1759 77歳 母;蒔絵師山本春正の女の吟子、
京の町人/幼時より歌人;父母門、父没後江戸へ;1700頃川越藩主柳沢吉保に歌人として出仕、
儒;1711頃荻生徂徠門;古文辞修学/詩文に長ず、1718主家を致仕;以後仕官せず、
漢学を教授/書画、徂徠没後;経学の太宰春台に対し文学面の指導者となる、
詩酒文雅の生涯、1750「大東世語」、「唐詩選国字解」「南郭詩集」「南郭詩話」「南郭先生文集」著、
「南郭絶句集」「江之島八景詩歌」「墨水八首」「潮来詞」外著多、愿卿げんけいの父/白賁はくひの養父、
[南郭(;号)の名/字/通称/別号/門弟]名;元喬、字;子遷、通称;小右衛門/幸八、
別号;芙蓉館/周雪/観翁/赤羽、

門人;安達清河(せいが/石島筑波つば)松下烏石(うせき/湯浅常山(じょうざん/鶴殿士寧(しんげい)ら

I3272 南鶴(初世なんかく・田辺たなべ、田宮)?-? 御家人/講釈師;田辺派祖

I3273 南鶴(2世なんかく・田辺たなべ、山下専助)?-1788 講釈師;田辺派

I3274 南鶴(3世なんかく・田辺たなべ)?- ? 尾張藩士/講釈師;田辺派、門弟教育;南窓など、
4世馬琴「講談界昔話」に逸話(;賊退治)

南鶴(なんかく・桐山) → 知義(ともよし・桐山きりやま、医者/書家) Q 3 1 9 7

I3275 南嶽(なんがく;法諱・字;如集、号;了智院)?-1778 大阪日蓮宗薬王寺住職、1749「復正挽繩録」著

I3276 南岳(なんがく・安野やすの、仁左衛門眞明男) 1761-1829 69歳 肥後熊本藩士/儒;高木紫溟門、
1786儒員/1812(文化9)藩校自習館校助教/1815監察/20奉行、江戸出仕中;紫野栗山と交流、
詩文に長ず、「桂楓集」「安野南岳画詩稿」、「安野公雍草稿」「夕佳園遺稿」著、
[南岳(;号)の名/字/通称]名;肅/眞卿、字;公雍、通称;形助

I3277 南岳(なんがく・渡辺わたなべ、名;巖/字;維石/通称;小左衛門) 1767-1813 47 京の絵師;円山応挙門、
人物/花鳥画に長ず、1796「養漢裸百貫」1811「海道狂歌合」、「春嬌帖」画

I3278 南岳(なんがく・岸きし、備前閑谷学校教授有吉行蔵2男) 1818-98 81歳 播磨三日月藩士岸家の養子、
儒;深沢楽山/牧百峰門、三日月藩校広業館の都講、維新後;竜野・津山で中学教諭、
「南岳堂詩鈔」著、
[南岳(;号)名/字]名;光輝、字;子充、

J3296 南岳(なんがく・藤沢ふじさわ、名;元章、東暎(とうがい)男) 1842-1920 79歳 讃岐高松藩士/儒者(家学);父門、
父の塾舎泊園書院を継承;尊王思想/佐幕派の藩を官軍に帰順させ藩の保全を図る、
藩校講道館督学/廢藩後は大阪で泊園書院を再開;子弟教育に専念、1864「自警蒙求」著、
「史記評林」「文章九格」著、1884「東暎先生文集」編、黄鵠・黄坡の父、
[南岳(;号)の字/通称/別号]字;君成、通称;恒/恒太郎、

別号;醉狂子/香翁/七香齋/九々山人、法号;雷風院

南岳(なんがく;字) → 濟暹(さいせん;法諱・南岳、真言僧) 2 0 9 2

南岳(なんがく・岡田/崗田) → 煌亭(こうてい・岡田/崗田おかた、儒者) G 1 9 4 0

南岳(なんがく・百々) → 俊亮(しゅんりょう・百々どど/越智、医者) M 2 1 0 9

南岳(なんがく・谷) → 了閑(りょうかん・谷たに、藩医) G 4 9 9 5

南岳(なんがく・九鬼) → 隆国(たかくに・九鬼くき、藩主/歌) U 2 6 2 8

南岳房(なんがくぼう;号) → 濟暹(さいせん;法諱・南岳、真言僧) 2 0 9 2

I3258 南瓜宗園(なんかそうえん、村田むらた、金山ト斎男) 1777-1846 70歳 江戸の狂歌作者;浅草庵守舎門、
加保茶元成[村田市兵衛]の娘婿/養父嗣;新吉原妓楼大文字屋3世主人、俳諧/俳画を嗜む、
野呂松人形遣、1814「狂歌画賛見立百化鳥」編/27「百化鳥」、「狂歌六題集」「浮世絵師攷」著、
[南瓜宗園(;号)の通称/別号]通称;市兵衛、別号;加保茶元成2世、夕顔亭

養父 → 元成(初世もとなり・加保茶がぼちや、村田市兵衛1754-1828、狂歌) D 4 4 6 4

南華亭(なんかてい) → 滄洲(そうしゅう・益戸ますこ、藩士/儒/詩) H 2 5 7 7

南花堂(なんかどう) → 応賀(おうが・万亭まんてい、合卷/滑稽本) B 1 4 6 2

南華道人(なんかどうじん) → 滄洲(そうしゅう・益戸ますこ、藩士/儒/詩) H 2 5 7 7

南瓜本成(なんかのもとなり) → 春馬(初世しゅんば・三亭、戯作者/狂歌) 2 1 6 5

- 13279 **南華坊**(なんかぼう) ? - ? 江中期18c江戸の俳人;雑俳/前句付点者
 南花坊(なんかぼう) → 石鯨(2世せきけい・岡村おかむら、俳人) K 2 4 0 2
 南華老人(なんかりゅうじん) → 兼良(かねよし/かねら・一条、歌/連歌) 1 5 3 7
- 13280 **南澗**(なんかん・神谷かみや、修姓;谷)?-? 江中期元文-明和1736-72頃尾張儒者:松平君山門、
 詩人、1736時文「輔仁詩稿」版下筆、「忠信統讐記」「肥陽誅賊記」著、
 [南澗(;号)の名/字/通称/別号]名;直矩、字;頑廉、通称;丈大夫 別号;粂石りんせき/磴齋けんさい
- 13281 **南澗**(なんかん・佐藤さとう、名;徳柄、欄干坊)1749-1807 59歳 三河吉田の絵師/狂歌作者、「贈言集」編
 南澗(なんかん・柴/柴橋) → 応亨齋(おうこうさい・柴/柴橋、相法家) C 1 4 3 9
 南関(なんかん・佐藤) → 竜谷(りゅうこく・佐藤さとう/辛島、儒者) D 4 9 9 3
 南関(なんかん・富永) → 謙齋(けんさい・富永仲基、思想家) E 1 8 8 3
 南菊(なんきく) → 左明(さめい、松露庵2世、俳人) D 2 0 9 5
 楠橋(楠吉なんきつ・本居) → 永平(ながひら・本居/中山、国学者) F 3 2 5 3
 南丘(なんきゅう・跡部) → 良隆(よしたか・跡部あとべ、幕臣/歌人) D 4 7 9 5
 南丘(なんきゅう・富田) → 育齋(いくさい・富田とみだ、藩士/儒医) E 1 1 2 1
 南陔(なんきょう・小田) → 南岐(南陔なんがい・小田おだ、藩士/儒者) I 3 2 7 1
 南嶠(なんきょう・堀/菅) → 甘谷(かんこく・菅かん/府川/堀、儒者) D 1 5 6 5
 南強(なんきょう・伊達) → 村侯(むらととき・伊達だて、藩主/改革/歌) D 4 2 1 7
 南強(なんきょう・中野) → 清溪(せいけい・中野なかの、藩士/漢学者) H 2 4 9 6
 南極老人(なんきよくろうじん) → 南畝(なんぼ・大田、幕臣/狂歌詩) 3 2 3 3
 南瓜庵(なんきんあん) → 除風(じょふう;号、真言僧/俳人) C 2 2 9 4
 南空(なんくう・紙屋) → 理然(りぜん・紙屋かみや、商家/俳人) B 4 9 4 1
 南宮(なんぐう) → 貞保親王(さだやすしのう・南宮、管弦) C 2 0 5 9
 南宮(なんぐう・上田) → 及淵(しきぶち・上田/平井、藩医/国学) Q 2 1 1 0
 南宮山房(なんぐうさんぼう) → 柳溪(りゅうけい・神田かんだ、医者/教育) D 4 9 5 7
 南空坊(なんくうぼう) → 理然(りぜん・紙屋かみや、商家/俳人) B 4 9 4 1
- 13283 **南溪**(なんけい・名越なごや/なごし、名;克敏・時中、正武男)1699-1777 79 常陸の儒者;昌平黌で林鳳岡門、
 1734水戸藩士;水戸史館出仕/大日本史編纂に従事/45小納戸役;彰考館総裁、
 1749御留守居物頭(史館如元)69御持頭列(総裁如元)/75致仕、「襲蘭集」「政事談」、
 1748「桑韓萍梗録」53「三綱行実画賛題」、「居簡齋稿」「名越随筆」、「後樂園志」「後樂園記」編、
 [南溪(;号)の字/通称/別号]字;子聡、通称;十蔵/暮露十蔵、
 別号;居簡齋/況軻洞きょうどう、范齋はんさいの養父
- 13284 **南溪**(なんけい・鷲尾わしの/わしお、名;来章/通称貞太郎、快了[善兵衛]男)1727-88 62 摂津の酒造業;
 小豆嶋屋3世、里正、儒;加藤良齋門、飯田桂山と交友/詩の大観社中、「南溪翁詩抄」
- 3232 **南谿**(なんけい・橘たちばな/初姓;宮川みやがわ、名;春暉はるあきら、宮川保長男)1753-1805 53 伊勢久居の生、
 橘は妻の姓、儒;佐野西山門、医;独学で医書読破/大坂で医業、1782西国遍歴、
 京住;刑死解剖、東国遍歴/帰京後廷臣;内膳司史生/石見介、診療/詩歌、
 「西遊せいゆう記」「東遊記」、随筆「北窓瑣談ほくそうさだん」、「南谿詩文集」著、
 [南谿(;号)の字/通称/別号]字;恵風、通称;東市、別号;梅華仙史
- 13285 **南兮**(なんけい) ? - 1812 近江長浜の書肆/俳人:1797去何門、
 見聞録「たそがれ随筆」著
- 13286 **南景**(なんけい;法諱、号;元随、高松季昵男)?-? 1863存 江後期;京の廷臣の生、
 高松公祐(きみすけ/1774-1851/権中納言)の弟、尾張伏屋村の称円寺の権律師/歌人、
 国学・歌;富樫広蔭(1793-1873)・外山光実(1756-1821)門、
 1819家集「松風吟」、「霞中吟」著、1855富樫(鬼島)広蔭「千百人一首」入、
 細野要齋「感興漫筆」入
- 13287 **南溪**(なんけい・高橋たかはし、名;英済/通称;玄三)1803-76 74 羽後秋田の医者/医儒;京で修得、
 家塾を開く;子弟教育、「医案録」「南溪詩鈔」「南溪文集」「忌服考」「済物堂経験秘録」著
- 13288 **南溪**(なんけい・永田ながた、名;可安)?-? 江後期江戸の地誌家、
 1851(嘉永4)主君に随従し駿河の旅;「駿河安蘇備」著、1854「海外人物輯」編

- 南溪(なんけい;号) → 詢道(じゅんどう;法諱・伝灯、真宗本願寺派僧) L 2 1 6 4
南溪(なんけい) → 日綱(にちこう・知能、日蓮僧) B 3 3 8 9
南溪(なんけい・島田) → 道桓(どうかん・島田、和算家) C 3 1 4 0
南溪(なんけい) → 日綱(にちこう;法諱・詮量院、日蓮僧) B 3 3 8 9
南溪(南桂なんけい;道号) → 老卵(らうらん;法諱・父幼、曹洞僧) C 5 2 6 8
南溪(なんけい・林) → 詢(じゅん・林はやし、医者) 2 1 8 6
南圭(なんけい・石井) → 樟斎(しょうさい・石井いし、儒者/書家) I 2 2 9 8
楠溪(なんけい;号) → 湖月(こげつ;道号・信鏡;法諱、臨濟僧) P 1 9 5 5
南谿子(なんけいし) → 青魚(せいぎよ・勝部/勝、医者/儒/俳人) B 2 4 0 1
南圭梅花嶺翁(なんけいばいかれいおう) → 義俊(よしとし・多田、神道/故実/浮世草子) 4 7 1 8
南鳩(なんけい・正司) → 碩溪(せきけい・正司しょうじ、商家/儒・兵学) K 2 4 0 0
南月(なんげつ;号/南月堂) → 三等(;法諱、真言僧) M 2 0 6 5
- J3291 **南軒**(なんけん・古市ふるいち、名;剛/興孝/孝慈、玄政男) 1634?~1722 74歳? 上州前橋藩士/儒・医学、1684(貞享元)藩主酒井忠挙の命で「前橋風土記」編纂、陰陽道・占卜に通ず、晩年;江戸住、1686「上野国玉村八幡宮本紀」88「図書分図解」91「芳林詩田」97「経書字辨」著、1710「甲斐国郡志」、「経学拔錦国字解」「探蹟たんさく精義」「卜筮指南大全」「春光余録」著、[南軒の字/通称/別号]字;子強、通称;東之進/藤之進、別号;芳林園/春光/春光堂
法号;顕性院
南軒(なんけん・瀬下) → 敬忠(のぶただ・瀬下せしも、国学・俳/史家) B 3 5 8 3
- I3289 **南源**(なんげん;道号・恭薫きょうくん;法諱、雪軒;号) 1565-1622 58歳 甲斐の臨濟僧;南化・湖南門、1603伊予天徳寺再興開山/21妙心寺住持、1603「南山霞鈔」、「南源薫和尚語録同年譜」著
- I3290 **南源**(なんげん;道号・性派しょうは;法諱、俗姓林) 1631-92 62 福建黄檗僧;隠元門、1654師に従い渡来、長崎興福寺住/宇治華蔵院開/撰津国分寺住持、詩偈;詩南源と称される、「隠元禅師語録」「黄檗和尚太和集」「禅余歌」編/「蔵林集」「東遊草」、「南源和尚語録」著
- I3291 **南湖**(なんこ・堀ほり、蒙窩男) 1684-1753 70歳 母;木下順庵女、1659安藝広島藩儒/儒医、1713侍講、京住、「安芸名勝記」「湖陰集」「竹窓雑記」「南湖文集」「学原」「読史雑記」著、1713「縮景園記」著、1721用拙斎「八居題詠」詩入、「習斎遺稿」、元養と交友/門弟;丘思純、[南湖(;号)の名/字/通称/別号]名;正修/正脩、字:身之、通称;一六郎/七太夫/正蔵、別号;習斎
- I3292 **南湖**(なんこ・大場おおば、名;景明、将景男) 1719-85 67歳 常陸水戸藩士/和算;小池桃洞門、天文;山路之徽門、1751彰考館入/78総裁、1774「括要弧術解」編、「南湖詩草」「農政纂要」著、[南湖(;号)の字/通称/別号]字;俊甫、通称;大二郎、別号;廉斎/大楽
- I3293 **南湖**(なんこ・春木はるき、本姓結城) 1759-1839 81歳 江戸の絵師;伊勢長島藩主増山正賢に招聘、その後援により上方・長崎に遊学/書画;木村兼葭堂・清人費晴湖門、明人翟雲舛画帖所蔵、狂歌/俳諧、1788「西遊日簿」/1837「清風集」、「夢境応酬」著、「狂歌書画帖」画/「兼題秋の花」画
[南湖(;号)の名/字/通称/別号]名;鯤、字;子魚、通称;門弥、別号;幽石/幽石亭/烟霞釣叟/吞墨翁、息;南溟も絵師
南湖(なんこ・吉村/東里) → 翠山(すいざん・東里/吉村、藩士/儒者) 2 3 6 2
南湖(なんこ・荒居) → 朗(あきら・荒居あらい、藩士/歌人) G 1 0 8 7
- I3294 **南阜**(なんこう・浅井あさい/本姓;平、医者山田惇宗男) 1760-1826 67 京の医者;浅井南溟門;没後継嗣、典薬寮医師/従五上/長門守、国学/詩歌を修得、1802「徽瘡約言」08「徽瘡秘録標記」著、1812「養生録」/05-13「名家灸選」、「徽毒約言録」「名家灸選大成」「観堂二十四万」著、[南阜(;号)の名/字/神号]名;惟亨、字;子元、神号;斐足神靈
- I3295 **南香**(なんこう・大久保おおくぼ重兵衛、一貫斎) 1781-1846 66歳 阿波半田俳人;臥隣庵蘭室と交流、13世魯松庵調固を迎え句会催、「大滝山吟行の記」著
- I3296 **南阜**(なんこう・吉雄よしお、名;尚貞、定之助男) 1787-1843 57 父は肥前長崎の阿蘭陀通詞/祖父は耕牛、長崎の生/蘭語;叔父吉雄如淵門;志筑忠雄の学を修学/医学修得、羽栗洋斎と称し大坂から江戸に出る/1816江戸から帰途尾張藩医浅井貞庵に重用される、尾張藩名古屋で観象堂を開塾;蘭学教授・著作・翻訳・医療活動、1826名古屋藩医/39奥医、

理学・砲術にも通ず;雷管銃の改良研究中事故死、1812「和蘭内外要方」訳、14「六格前篇」著、1818「蘭学惑問」23「遠西観象図説」著、23「遠西地動或問」訳/43「粉砲考」著、外訳著多数、
[南臯(;)号)の字/通称/別号]字;伯元、通称;俊蔵/常三/常庵、別号;観象堂、
一時別名;費/癸/撥、一時別称;羽栗洋斎・長陰、法号;大機院

南江(なんこう;道号) → 宗沅(そうげん;法諱・南江;道号、臨濟僧) B 2 5 2 9
南公(なんこう・深沢) → 君山(くんざん・深沢ふかざわ、家老/和漢学) B 1 7 2 1
南臯(なんこう・富田) → 省斎(せいさい・富田とみだ、藩士/書家) I 2 4 1 8
南臯(なんこう・河崎) → 正世(まさよ・河崎かわさき、神職/国学者) P 4 0 0 5
南岡(なんこう・加藤) → 中孚(ちゅうふ・加藤、俳/詩人) G 2 8 8 1
南岡(なんこう・本多) → 忠民(ただもと・本多、藩主/老中/日記) R 2 6 0 1
南岡(なんこう・志賀) → 筋庵(せつあん・志賀しが、藩儒) K 2 4 6 8
南岡(なんこう・尾関) → 勝清(かつきよ・尾関おせき、藩士/歌人) T 1 5 8 8
南岡(なんこう・岡本) → 宣頭(のぶあき・岡本おかもと、商家/歌人) H 3 5 8 3
南港(なんこう・大島) → 対山(たいざん・大島おおしま、俳人) K 2 6 0 8
南郊(なんこう・横山) → 潤(じゅん・横山よこやま、本草家) 2 1 8 4
南郊(なんこう・松森) → 胤保(たねやす・松森/長坂、藩士/博学) S 2 6 1 1
南郊(なんこう・榎) → 浄門(じょうもん・榎えのき、和算家) B 2 2 7 2

I3297 南濠(なんごう・枝吉えだよし、名;種彰/通称平左衛門) 1786-1859 74歳 佐賀藩士/儒者;藩校弘道館教授、
「緑猗園集」「系図録」「神代巻聞」「私史」著、枝吉経種(神陽しんよう)・副島種臣の父

南行存庵(なんこうそんあん) → 蘭阪(らんぱん・三浦みうら/松田、医/本草) D 4 8 1 3
楠後亭(なんこうてい) → 武保(たけやす・菊池、荒物商/文筆家) B 2 6 1 3
南向亭(なんこうてい) → 忠昌(ただはる・酒井さかい、浪人?/文筆家) Q 2 6 5 2
南向堂美浪(なんこうどうみなみ) → 美浪(みなみ・南向堂、狂歌作者) F 4 1 3 8
南光坊(なんこうぼう) → 天海(てんかい;法諱、天台僧) D 3 0 2 2

I3298 南谷(なんこく) ? - ? 江前期江戸雑俳点者;1703「たから船」入

I3299 南斛(なんこく) ? - ? 江中期大阪雑俳点者;1751春耕「あふ夜」入

J3200 南谷(なんこく・滝川たきがわ、毛利森娶[扶揺]男) 1760-1820 61歳 滝川一貞の養子/幕臣;1785家督、
奥小姓/甲府勤番支配/百人組頭、儒/詩:風月社友、
1801「玉芝園詩草」20「滄溟近体声律考」著、

[南谷(;)号)の名/字/通称]名;利濟/利雍、字;肅之、通称:郁之丞/鞆負/帯刀/長門守/安芸守

南谷(なんこく;字) → 照什(しょうじゅう;法諱・南谷、真言僧) J 2 2 5 7
南谷(なんこく・岩下) → 方平(まさひら・岩下/藤原、藩家老/国学) G 4 0 8 6
南谷(なんこく・市川) → 行英(ゆきひで・市川いちかわ、和算家) F 4 6 4 1
南湖子(なんこし) → 七珍万室(しちちんまんぼう、戯作/狂歌) 2 1 2 8
南呉子(なんごし) → 蕉園(しょうえん・中井なかい、儒者) H 2 2 2 8
南梧星(なんごせい) → 季護(すえもり・山本やまもと/高木、官人/国学) J 2 3 3 6

M3215 南斎(なんさい・近藤こんどう、) 1823-1905 83 信濃埴科郡の絵師;四条派、国学者、少講義

南斎(なんさい) → 崑岡(こんこう・小池、儒者) P 1 9 1 8

J3201 南山(なんざん・南部なんぶ、名;景衡かげひら/景行、小野昌硯男) 1659-1713 55歳 長崎生;幼くして孤児、
儒:南部草寿門/草寿の養嗣、江戸住:順庵門;木門十哲の1、1688富山藩儒、史学/詩文、
1709「喚起漫草」、「南山詩」「南山詩集」著、「環翠園史論」著(散佚)、景春かげはるの父、
[南山(;)号)の字/通称/号]字;思聡、通称;昌輔、号;環翠園

J3202 南山(なんざん・朝比奈あさいな/修姓;晁、名;泰亮、泰継男) 1698-1772 75 河内狭山藩士、儒;徂徠門、
家老、1760藩政改革派を処断、詩:「南山集」著、
[南山(;)号)の字/通称/別号]字;君菜、通称;与兵衛/頼母たのも、別号;養拙斎

J3203 南山(なんざん・菅原すがわら、名;茂実) 1702-82 81歳 陸前金成の儒者:遊佐木斎;遊佐ゆき木門四傑の1、
江戸で室鳩巢門/帰郷し講説業/博識、仙台で伊達家に出仕;病で辞退、俳人、
1755「拘幽操講義」著、「南山遺稿」、
[南山(;)号)の字/通称/別号]字;子英、通称;新内、別号;巴調/居易、釈南山

J3204 南山(なんざん・永原ながはら、名;紀/字;伯綱/通称;忠蔵) ?-1786? 江中期大和郡山儒者:北海門、

1786「吉野紀行」著、「南山遺稿」

- J3205 **南山**(なんざん・内田うちだ、名;土頭/字;長卿/通称外記、別号;君子軒)1729-1800⁷² 丹波亀山藩侍医、儒;伊藤蘭嶋門、江戸で村田法眼門、詩:松崎観海門、「南山詩稿」「南山集」「医道問答」「武成録」「管見録」著
- J3206 **南山**(なんざん・天中原あめのなかはら、長常、本名;中野得信)?-? 江戸中期河内大井村の風俗史家/天文家、1772(明和9)歌謡「山家鳥虫歌さんかちょうちゅうか」編;全国民謡集(盆踊唱歌)
- J3207 **南山**(なんざん・津田つた、有竹亭)?-? 江戸後期江戸座俳人、1773俳人住所録「家雅見種かみぐさ」編、1790「三代集」1804「俳諧接穂つぎほの梅初篇」編、2世雪成「俳諧觸」支援
- J3208 **南山**(なんざん・岡田おかだ/修姓;岡、武雅男)1742-1810^{69歳} 阿波徳島藩儒;片山北海門、程朱折衷学、大坂藩邸詰、詩文・書画・篆刻に長ず、1765混沌社友、尾藤二洲・古賀精里・頼春水と交流、1777父と共に徳島に帰郷;諸職を歴任/儒官となる;大小姓格、「寧処小稿」「墨樵筆記」著、「半間園遺稿」:息正行編、[南山(;号)の名/字/通称/別号]名;豹はだら、字;君章、通称;文治/善二郎、別号;墨樵/寧処/青白
- J3209 **南山**(なんざん・松平まつだいら、霍山かくざん男)1745-? 尾張名古屋儒者;父・祖父君山門/1781家督、1764君山「三世唱和」朝鮮通信使との詩5首;祖父・父と参加
- J3210 **南山**(なんざん・芳野よしの、名;彝/彝倫、字;序卿/叙卿)1767-1831⁶⁵ 下総葛飾松崎の里正/医者、詩文、1815江戸住、「儒家詩巻」著、「南山詩文遺稿」、金陵の父
- J3211 **南山**(なんざん・川治かわじ、名;義豹/字;伯玄/通称;泰蔵)?-? 江戸後期1804-18頃儒者;鶴殿本荘門、詩人、近江宮川侯の文学、1811「高眠亭録稿」著
- J3212 **南山**(なんざん・清水しみず、名;柔/字;伯翼、別号;醉翁)?-? 江戸期出雲の人/松江藩士、「三清堂詩草」著
- N3236 **南山**(なんざん・白鳥しらとり、通称;七兵衛)1822-84⁶³ 飛騨高山の国学者;田中大秀門
- J3213 **南山**(なんざん・長野ながの、通称;篤二郎、雄平男)1826-96⁷¹ 土佐高知の絵師;橋本小霞門、「印刻起本」編

南山(なんざん;道号)	→ 士雲(しうん;法諱・南山、臨濟僧)	B 2 1 1 1
南山(なんざん;号)	→ 古梁(こりょう;道号・紹岷;法諱、臨濟僧)	O 1 9 0 0
南山(なんざん・加藤)	→ 良斎(こうさい/ごん・加藤/伊丹、里正/儒)	G 1 9 1 4
南山(なんざん・松平)	→ 頼常(よりつね・松平/徳川、藩主/学問)	J 4 7 0 8
南山(なんざん・安島)	→ 直円(なおのぶ・安島あじま、藩士/和算家)	C 3 2 0 1
南山(なんざん・小泉)	→ 松卓(しょうたく・小泉こいずみ、和算家)	K 2 2 7 5
南山(なんざん・岳亭)	→ 丘山(きゅうざん・岳亭がくてい、絵師/読本)	C 1 6 0 3
南山(なんざん・鈴木)	→ 星海(せいかい・鈴木、天文/易学家)	H 2 4 6 9
南山(なんざん・熊谷)	→ 直恒(なおつね・熊谷、藩士/記録)	B 3 2 7 3
南山(なんざん・加藤)	→ 枝直(えなお・加藤/橋、国学/歌)	1 3 8 0
南山(なんざん・吉村)	→ 寛泰(ひろやす・吉村よしむら、藩士/儒者)	H 3 7 5 5
南山(なんざん・朝倉)	→ 景衡(かげひら・朝倉あさくら、医者/和漢学)	E 1 5 9 8
南山(なんざん・深沢)	→ 君山(くんざん・深沢ふかざわ、家老/和漢学)	B 1 7 2 1
南山(なんざん・松平)	→ 四山(しざん・松平まつだいら、藩主/俳人)	D 2 1 7 9
南山(なんざん・島津)	→ 重豪(しげひで・島津/松平、藩主/諸学)	C 2 1 9 0
南山(なんざん・奥田)	→ 三角(さんかく・奥田おくだ、藩士/儒者)	E 2 0 1 9
南山(なんざん・荒井)	→ 鳴門(めいもん・荒井あらい、儒者/詩人)	4 3 4 1
南山(なんざん・武川)	→ 建徳(けんとく・武川たけがわ、医者)	M 1 8 0 0
南山(なんざん・加藤)	→ 敬和(たかかず・加藤かとう、里正/歌人)	W 2 6 4 0
南山(なんざん・岡部)	→ 長慎(ながちか・岡部おかべ、藩主/藩史/歌)	K 3 2 3 3
南山(なんざん・井上)	→ 威熙(ともひろ・井上いおうえ/中村、農業/歌)	U 3 1 0 6
南山隠士(なんざんいんし)	→ 為恭(ためちか・冷泉/岡田、絵師/歌)	H 2 6 0 0
南山隠士(なんざんいんし)	→ 昭乗(しょうじょう・松花堂、社僧/書家/茶人)	T 2 2 3 4
南山翁(なんざんおう)	→ 高尚(たかひさ・小野おの、幕臣/国学者)	D 2 6 5 6
南山耕雲外史(なんざんこううんがいし)	→ 夏水(なつみ・森もり、藩絵師/国学/神職)	E 3 2 9 5

- 南山寿詞林仙(なんざんじゅしりんせん)→ 淑蔭(よしかげ・井上、千穎、国学) 4 7 0 5
南山道人(なんざんどうじん)→ 豹(秦良はたら・池永、国学者) E 3 6 8 0
- J3214 南枝(なんし・春暁亭) ? - ? 江後期俳人:秋瓜2世門、
1809「齡ひの花」/11「夕紅葉」15「蓑の露」20「あさはたけ」編、「仮日記」、49「菊のたむけ」著、
[春暁亭南枝の別号] 春暁庵/連溪庵/多少庵
南史(なんし・原) → 松洲(しょうしゅう・原/大泉、儒者/藩士) S 2 2 9 3
南尔庵(なんじあん) → 方絮(ほうじょ・櫛原、俳人) B 3 9 7 0
難思議弗知(なんしぎふち)→ 月筌(げつせん;字・崇信、真宗僧/宗典) H 1 8 1 4
- J3215 南舟(なんしゅう・由良ゆら) ? - ? 京の書家;清田せいた僭叟の師
- J3216 南岫(なんしゅう) ? - ? 京の俳人;淡々門、1728柳岡「万国燕」入(693)、
[打ちかすむ條へら打ち車日をのせて](万国燕;693/前句;花又桜要かみ織る水;里馬、
花見の女性を乗せた綏の紐を掛けた鉾打ち車に薄日が光る;供回りの厳しさ?、
謡曲松風;夜の車に月のせて)
- J3217 南洲(なんしゅう・青葉あおば、名;直年/士弘、字;道遠、直行男)1703-7270歳 讃岐高松藩儒:
1623昌平黌に修学;林鳳岡門、易学;室鳩巢門/1726高松藩儒/47記録所総裁、
「きりの記」「雞窓私言」「訓蒙要術」「帝王紀略」著、
[南洲(;号)の別号/通称] 別号;翠竹楼/索珠堂/鸚適軒あてきけん、通称;弁之助/伝兵衛
- J3218 南州(なんしゅう・山内やまうち、名;正興/字;左竜、山内正季男)1708-7063歳 伊勢関の生、
1718(11歳)大阪の同族山内道貞の養嗣子;家督継嗣、撃剣/槍法に長ず;奥義を究める、
中年に至り京で医学を修得;大阪に開業/1738法橋/法眼、晩年には卜占・和算を修学、
「医案集」「傷寒分類証治」「采葯さいほう医方綱」著
- J3219 南洲(なんしゅう・菊池きくち、水戸藩儒菊地南汀男)1751-180858 江戸の儒者:柴野栗山門、
1779(寛政10)常陸水戸彰考館入/98総裁に進む、1804致仕、「鎌倉英勝寺住持職事考」著、
[南洲(;号)の名/字/通称]名;重固、字;子厚、通称;平八郎/造酒蔵みきぞう
南宗(なんしゅう;道号・建幢)→ 建幢(けんどう;法諱・南宗、臨濟僧) L 1 8 6 7
南宗(なんしゅう;道号) → 祖辰(そしん;法諱・南宗、臨濟僧/外交) D 2 5 8 9
南洲(なんしゅう・伊達) → 宗城(むねなり・伊達だて/山口、藩主/藩政改革) C 4 2 0 5
南洲(なんしゅう・西郷) → 隆盛(たかもり・西郷さいごう、藩士/倒幕) D 2 6 9 2
楠樹小史(なんじゅしょうし) → 晋作(しんさく・高杉、藩士/勤王家) E 2 2 3 1
- J3220 南城(なんじょう・藍沢あいざわ、名;祇/字;子敬/通称;要助、北溟男)1792-186069 越後鯖石村の儒者:
松下一斎・兼山門、家塾三余塾経営、「過庭奇談」「詩経講義」「七星雲月」「南城三余集」、
「南城集」「啜茗談柄」「論語私説」「孝経考」外著多数、「南城先生詩鈔」(門人牧江霞城編)
南松院(なんしやういん) → 実伊(じつい;法諱、天台大僧正) E 2 1 7 3
南松山人(なんしやうさんじん)→ 名洲(めいしゅう・近藤こんどう、心学者) 4 3 2 0
南条山人(なんじやうさんじん)→ 孟緯(たけひろ・川名、詩人) O 2 6 7 0
南勝房(なんしやうぼう;号) → 覚海(かくかい;法諱・和泉法橋、真言僧) J 1 5 6 3
南辰(なんしん・川辺) → 信一(しんいち・川辺、藩士/暦算家) N 2 2 3 0
南岑(なんしん・小林) → 信誠(のぶまさ・小林こばやし、庄屋/国学) I 3 5 4 2
- J3221 南水(なんすい・小中こなか、名;茂正、別号;壽柳軒)?-? 紀伊熊野本宮の御師/俳人:西鶴・遠舟門、
1694「熊野がらす」(安之と共編)
南水(なんすい・室谷) → 賀世(よしつぐ・室谷むろたに、商家/国学者) E 4 7 6 9
南水(なんすい・颯々亭さつさつてい)→ 歌国(うたくに・浜松、読本/歌舞伎作者) 1 2 6 7
南崇院(なんすういん;法号)→ 光隆(みつたか・蜂須賀/松平/源、藩主/歌) D 4 1 7 3
南星(なんせい;字) → 眞迢(しんちやう;法諱、日蓮・天台・念仏僧) 2 2 6 3
- J3222 南川(なんせん・藤沢ふじさわ、名;直民、字;斯道/子道、泰尚男)1703-7169 佐渡相川町年寄/1722致仕、
儒:東涯門、医;艮山門、1731佐渡奉行所詰の医師/48伊勢菰野藩儒官、
「南川刪稿」「清燕答問」著、
[南川(号)の通称/別号] 通称;長達、別号;子鏈
南川(なんせん・歌川) → 貞広(ていひろ・歌川うたがわ、絵師) F 2 0 5 0
南泉(なんせん・三井) → 高敏(たかとし・三井みつゐ、商家/国学) D 2 6 2 1

- 南仙[斎](南僊斎なんせんさい)→沾涼(沾涼初世せんりょう・菊岡、俳人) 2 4 4 5
 南川子(なんせんし) → 宗鎮(そうちん・三谷みたに、儒者/茶人) I 2 5 4 9
 南川史氏(なんせんしし) → 逍遙(しょうよう・武雄たけお、儒者) B 2 2 8 6
 南仙笑楚満人(なんせんししょうそまひと)→楚満人(そまひと・南仙笑、戯作者) 2 5 2 8
 南仙笑楚満人(2世なんせんししょうそまひと)→春水(初世しゅんすい・為永) 2 1 6 1
 南楚(なんそ;字) → 大江(だいこう;法諱・南楚、浄土西山派僧) J 2 6 9 4
 南楚(なんそ) → 楚満人(そまひと・南仙笑、戯作者) 2 5 2 8
- J3223 南荘(なんそう・丹羽にわ/修姓;丹、以久男)1730-85 尾張藩士;国方吟味役、
 老荘学;布施東溟門、天文歴数/書に通ず、「筆道大較」著、
 [南荘(;号)の名/字/通称]名;応清、字;子白、通称;又右衛門、
- J3224 南窓(なんそう・武村たけむら) ? - 1795 京の書家、1794「古語草体選」著、
 [南窓(;号)の名/字/通称/別号]名;吉幹、字;君貞、通称;新兵衛、別号;帰一堂
- J3225 南窓(初世なんそう・田辺たなべ、本名;藤原常晴)1772-1846 75歳 講釈師;3世田辺南鶴門/柴田派の祖、
 安房出身;博覧強記/無本読み、「義士伝」が得意、
 [初世田辺南窓(;号)の通称/別号]通称;芝山次郎三郎、別号;正流斎
 南窓(なんそう・林) → 春勝(はるかつ・林、鷲峰、羅山男/儒者) 3 6 3 0
 南巢(なんそう・甲把) → 瑞益(ずいえき・甲把がっば、医者/郷土史) E 2 3 1 2
 [直光(;名)の通称/号]通称;但馬、号;
- 南草(なんそう・清家) → 直光(なおみつ・清家せいけ、神職/歌人) N 3 2 5 5
 南宗庵(なんそうあん、南宗軒)→ 一庵(いちりゅう・多々良、軍記作者) C 1 1 6 3
 南宗院(なんそういん・南部)→ 重信(しげのぶ・南部・花輪/七戸、藩主/歌) C 2 1 7 0
 南窓楼(なんそうろう) → 文晁(ぶんちよう・谷たに、絵師) G 3 8 2 4
 南窓楼(なんそうろう) → 貞信(初世さだのぶ・長谷川はせがわ、絵師) F 2 0 4 3
 南巢老人(なんそうろうじん) → 葉庵(ようあん・前田、藩儒/医者) 4 7 5 5
- J3226 南岱(なんたい・松居まつい、通称;信三郎/信) ?-? 江後期江戸村松町も絵師、
 1844「書画展観録」著、1854「万国船旗図譜」編
 南堆(なんたい・木村) → 林昱(しげてる・木村きむら、藩士/和算家) R 2 1 6 1
- J3227 南台(なんたい・井上いのうえ/旧姓;山田)1749-98 50歳 常陸の儒者;井上金峨門/養嗣子となる、
 幕府儒官、「南台家集」「南台詩文稿」「経義折衷考」「経義緒言考」「尚書遺説」著、
 [南台(;号)の名/字/通称]名;湛、字;子存、通称;新蔵、
- J3228 南台(なんたい・鹿窪しかくぼ/ししくぼ、其日庵6世) ?-? 俳人・葛飾派
 南台(なんたい・不破) → 浚明(ふかあきら・不破ふわ、藩士/儒者) H 3 8 5 1
 南台(なんたい・瀬山) → 命助(めいすけ・瀬山せやま、藩士) 4 3 2 2
 南台(なんたい・伊達) → 宗紀(むねただ・伊達だて、藩主/築庭/歌) D 4 2 5 4
 南台(なんたい・菅) → 良史(よしふみ・菅すが/菅原、家老/国学) N 4 7 4 2
 南陀迦紫蘭(なんだかしらん)→ 紫蘭(しらん・南陀伽・窪俊満、絵師/狂歌/戯作) 2 2 1 5
- K3207 南達(なんたつ・下村しもむら) ? - ? 江前期上方の俳人、
 1678西鶴「物種集」入、
 [肩先にすこしかすりの有乳山あらちやま(物種集/前句;浅茅が原で敵かたき討たせて、
 敵討ちで肩に掠り傷が有る、有乳山は越前の歌枕;古代愛発関のあった山、
 新古今;冬657人麿;矢田の野に浅茅色づく有乳山峰の淡雪寒くぞあるらし)
- 南大夫(なんだゆう・鴨) → 長明(ちようめい・ながあきら・鴨かも、廷臣/歌) 2 8 2 7
 南陀羅(なんだら・唐樹園)→ 雅教(まさあつ・正宗まさむね、国学者/狂歌) B 4 0 1 6
- J3229 何多羅方士(なんたらほうし・姓;松田まつだ、名;祇伯) ?-? 江戸湯島切妻恋坂下の狂歌作者;小石川連、
 徳和歌後万載1首入、1783洒落本「大通紀山寺」の南兌羅法師と同一、
 [乞食こつじき小屋かどに立田の紅葉見て昨日きのふも今日けふもあきたらぬ腹]、
 (後万載;秋304/角に立つと立田山を掛る)、
 南兌羅法師(なんだらほうし)→ 何多羅方士(なんたらほうし・松田祇伯) J 3 2 2 9
- K3203 南遅(なんち) ? - ? 江前期大阪の俳人、
 1673西鶴「生玉万句」;第六一葉千句発句入、

[一葉や然れば舩のせん万句](生玉万句;一葉発句/一葉は桐、
謡曲「自然居士」;然れば舩のせんのを公に前むと書きたり)

南池院僧都(なんちいんのそうづ) → 源仁(げんにん;法諱、真言僧) M 1 8 0 9

J3230 南竹(なんちく・市浦いちうら、名;直春、管窺男)?-1748 備前岡山藩士/儒者;学校奉行、市浦毅斎の孫、
「槎客萍水集」編、「南竹遺稿」、

[南竹(;号)の字/通称]字;子木、通称;善作

南竹(なんちく、南竹庵) → 曳尾庵(えいびあん・加藤/沼田、医者/随筆) C 1 3 0 4

南地亭金楽(なんちていきんらく) → 其楽(きらく・楠里亭なんりてい/小林、戯作者) H 1 6 6 3

南中(なんちゆう・平栗) → 徳馨(とくけい・平栗ひらぐり、歌・俳人) K 3 1 6 0

J3231 南亭(なんてい・上田うえだ、通称;五郎右衛門) 1770-1835 66 安藝吉田の俳人、
石見大田の波根八幡宮奉額の撰、1820毛利元就250回忌記念「郡山集」編刊、
1823「はつみどり」/24「はつひかげ」/25-7「はつたより」/1826「筑紫のつと」、
1834「ぶさためぐり」、1825篤老「敵島奉納集三編」入、
[しら雪や幻にたつはなの山](「郡山集」)

J3232 楠亭(なんてい・西村にしむら、名;予章/字;子風) 1775-1834 60歳 京の絵師・円山応挙門、
綾小路室町西に住、肉筆風俗画に長ず、

「南亭画譜」「南亭画譜後編」「都会帖」「絵本壬生扮戯尽」「壬生狂言」画

南亭(なんてい) → 治憲(はるのり・上杉鷹山、藩主/儒) G 3 6 7 1

南亭(なんてい) → 武陵(ぶりよう・西尾にしお、酒造業/俳人) E 3 8 6 1

南亭(なんてい) → 尚筋(ひさひろ・柳やなぎ/梅谷/山本、神職/国学) M 3 7 1 4

南亭月澄(なんていげつちよう) → 月澄(げつちよう、南亭、狂歌作者) D 1 8 7 5

南亭葉々広(なんていははひろ) → 葉々広(ははひろ・南亭、狂歌) F 3 6 5 6

南殿(なんてん・新田) → 日信(にっしん・新田/杉岡、大僧正) H 3 3 3 0

J3233 南堵(なんと・小川おがわ、名;安/字;子貞/通称;玄節) 1834-76 43歳 越後片貝の儒者;耕読堂入、
詩:広瀬淡窓門、長崎で医学修得、「南堵遺稿」

J3234 南濤(なんとう・陶山すやま/修姓;陶・岡、井戸春竹[玄悦]2男) 1700-66 67歳 代々土佐藩の医官の家、
家学の医を修学、初め生島家の養子;生島春卿を称す/上京;儒:伊藤東涯門、土佐藩医、
1732(享保17)罪を得て藩籍離脱;江戸に赴く/柳沢淇園の許に滞留、1756丹後宮津藩出仕、
一時筑前秋月藩で兵法を構ず/華音・白話小説に精通;稗官五大家の1、
晩年は大阪住;子弟教育、妻;松室松峽女の賛、
1757「忠義水滸伝解」58「春燈闌」、「忠義水滸伝鈔訳」「怯里馬赤」「傷寒論辨鈔訳」著、
[南濤(;号)の名/字/通称/別号]名;冕べん/元常、字;尚善・廷美、通称;源四郎/七助、
別号;醒庵/省庵

南濤(なんとう・谷川) → 護物(ごぶつ・谷川、俳人) D 1 9 6 9

南塘(なんとう・椿) → 仲輔(なかすけ・椿つばき、国学/歌) D 3 2 8 7

南塘(なんとう・関) → 勇助(ゆうすけ・関せき、藩士/国学者) C 4 6 8 8

南塘(なんとう・新庄) → 久直(ひさなお・新庄しんじよう、藩士/国学) J 3 7 8 7

南堂(なんどう;道号) → 師静(しじよう;法諱・南堂;道号、曹洞僧) T 2 1 8 0

南堂(なんどう・立野) → 竜貞(りゆうてい・立野たつの、古医方医者) F 4 9 2 6

南堂(なんどう・大隈) → 言道(ことみち・大隈おおくま、歌人) 1 9 3 8

楠堂(なんどう・井上) → 眞澄(ますみ・井上いのうえ、神職/国学) N 4 0 2 9

南洞公(なんとうこう) → 資愛(すけなる・日野/藤原、准大臣/詩歌) C 2 3 7 0

南塘子(なんとうし・大江) → 松隣(しょうりん・大江、儒者) L 2 2 9 7

南東与可楼主人(なんとうよくろうしゆじん) → 節斎(せつさい・富田、役人/国学/詩歌) L 2 4 0 3

I3205 南都賀山人(なんとかさんじん・姓名不詳)?-? 洒落本作者;1781-89頃「大通手引草」譚鳥らんちよう画
南都僧都(なんとそうづ) → 円縁(えんえん;法諱、法相学僧) E 1 3 4 3

J3235 南々(なんなん) ? - ? 俳人;

1850去来150回忌追福「去来伊勢紀行/丈草寝転草」再刊;寄三と共編

南々斎(なんなんさい) → 願言(ごげん・松本、榊柯男/医者/俳人) C 1 9 4 6

南々舎(なんなんしゃ) → 不角(ふかく・立羽たちば、書肆/俳人) 3 8 0 3

- 南々川(なんなんせん) → 貞広(初世さだひろ・歌川うたがわ、絵師) F 2 0 5 0
 南ノ坊(なんのぼう) → 宗啓(宗慶そうけい;法諱・南坊;号、臨濟僧/茶道) B 2 5 1 7
- J3236 南坡(なんば・大菅おすが、名;集、岩泉[石谷]富久男)1754-181461 大菅中養父なかやぶの養子、
 近江彦根の儒者;養父門、徂徠学;野村東皐門、京で私塾経営/1786彦根藩儒;藩主侍読、
 1799藩校稽古館の学問方、国学者、「彦根史外伝」「荀子管見」「仙島秘録」「蘭沢文集」、
 「徂徠集考」「老荘列韓考」「南坡疏抄」「春秋経伝集解省覧略義」「大菅三世雜文」著、
 [南坡(;号)の字/通称/別号]字;翔之、通称;権之丞/権兵衛、綿衣先生、
 別号;蘭沢/具体、大菅休やむの養父
- 南坡(なんば・若松) → 則文(のりふみ・若松わかまつ、絵師/歌人) K 3 5 3 8
 南巴(なんば) → 篤老(とくろう・飯田、医/俳人) L 3 1 6 2
 南坡菴(なんばあん) → 陸史(りくし・南坡菴、醸造業/俳人) 4 9 7 4
 南杯子(なんはいし) → 徳成(とくじょう;法諱、真宗大谷派僧) L 3 1 0 0
 南坡齋子竜(なんばさいしりゅう)→ 涼仙(りょうせん・富坂とみざか、医者/飢饉記録) I 4 9 5 4
 南美(なんび・俳人) → 多田翁(ただのじい・田舎老人、丹波屋、書肆/戯作) 2 6 3 0
 何尾亭(なんびてい) → 童平(どうへい・井上、俳人) H 3 1 0 6
- I3217 南蘋(なんびん・沈しん) ? - ? 江戸中期清代浙江呉興の絵師/1731長崎渡来;在住2年、
 写実花鳥画;南蘋派、能代繡江熊斐の師
- J3237 南浜(なんびん・香川かがわ、名;蓋臣あつおみ、書肆忠兵衛2男/本姓;平)1734-9259歳 安藝広島の儒者、
 上京;遊学/異学の禁後に帰郷;家塾修業堂を開設、1781広島藩儒/82学問所東堂で講義、
 1790致仕;家塾に退く/朱子学ののち古学を主唱/和漢学に通ず;稗官小説/和書を涉猟、
 20数種の著書;多数を自ら焚棄、
 「論語琢」「左史伝考」「史記弁解」、「秋長夜話」「蕉雨堂酔談」「蕉雨堂経談」「游洛雜記」著、
 [南浜の字/通称/別号]字;爾公/史夫/八蔵、通称;修蔵/忠蔵、別号;蕉雨堂
- 南浜(なんびん・河野) → 恕斎(じよさい・河野こうの、藩儒者/詩人) C 2 2 5 0
 南蘋(なんびん・福岡) → 孝弟(たかちか・福岡、藩士/勤王家) M 2 6 2 5
 南浜漁人(なんびんぎょじん) → 恕斎(じよさい・河野こうの、藩儒者/詩人) C 2 2 5 0
 南浜人(なんびんじん) → 魚京(ぎょきょう、戯作者) O 1 6 7 7
 南埠(なんぶ・月形) → 鷗窠(しゅうか・月形、儒者) F 2 2 7 2
- J3238 南風(なんふう・稲毛いなげ、通称;丈右衛門、別号;洞閑斎)?-? 江中期相模渋沢の俳人:太初門、
 芭蕉句碑建立、1788「俳諧直塾松」著
- 南風館(なんふうかん) → 基(もとき・菅すげ、儒者) C 4 4 4 1
 南風館(なんふうかん) → 誠明(ともあき・多田ただ、藩士/儒者) P 3 1 1 1
- J3239 南仏(なんぶつ;法諱) ? - ? 鎌倉期僧;法師/連歌;善阿門?、
 1314「法輪寺千句」参加、菟玖波集10句入、
 [いねがての月に幾夜を明かすらん](菟;秋380/前句;秋寒くなる小田の鴈がね、
 いねがて;寝ることができにくい)
- 南物籬(なんぶつり・河合) → 見風(けんふう・河合かわい、俳人/歌) C 1 8 9 7
- J3240 南屏(なんべい・座光寺ざこうじ、為昌男/本姓;源)1735-181884歳 甲斐市川の儒者;五味釜川門、
 医;香川南洋門、能書家/画;墨蘭を描く、「竜園莞葦」「桐花林」「医資附医譚」「南屏経義」著、
 [南屏(;号)の名/字/通称/別号]名;為祥、字;履吉、通称;利三郎/三蔵、
 別号;竜園/鬼石子/東海紫府道人/南屏潜夫/確乎斎/桐花書屋
- 南屏山(なんべいざん;号) → 古梁(こりょう;道号・紹岷;法諱、臨濟僧) O 1 9 0 0
- 3233 南畝(なんぼ・大田おた、名;覃ふかし、幕臣御徒大田吉左衛門正智の長男)1749-182375歳 幕臣;
 1765(17歳)御徒の家督継嗣、儒;内山賀邸・松山観海門、1767「寐惚先生文集」著、
 広く狂詩/狂歌/滑稽・洒落本の著作により天明狂歌流行の中心的存在となる、
 寛政改革の人材登用試験に首席;支配勘定に昇進/大坂銅座出役/長崎奉行所出役歴任、
 他方で江戸文人界の重鎮として活動、1783「万載狂歌集」85「徳和歌後万載集」86「新玉集」、
 1787「狂歌才蔵集」編、「南畝集」「蜀山集」「瓊甫集」「杏花園叢書目」「杏園集」「巴人集」、
 「石楠堂集」「巖原集」「紅梅集」「四方山人狂文集」「南畝覃集」「職人尽絵詞」外著多数、
 [生酔なまよひの礼者(れいじゃ;年始回りの人)をみれば大道を横すじかひに春はきにけり]

[ほととぎすなきつるあとにあきれたる後徳大寺の有明の顔]
 [ほととぎすなきつるかたみ初鯉春と夏との入相の鐘] (辞世)
 [南畝(；号)の字/通称/別号]字;子耜し、通称;直二郎/七左衛門、
 別号;蜀山人・四方赤良よものあから・四方山人・滄洲楼・巴人亭・杏花園・鶯谷隠士・遠桜山人・
 玉川漁翁・竹羅山人・山手馬鹿人・寐惚先生・風鈴山人・舳羅じら山人・鶯谷吏隠・惰農子
 ・六郷漁翁・石楠亭・石楠斎・南極老人・千金子・此楓・新寧武子・改年堂御慶・無量軒・
 毛唐陳奮翰・新場老漁・南楼坊路銭・四方屋本太郎

- J3241 **南甫**(なんぼ) ? - ? 俳人;1691北枝「卯辰集」3句入、
 [若草に鷓鴣をかくしてや鳴く雲雀ひばり] (卯辰集;上一56)、
 (伊勢物語;昔男ありけり・女をば草むら中におきて逃げにけり)
- J3242 **南甫**(なんぼ・松籟軒しょうらいけん)?- ? 江中期江戸青山の本草家、
 江後期宝暦1751-64頃「菊花俗談」編
- J3243 **南畝**(なんぼ・吉田よしだ、源聖農)?- ? 江中後期儒者/詩人;
 1790頃巖垣竜溪「松蘿館詩文稿」(；村上東村と共編)
- | | | | |
|------------|---|-------------------------|-----------|
| 南畝(なんぼ・本間) | → | 季隆(すえたか・本間ほんま、和算家) | F 2 3 4 9 |
| 南畝(なんぼ・宮井) | → | 安泰(やすひろ・宮井みやい、藩士/和算家) | C 4 5 8 8 |
| 南甫(なんぼ・吉田) | → | 貞(ただし・吉田よしだ、藩士/歌人/絵師) | 2 7 3 0 |
| 南浦(なんぼ;道号) | → | 紹明(じょうみょう/じょうみん;法諱、臨濟僧) | 2 2 0 5 |
| 南浦(なんぼ) | → | 玄昌(げんしょう・文之、臨濟/儒学/詩) | C 1 8 1 7 |
| 南浦(なんぼ・古森) | → | 亀淵(きえん・古森こもり、書家) | J 1 6 7 4 |
| 南浦(なんぼ・山口) | → | 睦斎(ぼくさい・山口、和漢学者/教育) | D 3 9 1 4 |
- J3244 **南坊**(なんぼう;号、法諱;宗啓/宗慶そうけい、淡路屋宗以[宗意]男?)?-1624? 和泉堺の茶人、
 臨濟僧;京の大徳寺で修行/堺禅通寺住/南宗寺集雲庵住、茶;利休門、茶道南坊流の祖、
 「南坊録」著
- J3245 **南峰**(なんぼう・竹中たけなか、名;温/字;子良、省男/本姓;源)1766-1836? 紀伊田辺の医;和田東郭門、
 京で医を開業、治痘術;池田錦橋門/古今の医方修学、茶道に通ず、
 「膏方」編/「濟美堂薬方録」「備作医人伝」著、菊舎尼と交流、
 [南峰(号)の通称/別号]通称;文卿/文輔、別号;濟美堂/時為斎
- J3246 **南豊**(なんぼう) ? - 1809? 兪刑 辻講釈師、「北海異談」刊行を企図;死罪
- J3247 **南峯**(なんぼう・藤村ふじむら、名;信安/通称建治郎)?-? 江後期京の卜占家;相宅・占卜業、
 1813「選方明鑑」著
- | | | | |
|----------------|---|---------------------------|-----------|
| 南邦(なんぼう・山内) | → | 豊雍(とよちか・山内やまのうち、藩主/歌) | R 3 1 2 6 |
| 南豊(なんぼう・毛利) | → | 壺邸(こきゅう・毛利/膝、儒/詩文) | F 1 9 5 3 |
| 南豊(なんぼう・小田) | → | 海僊(かいせん・小田おだ、絵師) | I 1 5 8 5 |
| 南豊(なんぼう・篠崎) | → | 小竹(しょうちく・篠崎/篠、儒者/詩人) | 2 2 9 2 |
| 南豊(なんぼう・元田) | → | 直(なおし・元田もとだ、儒・国学・教育者) | P 3 2 0 7 |
| 南峯(なんぼう・万波) | → | 雅俊(まさとし・万波まんなみ、名主/国学) | S 4 0 8 2 |
| 南峰(なんぼう・熊谷) | → | 道伸(みちのぶ・熊谷、庄屋/儒者・教育) | C 4 1 2 2 |
| 南峰(なんぼう・鈴木) | → | 泰平(やすひら・鈴木すずき、医者/歌人) | G 4 5 0 7 |
| 南坊宗啓(なんぼうそうけい) | → | 宗啓(宗慶そうけい;法諱・南坊;号、臨濟僧/茶道) | B 2 5 1 7 |
| 南望亭(なんぼうてい) | → | 邦雅(くにまさ・木藤きとう、歌人) | D 1 7 1 8 |
- J3248 **南北**(初世なんぼく・鶴屋つるや/南北孫太郎、村田源次郎)?-1736;80余歳 江戸歌舞伎役者/芝居頭取
- J3249 **南北**(2世なんぼく・鶴屋つるや/南北孫太郎、初世男)?-? 江戸歌舞伎役者/1748頃芝居頭取
- J3250 **南北**(3世なんぼく・鶴屋つるや/南北孫太郎、俳名;魯風、初世男)?-1762 歌舞伎役者;道具方、
 「鶴屋南北」名の最初
- 3235 **南北**(4世なんぼく・鶴屋つるや孫太郎、源蔵、紺屋海老屋伊三郎男)1755-1829 家系初の歌舞伎作者;
 初世治助門、3世南北女婿、1800立役/11四世襲名、
 「厳島雪官幣」「東海道四谷怪談」「紫女伊達染」外著多数、
 [四世南北の号] 俳;蚊子/大眉/魯風/北寿、戯作;姥尉輔、
 歌舞伎作者;桜田兵蔵/沢兵蔵/勝俵蔵、「大南北おなんぼく」と称される

- J3251 **南北**(なんぼく・水野みずの、通称熊吉、一道)1757-1834 78 大阪鍛冶職/無頼で怠業/のち相学研究、相学家;門人教育、「相法脩身録」「南北相方」「南北相方早見」「安心弁疑論要決」著
- 3234 **南北**(なんぼく・東西庵とうざいあん)1758?-1827 70歳 江戸本所のち芝金杉の戯作者:歌舞伎に取材、狂歌:五側判者、木版彫師;合巻製作の手法を会得、浮世絵も描く、1808合巻「復讐五郎鮎」、1808「狂歌評判」編、15「物真似草紙」17「東振浪華女」「傾城阿波鳴門」/24「女帯糸織八丈」外多、[東西庵南北の通称/別号]通称;朝倉力蔵/藤六、別号;吾妻楼手前/六極園/阡陌園/葛飾偶人/梅山人南北
- 3236 **南北**(5世なんぼく・鶴屋つるや、孫太郎南北、俳;可祐、松本歳右衛門男)1796-1852 歌舞伎役/作者:4世鶴屋南北門、母;4世女、1837五世を襲名/立作:「桜花大江戸入船」著、「東鑑怪談噺」著/合巻:「東海道五十三駅」著
- J3252 **南北**(南木なんぼく・宮田みやた)?-1864 播磨読本作/挿画、1842「絵本桜鯛」「絵本豊臣琉球軍記」著 1837「雲乃晴間双玉伝」著
宮田彦弼と同一? → 彦弼(ひにすけ・宮田、文筆家) 3 7 6 2
南木(なんぼく・宮下) → 良文(よしぶみ・宮下みやした、国学/歌) P 4 7 4 4
南牧樵夫(なんぼくしやうぶ) → 潮音(ちやうおん;道号・道海、黄檗僧/教育)H 2 8 5 2
南北仙(なんぼくせん・吉岡) → 鶴巢(じやくそう・吉岡/葛西、医者/俳人)W 2 1 0 5
南北亭(なんぼくてい) → 家規(いえのり・為田ためだ、歌人) E 1 1 9 4
南浦釣父(なんぼちやうぶ) → 睦斎(ぼくさい・山口、和漢学者/教育) D 3 9 1 4
南明(なんみやう;道号) → 慈永(じえい;法諱・青山;道号、臨濟僧)B 2 1 1 8
- J3253 **南明**(なんみん;道号・東湖とうこ;法諱、正岡盛元男)1616-8469 伊予臨濟:雲居希膺門/小松仏心寺開、その後安国寺浄寂寺宗昌寺など20箇寺開山/1669妙心寺住持、「三島紀行」[南明東湖の号] 無所住軒/如々軒/淡空斎
- J3254 **南溟**(なんめい・沖野おきの孝寛、修姓沖、正賢男)1684-1719 36 尾張藩士/1696家督;馬廻役/1704供番、1712事に連座/馬廻役に降格、儒詩、「南溟遺稿」、[南溟の通称/別号] 通称;市郎右衛門、別号;大嶽/諡号;文毅先生
- J3255 **南溟**(なんめい・入江いりえ、名;忠圃/字;子園、滄浪居士)1682-1769 88歳 儒:徂徠門、江戸講説業:「南溟詩集」、「唐詩句解」「滄浪居文集」「南溟詩集」著
- J3256 **南冥**(なんめい・木村きむら、名;重光、通称;平助/平兵衛、屋号;大喜屋)1703-56 54 京心学:梅岩門、「神道大意」「徒然草南冥抄」「徒然草注解」「越後孝婦伝」著、「木村重光遺稿」
- J3257 **南溟**(なんめい;法諱・玄熙;字、号;洪阜/東渚)?-? 江中期近江草津真宗光闡寺住職/京仏光寺派久遠院15世、1743「続沙石集」、42「拾葉説法」51「樟葉道心因話録」、1752「文覚上人行略鈔」66「本朝故実雑俎」、「説法茗談集」「草庵問答」「弁述義類鈔」著
- J3258 **南溟**(なんめい・浅井あさい、凶南の長男)1734-81 48 医者;父門/朝廷の医官/正六上/内舍人、1780致仕、父を継嗣;尾張藩医、脈法に通ず/診脈の祖と称される、門弟山田南臯を養嗣子とす、「腹秘録」、「腹舌秘録」「浅井家腹舌秘録」「浅井南溟先生秘書」著 [南溟(;号)の名/字/通称/別号]名;正路、字;由卿、通称;藤太/周碩、別号;朴山
- J3259 **南溟**(なんめい・山根やまね、名;泰徳/字;有隣/通称六郎、華陽男)1742-93 52 長門萩藩士/儒者;父門、萩藩校明倫館学頭/藩主側儒格;繁沢豊城と隔年交代で勤務、徂徠の古文辞学を信奉/詩文に長ず、「百草園十六景」「南溟先生詩集」著
- 3237 **南冥**(南溟なんめい・亀井かめい、聴因の長男)1743-1814 72歳 筑前早良郡姪浜の医家の生、儒;山県周南門/詩文;徂徠学派大潮門、上京;古医法;永富独嘯庵門、父と共に医業の傍ら私塾蜚英館を経営/のち福岡藩儒;朱子学派と軋轢;1792排斥される、詩:「我昔がせき詩集」「南冥先生詩集」、「南冥先生文集」「論語語由」「南溟集」「熊本俚談」著、1764「泱々余響」75「矢音艸」79「南冥問答」81「肥後物語」著、94「奇観録」訳、「司馬法解」著、「左伝亀説」「春秋左伝考義」「南遊紀行」「病因備考方函」外著多数、「南溟文集遺集」、昭陽(漢学者)・大年(たいねん・医者/漢学)の父、亀井幻庵(僧侶)の兄/広瀬淡窓の師、[南冥(;号)の名/字/通称/別号]名;魯、字;道載/道哉、通称;主水、別号;信天翁/狂念居士/苞楼/魯玄南溟
- 3238 **南溟**(なんめい・斎藤さいとう、大雅2男)1801-55 55歳 江戸の生/儒;紀州和歌山藩儒遠藤鶴洲門、同藩江戸邸の明教館助読/儒職に昇進、

「南溟文稿」「南溟詩稿」「南溟文集」「忠義片端」「睡耳警鐘」「嘉定屠城紀略訳解」著、
[南溟(；号)の名/字/通称/別号]名；蠡、字；大海、通称；三吾/海蔵、

別号；憐憂れんき道人/自習館主人

南溟(なんめい・四辻) → 公亨(きんみち・四辻よつじ、廷臣/楽譜) R 1 6 8 2

南溟(なんめい・福島) → 末済(すえなり・福島/度会、神職/漢学) F 2 3 5 4

南溟(なんめい・松平) → 頼恕(よりひろ・松平、藩主/史書編纂) J 4 7 6 8

南溟(なんめい・荏戸) → 太華(たいか・荏戸のぞき、藩士/藩政改革) B 2 6 0 7

南溟(なんめい・山本) → 抱中(ほうちゅう・山本やまもと、医者) C 3 9 3 1

南溟(なんめい・楠瀬) → 清蔭(きよかげ・楠瀬くすせ、藩士歌人) T 1 6 9 8

南溟(なんめい・篠本) → 守典(もりすけ・篠本しのもと、和算家) F 4 4 5 1

南溟(なんめい・宮沢) → 欽斎(きんさい・宮沢みやざわ、儒者) I 1 6 9 9

南明(なんめい・中谷) → 雲漢(うんかん・中谷なかに、儒者) D 1 2 6 5

南冥(なんめい・樋口) → 武(たけし・樋口ひぐち、藩士/儒/砲術) O 2 6 3 9

3239 南門(なんもん・近藤こんどう、名；時憲/字；章卿/通称；素右衛門)?-? 京の儒者/刀剣鑑定家、
1799「書法反隅」編、1809「相剣正伝」著

3240 南門(なんもん・石黒いしごろ、名；貞度) 1790-1857 68歳 備前岡山藩士；石黒貞雄の曾孫、
藩主池田治政・斉政2代に出仕；近習/寺社奉行/先手物頭/郡代を歴任、
儒；熊沢蕃山に私淑/自宅で陽明学を講究、「池田家履歴略記続集前編」編、
[南門(なんもん；号)の通称]通称；小藤治/小藤太/後藤兵衛

南門(なんもん；号) → 尊任(そんにん；法諱、時宗遊行上人42世) F 2 5 6 9

3241 南野(なんや・桂かつら、桂弥左衛門宜澄の末男) 1688-1769 82歳 桂三郎左衛門広尚の養子；
長門萩藩士/儒者、藩主毛利吉広に出仕；大夫(当職役)として3世に歴任、
「両林申結御裁断記録」「狩百首」「桂能登覚書」「桂広保上書」、1749「蒙求拾遺」著、
[南野(；号)の名/字/通称]名；広保/道孚みひろ/道広、字；季成、
通称；長治郎/三郎左衛門/能登/主殿とのも

南野(なんや・西原) → 公和(よしかず・西原、一甫、藩士/国学) C 4 7 5 0

03217 南雄(なんゆう；道号・法諱；宜泰、号；南翁) 1780-1828 49 出羽久保田(秋田)の臨濟僧、国学・歌、
秋田の大悲寺15世

南遊斎(なんゆうさい) → 芳重(よししげ・歌川うたがわ、絵師) D 4 7 6 6

3242 南陽(なんよう・那波なば、名；祐昌すけまさ/字；伯熾はくし)?-1761 京の儒者、1755刊「南陽集初稿」著

3243 南洋(なんよう・香川かがわ、香川高貴男) 1714-77 64歳 播州姫路の医者/儒者、
幼時に上京；従伯父香川修庵の養育を受ける、傍ら儒；伊藤東涯・後藤良山門、大阪で開業、
のち修庵の養子となり京で家業の開業医を継嗣、1752「家蔵喜事」編、「傷寒論反正序」著、
[南洋(；号)の名/字/別号]名；景与、字；主善/孟公、別号；紙荘主人、

3244 南陽(なんよう・菊池きくち) ? - 1780頃没? 江戸の儒者；林鳳岡門/井上金峨門、
松代藩江戸藩邸学問所講師、1773「南陽四部論」75「風俗酔茶夜談」、「温公七国象棋図」著、
[南陽(；号)の名/字/通称/別号]名；武慎、字；伯修、通称；専蔵/千蔵、
別号；臥竜館/多羅福山人

3245 南陽(なんよう・原はら、昌術男) 1753-1820 68歳 常陸水戸の医者；藩医の父門、
幼時より儒；伯父戸崎淡園門、1773(安永2)家督継嗣；水戸藩医、
1774上京し山脇東洋・賀川玄迪門；古医方と産科を修学、1774帰藩；江戸住、
1787(天明7)御側医/1802表医師肝煎、1818致仕、臨床医として軍陣医学を主唱、
水戸医学の礎を築く、「百金録」「痘瘡論」「脚気篇」「傷寒論夜話」「南陽先生文集」「査魚志」、
「叢桂亭隨筆」「叢桂亭薬語」「叢桂亭蔵方」「南陽先生原子柔蔵方」「腹候」「薬記叢記」、
1780「寄奇方記」1800「叢桂偶記」1803「叢桂亭医事小言」04「砦艸」「復坐録」、外著多数、
[南陽(；号)の名/字/通称/別号]名；昌克、字；子柔、通称；玄与/玄貞/玄春、
別号；叢桂亭そうけい

3246 南洋(なんよう・丁/丁野ちやうの、田中弥二右衛門男) 1754-1802 49歳 土佐高知の売薬業の生、
儒者；1773江戸で宇佐美瀧水しんすい門/1780京の皆川淇園門、近江坂本の梅辻春樵と知遇；
隣家に住/1797春樵の紹介で叡山僧に経書を講義、父の実家丁氏を称す；丁野とも、

「日暮しの草昏」/1802「杜若園遺稿」著、「鼓山房遺稿」、

[南洋(;)号)の名/字/通称/別号]名; 榮、字; 君美、通称; 彦十郎/雄二郎、別号; 鼓山

3247 南陽(なんよう・宮田みやた、別号; 一炊庵/正檀林/梅翁)?-? 江後期大阪の俳人; 紹廉門、紹廉の庵号を継嗣; 一炊庵、月居・茶裡と交流、1797「寂堂檀林樹」1800「免以無乎集」編、1807「あまつくにつの図絵」/08「敷島松梅さくら」/11(文化8)紹廉追善集「五十回忌」編、1812「春光名所混々集」編、「玉のはくさ」「芳春訓蒙図彙」「氷のかゝみ草」編、外編著多数、一炊庵宮田泊帆の一族 → 泊帆(はくはん・宮田、18ct末俳人) D 3 6 8 1

3248 南陽(なんよう・仁井田にいだ、助左衛門道貫長男)1770-184879 紀伊海士郡加太浦の農家の生、儒学者; 1785(16歳)藩校学習館の授読を受; 扶持を受く/和歌山藩儒; 侍講・会計官歴任、1791藩校授読助/1801(享和元)奥詰儒者、1806(文化3)藩命で紀伊続風土記編纂総裁; 仁井田長群・本居内遠・加納諸平・畔田翠山らと編纂に当る: 1808-11中断; 1816藩世子(将軍家斉男の斉順)の傳; 江戸藩邸に移る/1831帰藩; 風土記編纂を再開、1839(天保10)「紀伊続風土記」完成(のべ33年間/192巻)、1845御用人助となる; 藩政参画、藩主命で「明暗図説和解」著、「毛詞補伝」「樂古堂文集」「玉津島社略伝記」「陰陽消長図説」「開山伝譜」「紀州名所図絵並図」「詩囊百首」「儲徳略訓」「論語古伝」「高野山風土記」著、「荀子考」外著多数、仁井田長群ながむらの父、[南陽(;)号)の幼名/名/字/通称/別号]幼名; 兵太郎、名; 好古よしひさ、字; 伯陽/伯信/紹明、通称; 恒吉/茂一郎/模一郎、別号; 松隠、法号; 成功院楽山

3249 南洋(なんよう・華岡はなおか/旧姓; 奥おく)1797-186569歳 紀伊那賀郡安楽川の人/医: 1820華岡青洲門、認められて青洲の養子; 青洲の長女と結婚; 女婿となる、のち諸国周遊、播磨赤穂で文事を都志氏に修学/京で内科; 吉益南涯門・産科; 奥劣斎門、1837青洲の弟鹿城ろくじょう没後に家督継嗣、鹿城男の良平を養嗣とす、「合水堂治験抄」著、[南洋(;)号)の名/字/通称]名; 興、字; 士諫、通称; 準平、法号; 高聴院

J3260 南陽(なんよう・山本やまもと、名; 竜、字; 雲起/通称; 太仲)?-? 江戸期下野の儒者、「足利本古文孝経直解」「南陽茶話」「論語五家序考」著

- 南陽(なんよう; 号) → 承允(じょうたい; 法諱・西笑; 道号、臨濟僧/詩文) U 2 2 0 8
- 南陽(なんよう・安井) → 息軒(そっけん・安井、儒者) 2 5 2 5
- 南陽(なんよう・武田) → 梅菴(ばいりゅう・武田/篠田、儒者) C 3 6 2 0
- 南陽(なんよう・半井) → 仲庵(ちゅうあん・半井なかり、藩士/医者) F 2 8 7 6
- 南陽(なんよう・吉川) → 経幹(つなまさ・吉川きつかわ、領主/日記) D 2 9 7 8
- 南陽(なんよう・南部) → 麿男(みかお・南部なんぶ、勤王家) H 4 1 3 9
- 南陽(なんよう・野村) → 忍介(にんすけ/おしすけ・野村のむら/折田、藩士/軍人/詩歌) H 3 3 3 2
- 南陽(なんよう・渡辺) → 尚(ひさし・渡辺わたなべ、藩校総裁/国学) M 3 7 3 8
- 南馱(なんよう・正司) → 碩溪(せきけい・正司しょうじ、商家/儒・兵学) K 2 4 0 0
- 南洋(なんよう・馬詰) → 親音(もとね・馬詰うまづめ、藩士/歌人) D 4 4 6 6
- 南洋(なんよう・宮原) → 義直(よしの・宮原みやはら、旗本/高家/歌) K 4 7 5 8
- 南陽居(なんようきよ) → 春園(はるぞの・田島たじま、神職/詩歌) K 3 6 3 3
- 南陽軒(なんようけん) → 宗旦(2世そうたん・赤松、医者/地誌家) C 2 5 4 9
- 南陽舎(なんようしゃ) → 万翁(まんおう・木田/鉄屋、商家/俳人) K 4 0 4 0
- 南陽房(なんようぼう) → 日存(にちぞん; 法諱・智賢、日蓮僧) C 3 3 7 3

J3261 難里(なんり) ? - ? 江中期; 京の俳人; 淡々門、

1714月尋「伊丹発句合」; 四季発句入、1728柳岡「万国燕」60句入、

[神風や梅花に入りて春の風](万国燕; 1/天神の御意思の風が花に乗り移ったようだ)

J3262 南里(なんり・巖村いわむら、名; 秩/字; 大猷/別号; 辣庵、親房男)1784-184259 讃岐丸亀藩校教授、儒詩; 尾藤二洲門、備後神辺の菅茶山の廉塾の側儒者、「周易本義疏鈔」著、「南里遺稿」

J3263 南里(なんり・安光やすみつ、名; 謙道/確、字; 子亭、敬八郎男)1810-6051 土佐川口村大庄屋/1835家督、儒: 中村西里/篠崎小竹/齋藤拙堂門、家塾清風堂開、「外寇記事」「南里詩稿」「南里文稿」著、[南里の通称/別号] 通称; 繁太郎、別号; 韜堂

南里(なんり・久保田) → 信平(のぶひら・久保田くぼた、儒/国学/歌) I 3 5 2 6

南里亭(なんりてい; 号) → 宥恵(ゆうえ; 法諱、真言僧/歌) 4 6 6 2

- 楠里亭其楽(なんりていきらく)→ 其楽(きらく・楠里亭なんりてい/小林、戯作者) H 1 6 6 3
- J3264 南竜(なんりゅう・賀川かがわ/旧姓;本多、名;惇徳/字;子允/通称;秀哲) 1781-1838 58 備中倉敷の生;
幼時期両親失う;諸国遍歴/大阪で医者;賀川有章門/有章の養子;大坂賀川家2世、
「南竜先生助産論」「南陽館一家言初編」著
- J3265 南竜(初世なんりゅう・田辺たなべ) 1810-1865 56歳 講釈師;3世南鶴門、軍談;「川中島軍記」など、
「南竜講栞」著
南竜(なんりゅう;字) → 霊瑞(れいずい;法諱・一現;字、真言僧) 5 1 4 3
南竜公(なんりゅうこう;諡) → 頼宣(よりのぶ・徳川/源/松平、初代紀州藩主) J 4 7 3 9
南柳亭(なんりゅうてい) → 素山(そざん・南柳亭、俳人) D 2 5 7 8
- J3266 南陵(なんりょう・荒木田あらかきだ/家名;初め中西/のち釜谷・一屋、息雅おきまさ長男) 1749-1812 64 伊勢神職、
伯父釜谷正富の養子、内宮権禰宜/正四上、詩;江村北海門、医/本草学も修学、詩に長ず、
「南陵集」「窓下独笑集」著、
[南陵(;号)の名/字/通称/別号]名;興正/息正おきまさ、字;薫[董]卿、通称;数馬/右京/靱負、
別号;鼎湖
- J3267 南梁(なんりょう・小宮山こみやま、名;昌玄、昌堅男/楓軒の孫) 1829-96 68歳 母;原昌大女、水戸藩儒;
儒(家学);父門/潤野秋斎門、1858家督嗣;64馬廻組/郡奉行見習/65弘道館助教、
1868藩内抗争のため幽閉/72赦免、東京府の史職;[古事類苑]編纂参、帝国大学史料編纂員、
1864「南梁年録」、「徳川太平記」「江戸町奉行系譜」「小宮山叢書」「清華閣襍編せいかかくざつぺん」編、
草双紙研究;「近世物之本江戸作者部類」、「延享常陸民間旧事」著
[南梁(;号)の字/通称]字;伯亀、通称;綏介やすけ
南梁(なんりょう・長) → 梅外(ばいがい・長/長谷、詩人/尊攘派) 3 6 8 4
南陵(なんりょう・毛利) → 広漢(ひろくに・毛利もうり、藩士/儒家) F 3 7 7 9
南涼慧薫(なんりょうえいこん、曹洞僧)→ 端愿(たんげん;道号・元珠、黄檗/真言僧) T 2 6 3 8
南鐮堂(なんりょうどう) → 一片(いっぺん・南鐮堂、洒落本作者) B 1 1 6 5
- I3282 南麟(なんりん;初法諱/のち高霖) 1696-1738 43歳 紀伊海部郡磯脇浦の真宗本願寺派安楽寺住職、
1704(9歳)剃髪/1711(16歳)法霖門、のち安楽寺を異母弟義海に譲渡、和泉佐野の教蓮寺住、
「往生論註啓講義」「小児往生俚詮艸」「真宗小部集」「道心論」「無量寿経講録」「論学職」、
「正信偈講記」「安楽集講録」「選択集稽聴還珠記」「大経講録」著、
[南麟(;法諱)の号]号;桂華/謙溪、諡号;理含院
- J3269 南麟(初世なんりん・田辺たなべ/旭堂きょうどう、朝日奈安兵衛) 1807-78 72歳 講釈師;3世田辺南鶴門、
旭堂派の祖、軍談が得意
- J3270 南嶺(なんれい;道号・子越しえつ;法諱、俗姓;藤原) 1285-1363 79歳 京の臨濟僧;約翁門、
鎌倉建長寺首座、長門東隆寺開/1359筑前聖福寺28世、「仲方和尚語録」著
- J3271 南嶺(なんれい・鈴木すずき、名;順) 1775-1844 70歳 江後期江戸の絵師;南岳門、山水花鳥画、
「武蔵野話」画
- J3272 南嶺(なんれい;道号・慧詢えじゆん;法諱、耕雲/円満広照禅師) 1629-1714 86歳 丹波臨濟;一絲門、
近江永源寺住持、「南嶺和尚語録附行状」著
- J3273 南嶺(なんれい;道号・元勲げんくん;法諱、瑞竹道人) 1666-1735 70歳 大和黄檗;鉄堂門、
山城甘南備寺住持、「甘南備南嶺百八道歌」著
南嶺(なんれい・松平) → 頼常(よりのね・松平/徳川、藩主/学問) J 4 7 0 8
南嶺(なんれい・多田) → 義俊(よしとし・多田、神道/故実/浮世草子) 4 7 1 8
南嶺(なんれい・礪川) → 礪川南嶺(れきせんなんれい、合巻作者) 5 1 7 9
南嶺(なんれい・岡田/崗田)→ 焔亭(こうてい・岡田/崗田おかだ、儒者) G 1 9 4 0
南齡庵(なんれいあん) → 氏綱(うじつな・宇都宮/藤原、武将/歌) 1 2 3 8
南嶺庵(なんれいあん) → 梅至(ばいし・高田、俳人) B 3 6 3 7
南麗舎(なんれいしゃ;俳名)→ 仁左衛門(7世にざえもん・片岡、歌伎役者) 3 3 1 6
南楼(なんろう・金子) → 義篤(ぎとく・金子、絵師) G 1 6 0 4
南楼(なんろう・河島) → 正卿(まさのり・河島かわしま、商家/詩歌人) P 4 0 0 6
南滝寺(なんろうじ;号) → 道意(どうい、天台門跡/歌人) 3 1 9 6
南老人(なんろうじん) → 杏坪(きょうへい・頼らい、儒者/史家) 1 6 3 8

南楼坊路銭(なんろうぼうろせん:「南客先生文集」著)→南畝(なんぼ・太田) 3 2 3 3
南路坊(なんろぼう) → 黙我(もくが・安藤、商家/俳人) 4 4 7 2